

子どもの城 事業年報

平成9年度

CONTENTS

こどもの城 事業年報 平成9年度 目次

I 事業の概要

平成9年度の活動	7
① 事業と運営の基本的な考え方	7
② [こどもの城]の概要	7
③ [こどもの城]の組織機構と役員	9
④ 平成9年度の活動の概要	9
⑤ 平成9年度の事業活動	10
⑥ 開館時間・入館料(こども活動エリア)	11
平成9年度活動一覧表	13
① 入館者数	13
② グループ活動実施状況	14
③ 講座・クラブなど	15
④ 観察・見学実績	17
1年の歩み	18

II 各部の活動

体育事業部

平成9年度の活動	21
① 一般来館児・者活動	21
② 講座・クラブ	23
③ グループ活動	25
④ ダイナミック・ヘルス・クラブ	26
⑤ その他の活動	26
平成9年度活動一覧表	27
① 平常期間プログラム	27
② 特別期間プログラム	27
③ 野外活動など	29
④ 講座・クラブ	29
⑤ その他(動くこどもの城など)	32

プレイ事業部

平成9年度の活動	33
① 一般来館児・者活動	33
② 講座・クラブ	35
③ 野外活動	36
④ パソコン活動	36
⑤ グループ活動	37
⑥ その他	37
平成9年度活動一覧表	38
① 平常期間プログラム	38
② 特別期間プログラム	39
③ 講座・クラブ	41
④ その他(野外活動など)	42

造形事業部

平成9年度の活動	43
① ワークショップ活動	43
② ギャラリーの活動	47
③ 講座・クラブなどの活動	49
④ グループ活動	51
平成9年度活動一覧表	52
① 平常期間プログラム	52
② 特別期間プログラム	52
③ 講座・クラブ	53
④ その他の活動	54
平成9年度プログラム一覧表	56
① 親子プログラム	56
② 子どもだけのプログラム	57

【保育事業部】	
平成9年度の活動	59
① 平常期間の活動	59
② 特別期間の活動	59
③ 講座・クラブ	62
④ グループ活動	62
平成9年度活動一覧表	63
① 平常期間プログラム	63
② 特別期間プログラム	63
③ 講座・クラブ	66
④ その他(動く子どもの城など)	68
【AV事業部】	
平成9年度の活動	69
① みる(一般来館児・者への活動)	69
② しる・つくる(一般来館児・者への活動)	71
③ 講座・クラブ	71
④ その他の活動	72
⑤ まとめ	75
平成9年度活動一覧表	76
① 平常期間プログラム	76
② 特別期間プログラム	77
③ 講座・クラブ	77
④ その他(動く子どもの城など)	78
【保育研究開発部】	
平成9年度の活動	79
① 保育事業(親子教室)	79
【小児保健部】	
平成9年度の活動	80
② 保育事業(保育クラブ・幼児グループ)	80
③ 研修事業	83
平成9年度活動一覧表	85
① 平常期間プログラム	85
② 特別期間プログラム	86
③ 講座・クラブ	86
④ その他(講師派遣など)	88
【企画研修部】	
平成9年度の活動	89
① 診療・相談活動	89
② 講座などの子育て支援活動	91
③ 研修会などの啓発活動	92
④ 研究活動	92
⑤ その他の活動	92
平成9年度活動一覧表	93
① 平常期間プログラム	93
② 特別期間プログラム	93
③ 講座・クラブなど	94
【企画研修部】	
平成9年度の活動	95
① 事業全般にかかる企画調整	95
② 外部団体と協力して行った事業など	97
③ ボランティアの活動と養成など	99
④ 研修、実習生・研究生の受け入れ	101
⑤ まとめと今後の課題	102
平成9年度活動一覧表	103

CONTENTS

子どもの城 事業年報 平成9年度 目次

① 外部団体と協力して行った事業など	103
② ボランティア関係の活動	104
③ 講習会など	107
④ ギャラリー利用一覧	108

劇場事業本部

平成9年度の活動	109
① 本年度の主な演目	109
平成9年度公演演目一覧表	114
① 青山劇場	114
② 青山円形劇場	115

広報部

平成9年度の活動	119
① 印刷物などの編集と発行	119
② 広告関係	120
③ 取材関係	120
④ その他	121

国際交流部

平成9年度の活動	123
① 交流プログラム	123
② 講座	125
③ その他	126
平成9年度活動一覧表	127
① 平常期間プログラム	127
② 講座・クラブ	127
③ その他	127

業務部

平成9年度の活動	129
① 業種別状況	129
平成9年度の概要	131
① 業務の一覧	131

III 動く子どもの城 (キャラバン隊派遣事業)

動く子どもの城

平成9年度の活動	135
① 今後の課題と展望	135
平成9年度活動一覧表	136
① プログラム一覧	136
② 実施一覧	137

IV 資料:子どもの城入館児・者調査

入館児・者調査の概要	141
調査の目的と方法	141
調査結果	141

利用案内

●開館時間

平 日 午後0時30分～午後5時30分

土・日曜日・祝日 午前10時00分～午後5時30分
学校の季節休み中

●休館日

毎週月曜日

(月曜日が祝日や振替休日にあたる場合は翌日が休館日となります。

また、学校の季節休み等には休館日が変則となることがあります)

●入館料

こども 400円(3歳以上18歳未満) おとな 500円

(20人以上の団体は、こども320円、おとな400円です。

事前にご連絡ください。)

●交通案内

・渋谷駅 徒歩10分(東口／東急文化会館側)

JR山手線・埼京線／東急東横線・新玉川線

京王井の頭線／営団地下鉄銀座線・半蔵門線

○渋谷駅(東口バスターミナル)から都営バスがご利用いただけます。

東京タワー・東京駅南口・お茶の水駅行

「青山学院前」下車すぐ

・表参道駅 徒歩8分(B2出口)

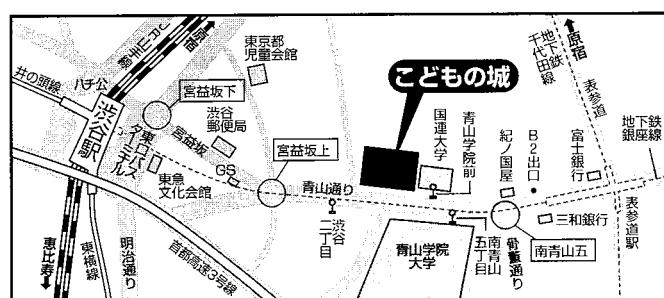
営団地下鉄銀座線・千代田線・半蔵門線

●駐車場(地下)

有料・約80台収容・車高制限2m

日曜日・祝日は混み合いますので、なるべく電車・バスで

ご来館ください。



財団法人 児童育成協会

こどもの城

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前5-53-1

TEL 03-3797-5666(代表) FAX 03-3797-5676

こどもの城ホームページ <http://www.kodomono-shiro.or.jp/>

事業の概要

I

事業の概要



平成9年度の活動

〔子どもの城〕は昭和54年（'79）の国際児童年を記念して、厚生省が計画・建設した児童の健全育成のための総合施設である。

国が東京都から譲り受けた、渋谷区神宮前5-53-1の約1万m²の敷地に、昭和56年11月に着工され、以来、4年の歳月と323億円（土地取得費を含む）の国費をかけ、地上13階、地下4階のミラーガラスに包まれた美しい建物が完成、昭和60年11月1日に開館した。運営は、厚生省の委託を受けて財児童育成協会があたっている。

①事業と運営の基本的な考え方

〔子どもの城〕の創設にあたって、昭和54年に「子どもの城企画委員会」（葛西嘉資座長）が設けられ、「“子どもの城”（仮称）の基本構想に関する意見」が厚生省児童家庭局長に提出された。以来、厚生省と財児童育成協会は、この基本構想を踏まえ、協力しながら〔子どもの城〕の建設にあたり、運営に取り組んできた。現在も、社会環境の変化に柔軟に対応しつつ、基本構想に示された理念を大切に、より一層の充実をめざして児童のための福祉・文化活動を展開している。

〔子どもの城〕は、児童だけでなく、親をはじめ児童の福祉・文化関係者、研究者、教育者など、子どもの幸せを願うあらゆる人々が利用できるように開かれた施設である。

子どもを主な対象とした〈あそび〉のプログラムを中心には、親や児童福祉・文化関係者などの大人も視野に入れた子育て支援の活動や、育児に関する研究・研修活動にも力を入れるなど、幅広い活動を展開している。

これらの活動は、既成のプログラムにとらわれず、先駆的で実験的なプログラムの開発を心がけ、全国に普及していくこと、そして国際的視野に立って世界各地の子どもたちと交流を図ることを基本にしている。

②（子どもの城）の概要

〔子どもの城〕は、乳幼児から高校生までのすべての児童を対象に、幅広い福祉・文化活動を行っている。「こども活動エリア」と総称される体育、プレイ、造形、音楽、AV（オーディオ・ビジュアル）の各部門のほかに、保育研究開発、小児保健、企画研修、劇場事業（青山劇場・青山円形劇場）、広報、国際交流などの部門があり、子どもを取り巻くさまざまな分野の専門スタッフが活動している。

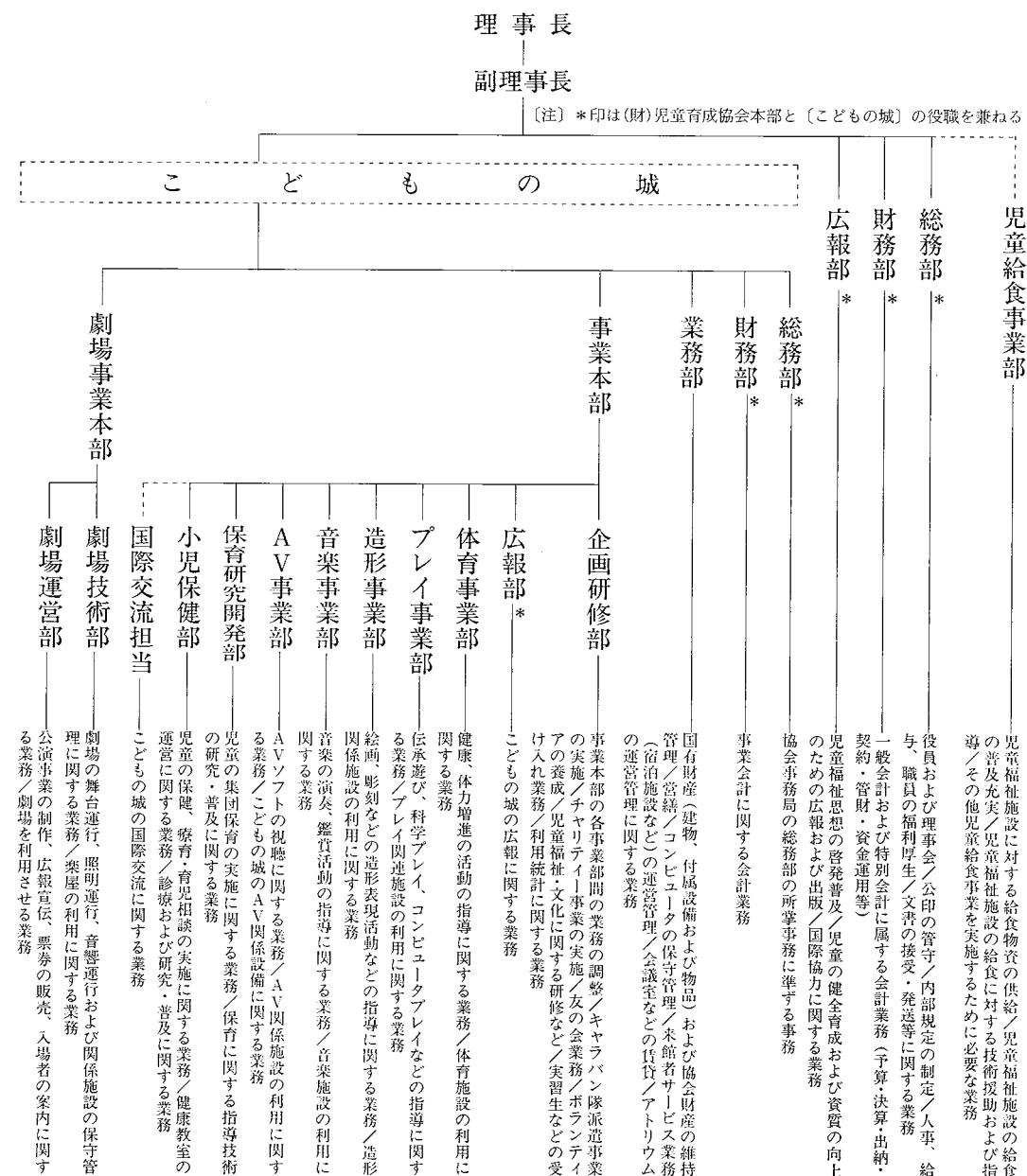
そして、①芸術・文化・科学・スポーツなどの活動による児童の健全育成 ②児童福祉関係者の研修・現任訓練 ③児童福祉に関する研究・開発 ④国際交流——といった各種の機能を併せ持つ総合施設として、これらの機能を相互に関連させながら運営している。

（ア） こども活動エリア

〔子どもの城〕の活動は、①一般来館児・者を対象とした活動 ②団体を対象としたグループ活動 ③講座・クラブ活動——の3つを柱に行われている。

「一般来館児・者を対象とした活動」は、毎日「こども活動エリア」で行われている。〔子どもの城〕に遊びに来た子どもやその家族が楽しみながら参加、体験できるプログラムである。〈あそび〉をとおして、出会いと発見、そして仲

【(こどもの城) 組織機構図】(平成10年3月31日現在)



部	職員数	一般		嘱託		部	職員数	一般		嘱託		部			
		東	西	東	西			東	西	東	西				
総務部	4	0	4	0	0	事業本部	1	0	1	0	6	劇場技術部	7	0	7
財務部	7	0	7	0	0	企画研修部	6	0	6	0	7	劇場運営部	9	0	9
広報部	3	0	3	0	1	体育事業部	8	1	9	1	8	劇場事業本部	1	0	1
業務部	22	1	23	1	0	プレイ事業部	9	0	9	0	7	合計	108	3	111
造形事業部	4	0	4	0	0	音楽事業部	4	0	4	0	7				

間作りができるように工夫されたもので、初めての子どもでも、自然に「あそび」の輪の中に入って楽しむことができる。

平常期間の平日は、スタッフとのふれあいを大切にしたきめ細かいプログラムを、土曜日・日曜日・祝日には、多くの子どもたちに対応できるようにプログラムの内容などを工夫している。また、学校の季節休み（春休み、夏休み、

冬休み）と児童福祉週間（ゴールデンウイーク）、開館記念日（11月1日）の前後を特別期間とし、各部門が協力して、たくさん的人が参加できる大型のプログラムを集中的に行っている。

「グループ活動」は、保育所、幼稚園、小学校、ハンディキャップを持つ子どものグループを対象に、平日の午前中に行っている。一般来館児・者の活動や講座・クラブ活

動の経験をもとに、[こどもの城]ならではのプログラムを開発し、積極的に受け入れている。

「講座・クラブ」は、平日を中心に[こどもの城]の整った施設・設備を利用して実施している。幼児と親と一緒に受講するもの、就学前の幼児を対象にするもの、小学生から高校生までを対象にするもの、高校生から一般成人、さらに専門家を対象にするものなど50種類を超える講座・クラブを開講している。

(イ) その他の活動

「こども活動エリア」の各部門のほかに、先駆的な保育の実践と保育士などの研修事業を主とする保育研究開発部門、子どもの心や体の健康、育児相談などの家庭支援に取り組む小児保健部門、円滑な事業の推進をはかるための調整や[こどもの城]に協力するボランティアの養成とコーディネート、全国の児童館などで子どもに遊びを指導する職員などの研修事業を担当する企画研修部門、国際交流部門、広報部門、ホテルや研修室などの運営にあたっている利用者サービス部門などがあり、〈あそび〉をとおして直接子どもたちとふれあう活動だけでなく、研究や研修活動など幅広い活動を展開している。

(ウ) 青山劇場・青山円形劇場

[こどもの城]には、「こども活動エリア」のほかに青山劇場・青山円形劇場の2つの劇場がある。あらゆる世代の人間が、それぞれの視点で楽しめ、見終わった後に対話が生まれるような、眞の意味での“ファミリー向け”的演目を上演している。自主公演はもとより、貸し劇場の場合でも、企画の内容を吟味し、[こどもの城]の劇場としてふさわしいものを選んで上演している。

③(こどもの城)の組織機構と役員

[こどもの城]の組織機構と(財)児童育成協会の役員は別表のとおり。

④平成9年度の活動の概要

[こどもの城]は、10年以上にわたって、従来の児童館などの枠を超えた幅広い福祉・文化の総合施設をめざし、さまざまな試行錯誤を繰り返してきた。その間に蓄積してきた知識・経験は少なくない。芸術・文化・科学・スポーツなど多方面から、〈あそび〉に含まれるさまざまな要素を、それぞれの専門分野の視点で見直し、従来の“遊び”的枠を超えた〈あそび〉を実践してきた。

開館10周年を迎えた平成6年度ごろから、[こどもの城]

【(財)児童育成協会役員】(平成10年3月31日現在)

役 職	氏 名	
理 事 長	今 泉 昭 雄	
副理 事 長	小 山 敬次郎	
常勤理 事	菅 原 善 昭	
理 事	石 野 清 治	資生堂相談役
理 事	大 野 出 稔	
理 事	大 山 正	(社福)恩賜財団母子愛育会会长
理 事	金 平 輝 子	(財)東京都歴史文化財団理事長
理 事	上 村 一	(社福)恩賜財団母子愛育会理事長
理 事	品 川 正 治	日本火災海上保険(株)相談役
理 事	成 瀬 健 生	日本経営者団体連盟常務理事
理 事	西 川 穎 一	日本商工会議所常務理事
理 事	平 田 寛 一 郎	前早稲田大学政治経済学部教授
理 事	平 山 宗 宏	日本子ども家庭総合研究所所長
監 事	秋 山 昭 八	弁護士
監 事	藤 間 秋 男	公認会計士

のノウハウを広く公開し、児童の健全育成に役立ててもらおうという活動が動き出した。その1つが、国の助成を受けて平成6年度から実施している「キャラバン隊派遣事業」(通称〈動くこどもの城〉)である。さらに本年度からは、[こどもの城]の活動プログラムをまとめた「活動事例集」の発行が加わり、充実した活動が展開されるようになった。

〈動くこどもの城〉では、[こどもの城]で開発・実施しているプログラムを持って全国の児童館等の児童厚生施設や文化センターに出向き、子どもたちに〈あそび〉のプログラムを提供すると同時に、児童厚生員や保育士などを主な対象にした講習会を開催し、プログラム(運営)の実際を紹介している。[こどもの城]が持っているさまざまなノウハウを公開する場であると同時に、全国の児童館・児童センターとの交流・情報交換を進める場として評価されている。

さらに、本年度から[こどもの城]の活動を集めた「事例集」が発行されるようになった。児童の健全育成に携わる人たちに、身近な資料として活用してもらえばという願いを込めたものである。本年度は、「一緒に遊ぼう 楽しく子育て 一人ひとりが輝くために」(保育研究開発部編著)と「うつる うごく “映像遊び” 探検隊 アニメおもちゃからビデオまで」(AV事業部編著)の2冊を中央法規出版から発行した。いずれも、児童館活動活性化の一助にと、厚生省が買い上げ全国の児童館に配布された。

このほかにも、劇場部門の自主制作公演「ア・ラ・カルト」などのツアーナー展開、保育研究開発部門の「ニュースレター」などの発行など、さまざまな形で[こどもの城]発

の情報が発信されるようになった。

本年度の【こどもの城】全体の事業活動運営に要した費用は、21億5千万円。スタッフは年度末現在110人である。

⑤平成9年度の事業活動

(ア) 入館者数

本年度の年間入館者数は、一般来館児・者358,786人、観劇入館者が432,354人、これに保育、小児保健、講座・クラブ関係、研修・会議室やホテル関係の利用者を加えた総数は99万7千人である(13ページ参照)。

(イ) 一般来館児・者活動

【平常期間】

体育、プレイ、造形、音楽、AV(オーディオ・ビジュアル)の「こども活動エリア」を担当する部門では、幼児と母親の来館の多い平日は、親子でゆったり過ごせる環境作りや気軽に参加できるプログラム作りに留意した。父親も含めた親子連れが多い土曜日・日曜日・祝日には、家族一緒に参加できるプログラムの充実を図ると同時に、小学生以上のお子様も満足ができるようにプログラムの質にも配慮した。

また、日替わりプログラムや季節行事によって、活動に変化を持たせ、新鮮な魅力、効果を出すように努めた。

【特別期間】

学校の季節休み(夏休み、冬休み、春休み)の期間およびゴールデンウィーク(児童福祉週間)、11月1日の【こどもの城】開館記念日を中心とした数日を特別期間として、多数の来館児・者が同時に楽しめるプログラム作りと効率的な施設利用の工夫をした。

また、屋上など全館を利用した大がかりな企画を各部協力のもとに行い、来館児・者に満足を与えるだけでなく、今後に残るプログラム作りを行った。

夏休み特別期間には、渋谷周辺にある公共的な文化施設である、【こどもの城】、NHKスタジオパーク、電力館、たばこと塩の博物館、東京都児童会館、五島プラネタリウムの6館共催で「渋谷スタンプラリー」を実施し、地域の他施設とも連携を持った。

(ウ) 講座・クラブ

継続的・体系的に【こどもの城】を利用できるプログラムとして、講座・クラブを実施した。講座は41種・81コースで受講者数は1,934人。クラブは9種・10コースで会員数1,015人であった。

このほか、夏休みや春休みの特別期間には、体育、造形、音楽などの各部門で短期集中講座(12種・103コース、1,424人受講)を開くとともに、専門指導者向けの講習会(8種12コース、690人受講)を実施した。

(エ) グループ活動

グループ活動は、保育所、幼稚園、小学校、ハンディキャップを持った子どもたちのグループを対象に、平日の午前中に行う活動。ハンディキャップを持った子どもたちのグループの利用(全体の34%)が多いことも特色の1つ。本年度は、前年度を少し上回る延べ117グループ(延べ2,759人)が利用した。

(オ) 保育研究開発と小児保健

保育研究開発部は、3つの柱である「幼児グループ」「保育クラブ」および「親子教室」を継続して実施したほか、「育児相談研修会」「育児相談概論研修会」「ニュースレター」の発行、「保育セミナー」の開催など、保育関係者のための研修プログラムを積極的に実施した。

小児保健部は、日常の診療・相談を実施したほか、他事業部との連携事業である「健康スポーツ教室〈太りすぎクラス〉」「母と子のリトミック〈ダウン症児クラス〉」「マタニティ・スイミング」などを継続して実施した。また、小児保健関係者のための「小児肥満のための指導者講習会」「小児保健セミナー」や0~2歳までの子どもとその親、あるいは妊婦を対象とした「赤ちゃんサロン」を実施した。

(カ) 劇場事業

自主公演は、青山劇場で1公演、青山円形劇場で11公演を行った。このうち、青山劇場の「第12回青山バレエフェスティバル」、青山円形劇場の「五線譜のなかの動物たち～グリム号の大冒険」の2作品は、日本芸術文化振興基金の助成対象に選ばれた。

劇場の貸与は、青山劇場が27件、青山円形劇場が66件で、両劇場とも年間フルに使用された(114~118ページに公演名一覧)。

(キ) 各種の普及・協力活動

【こどもの城】の活動の主旨・内容を広く知ってもらい、関係団体との交流を進めるために各種の事業を行った。

講習会・セミナーとしては、「児童厚生員等実技指導講習会」(5月、10月、1月)、「小児肥満のための指導者講習会」(9月、3月)、「保育セミナー」(8月)などが主なものである。

また、前年度に引き続き各地の児童厚生施設との連携によって、地域の健全育成活動に対し巡回する支援活動と実技指導〈動く子どもの城〉事業を17か所で実施した。

ほかにも、各地の児童健全育成関係者の研修会や地域で実施される催し物などに、職員が講師や指導者として招へいされ、〔子どもの城〕のプログラム運営の実際と理念の普及に努めた。

本年度から、〔子どもの城〕の活動プログラムを集めた「活動事例集」を発行。第1弾として、保育研究開発部門の活動プログラムを集めた「一緒に遊ぼう 楽しく子育て 一人ひとりが輝くために」とAV部門の「うつる うごく “映像遊び” 探検隊 アニメおもちゃからビデオまで」の2冊を発行した。

（ク）利用者サービス事業

〔子どもの城〕を利用する人などの便宜を図るために、ホテル、売店、自動販売機および駐車場の営業を行いサービスに努めた。また、各種の研修、会議などに研修室を貸出し、広範な利用者を獲得した。

（ケ）その他の活動

前記の〔子どもの城〕の事業活動のほかに、次の事業を行った。広報や国際交流、ボランティアの養成・コーディネートなど、〔子どもの城〕全館にかかる活動である。

【広報】

〔子どもの城〕の事業の主旨、活動内容の周知および来館児・者増を図ることを目的として、各種の広報活動を行った。活動の主な柱としては、①「子どもの城ニュース」の発行（年9回）②各種広報資料（ちらし・ポスター、パンフレットなど）の作成・配付③各種媒体へのパブリシティー④季刊誌「児童館」（社全国児童館連合会発行）を通じての〔子どもの城〕の活動紹介——などである。本年度の新聞、テレビなどの取材対応は、外国からのものを含めて203件にのぼった。

【（子どもの城）友の会】

〔子どもの城〕の活動をより理解し、利用してもらうために家族単位で参加する組織。A4判4ページの「友の会通信」を毎月発行し、会員へのサービス向上に努めるなど、魅力ある「友の会」をめざした。常に加入の呼びかけを行い、平成10年3月末日現在の会員数は、2,121家族。

【国際交流】

異なる言語、文化基盤を持った児童を交えた表現活動のための講座「パフォーミング・アーツ・グループ」を運営したほか、東京・横浜地区のインターナショナルスクー

ルの子どもたちの合同美術作品展「アートスケープ展」にギャラリーを提供するなど、身近にいる子どもたちの自然な国際交流をめざした。また、クリスマスには青山円形劇場で、外国人家族とともに楽しむ国際交流プログラムを実施し、「パフォーミング・アーツ・グループ」の1年間の活動の成果を多くの人に披露した。

【ボランティアの養成とコーディネート】

〔子どもの城〕の事業に協力するボランティアを養成するため、学生・社会人を対象とした「ボランティア講習会」（36期、37期の2回で80人）と女性を対象とした「女性ボランティア講習会」（13期の1回で15人）を開催した。

本年度の講習会修了者は95人で、〔子どもの城〕での活動を希望して登録している人は、前年度からの継続者も含めて平成10年3月末日現在397人となった。

【実習生・研修生の受け入れ】

大学などの要請に応じて、〔子どもの城〕の各事業部をフィールドとし、その活動内容を研修対象とする実習生・研修生を受け入れている。本年度は6校、15人を受け入れた。

【チャリティー事業】

ハンディキャップを持つ子どもや養護施設の児童などを対象にチャリティー事業を行っている。本年度は延べ73回、230人を青山円形劇場の公演観劇や〔子どもの城〕で行われたワークショップなどに招待した。

【講師派遣等】

福祉・文化・健康の幅広い分野で、児童の健全育成に取り組んでいる〔子どもの城〕には、実践に裏付けられたさまざまなノウハウがあり、それを実践するスタッフがいる。そのため、全国の児童館をはじめ、関係の施設・団体から、講師派遣依頼が数多く寄せられている。本年度は115件の講師派遣を行った。

⑥開館時間・入館料

（ア）平常期間

〔子どもの城〕の「子ども活動エリア」の開館時間は、以下のとおり。

平 日 開館時間（午後0時30分～5時30分）

土曜日

日曜日

祝 日

月曜日 休館（祝日または振替休日にあたるときは開館し、翌火曜日が休館。開館時間は午前10時～午後5時30分）

(イ) 特別期間

学校の季節休み（夏休み、冬休み、春休み）は特別期間とし、曜日にかかわりなく、午前10時から午後5時30分まで開館した。

夏休み特別期間（7月19日～8月31日）の休館日は7月22日、8月4日、18日の3日間で、このほかの月曜日を9月2日～4日に振り替えて休館とした。冬休み特別期間は12月26日～1月7日で、12月29日～1月2日は休館とし、1月3日は午後0時30分に開館した。また、春休み特別期間は3月26日～4月5日で、全期間開館し、期間中の月曜日を4月7日に振り替えて休館した。

また、本来の児童福祉週間は5月5日からの1週間であるが、4月26日～5月5日のゴールデンウイークを〔子どもの城〕の児童福祉週間特別期間とし、厚生省、(社)全国児童館連合会との共催で「おやこフェスティバル」などの特別プログラムを実施した。

さらに、10月30日～11月9日に〔子どもの城〕開館記念「ファミリーウィーク」を全館で実施した。児童福祉週間と開館記念特別期間の開館時間は平常期間と同じ。

また、千葉県民の日（6月15日）、川崎市制記念日（7月1日）、東京都民の日（10月1日）、埼玉県民の日（11月14日）は午前10時に開館し、特別行事を企画、多くの来館児・者を迎えた（横浜開港記念日＝6月2日は休館日にあたったため休館した）。

(ウ) 入館料

一 般	18歳未満	400円
(保護者に同伴される 3歳未満児は無料)		
	18歳以上	500円
一般回数券	18歳未満	12枚つづり 4,000円
	18歳以上	12枚つづり 5,000円
団 体 (20人以上)		
	18歳未満	320円
	18歳以上	400円

(エ) その他

例年どおり、5月5日の「子どもの日」と11月1日の「子どもの城開館記念日」は18歳未満の入館料を無料とした。

平成9年度活動一覧表

①入館者数

	一般来館者		劇場			その他の 計
	有料	総数	青山劇場	青山円形劇場	小計	
4月	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)
	大人	9,639	25,861	35,642	7,565	43,207
	子ども	10,383				20,401
	団体	4,483				
5月	招待	1,336	推計(30,696)			
	大人	10,785	26,868	30,909	4,839	35,848
	子ども	8,366				21,940
	団体	4,257				
6月	招待	3,480	推計(32,270)			
	大人	7,133	15,200	31,214	4,813	36,027
	子ども	5,922				19,964
	団体	861				
7月	招待	1,284	推計(18,773)			
	大人	11,361	25,143	29,545	5,344	34,889
	子ども	10,425				17,589
	団体	994				
8月	招待	2,363	推計(30,890)			
	大人	23,261	64,936	30,617	6,124	36,741
	子ども	25,251				12,486
	団体	11,776				
9月	招待	4,648	推計(76,575)			
	大人	9,312	19,596	38,383	6,645	45,028
	子ども	7,758				18,552
	団体	583				
10月	招待	1,943	推計(24,257)			
	大人	7,602	16,332	32,010	10,188	42,198
	子ども	5,504				20,314
	団体	807				
11月	招待	2,419	推計(20,140)			
	大人	10,398	22,820	22,343	6,543	28,886
	子ども	8,516				18,477
	団体	1,773				
12月	招待	2,133	推計(28,024)			
	大人	5,875	13,785	18,723	7,903	26,626
	子ども	5,097				14,627
	団体	826				
1月	招待	1,987	推計(16,729)			
	大人	8,193	20,114	31,675	8,006	39,681
	子ども	6,674				14,179
	団体	3,644				
2月	招待	1,891	推計(24,218)			
	大人	6,880	15,700	13,982	4,520	18,502
	子ども	5,359				19,043
	団体	1,629				
3月	招待	1,832	推計(19,147)			
	大人	9,749	32,246	37,602	7,119	44,721
	子ども	10,114				7,894
	団体	4,631				
計	招待	7,752	推計(37,127)			
	大人	120,208	298,601	352,645	79,709	432,354
	子ども	109,369				205,466
	団体	36,264				
	招待	33,048	推計(358,786)			
	大人					936,421
	子ども					
	団体					

注) 一般来館者の推計は、3歳未満児の推定入館者数を含めたものである。

②グループ活動実施状況

		保育所	幼稚園	小学校	養護学校	名うあ学校	盲学校	小学校特殊学級	中学校特殊学級	幼稚教室・研究所	自主保育グループ	計
件 数		24	45	5	19	2	3	14	2	1	2	117
月別内訳	4月		1							1		2
	5月	1	2		1							5
	6月	2	5	1	3				3		1	14
	7月											0
	8月											0
	9月	3	2		3		1					9
	10月	1	1	3	1	1		7				14
	11月	2	8		2			1	1	1		12
	12月	4	2								2	10
	1月	3	5		1	1						10
内訳	2月	3	12	1	4		1	2				23
	3月	5	7		4			1	1			18
地域別内訳	東京都区	21	40	2	11	1	3	11	1	1	2	93
	市	1	1	1	4			2				9
	他府県	2	4	2	4	1		1	1			15
参加児童数別内訳	10未満				9							25
	10~19	16	19	1	6	1		12	1		2	48
	20~29	4	5		4	1		2				15
	30~39	4	6	2								12
	40~49		4									4
	50~59		5	1								6
	60~79		4	1								5
	80~99											0
	100~149		2									2
	150以上											0
参加児童数	延べ数	488	1,599	215	240	37	18	95	30	15	22	2,759
	1件当たり	20.3	35.5	43.0	12.6	18.5	6.0	6.8	15.0	15.0	11.0	23.6
引き率者数 付き添い者数	89	204	18	177	16	14	50	17	5	2		592
	49	115		33	10	11	11	29		17		275
活動部門	体育	1	13	1	3	2						20
	ブレイ		11	2	2			4		1	1	21
	造形	2	12	2	1			9				26
	音楽	6	22	1	14		3	1	2		1	50
	A V	8	14	3		2	2	10	1	1	2	25
	プレイ自由		43	5	3							69
	A V自由	2	1		1							4

③講座・クラブなど

〈講座〉

部門	プログラム名	対象	コース	料金
体育	幼児・母親水泳	幼児・母親	1年	2コース
	幼児水泳	幼児	ヶ月	6ヶ月
	幼児体育	〃	ヶ月	3ヶ月
	小学生水泳	小学生	ヶ月	7ヶ月
	シニア・スイミング	小・中学生	ヶ月	2ヶ月
	シニア・スイミング・フレッシュ	〃	ヶ月	1ヶ月
	小学生体育	小学生	ヶ月	2ヶ月
	ジュニア新体操	〃	ヶ月	1ヶ月
	シニア新体操	小・中学生	ヶ月	1ヶ月
	手足の不自由な子の水泳	〃	ヶ月	1ヶ月
	レディース・スイミング	女性	ヶ月	3ヶ月
	レディース・リズム＆ストレッチ	〃	ヶ月	1ヶ月
	幼児・母親体育	幼児・母親	3か月	3ヶ月
	母と子のすくすくランド	〃	ヶ月	3ヶ月
	母と子のバチャバチャスイム	〃	ヶ月	3ヶ月
プレイ	小学生パソコン教室Ⅰ(初級)	小学生	2か月	2ヶ月
	小学生パソコン教室Ⅱ(中級)	パソコンⅠ修了者	ヶ月	1ヶ月
造形	こどもクリエイティクラブ 火曜コース	小・中・高校生	1年	1コース
	〃 水曜コース	〃	〃	20(人)
	〃 木曜コース	〃	〃	20
	〃 金曜コース	〃	〃	20
	〃 土曜コース	〃	〃	20
音楽	おんがく星みつけた(就園前のリトミック)	幼児・母親	3か月	3コース
	おかあさんもいっしょリトミック	〃	1年	3ヶ月
	リズム・ムービング	幼児	〃	3ヶ月
	リズム・ムービング＆パーカション	小学生	〃	1ヶ月
	合唱講座	〃	〃	20
	ガムラン講座	小・中・高校生	〃	1ヶ月
	三味線	〃	〃	15
	和太鼓グループ	〃	〃	3ヶ月
	集まれ／みんなのリズム	小・中学生	〃	1ヶ月
	エレクトリック・アンサンブル	小・中・高校生	〃	1ヶ月
	おとなのためのガムラン	一般	4か月	1ヶ月
	混声合唱	高校生以上	1年	1ヶ月
	シンセワーク初級	小・中・高校生	〃	1ヶ月
国際交流	パフォーミング・アーツ・グループ	小学生	1年	1コース
企画研修	手話講座	高校生以上	5か月	2コース
	初級点訳講座	〃	1年	1ヶ月
保育	幼児グループ	幼児	1年	1コース
	親子教室	幼児・父母	3か月	3ヶ月
小児保健	健康スポーツ教室(太りすぎクラス)	小学生	1年	1ヶ月
	母と子のリトミック(ダウン症児クラス)	ダウントン症児・母親	〃	1ヶ月
	マタニティ・スイミング	妊娠(16週～)	通年(月7回)	1ヶ月
				35(人)
合計	41種		81コース	2,528

〈クラブ〉

部 門	プロ グ ラ ム 名	対 象	コ ー ス	総 定 員
体 育	ダイナミック・ヘルス・クラブ	一般	通 年 1コース	会員 180(人)
ブ レ イ	パソコンクラブ	小・中・高校生	〃 1〃	100
	キッズクラブ	小学生	1 年 1〃	30
	ユースクラブ	小・中学生	〃 1〃	40
音 楽	こどもの城児童合唱団 I II	合唱講座修了者	〃 2〃	90
	ガムラン・グループ	ガムラン講座修了者	〃 1〃	15
	パーカッション・アンサンブル	小・中・高校生	〃 1〃	15
企画研修	L.I.T.(高校生ボランティア)	高校生	〃 1〃	30
保 育	保育クラブ	幼児	通 年 1〃	会員 561
合 計		9種	10コース	1,001

〈短期集中講習会〉

部 門	プロ グ ラ ム 名	対 象	コ ー ス	総 定 員
体 育	夏休みこども集中水泳講習会	幼児・小・中学生	5日間 4コース	180(人)
	春休みこども集中水泳講習会	〃	〃 2〃	90
	夏休みみたいそう教室 ガンバ'97	小学生	〃 1〃	30
ブ レ イ	夏休みパソコン教室 I	小学生	5日間 1〃	20
	春休みパソコン教室(III)	パソコンⅠ修了者	〃 1〃	20
造 形	夏休み造形教室	小・中・高校生	1日間 25〃	375
	「素材との出会い展」親子体験プログラム	幼児・親	〃 35〃	350
AV	業務用ビデオ講座	高校生以上	2日間 2〃	60
音 楽	作って遊ぼう 手作り楽器	小・中学生	1日間 12〃	360
小児保健	夏休みこども一日ドック	小・中学生	1日間 2〃	20
企画研修	絵本のワークショップ	幼児・小・中学生・親	1日間 6〃	240
合 計		12種	103コース	1,985

〈専門指導者向け講習会等〉

部 門	プロ グ ラ ム 名	対 象	コ ー ス	総 定 員
保 育	育児相談の研修会	育児相談担当者	3回／年 1コース	40(人)
	育児相談概論研修会	保育実践者	通 年 1〃	130
	保育セミナー	保育関係者	2日間 1〃	150
小児保健	小児肥満のための指導者講習会	養護教諭等	1日／2日 2コース	100
	小児保健セミナー	保母・保健婦等	1日 1〃	100
企画研修	児童厚生員等実技指導講習会	児童厚生員等	2泊3日等 3コース	150
	おりがみに強くなる講習会	〃	1日間 2〃	120
	絵本の講習会	〃	〃 1〃	50
合 計		8種	12コース	860

④視察・見学実績

() 内は件数

年 度	都道府県・市区町村の本庁その他の行政部局、公共団体	児童館、保育所、幼稚園、学校、施設、サークル、これらの団体	海外からの視察・見学	そ の 他	計	
昭和 60年度	(100) 1,122	(100) 1,578	(22) 169	(18) 410	(240) 3,279	
61年度	(121) 714	(192) 4,085	(52) 359	(31) 513	(396) 5,671	
62年度	(107) 439	(123) 2,437	(36) 347	(20) 477	(286) 3,700	
63年度	(91) 598	(69) 770	(30) 211	(32) 296	(222) 1,875	
平成 元年度	(72) 541	(71) 931	(10) 86	(25) 195	(178) 1,753	
2年度	(65) 605	(27) 292	(8) 156	(17) 212	(117) 1,265	
3年度	(63) 417	(47) 705	(11) 77	(6) 274	(127) 1,473	
4年度	(78) 585	(62) 1,038	(9) 122	(6) 35	(155) 1,780	
5年度	(69) 698	(75) 1,182	(14) 119	(9) 41	(167) 2,040	
6年度	(96) 782	(73) 1,251	(13) 144	(13) 116	(195) 2,293	
7年度	(136) 956	(101) 1,542	(19) 273	(16) 94	(272) 2,865	
8年度	(63) 402	(188) 1,691	(19) 139	(8) 48	(278) 2,280	
平 成 年 度	4月 (5) 32	(5) 47	(1) 8	(3) 3	(14) 90	
	5月 (4) 15	(11) 97	(2) 65	(2) 11	(19) 188	
	6月 (4) 5	(9) 52	(1) 35	(2) 8	(16) 100	
	7月 (8) 150	(9) 140	(2) 39	(1) 1	(20) 339	
	8月 (7) 77	(14) 76	(1) 20	(2) 2	(24) 175	
	9月 (3) 69	(5) 197	(2) 41	(1) 1	(11) 308	
	10月 (5) 74	(4) 39	(1) 1	(5) 9	(15) 123	
	11月 (9) 29	(13) 150	(0) 0	(1) 1	(23) 180	
	12月 (7) 42	(10) 88	(2) 6	(3) 3	(22) 139	
	1月 (11) 58	(11) 61	(1) 8	(2) 2	(25) 129	
	2月 (14) 127	(19) 288	(0) 0	(1) 1	(34) 416	
	3月 (12) 45	(24) 91	(1) 6	(1) 1	(38) 143	
累 計		(89) 723	(134) 1,335	(14) 229	(24) 43	(261) 2,330

※(1)「海外からの視察・見学」：韓国、中国、台湾、タイ、インド、アメリカ、その他

(2)「その他」：中央官庁、中央団体、会社など

1年歩み

日	月	年
平成9年		
4.10~20		アートスケープ展 '97 (ギャラリー)
4.26~5.5		ゴールデンウイーク（児童福祉週間）特別期間「あそびフェスティバル」 スポーツとサイエンス～身近な運動を科学する／キャスルファイト外伝「モンスタークランプリ No.1」／ゴールデン ウイーク人形劇フェア／こども歳時記「こどもの日」などのプログラムを実施 (5月5日は18歳未満の入館料は無料)
5.3~6		「こどもフェスティバル」(青山円形劇場)
5.7~11		「さねよしいさ子～円形音楽会～」(青山円形劇場。うち1公演は、第12回こどもの城マタニティ・コンサート)
5.14・21		平成9年度第1回こどもの城児童厚生員等実技指導講習会「こどもの心をつかむ紙しばい」
6.20~7.10		万人のための美術展～もうひとつの美術教育（共催、ギャラリーほか）
7.19~8.31		夏休み特別期間「発見！遊びのジャングル」 素材との出会い展「金属と造形」／体力づくりとスポーツあそび／おいでよ パラダアス・アジア／ワンダースプラッシュ などのプログラムを実施
7.19~8.31		遊び・絵本・知育 コマガタワールド (ギャラリー)
7.19~8.31		第14回「渋谷スタンプラリー」
7.20~8.3		第5回キンダー・フィルムフェスト・ジャパン (音楽スタジオBほか)
7.31~8.9		こどもの城児童合唱団が「'97上海国際少年児童文化芸術祭」に参加のため、上海（中国）で夏期合宿
8.8・9		「ことばの森へ出かけよう」(青山円形劇場)
8.9・10		第11回こどもの城保育セミナー「子ども家庭福祉を考える～家庭と子ども・地域と家庭」(青山円形劇場ほか)
8.13~15		「第3回人形劇カーニバル」(青山円形劇場)
8.19・20		第12回青山バレエフェスティバル～バレエへの道 (青山劇場)
8.22~26		第12回こどもの城・キリン・ファミリー劇場「サマー・アンデルセン」(青山円形劇場)
10.1~3		平成9年度第2回こどもの城児童厚生員等実技指導講習会「楽しいつどいの運営術」
10.8~11.9		第11回青山演劇フェスティバル～別役実の世界 (青山円形劇場)
10.18		第12回小児保健セミナー「おかあさんを泣かせていませんか～子育て支援の原点」
10.30~11.9		開館記念特別期間「ファミリーウイーク～見つけよう！世界を、地球を、夢を！」 造形親子ワークショップ「宇宙でラ・ラ・ラ！」／赤ちゃん大集合！～赤ちゃんサンクススペシャル／ゲームでチャレンジ！ 世界の昔はなし／つくってあそぼう親子工房～ミラクルタマゴを作ろう、ほかのプログラムを実施
11.1~9		「カナダの絵本と子ども文化展～多民族の国・カナダと創る子どもたち」(ギャラリー)
11.9		日本・カナダ子ども交流コンサート「こんにちは カナダ」(音楽スタジオA)
12.6・7		バイインガル・ファミリーシアター「ミセス・サンタズ・アニマル・クリスマス」(青山円形劇場)
12.10~25		ア・ラ・カルト～役者と音楽家のいるレストラン (青山円形劇場)
12.26~1.7		冬休み特別期間「あそびのすごろく盤」 新春あそびすごろく'98／もうすぐ「長野オリンピック」冬のスポーツあそび大会／こま名人来る！／新春もちつき大 会／凧（たこ）作りワークショップなどのプログラムを実施
1.2~8		第10回こどもの城・キリン・ファミリーオペレッタ 「まんぶく村のハムスター キック 2～ワニのジャックがやってきた」(青山円形劇場)
1.9~11		ノルウェーの音楽家と（こどもの城）の音楽講座生が共同作業で音楽を作るワークショップ。11日に青山円形劇場で公演
1.21~23		平成9年度第3回こどもの城児童厚生員等実技指導講習会「こどもの城発 ふれあいあそびのコレクション」
2.8		親と保育者の共同企画「ファミリーフェア～家族をつなぐ」(ギャラリーほか)
3.1		屋上フレイポートの撤去作業始まる（7月20日にリニューアルオープン）
3.8		'98こどもの城体操発表会 in 青山円形劇場
3.26~28		（こどもの城）音楽講座・クラブ生の合同コンサート「ぼくらのサウンド '98」(青山円形劇場)
3.26~4.5		春休み特別期間「…ぼくらは あそびの探偵団」 やってみよう つくってみよう「名探偵ひかりん 光の謎をとく」／こどもの城映画劇場「映像ワンダーワールド～ ドラマと特撮」／春休みモンスターコレクション '98ほかのプログラムを実施
3.25~4.5		五線譜のなかの動物たち「グリム号の大冒険」(青山円形劇場)

II

各部の活動

体育事業部



平成9年度の活動

25m×5コースのプール、バスケットコート約1面の広さの体育室、体力測定を行う健康開発室、マシントレーニングなどができるトレーニングジム——このスペースを有効に利用して、一般来館児・者へのプログラムである一般利用、6か月の乳児から大人までが対象の講座・講習会、6種類のプログラムが用意してあるグループ活動、大人のためのスポーツクラブであるダイナミック・ヘルス・クラブ(D. H. C.)を行っている。

野外の活動は夏のキャンプやスキースクールのほか、他事業部と協力して行う野外活動も行っている。

本年度は「スポーツ遊び」を基本コンセプトとし、プログラムを作った。遊びの中でも体を多く動かすもの、ボーダゲームのように思考力が必要なものなどさまざまな形態の遊びが存在するが、体を動かす遊びで昔から普遍的に続けられている“鬼ごっこ”“陣取りゲーム”などを取り上げた。走る、捕まる、逃げる、作戦を立てる——遊びの中にはスポーツに必要な要素がたくさん詰まっていて、子どもたちは遊んでいるだけで必然的にその要素を習得していく。「スポーツ遊び」では遊びからスポーツへという結びつきを重視してプログラムを進行させた。

①一般来館児・者活動

(ア) 平常期間

平常期間の一般利用は土・日曜日と祝日に、プール・体育室・健康開発室で行っている(平日の特定時間にもプールを一般開放)。

体育室の活動は、さまざまなスポーツ活動とふれあい、スポーツの楽しさや喜びを感じたり、親子のコミュニケーションが図れる場になるように考えている。幼児から中学生までの参加があり、年齢層の幅が広いが、年齢ごとにルールを変えたり、スタッフが加わることでゲームの進行を補助したりプログラム展開に工夫をこらしている。最近では小学校の高学年や中学生の参加が増えてきた。

ゲームでは同年齢の子どもを集めてチーム作りをするが、人数や種目によっては異年齢の子どもでチームを作ることがある。その時にはハンディをつけるなど、全員で楽しめるルールにしている。

【体育の日】

ウォールサッカー大会には、毎年参加の常連チーム、平常期間の活動に参加してチームを作ってくる子どもたちがでてくるなど、回数を重ねるにつれて新たな広がりができた。

大会は1・2年生の部、3・4年生の部、5・6年生の部に分け、事前に募集をする。午前中には、ミニコーンの間をジグザグにドリブルをするドリブル競争で、ウォーミングアップを兼ねた個人の勝負、午後からは各部門で対戦を進めた。

常連チームはゲームの作戦を練るだけでなく、疲れを残さないようにメンバー交代を計画的に行うなど、大会全体を見渡した作戦も立てていた。子どもたちと指導者が一体となって、全員で優勝をめざしていた。また観戦している親も体を乗り出し、子どもたち以上に大きな声で応援していた。

(イ) 特別期間

特別期間もプールの一般利用と健康開発室（体力測定）、体育室のプログラムを行った。体育室では平常期間にはなかなかできない種目を実施して、新たな運動体験ができるよう心がけた。特にこの期間は大勢の子どもが来館するので、できるだけ多くの子どもたちが参加できるように、プログラムの内容を工夫し、実施回数も増やしている。本年度は、昨年の「身近な道具でスポーツ遊び」を発展させて、昔ながらの遊び（鬼ごっこや陣取りゲームなど）からスポーツへと結びつけていった。

また夏休み恒例の「トランポリン」では指導者の山田光明氏にデモンストレーションと指導を、春休みには元ラグビー日本代表の梶原宏之氏と大和証券バスケットボール部選手兼アシスタントコーチの広瀬昌也氏を招いて指導をしていただいた。子どもたちがトップクラスのスポーツに触れる機会として大変有意義なプログラムであった。

【児童福祉週間（ゴールデンウイーク）】

体育室、健康開発室、ギャラリーを会場に、《スポーツとサイエンス！ 身近な動きを科学する》を実施した。

体育室ではプロ野球やサッカーのJリーグなどで行われている最新トレーニングをアレンジし、遊びの中で最新のトレーニングができるようにした。

健康開発室では「瞬」に焦点をあてて、瞬発力を中心に測定を行い、科学トレーニングとしてAV事業部の協力を得て動体視力トレーニングをパソコンで行った。

ギャラリーではミズノ株式会社の協力を得て科学的な研究成果を踏まえて作られているスポーツ用具——バスケットゴールのボードの形が変形しているバンクショット、同じ競技でも種目によって異なる水着や陸上スパイクなどの実物を展示した。また、フリークライミング（ザイルなどの用具を使わない岩登り）の人工ホールド（手や足を掛ける石）を210mm×110mmの板10面に取り付け、登ったり横に移動できるコーナーを設けた。小学生などは何度もフリークライミングに挑戦。ギャラリーが“遊び場”になったことで、“遊び”をキーワードにさまざまなプログラムを実施している〔子どもの城〕の入口として、楽しげな雰囲気を作り出した。

【夏休み】

テーマは《体力づくりとスポーツあそび》。体を柔らかくする、すばやく動く、力強くする、バランスを良くする、空中感覚を楽しむ、簡単に楽しく遊ぶ——というサブテーマを設け、それぞれ練習（遊び）とゲームを行った。

“スポーツ遊び”は本年度をとおしてのメインプログラ

ムとなった。遊びの中にある動きの要素は、スポーツに必要な要素と同じものが多く、子どもたちは遊びをとおして運動に必要な要素や感覚を養っている。体を動かすこと（運動的要素）はもちろん、考える、チームとして実践するなどの遊び本来の要素（楽しさなど）もある。陣取りゲームなどでは、個人ごとに作戦を立て相手陣営をめざすだけでなく、チームワークも生まれ、チームとしての戦術を考える姿も見られ、小学校高学年には人気の高いプログラムになった。

【開館記念】

《世界の鬼ごっこ》は、夏休みに開催した《体力づくりとスポーツあそび》の第2弾。世界各地で行われているものだけでなく、オリジナルのものまでさまざまな鬼ごっこを取り上げた。よく知られている手つなぎ鬼、氷り鬼、色鬼などはもちろんのこと、2人組や3人組、動ける場所や動きに制限をつけた鬼ごっこなど、子どもたちの年齢や人数に合わせて実施した。

しっぽ取りの鬼ごっこでは、しっぽの長さを2つ折りの鉢巻きから縄跳びの縄の長さまで変化をつけて実施した。鉢巻き2つ折だと走り回って追っかけたり逃げたりするが、縄跳びの縄だと引きずってしまうので、走り回ると簡単にしっぽを捕られてしまう。そのため回転しながら走ったり、自分の下に縄がくるように後ろ向きで進んだりと運動量もスピードも変わってくる。年齢ごとに長さを変えたハンデ戦も楽しい展開となった。幼児から小学校低学年を中心であったが、高学年も楽しめたプログラムである。

【冬休み】

日本での冬季オリンピック開催にちなみ『もうすぐ長野オリンピック 冬のスポーツ遊び大会』を実施。スキーやスケートはよく知られているが、あまり知られていないオリンピック種目や遊びの中でも冬にちなんだ雪合戦などを体育室の中でできるようにアレンジして実施した。

新聞紙をたたんで足の下に引き、それに乗って床の上をスケートのように滑る遊び、体育室の壁にそって回るスピードスケート、その場で回転するフィギュアスケート、そしてユニホックのスティックを持ってアイスホッケー——というように、いろいろなバリエーションを楽しんだ。また、雪合戦は、雪玉の替わりに、新聞紙を丸めた“新聞玉”を使って実施した。

【春休み】

《トライ＆ゴール 鬼ごっこはスポーツの原点だ》とし、夏休み、開館記念に引き続き鬼ごっこを実施。今回はさらに遊びからスポーツへのつながりに注目し、ラグビー、フットサル（サッカー）、バスケットボールにつながるような

鬼ごっこを最初の練習に入れていく、それぞれの種目の運動特性が体得できるよう考えた。

②講座・クラブ

(ア) 講座・クラブ

体育事業部の活動の中心である講座・クラブは、1歳の幼児と母親の親子を対象としたものから、幼児・小学生・成人と幅広い年齢層を対象にしている。講座ごとに担当を決め、受講生の運動能力や技術レベルにあわせた班分けを行い、指導している。

近隣の小学校の授業時間の関係で木曜日のみ開始時間を30分ずらしているが、曜日による受講人数の差はほとんどない。幼児・母親を対象とした講座、4・5歳児の「幼児水泳」に多くの受講生が集り、3・4歳児の「幼児水泳」の受講生が少ない。

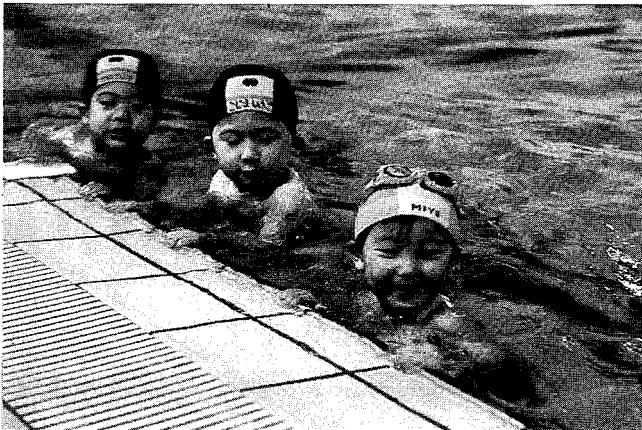
【幼児・母親水泳と幼児のプログラム】

本年度多くの受講生を集めたのが「幼児・母親水泳」である。母親と子どもが一緒にプールの中で活動するので、子どもにとっても安心感があり、水泳との最初の出会いが楽しく、好きになるきっかけになっている。子どもは母親の行動を見ていいろいろなことを覚えていくが、プールでも同じで、母親が水に潜っているのを見て「大丈夫なんだ」「やってみよう」と行動している。母親の協力、実践力がとても重要である。

「幼児水泳」は3・4歳児のクラスと4・5歳児のクラスに分かれている。3・4歳児のクラスは、開講当初は泣いて嫌がり、プールサイドで見ている子どももいるが、親が粘り強く講座に参加させることにより、プールでの活動を楽しめるようになってくる。保護者の理解と協力がとても大切である。4・5歳児の一番上の班では、クロールなどで25m泳げる子どもも多くなってくる。

「幼児体育」も3・4歳児のクラスと4・5歳児のクラス

「幼児水泳」(3・4歳クラス)



元ラグビー日本代表の梶原氏の指導で“タグラグビー”

に分かれている。独り遊びの世界から少しづつグループでの運動へと移行していく、遊びの中の運動要素を多くしていく。並ぶこともままならなかった子どもたちも3期には全員でリズム体操ができるようになる。4・5歳児のクラスは球技や器械体操を含め、バランスの良い運動体験、基本的な身体の使い方の習得を目標とした。

【小学生のプログラム】

「小学生水泳」はクロール・背泳ぎから、バタフライ・平泳ぎへと進んでいく。早くからバタフライと平泳ぎを始めることでこの2種目の上達が目ざましく、4泳法の習得が以前より早くなってきた。しかし平泳ぎのキックができずに苦労する子どもも多い、今後もより良い指導をめざしていきたい。

「シニアスイミング」は「小学生水泳」のステップアップの講座である。しかし小学生水泳で上級に合格した受講生に「シニアスイミング」を勧めても移行せず、「シニアスイミング」の受講生が減少してきた。今後も魅力ある講座にして小学生水泳から移りやすい状況を作りたい。逆に、「シニアスイミングフレッシュ」の講座は、泳げない中学生や小学校高学年の子どもから、かなりの泳力を持っている子までいるが、それが良い方向に作用し初心者の上達も早いようである。人数も多く人気の講座の1つになっている。

「小学生体育」は、それぞれのクラスで目標を作り、それをめざしてがんばった。1期の始めと3期の終わりに体力測定を実施し、それを指針にした。測定値も向上し、続けて受講した成果を示していた。この講座には運動が得意でない子どもが多く、技術的な練習をするための基礎的な体力トレーニングを行うこともあった。運動体験の少ない子どもが増えてきたように感じる。

また、水泳と体育の両講座を受講できるシステムにしており、都合の良い曜日が選べるので受講者が増えている。バランスのとれた体力作りをめざしている。

「新体操」は、手具を扱う巧ち性、柔軟性、ジャンプなど

で必要な瞬発力が要求される。ジュニアとシニアのクラスに分かれているが、ジュニアは基礎的な運動（柔軟）から手を使い、簡単な演技の練習を行う。シニアではそれから一歩進めて個人や団体の演技を、自分たちで作る。ここでは自主性や表現力などをはぐくめるようにしている。

「手足の不自由な子の水泳」ではボランティア・リーダーと一緒に水慣れから始め、徐々に自分にあった泳ぎをみつけられるように指導している。水を怖がっていた子どもも水の中で楽しく活動できるようになり、長く継続している子どもはかなりの泳力を持ってきていている。

【水泳記録会と体操発表会】

「水泳記録会」は10回目の記念大会。水泳講座開始から2年後にスタートしたもので、子どもたちにとって1年間の総まとめという意味がこもっている。「幼児水泳」「小学生水泳」「シニアスイミング」各コースの受講生が日々の練習の成果を発揮する場であるのはもちろんのこと、ほかの曜日に練習している子どもたちとの交流、刺激が生まれれば良いと考えている。

子どもたちはふだんの練習で見せない緊張した顔など、新たな一面を見せ、飛び込んでいく。良い結果が出た子どもの笑顔は素晴らしいものである。

今回は、東京シンクロクラブのジュニアのメンバーにシンクロナイズドスイミングの演技を披露してもらった。競泳とは違う新たな水泳との出会いになればうれしい。

「体操発表会」も10回目の記念発表会。例年は体育室で開催しているが、今回は青山円形劇場を会場に開催した。午前が「幼児体育」の部、午後が「新体操」の部と、2部に分けて実施した。

ふだんとは違う緊張感のある顔、間違った動きをしてまごまごしてしまう子、それを見守る親の心配そうな顔。しかし、思った以上に堂々と演技をする子が多かった。

ゲストも、今までの発表会で招いた、國士館大学新体操部、ピュア RSG、秋川新体操クラブ、日本女子体育大学新青山円形劇場で10回記念の「体育発表会」



体操クラブ、二関亜由美さん（ジャスコ新体操クラブ）、菊田善己・由佳里夫妻（田中信和ダンススクール・プロランB級）に依頼し、華を添えていただいた。音楽は、小澤敏也氏、音楽事業部の櫻田素子、広報部の飯島美保が担当し、生演奏で子どもたちの演技を引き立てた。また劇場事業本部、業務部総合案内課、AV事業部にも多大の協力を得て、大盛況のうちに終了することができた。

【成人のプログラム】

健康作りとシェイプアップを中心とした成人向けの「レディース・エクササイズ」コースは、「レディース・スイミング」3コースと「リズム&ストレッチ」1コースの中から2つまで受講できる。長期間にわたって継続している人は泳力も高く、練習で泳ぐ量・質ともかなり高いレベルに達している。

① 講習会

小児保健部との共同事業である「マタニティ・スイミング」は妊娠16週以降の妊婦を対象に、月単位で実施している。夏季には人数も多く活気のある講座になるが、冬季は寒さのため、参加人数が減少する傾向にある。プールでリラックスや、呼吸法の練習などを行っている。

講座と同じ時間割の中で10回で完結するもの、月単位で開催する「成人水泳集中講習会」（月7回）、夏休みなどの特別期間に3～5回で完結する「集中水泳」などがある。対象年齢の基準日が講座と異なるので（開講日までに対象年齢に達していればよい）、講座に入る前に経験したい人の参加や、短期集中形式のため地域的に通いきれない人なども参加しやすくなっている。

10回完結の講習会は「幼児・母親体育」「母と子のすくすくランド」「母と子のパチャパチャスイム」がある。6か月～3歳までの子どもと母親を対象にして、講座に1人で参加できる前の土台作りをしている。

「母と子のすくすくランド」はお座りができるくらいの乳児が、はいはいで運動を自発的にすることで、この時期に必要な体力作りや、母親とのスキンシップ作りをめざしている。講習終了2か月後に思い出として父親を含めて受講者の家族が集まり、活動中に撮ったビデオを見たり近況報告やゲームをして過ごした。同じ年の子どもを持つ親の仲間作り（家族での交流）ができればと考えている。

「幼児・母親体育」は2・3歳の子どもと母親を指導。親子体操やリトミック的な遊びなどを中心にいろいろな運動が体験できるようにしている。子どもとふれあい、ともに汗をかくことで信頼関係やコミュニケーション作りができている。初めは親から離れない子も1人で元気に体育室を



ペットボトルのイカダ（「チャレンジキャンプ」）

走り回り、遊べるようになった。

「母と子のパチャバチャスイム」は「幼児・母親水泳」講座と同じ年齢対象であるが、10回完結なので体験的な意味合いも深い。

「成人水泳集中講習会」は月単位の講習会。前月20日に募集し、月7回（火・金曜日）開講。水泳経験のない人から、レベルアップをめざしている人までが2つの班に分かれて練習を行っている。継続して受講している人と新規に参加する人との、1年間ほぼ満員で講習することができた。

春休みと夏休みの特別期間には「こども集中水泳」を実施。5日間連続で集中的に練習を行うので、上達も早いようである。

夏休みには〔子どもの城〕水泳講座の7級以上の講座生対象のレベルアップ講習会「ハッスル'97」を実施。3日間1時間30分の練習で、質の高い泳ぎをめざした。やる気を持って参加している子どもたちなので、練習にも熱が入りふだんの講座以上に上達していた。成人女性を対象とした「レディーススイミング」受講者の参加もあり、互いに刺激され、切磋琢磨していた。

（ウ）野外活動

「スポーツキャンプ」はテニスの技術を学んだり、マラソンで体力トレーニングをしたり、栄養を考えた野外料理を作ったり、合宿的要素が大きいハードなキャンプである。カヌーやプールなどのリラックスタイムもあるが、苦しい練習を乗り越えて帰ってきた子どもは出発前より一回り大きくなった気がした。

「チャレンジキャンプ」は小学校1～3年生が対象で「何にでも挑戦しよう」を合言葉に山中湖YMCAセンターで開催。400数段ある階段をはじめ、急な山道の石割山登山、ゲーム大会、クラフト、野外炊事。全員が持ち寄ったペットボトル400本を組んで、木材にくくりつけたイカダを作り15人くらいが乗り込み、交代で山中湖を航海した。



「スキースクール PART I」

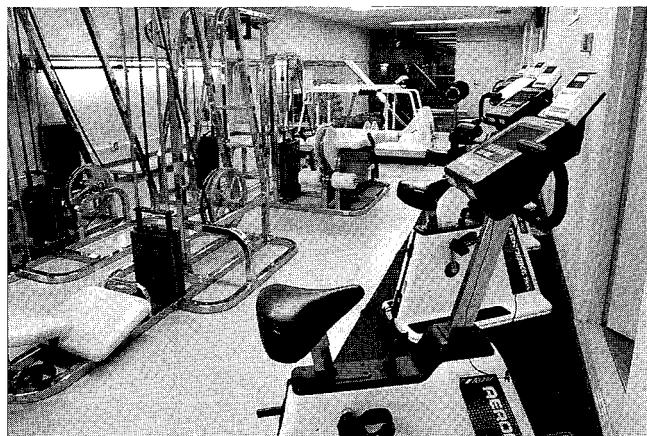
「新体操合宿」は、集中的に練習を行うことで講座ではできない活動を経験する、生活面・精神面での自立を促し、集団活動により協調性を養うことを目標とした。講座ではできない集中的な練習だったため、個人の精神面を含めた成長が見られた。

「スキースクール PART I」は新潟県のグリーンピア津南で1期が12月26日から29日、2期が12月28日から31日の2回編成各45人で実施。コテージに宿泊した。昨年の実績から、1期は低学年、2期は中学生や高学年が多くなったことを広報してあったので、そのようなメンバー構成になった。年齢構成が異なると、体力も雰囲気も違うので、今後もこのような情報を流していくたいと思う。雪不足でゲレンデ1面だけでの講習になってしまったが、雪不足のため滑走不可能なスキー場があった中で、無事開催できたことは幸いであった。

「スキースクール PART II」は小学校低学年を対象に、少人数で雪遊びとスキーレッスンを通じて自然とふれあうキャンプである。今回は初めてスキーをする子や1・2度の経験という子が多かったが、上達も早く、3日間の練習でスキー場の頂上からの滑走を楽しんでいた。雪不足が心配であったが、全面滑走可能な状態で素晴らしい講習ができた。ただ夜の雪上プログラムは安全面を配慮し、レクリエーション大会にした。最終日はスノーチューブとソリ遊びにし、スキーとは違う滑走感覚を楽しんだ。天候にも恵まれ良いキャンプとなった。

③グループ活動

グループ活動は、講座との関係で火・木曜日の午前中に実施している。6種類のプログラムがあるが体を動かす楽しさや、あまり経験できない種目を紹介・体験ができるようにしている。また利用団体のニーズに対応できるように、数プログラムの中から種目をピックアップして組み合わせて実施している。



トレーニング機器がならぶ「トレーニングジム」

パラバルーンやフライングディスク、数種類の運動要素を組み入れたサーキット運動の実施回数が多かった。今後も新しいプログラムの開発の取り組み、現在あるプログラムの見直しをして、より良い活動にしていきたい。

④ダイナミック・ヘルス・クラブ

成人のスポーツクラブの「ダイナミック・ヘルス・クラブ (D. H. C.)」は、平日の昼間と夕方の子どもたちが利用しない時間帯に行われている。個人会員、法人会員、ビジターがそれぞれに合った方法でプール、体育室、トレーニングジムを利用し、体力作りや健康維持をめざしている。

会員サービスの1つとして、体育室で行う「シーズンプログラム」を展開。健康作りや技術習得のきっかけにしてもらっている。会員相互の交流の場になっている。3か月ごとにプログラムを変更しているが、ゴルフやバスケットボールなどが人気プログラムである。

新規会員の確保のため、昨年好評であった入会金50%オフ特別会員募集キャンペーンを行った。東急東横線・新玉川線・田園都市線に中づり広告をだし、好評であった。入

会者の確保には広報の必要性を感じた。

⑤その他の活動

【協力事業】

「こども一日ドック」「マタニティ・スイミング」「健康スポーツ教室」「児童肥満のための指導者講習会」(以上小児保健部)、「ジュニア・アウトドア・スクール」(企画研修部・プレイ事業部と合同)などを行った。

【動く子どもの城】

【子どもの城】のスタッフが全国各地に出かけ、日常活動で行っているプログラムを、数多くの子どもたちや児童館などで活動する児童厚生員などに伝える活動である。フライングディスクや身近な道具で行うスポーツ遊びなどのプログラムを取り上げた。

フライングディスクは、運動の質・量などを含め小学生に適した運動であるし、身近な道具で行うスポーツ遊びは狭い場所でも楽しく活動できるプログラムなので、すぐ取り入れることができる“スポーツ遊び”として好評であった。

【研究活動】

〔著書〕

○厚生省心身障害研究～小児期からの総合的な健康づくりに関する研究～「しっぽ取り鬼ごっこ」の移動軌跡に見る運動量を上げる遊びの考察」(1997年3月／羽崎泰男、渡邊恒一ほか)

【外部指導】

○骨そしょう症予防教室（横浜市）

○指導者講習会「0～3才までの親子体操」(杉並区青少年センター、麹町児童館、鎌倉市青少年センターほか)

○小児肥満の予防教室（松戸保健所ほか）

平成9年度活動一覧表

①平常期間プログラム

名 称	期 間	備 考
プール 一般利用	水・金曜日 16:30~17:30 土曜日 13:30~16:00 日曜日・祝日 10:30~17:30	各曜日にそれぞれの時間帯で一般開放。利用料は、大人(18歳以上)300円、子ども(小学生~17歳) 200円、幼児100円。レンタル(タオル・水着) 各200円。幼児は保護者が1対1で付いて利用。
体育室 一般開放 レクリエーションゲーム ニュースポーツゲーム 卓球 ミニサッカー ユニホック	各月 第1日曜日と前日の土曜日 第2日曜日と前日の土曜日 第3日曜日と前日の土曜日 第4日曜日と前日の土曜日 第5日曜日と前日の土曜日	週ごとに内容を変えて行っている。卓球の週は終日卓球のみ(混み合う場合は各グループ20分交代で利用)。ほかの種目は日曜日の①14:00 ②16:00の2回、土曜日の14:00の1回、練習とゲームを行い、それ以外の時間帯はフライングディスクの的当てとフリースローリングを行っている。 利用時間は土曜日が13:30~16:00、日曜日が10:00~17:00。
体力測定	土曜日・日曜日・祝日	健康開発室で7種目9項目の体力測定。4歳児から大人までだれでも利用でき、男女別に全国平均値と比べることができる。利用料1人100円。土曜日が①14:00 ②15:00の2回、日曜日が①11:00 ②13:00 ③14:00 ④15:00 ⑤16:00の5回
グループ活動	毎週火・木曜日	午前中を使ってまとまった団体(グループ)を指導。体育室を使っていろいろなプログラムを展開している。時間は10:00~12:00。
こどもの城 ウォールサッカー大会	10.10	5~8人でチームを作り、小学生1・2年、3・4年、5・6年の部の3部に分けて募集。午前中は個人戦のドリブル競争、午後から各部ごとに(こどもの城)独自のウォールサッカーのルールで大会を進めた。116人が参加。
小児肥満のための 指導者講習会	10.18	小児保健部との協力事業。体育では運動指導や測定についてのレクチャーおよび実践を行った。時間は10:00~12:00。
第10回水泳記録会	12.14	10回の記念大会、体育の水泳講座受講者がエントリー(1人2種目1,000円)を行い参加。年齢別・男女別で記録に挑戦。10:00~13:00。幼児4種目、小学生9種目。143人参加。
'98こどもの城 体操発表会 in 青山円形劇場	3.8	10回の記念発表会。青山円形劇場で開催。第1部は「幼児体操」受講生、第2部は「新体操クラブ」受講生。それぞれの演技・発表を中心に、これまでの発表会で客演していただいた外部団体・個人が演技を披露した。1部61人、2部43人の参加。

②特別期間プログラム

名 称	期 間	備 考
(児童福祉週間) スポーツとサイエンス! 身近な動きを科学する		
身近な運動を 科学する	4.26・27・29、5.3~5	プロ野球やサッカーリーグなど、さまざまな競技スポーツで導入されている、最新トレーニングをアレンジして、楽しいゲームに。置いたラダー(縄ばしご)をすばやく駆け抜けたり、片足ジャンプやぶつかったらじんけんをする“どんジャンケン”を行った。
「瞬」の測定	4.26・27・29、5.3~5	「瞬」の文字のとおり、瞬発力を中心とした体力測定を行った。AV事業部の協力を得て、動体視力の測定も行った。
ギャラリー展示	4.26~5.5	ミズノ株の協力を得て、バスケットゴールのボードが変形している「パンクショット」や競技用スニーカーの展示。210cm×110cmの板を10面並べて作ったフリークライミング。こぐと風景が変わるモニター画面付きエルゴバイクを置き、遊び場の入口を盛り上げた。

名 称	期 間	備 考
〈夏休み〉 体力づくり スポーツあそび		
体を柔らかくするあそび 新体操	7.19~25	低学年・幼児の参加が多かった。ボールや小さい輪を使い簡単にできるもので、柔軟性が強くなるようにする。ゲーム性を多くし、不得意な子も取り込んでいった。
すばやく動けるよう にするあそび サッカー	7.26~8.3	ラダー（縄はしご）を使ったり、指導者の指示を瞬間に判断して動くようなゲームをした。最後はサッカーのゲームをし、“すばやい動き”のゲームを楽しんだ。
力強い体にするあそび 綱引き	8.5~10	2人組で手をつなぎ、互いの体をタッチするゲームや引っ張りっこなど、力を使うゲーム。最後は大人も含めた綱引きで盛り上がった。
バランスよくするあそび 陣取り	8.11~17	片足ジャンプでバランスをとりながらのゲーム。一定のライン上しか動けない鬼を避けて走り抜けるステップゲーム、敵のタッチをくぐり抜けて相手の宝を取る陣取りなどを行った。
空間を楽しむ① 器械体操	8.19~22	マット運動や馬跳びをする中で、体が浮いたり、回転する感覚を楽しんだ。風船を使ったバーボールも行った。ふわふわする風船を打つのも幼児には難しかったようだ。
空間を楽しむ② トランポリン	8.23・24	空中遊泳で空中感覚の向上に。見た目には楽そうだが、ハードな運動である。
簡単に楽しくあそぶ 世界の鬼ごっこ	8.25~31	だれもが手軽にできる「鬼ごっこ」。日本全国にさまざまな鬼ごっこがあるように、世界にもたくさんの鬼ごっこがある。インドのカバディもその1つ。
〈 リ 〉 ちびっこプール	7.20~8.31	5階屋上に仮設プールを設置、一般に開放。利用料200円、レンタル(タオル・水着) 各200円。業務部に協力してアイスクリームも販売した。
〈 リ 〉 こども一日ドック	7.26	小児保健部との協力事業。体力測定など運動面の指導を担当。
〈開館記念〉 世界の鬼ごっこ	11.1~3	夏休みに引き続きの実施。世界の鬼ごっこだけでなく、オリジナルの鬼ごっこを行った。良く知られているものから、2人組や3人組で行うもの、頭の上に大きなお手玉を乗せたり、片足ジャンプなどの動きを制限したものなど、年齢でハンディを付けて全員で鬼ごっこを行った。幼児から高学年まで楽しめたプログラムであった。
〈冬休み〉 もうすぐ長野オリンピック 冬のスポーツあそび大会	12.21・23, 26~28, 1.3~7	雪上や氷上をするスポーツをアレンジした。たたんだ新聞紙を足で踏み、滑らせたり回転するアイススケート、丸めた新聞紙をぶつけ合う雪合戦、アイスホッケー感覚でユニホックを楽しんだ。
〈春休み〉 「トライ＆ゴール」鬼ごっこはスポーツの原点だ		今回初めて幼児と小学生の時間を分けた。年齢別にしたことで人数が少なかつたり、不慣れな部分があったが、対象ははっきりしているので、それぞれに合わせた指導ができた。
タグラグビー	3.28~29	タックルの代わりに腰に着けているタグ（りほん）を取り相手の攻撃を止めるタグラグビーの練習と試合を行った。29日には元日本代表の梶原宏之氏の指導のもと汗を流した。
フットサル	3.30~4.2	フランス語で室内サッカーと言う意味のフットサル。コートを囲った壁が使える（こどもの城）独自のルールで行った。
バスケットボール	4.3~5	バスケットボールの練習と指導。幼児は玉入れのゴールを使いゲームを実施。小学生はたくさん集まり盛り上がった。5日に大和証券バスケットボール部広瀬昌也氏の指導を受けた。
〈 リ 〉 こども一日ドック	3.27	小児保健部との協力事業。
体力測定	特別期間中	健康開発室で7種目9項目の体力測定。男女別に全国平均値と比べることができる。
プール 一般利用	リ	10:30~12:00, 13:30~17:30に一般開放（一部変更あり）。

③野外活動など

名 称	期 間	備 考
新体操 合宿	6.14・15, 7.12・13	第9回東京ジュニア新体操選手権大会参加のため、選抜メンバーによる強化合宿。小・中学生15人参加。新潟県越後中里 MARUZEN 旅館。
新体操 夏合宿	8.1～3	技術向上をめざした合宿。練習はもちろんのこと、仲間との親交を深めた。互いに切磋琢磨している姿が見られた。新体操講座生30人参加。ルネッサンス棚倉（福島県）。
スポーツキャンプ	8.10～13	テニスの技術の習得やカヌー、ランニングと合宿的な要素のキャンプを行った。小学生3年生～中学生30人参加。新潟県グリーンピア津南。
チャレンジキャンプ	8.27～30	山登りやグランドでさまざまなスポーツを体験。ペットボトルでイカダを作り湖に浮かべた。低学年の体験キャンプ。小学生1～3年生43人参加。山梨県 YMCA 山中湖センター。
スキースクール I II	12.26～29 12.28～31	今回から2団編成。1期は低学年、2期は中学生など高学年を中心。スキー技術のレベルアップをめざしたキャンプ。1期45人、2期37人の小学校2年生～中学生が参加。新潟県グリーンピア津南。
〃 II	3.26～29	コテージに宿泊し、スキーや雪遊びで雪と親しむ低学年キャンプ。小学校1～3年生43人参加。新潟県グリーンピア津南。

④講座・クラブ

〈講座〉

名 称	対象・定員	受講数	曜 日・日 時	備 考
幼児・母親水泳A 〃 B	(組) 幼児・母親 (30) 〃	(組) ① 37 ② 32 ③ 24 ① 30 ② 32 ③ 24	水曜日 10:00～11:00 土曜日 〃	1・2歳児と母親の楽しい水泳教室。お母さんと一緒に安心して、水慣れなどをプールで活動している。 受講料＝1期・2期27,000円、3期19,000円。
幼児水泳 〃 B 〃 C	(人) 3・4歳児 (50) 〃	(人) ① 11 ② 12 ③ 13 ① 27 ② 28 ③ 25 ① 12 ② 8 ③ 11	火曜日 13:30～14:30 水曜日 〃 木曜日 14:00～15:00	単に泳法の修得だけでなく、陸上と同じように水中でも楽しく活動できるように指導。プールでの活動をとおして、水に慣れることやバランスよく水に浮く感覚など、水泳に必要な運動の基礎を身につける。クラスの人数も少ないので、ゆったりとした雰囲気で行われている。 6段階にレベル分けをして、次のステップへの目標としている。 受講料＝1期・2期21,000円、3期15,000円。
幼児水泳 〃 E 〃 F	4・5歳児 (60) 〃	① 49 ② 51 ③ 62 ① 29 ② 44 ③ 40 ① 28 ② 38 ③ 48	火曜日 14:30～15:30 木曜日 15:00～16:00 金曜日 14:30～15:30	水慣れから泳ぎへと個人差に応じた班分けを行っている。クロールなどの練習のみならず、幼児期に必要な水中感覚を得られるように指導を行っている。6段階にレベル分けをして、次のステップへの目標としている。 受講料＝1期・2期21,000円、3期15,000円。
幼児体育 〃 B 〃 C	3・4歳児 (40) 〃	① 24 ② 25 ③ 20 ① 13 ② 15 ③ 20 ① 38 ② 36 ③ 34	火曜日 14:30～15:30 水曜日 〃 木曜日 15:00～16:00	たくさんの友だちと一緒に思い切り身体を動かし、運動遊び、リズム遊びなど楽しく動きながら健康な体や運動の基礎を作る。 幼児体育A・Bを土台にして、それを発展させながらさまざまな運動を体験し身体の使い方を学んでいく。 受講料＝1期・2期19,000円、3期14,000円。

名 称	対象・定員	受講数	曜 日・日 時	備 考
小学生水泳	(人) 小学生 (60)	(人) ① 44 ② 46 ③ 43 ノ バル ① 48 ② 46 ③ 42 ノ カ ① 69 ② 62 ③ 50 ノ フ ① 48 ② 52 ③ 50 ノ エ ① 37 ② 31 ③ 35 ノ フ 小2以上 (40) ① 31 ② 31 ③ 25 ノ カ ① 27 ② 30 ③ 27	水曜日 14:30~15:30 火曜日 15:30~16:30 水曜日 ノ 金曜日 ノ 木曜日 16:00~17:00 火曜日 16:30~17:30 木曜日 17:00~18:00	生涯楽しめるスポーツ「水泳」を基礎から学び、4泳法をマスター。シニアスイミングへのステップアップを目標。各学期の後半に進級テストを実施(10級~1級)。次の目標としている。 受講料=1期・2期21,000円、3期15,000円。
シニアスイミング	小・中学生 (30)	① 6 ② 6 ③ 7 ノ バル ① 13 ② 13 ③ 13 シニアスイミング フレッシュ 小3～中学生 (30) ① 34 ② 33 ③ 30	火曜日 16:30~18:00 水曜日 ノ 金曜日 ノ	小学生水泳からの移行の場であり「シニアスイミングB」へのステップとしての役割もあるため、基礎体力の向上と4泳法の完成を中心に行った。 個別のメニューを組んでより速く泳ぐことにチャレンジする上級者向けのコース。水球で球技も経験する。指導者の推薦が必要。 小学3年生以上で泳ぎが不得意な人のクラス。クロールで25m以上泳ぐことを第一目標に練習を進める。90分の練習とあいまって上達の度合いが大きかった。 受講料=1期・2期21,000円、3期15,000円。
小学生体育	小学生 (30)	① 28 ② 28 ③ 26 ノ バル ① 30 ② 28 ③ 22	火曜日 15:30~16:30 木曜日 16:00~17:00	器械体操、球技を中心に多種多様な運動経験をし、苦手な種目を克服する。 受講料=1期・2期17,000円、3期12,000円。 *バランス良い発達ができるよう「小学生体育」と「小学生水泳」から各1コース、計2コースを選択して受講ができる。受講料=1期・2期25,000円、3期18,000円。
ジュニア新体操	小1～3 の女子 (35)	① 24 ② 26 ③ 24	水・金曜日 15:30~17:00	跳ねたり、跳んだり、回ったり、リボンやボールを使って楽しく身体を動かす。基礎的な運動も含めた新体操の初歩を指導。 受講料=1期・2期26,000円、3期20,000円。
シニア新体操	小3～中学生の女子 (35)	① 25 ② 22 ③ 19	水・金曜日 16:30~18:00	ジュニアから一步進んで新体操独特の美しい表現ができるような練習。創作活動や発表会も開催。 受講料=1期・2期26,000円、3期20,000円。
手足の 不自由な子の水泳	小・中学生 (15)	① 10 ② 9 ③ 8	土曜日 17:00~18:00	身体に障害があり、水泳の機会に恵まれない小・中学生を対象にし、スタッフ・ボランティアの個人指導を中心に楽しく活動。 受講料=1期・2期16,000円、3期11,000円。
レディース スイミング	女性 (60)	① 28 ② 23 ③ 21 ノ バル ① 30 ② 29 ③ 26 ノ カ ① 28 ② 29 ③ 25	火曜日 10:00~11:00 木曜日 ノ 土曜日 11:00~12:00	生活習慣の中に定期的な運動を取り入れることが健康作りの第一歩。各クラスとも4班編成で、各自のレベルに合った班を選択し、クロールの練習から4泳法の修得を目指してしている。 受講料=1期・2期21,000円、3期15,000円。
レディース リズム &ストレッチ	女性 (30)	① 25 ② 22 ③ 22	水曜日 10:00~11:00	ゆったりと気持ちのよいストレッチと軽快なリズム運動、楽しく動きながら明日への活力を生みだす。 受講料=1期・2期21,000円、3期15,000円。

名 称	対象・定員	受講数	曜 日・日 時	備 考
健康スポーツ教室 (太りすぎクラス)	(組) 太りすぎの 小学生とそ の親 (25)	(組) ① 22 ② 22 ③ 23	土曜日 16:00~17:00	小児保健部との協力事業。医師によるチェック、栄養士によるチェック、体育指導者による体力チェック、この3者が協力してトータルな活動を行う。 受講料=1期・2期22,000円、3期19,000円。
マタニティ・ スイミング	(人) 妊娠16週以 降の妊婦 (35)	(人) 延べ 290	火曜日 11:00~12:00 木曜日 〃	小児保健部との協力事業。水泳プログラムをとおして、妊娠中を楽しく過ごすための クラス。医師が活動前後にチェックを行い、活動中も不測の事態に備えて常駐する。 お産や子育てにかんするレクチャーや栄養・心理の相談も受けられる。 受講料12,000円(月7回)。

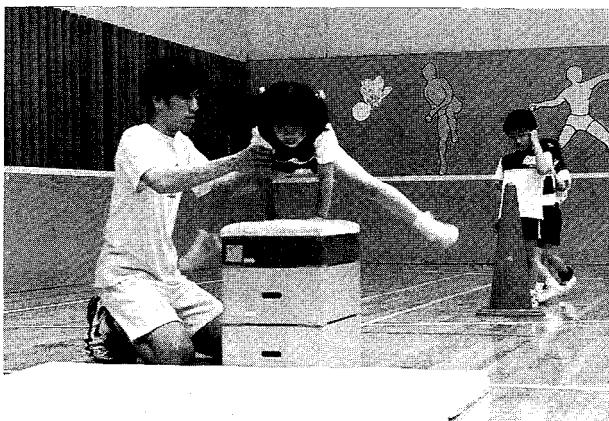
講座回数=1期13回 2期13回 3期10回 (新体操は1期26回 2期26回 3期20回)

〈クラブ〉

名 称	対象・定員	受講数	曜 日・日 時	備 考
ダイナミック・ヘルス・クラブ (D.H.C)	成人 メンバー ビジター 法 人 そ の 他 招 待	(人) 年間延 11,424 370 297 186 13 計 12,290	火~土曜日 12:00~13:30 18:00~21:00 日曜日・祝日 18:00~20:00	18歳以上の大人的ためのクラブ。プール、体育室、ジムほかを利用し体力作り、健康管理のために最適な環境で楽しく活動。 個人会員は、入会金10,000円、年会費70,000円、4か月26,000円、月会費7,000円、利用料(利用の都度)300円。バス券(月3,000円、4か月11,000円)ビジター2,000円。東横線、田園都市線に中づり広告をだし、6月に入会金50% OFFの特別会員募集を実施。

〈講習会〉

名 称	対象・定員	受講数	曜 日・日 時	備 考
幼児・母親体育	(組) 2・3歳児 と母親 (30)	(組) ① 31 ② 29 ③ 26	水曜日 11:00~12:00	親子が体育室でリズムに合わせて跳ね、跳び、走るうちに運動神経を養い、楽しさを身につける。 受講料19,000円(10回)。
母と子の すくすくランド	お座りので きる子と母 親 (20)	① 20 ② 14 ③ 12	金曜日 10:00~11:00	はいはいから歩行へと成長していく時期の赤ちゃんを対象に、楽しい体操や親子での遊び、お母さんのシェイプアップも。 受講料29,000円(10回)。
母と子の パチャパチャ スイム	1・2歳児 と母親 (30)	① 25 ② 33 ③ 17	〃	楽しくプールの活動をして、水慣れとともに母子のコミュニケーションを深める。 受講料25,000円(10回)。
成人水泳 集中講習会	(人) 18歳以上の 男女 (月20)	(人) 延べ 228	火・金曜日 18:00~19:00 (各月7回)	18歳以上の初心者やレベルアップを考えている人の集中水泳講習。月ごとに募集を行 い、各月の講習種目に合わせて指導を行う。 受講料10,000円(月7回)。



「幼児体育」



「幼児水泳」

（短期講習会）

名 称	対象・定員	受講数	曜 日・日 時	備 考
春休みこども集中水泳講習会A 〃 B	(人) 小学生(50) 幼児(40)	(人) 50 40	4.1~5 9:30~10:30 〃 10:30~11:30	5日間の集中練習で泳力アップといろいろな泳法体験。 受講料7,000円。
夏休みこども集中水泳講習会A 〃 B	小学生(50) 幼児(40)	50 40	7.23~27 9:30~10:30 〃 10:30~11:30	5日間の集中練習で泳力アップといろいろな泳法体験。 受講料7,000円。
	〃 C	50	8.20~24 9:30~10:30	
〃 D	幼児(40)	41	〃 10:30~11:30	
ハッスル '97	水泳講座生 7級～(40) レディース(15)	10 9	7.30~8.1 9:30~11:00	クロールが泳げる講座生以上の泳力アップ特別プログラム。レディーススイム受講生にも募集を行い、個々のレベルアップをめざした。 受講料7,000円。
ガンバ！'97	小学生(30)	30	8.20~24 9:30~10:30	器械体操や球技などの基本動作を習得する、体操の苦手な子の体操教室。 受講料7,000円。

⑤その他（動く子どもの城など）

名 称	期 周	備 考
（動く子どもの城） 身近な道具でスポーツあそび	6.8・9	フライングディスク、道具を使わないレクリエーションゲーム、身近な道具を使ったスポーツ遊び、的あてドッジボールなど楽しいスポーツ遊びを指導。8日は愛媛県新居浜市（小学生60人参加）、9日は愛媛県波方町（児童厚生員40人参加）で開催。
（〃） お母さんと赤ちゃんのすくすく体操～幼児期の運動と栄養	10.2	0～4歳児とその母親（50組）を対象に、乳幼児期の運動についての講義と実技、栄養と食生活についての講義。また、母子保健関係者（15人）を対象に、（子どもの城）の小児保健プログラムの紹介とレクリエーションゲームの指導も実施。大分県院内町。小児保健部と共同で実施。
（〃） お母さんと赤ちゃんのすくすく体操～幼児期の運動と栄養	10.15	石川県金沢市中央児童館。小児保健部と共同で実施。
（〃） 身近な道具でスポーツあそび	11.9・10	9日は、子どもの国（岐阜県養老町）利用者を対象に、フライングディスクなどのスポーツ遊びを指導。10日は、児童厚生員・保育所職員を対象に身近な道具を利用したスポーツ遊びなどの講義と実技指導を行った。
（〃） お母さんと赤ちゃんのすくすく体操～幼児期の運動と栄養	11.28	東京都保谷市。小児保健部と共同で実施。

プレイ事業部



平成9年度の活動

プレイ事業部は、担当するエリアもプレイホール、屋上、コンピュータプレイルーム、パソコンルームと広く、またその中で展開される遊びのジャンルも、対象とする年齢も幅広い。しかし活動の目的や考え方は、以下に述べる3つの機能に集約される。

第1に、「遊びの空間整備」である。プレイホールや屋上といったスペースを安全で、有意義な遊びが展開できるように、設備や遊具を整え、そしてそのスペースの運営のルール、また遊びのソフトを盛り込み、遊びの舞台を作ることである。

第2に、「児童文化、子どもの遊び文化をテーマにしたプログラムの提供と実践」である。遊び文化にも昔から大切に伝えられてきたものも多くあり、また新しく生まれくる遊び文化もある。コンピュータを利用した遊びなどは、新しく生まれた遊びの代表的なものであろう。

そして第3の機能は「子どもたちの交流を促進するプログラム活動の展開」である。子どもたちが遊びをとおして仲間を作り、仲間との遊びの中で多くのことを学び、身につけていくということは非常に大切である。「人は、豊かな人間関係の中で成長・発達する」という考え方には、プレイ事業部の活動指針の中心をなすものであり、子どもたちの遊び活動と人間関係に常に焦点をあわせている。

プレイ事業部の3つの機能はそれぞれ独立したものではない。どれも相互に深いかかわり合いをもつて機能しているのである。

プレイ事業部の活動のすべてを理想的な状態にするには、今後より多くの努力が必要であろうし、そのためには特定

の分野に重点を置いて整理していくことも重要であろう。〈あそび〉という活動を、子どもたちの成長・発達のための活動としてどう整理し、どう一般化するかが、プレイ事業部の大きな課題である。

①一般来館児・者活動

(ア) 遊びの空間整備

プレイホールは、[こどもの城]に来館した子どもたちの多くを最初に受け入れる場所として、非常に大切なスペースである。このプレイホールを中心とした遊びのスペースが、より豊かな「遊びの空間」になるように、ハードとソフトの両面から整備を進めた。

プレイホールには、まごとやお店やさんなどの“ごっこ遊び”、ブロックおもちゃや絵本などの静的な遊びを楽しめる「幼児コーナー」がある。また跳ぶ、くぐる、渡る、集う、隠れるなどさまざまな遊びの要素を盛り込んだ木製の大型遊具「わくわくらんど」があり、子どもたち同士、また親子で自由に遊びを楽しめるようになっている。

高学年コーナーでは小学校4年生以上の子どもたちを主な対象として、仲間同士でも、たとえ1人でやってきてもこのコーナーの遊びをとおして知り合い、また人間関係を深められるように、指導員やスタッフがグループワークの考え方を土台にした援助をしながら運営をすすめている。このコーナーにあるバンバーゲームには、小学生から高校生までの常連組も多く、春と秋にバンバー大会を実施し、お互いの友好を深めた。

プレイホールにある「集いの広場」を中心としたスペースでは、日替わりの「定例プログラム」を実施。折り紙や紙芝居、人形劇といった文化財をテーマにプログラムを提供し、静と動、発散と収束といった活動の種類を増やし、プレイホールでの遊びの充実を図った。また年間を通じて、七夕や節分会といった季節の行事、父の日や敬老の日といった記念日にちなんだ活動を遊びのプログラムにアレンジして実施し、季節の流れと子どもの遊びを結び付けながら、遊びの空間作りを考えた。

親子や家族のための活動も遊びの空間には大切にすべき要素ととらえ、家族のための遊びのワークショップ「ファミリープレイタイム」を実施し、本年度で4年目となった。内容的にも広がりと深まりが見られたが、参加できる人数に限度があり、同じような方向性を持ったもので、より多くの人が参加できるプログラムを運営すべきではないか、という課題を持ち、本年度をもって終了した。

屋内施設が中心の〔子どもの城〕にとって、屋上は大切な活動スペースである。昭和63年度に設置され、長年にわたり非常に人気の高かった「プレイポート」も老朽化し、3月で閉鎖、次年度に向け改修計画をスタートさせた。

(イ) 優童文化、子どもの遊び文化をテーマにした活動

紙芝居や折り紙といった文化財をテーマにした活動も多く実施している。

特に人形劇をテーマにした活動は、単に鑑賞するだけでなく、子どもたちの能動的な遊びを大きく広げることにもつながり、年間をとおして多くのプログラムを実施した。

人形の多くは、小さくてかわいく、また、子どもたちにとって非常に安心して接することのできる存在である。さまざまな性格や雰囲気を持った人形が登場するが、子どもたちは人形劇を鑑賞することで、その人形と自分をだぶらせながら、人としての、また行動のモデルとしての人形の存在とおはなしの世界を楽しみ、夢や希望をふくらませてゆくことができるのである。

子どもたちは、人形を使っておはなしをしたり、動かしたりして遊ぶことによって、「自分はこうしたい、こうありたい」という、希望やあこがれを実現したいという欲望を満たしたり、「こう話したり、こんな具合にやったり」というように、自分の近い将来の行動をシミュレーションすることもできる。このような“ごっこ遊び”としての人形劇は、見るだけでなく、自分で動かして、遊び、演じることで初めて実現できるのである。

また、一体の人形を自分の手で作りあげることによって、

【ファミリープレイタイム実施プログラム】

実施日	プログラム	対象	参加人数
4月12日	飛べ飛べシャボン玉！	年長児以上	11組22人
5月24日	「スネークパン」を作ろう！	〃	13組27人
6月22日	遊べる折り紙せいぞろい！	年中児以上	8組18人
7月13日	大空と遊ぼう！ 飛ぶおもちゃ（紙とんぼなど）	年長児以上	13組26人
9月27・28日	ワンナイトキャンプ（館内）	年少児以上	12組34人
10月19日	パクパク人形で遊ぼう！（表現遊び）	年中児以上	10組20人
11月9日	“もしもし”スーパー糸でんわ	年長児以上	9組18人
12月14日	クリスマス・リースをつくろう	〃	9組18人
1月18日	親子で作ろう！ 親子ダコ（エイだこ）	〃	11組22人
2月14日	たき火を囲もう	年中児以上	13組20人
3月22日	おはなしカードを作ろう！	年長児以上	9組19人

クラフト的な楽しみとともに、人形劇を見たり、自分の手で動かし表現したりするためのよい動機付けとなる。

このような考え方から、プレイ事業部では「人形劇を見る」「人形を作る」「作った人形で遊ぶ」という3つの視点からプログラムを構成した。

本年度、人形劇を取り上げたプログラムは、女性ボランティアや青年ボランティアが行う平日の「おはなし人形広場I」、音楽事業部の協力をえて音楽ロビーで実施する土曜日の「おはなし人形広場II」、特別期間の「人形劇フェア」である。いつでもだれでも人形劇に触れることができるよう、多くの機会を設けた。

「おはなし人形広場」は演技と客席との距離ができるだけ小さくし、アットホームな雰囲気で楽しめるようにし、「人形劇フェア」はしっかりと構成された人形劇をじっくり見てもらうといった特徴付けを行った。

(ウ) 子どもたちの交流を促進するプログラム

子どもたちの人間関係が希薄になったといわれて久しい。都市化、少子化、核家族化、受験戦争、過剰なまでの物の氾濫など、さまざまな要因が考えられている。プレイ事業部では、遊びをとおした子ども同士の交流促進を念頭に、常にさまざまなプログラムを提供してきている。大勢の来館児・者が訪れるゴールデンウイークと夏休み特別期間に行なった「モンスタークリンプリ」と「ワンダースプラッシュ」は、特に一過性の子どもたち（たまたま〔子どもの城〕に遊びにきた子どもたち）に焦点をあて、遊びをとおして交流が図れるように配慮した。

「モンスタークリンプリ」は、人気のTVアニメや携帯電子ゲームにヒントを得た、“ごっこ遊び”仕立てのゲームである。子どもたち自身が主人公となり、ペットのモンスター

一の強さを競い合うというプログラム。グランプリ大会を舞台に、アルバイトや修行と称したさまざまなゲームに挑戦する設定である。これらのゲームにチャレンジすると、点数に応じて〔子どもの城〕オリジナルのモンスターカード（全32種類の中から1枚）がもらえる。さらに1日数回行われるグランプリ大会では、カードに印刷されたジャンケンマークを使い、一定時間内にだれかがいちばん多くのカードを集めることができるかという、昔のめんこ遊びのような場面を設けた。

カードをコレクションする楽しみを含んだこのプログラムは、一日中（あるいは毎日のように）屋上で遊ぶ子どもがいるなど、子どもたちの遊びに対する能動性・自主性を喚起した。また、コレクションを完成させるために、見知らぬ子どもとカードを交換したり、あるいは力を合わせてゲームにチャレンジするといった様子も多く見られた。

「君、全部集めたの？　すごいね」というように、見知らぬ子どもに対しても自然に語りかける姿もみられるなど、スタッフが意図していた交流の場面が多く見られた。

夏休み特別期間の「ワンダースプラッシュ」もまた、水をテーマにしたさまざまなゲームによる交流プログラムである。子どもたちとその父母も巻き込んで、文字どおり水びたしになって遊ぼうというコンセプト。ポンプを使った水力ボート競争や水鉄砲を使ったコリントゲームなど、親子あるいは兄弟・仲間で力を合わせるゲームが5種類設定された。特に屋上ネット広場では、2チームに分かれて水鉄砲を使った陣取り合戦を行ったが、シャツやズボンをビ

【キッズクラブ・活動プログラム内容】

月 日	内 容
4月19日	いろいろなゲームを楽しみながらメンバー紹介「はじめましてゲーム大会」
5月17日	矢印を追いながらチェックポイントでいろいろな遊びを体験「遊びラリー」
6月 8日	真っ白の生地におもいおもいの絵を描いて作りあげた「キッズオリジナルエプロン」
6月14日	水上バスに乗って、お台場周辺をハイキング「東京港探検」
6月21日	フルーツをテーマに、おやつ作り「フルーツフェスティバル」
7月 5日	水鉄砲を使った陣取り遊び「ウォータープロジェクト」
8月23日	「ユースクラブ」と合同で縁日を開いた「ユース・キッズの夏祭り」(特別プログラム)
9月20日	地図をしながら（子どもの城）周辺を探検「キッズウォークラリースペシャル」
10月 4日	スポーツの秋にちなみ、ちょっと変わったスポーツ遊び「スポーツフェスティバル」
10月18日	段ボールで作ったオープンでピザ作り「チャレンジ！アウトドアクッキング」
11月15日	まるおに、けんけんすもう、けんなどで遊んだ「路地裏遊びいろいろ」
11月29日	プレイホールに高さが約2mのクリスマスツリーを作りあげた「クリスマス大作戦」
12月13日	代々木公園にでかけ、トランシーバーを使った「ザ・おにごっこ」
1月17日	1人1体の紙相撲力士を作り、東西に分かれて対戦「元祖・紙すもう」
1月24日	東急世田谷線沿線を歩いたり、電車に乗ったりしながら「ウォークラリー」
2月 7日	ラーメンを粉から作った「僕も・私も手打ちラーメン職人」
2月21日	キッズクラブ得意のプログラム「王様じんとり」と次回プログラムの企画会議
3月 7・8日	プレイホールでの「宿泊プログラム」夜は暗闇の中で陣取りを行った

ショビショに濡らしながらも、子どもと遊びを共有する父母の姿が多く見られたことが、強く印象に残った。

②講座・クラブ

(ア) キッズクラブとユースクラブ

「キッズクラブ」と「ユースクラブ」は、〈遊び〉を媒介に、グループワークの考え方を土台にした「仲間作り」と「さまざまな直接体験」を目的にした活動である。異なる年齢の子どもたちの中で、仲間作りが深められるように小・中学生を低・高の2つに分け、小学校1～4年生を「キッズクラブ」、小学校5年生～中学校3年生を「ユースクラブ」としている。

年度初めにメンバーを募集し、活動は1年間の継続を基本とした。年間のプログラム内容については、最初から決めてしまわず、メンバーとの話し合いを通じ、企画・実施することを重視した。ただし、1年間のプログラムの大きな流れとして「活動やメンバーに慣れ、理解する」「遊びを考える」「計画してやってみる」などのねらいを持ち、段階を踏んで活動を展開した。高学年の「ユースクラブ」は、案を考えるだけでなく、企画・準備などを自らが行う部分ができるだけ多くし、「仲間作り」と「直接体験」という2つの目的に「自分たちの夢の実現」というねらいを加えて活動した。

本年度の「ユースクラブ」では、最上級生である中学3年生の割合が多く、全体の中心となって活動を展開。2期

【ユースクラブ・活動プログラム内容】

月 日	内 容
4月13日	仲良くなることをテーマに「ふれんどしちゃゲーム大会」(保護者説明会も開催)
4月27日	代々木公園に行って「みどりの中で思いっきりアドベンチャー」野外ゲームを楽しむ
5月18日	「こどもの国」(横浜市)で、カレー作り「野外炊事に挑戦!おいしいカレーNo.1大作戦」
6月8日	おそらくTシャツを染め上げる「そめものDEア・ソ・ボ!」
6月22日	みんなで協力して作ったTシャツを配布。ジャンボコリントゲームを作って遊ぶ
7月16日	渋谷の街にでかけ、みんなが主人公の推理ゲームを行う「スーパーシティハンティング日」
8月23日	「キッズクラブ」と合同で縁日を開く「ユース・キッズの夏祭り」(特別活動)
9月7日	どんな活動をするか、みんなで相談「それゆけ2学期!作戦会議&ゲーム大会」
9月28日	作戦会議終了後、代々木公園で手つなぎおに、どろけいなどで遊ぶ「作戦会議その2&代々木アソボ!」
10月26日	障害物2人3脚、風船はこびなど、すべてが“リレー”的ゲームを楽しむ「なんでもリレー大会in旧渋谷小校庭」
11月9日	ソーラーカーを作ってレースを行う「エコロジーグランプリ1997」
11月30日	「真冬のユースキャンプ大作戦準備会」で、パーティーのプログラムを検討
12月13・14日	「ユースクラブ」活動史上初めての“外泊”。1泊2日の「クリスマスフレンドリーキャンプ」を「こどもの国」(横浜市)で実施
1月11日	こだわりの手作りふくわらいなどを楽しむ「昔遊びでおめでとう」
1月25日	ビデオしりとり、ジェスチャー送りなど、ビデオカメラを使って遊ぶ「ビデオでQ」
2月8日	ウォークラリーのあとにワッフル作り「ウォークラリー&ワッ!! ふる大作戦」
2月22日	班ごとに、ビデオで映像作品作り「映像作品製作発表&映像作り」
3月14・15日	みんなで考えたシナリオ(絵コンテ)をもとに1泊2日の日程で撮影・編集。統一テーマは「時間」。「映像作り大作戦」

以降、作戦会議と称するプログラム計画の話し合いで考えた案を基に、「ソーラーカー作成」や「なんでもリレー」などさまざまなジャンルの活動を行った。その中でも「キャンプに行こう」(12月)は、真冬にキャンプに行くという今までになかった発想であり、横浜市にある「こどもの国」を利用して1泊2日のキャンプを実施した。

3期には「映像作品をつくろう」というテーマで、AV事業部に協力を依頼し、指導、助言を得ながらビデオ作品を完成させた。新しい取り組みであったが、メンバーも企画段階から大きくかかわり、作業をすすめる過程で交流も深まり、自分たちの考えた夢が一歩ずつ現実になっていく喜びを感じることのできた活動となった。

「キッズクラブ」は、メンバーが大幅に代わったため、前半は新しい仲間や活動自体に慣れるプログラムを多く採り入れた。グループ単位でいろいろな遊びをラリー形式で体験する「あそび探検隊」や、次回行う料理プログラムに使うために、無地のエプロンにイラストを書いて「オリジナルエプロン」を作るといったプログラムなど、スポーツ、工作、料理など幅広い〈あそび〉を体験した。

後半は子どもたちが遊びを自分たちで作るという部分を重視し、「プレイホールを大きなクリスマスツリーでかざろう」や「なぞなぞ暗号ラリー」など、子どもたちから出された遊びのアイデアを発展させたプログラムを行った。1年間の活動を通じ、子どもたちが徐々にプログラムに対して積極的になっていくという変化が見られた。

③野外活動

日常の生活を離れ、自然の中に入り、仲間と一緒に生活することをとおして、子どもたちが体験的に成長することを目的に行った活動である。プレイ部門で実施しているキャンプでは「自然に対して理解を深める」「仲間作りの推進」「さまざまな直接的な体験」を目標に設定し、実施した。

一般募集で集まる子どもたちでも、顔見知りの子どもは違う班にするなど、新しい人間関係を広げることに配慮し、キャンプの活動を通じて社会性をのばすことを期待した。また、グループワークの観点から小グループ(班単位)の活動を重視し、その中で人間関係が深められるようプログラムにも配慮した。

対象年齢(学年)を小学校低学年と高学年に分けているのは、集団での経験が少ない今の子どもたちの現状に合わせ、プログラム活動をだれもが同じような条件で楽しめるここと、またグループの中で互いを認め合いやすく、人間関係が作りやすいように配慮したためである。

小学校高学年を対象にしたキャンプは本年度で2回目となるが、プログラムの内容など、ほかのキャンプにうまくステップアップできるように配慮した。

④パソコン活動

(ア) コンピュータプレイルーム

コンピュータプレイルームには20台のパソコンがあり、

グラフィックス作り、パズルや童話など12種類のソフトから、利用者が自由に選んで遊べるようになっている。市販のソフトが中心であるが、親子で、そして友だち同士など、複数の人数で同時に楽しめるものを多く用意した。

コンピュータプレイルームはプレイホールに隣接しているので、プレイホールでの動的な遊びと、静的なパソコン遊びを交互に繰り返している姿も多く見受けられた。

使用しているコンピュータ機器も老朽化し、機器の更新も考えていかなければならない。さらに、一般にも普及している市販のコンピュータソフトの利用形態をどのように特色付けていくかが今後の大きな課題である。本年度の利用者は63,288人であった。

(イ) パソコンルームの活動

パソコンルームの活動は、一般来館児・者活動、「パソコン教室」、「パソコンクラブ」の3つを主要な柱としている。

一般来館児・者活動では、パソコンの機能や構造を学習したり、使い方をマスターしようとする活動は行っていない。パソコンを〈道具〉として、また〈道具〉として使い、パソコンのさまざまな機能を生かした遊びの活動を楽しむことを目的にした。遊びの種類は、パソコンの機能（データベース機能など）を生かしてさまざまなジャンルにわたっている。

「パソコン教室」は、ロゴ言語による初步のプログラミングを共通の内容にし、初級コースである「パソコン教室Ⅰ」から「パソコン教室Ⅲ」まで、それぞれのテーマを設けて実施した。本年度は小学校4～6年生を対象に、3コース計5クラス開催した。

「パソコンクラブ」では、参加各メンバーの興味に沿った活動や、メンバー同士の交流をテーマに活動した。「パソコン教室」に参加し、引き続きクラブで活動を続けようとする初心者から、相当専門的な知識をもった高校生までが登録している。

パソコンルームのコンピュータ機器も旧式となり、より魅力的なプログラム活動を実現するためにも早い時期の機器更新が望まれる。

⑤ グループ活動

グループ活動は、さまざまな“ごっこ遊び”や“劇遊び”などのプログラムをとおして、豊かな心をはぐくむと同時に、子どもたち同士が仲間意識を感じられるようになることを主なねらいとしている。

本年度実施したプログラムは「忍者修行道場」12回、「森へいこう」8回、「キャッスルオリンピック」4回、「みんな

いっしょに」1回、「ハペットランド」2回、「ごっこでGo! Go!」1回、「パソコンクラフト」2回の計30回であった。

本年度は従来の「森へいこう」のプログラムを、森という設定は残したまま、違うストーリー仕立てにして実施した。このプログラムでは〔子どもの城〕に来館する前に、子どもたちの保育所や幼稚園に招待状を送っているが、このことがプログラム参加への動機付けに役立っている。

グループ活動を実施するにあたって、参加グループの指導者の思い、考えを十分に引き出し、子どもたちの様子、興味を知ることがとても重要である。それを十分に行った上で、今あるプログラムをさまざまな方向に展開できるような柔軟性と企画力をスタッフが身に付けていくことの必要性を感じる。

⑥ その他

(ア) 動く子どもの城

本年度の〈動く子どもの城〉は、11月29・30日に、大分県上津絵村で新規プログラム「みんなで遊ぼう！ハペットランド」を実施した。初日は現地の保母を対象にした講習会、2日目は2回に分けて、幼児から小学生を対象にプログラムを実施した。

このプログラムは身近な素材を使って人形を作り、さらにその人形で即興の“ごっこ遊び”を行うというものである。会場が広い体育館のような作りであったことから、小さな人形遊びをするのには広すぎるかと思われたが、講堂の階段や卓球台、窓枠、ピアノなどの設備をそのまま利用して、人形による、スケールの大きな大冒険物語に発展させることができた。

(イ) 児童厚生員等実技指導講習会

平成10年1月21日～23日の2泊3日の宿泊研修を、〔子どもの城〕研修室とプレイホールで行った。日常活動の中で実践した遊びを中心に、グループで遊ぶ楽しさや、人間交流を考えたプログラムの企画と運営方法についてを、参加者が子どもの立場になってプログラムを体験する形で研修を行った。参加者55人。

「みんなであそぼう！ハペットランド」「仲間づくりのグループゲーム」「ファンタジーを共有するごっこ遊び」「つくりて遊べるワークショップ」「イベントにみる仲間づくりのアイデア」などを実施。特に「作って遊べるワークショップ」では、いくつかのプログラムを選択できるように配慮したが、1人でいくつも参加する熱心な人も多く見受けられた。

平成9年度活動一覧表

①平常期間プログラム

名 称	期 間	備 考
おはなし紙芝居のつどい	毎週火曜日 15:00～15:30	女性ボランティアを中心に33回実施。毎回、低年齢から楽しめる内容のものを短編、長編おり交せて3本上演。紙芝居の前に行う手遊びから、親子で楽しむ姿が見られた。物語だけでなく、対話をしながら進行するという紙芝居の特長が生かされ、毎回ボランティアと子どもたちの明るい声が響き渡り、楽しいひとときを過ごした。
おはなし人形広場Ⅰ	毎週水曜日 15:00～15:30	女性ボランティアによる人形劇、影絵、青年ボランティアとのパネルシアターのプログラムを週替わりで実施した。「親子で楽しもう」という声かけによって、多くの親の参加があった。この広場をとおして、子どもたちが多くの人形たちとおしゃべりしただけではなく、父母とも、心をかよわせることができたようだ。
おりがみ遊び広場	毎週木曜日 14:00～15:00	女性ボランティアの協力で実施。題材は伝承のものや人気のあるキャラクター、遊べるものなど、毎回いろいろな要素を取り入れた。子どもたちは気に入ると、何個も作り、満足した様子で去っていく姿が見られた。子どもだけではなく、保護者も一緒に参加してもらえるように声をかけ、親子で楽しめる空間にした。
おはなし人形広場Ⅱ	毎週土曜日 14:00～14:30	音楽事業部との協力で、ゆったりと過ごせる音楽ロビーで実施。出演はプロの人形劇団やアマチュア人形劇サークルなどに依頼した。「人形劇が始まるよ」の声かけに親子で集まってくることが多く、人形劇の楽しさを親子で体験する姿が印象的だった。
ファミリーブレイタイム	第2・4土曜または日曜 11:00～12:30 (月1回、年11回実施)	親子と一緒に遊ぶことを目的にしたプログラム。実施内容は幅広く、レクリエーションゲームや工作、アウトドアプログラム、科学遊びなど毎回異なった内容で実施した。親子がさまざまなプログラムを共有体験し、楽しいふれあいの場とする役割も定着した。今後はこの活動を生かして日常的に実施できる活動の開発を進めていく。
〈母の日〉 おかあさんに手作りプレゼント～ふわふわカップ～ ありがとう～	5.10・11 11:00～16:00	紙コップ、傘用のビニール袋、ストローを使い、お母さんへのプレゼントを作った。ビニール袋にペンやシールでメッセージを書いたり、飾りをつけたものを紙コップに取り付け、紙コップに差し込んだストローから息を吹き込むと、メッセージの書かれたビニール袋が飛び出すという仕組み。子どもから大人まで多くの参加があった。
〈父の日〉 親子忍者道場	6.14・15 11:00～16:00	プレイホールを忍者道場に見立て、忍者修行と称して、さまざまなゲームやクラフトを親子で体験してもらうプログラム。蠟(ろう)のあぶり出しのメッセージカードや、折り紙手裏剣、館内謎解きラリーなど、親子でともに楽しさを分かちあえるように活動のバラエティーを豊かにした。各所で親子が協力して勝負を楽しむ姿が見られた。
〈七夕まつり〉 天までとどけねがいごと	7.3・4 7.5・6 13:00～16:00 11:00～16:00	プレイホールで、短冊に願いごとを書き竹に下げた。今年はブラックライトを使って、ホール中央に織り姫星や彦星など、夏の星座を散りばめた「星のへや」を作り、その外壁に七夕の由来を伝える紙芝居や竹に下げる七夕飾りの説明を掲示した。家族ごとの参加も多く、願いごとを書いて互いに見せ合う姿が印象的だった。
〈敬老の日〉 おじいちゃん・おばあちゃんに「げんき」あたより	9.13～15 11:00～16:00	私製はがきに顔スタンプで自分や家族の似顔絵を描き、おじいちゃん、おばあちゃんへのメッセージを書くお便り作りを行った。輪ゴムで作った目、口などのスタンプ部品を組み合わせて、おもしろいおもしろい顔作りをし、祖父母へのいたわりの気持ちや楽しく過ごした思い出などをメッセージに託した。親子で取り組む家族が目立った。
〈秋分の日〉 第20回 バンバー大会	9.23 小学生の部 午前 中・高生の部 午後	バンバーは、ピリヤードに似たニュースポーツゲーム。高学年コーナーに常設している。バンバーをとおして、仲間の輪を広げることが目的。小学生の部13人、中・高生の部10人が参加し、熱戦が繰り広げられた。会場の周りで一生懸命応援する保護者の姿もあり、大いに盛り上がりを見せた。
〈節分〉 節分会大まめまき大会	1.31 2.1 ①15:00～16:00 ①13:00～14:00 ②15:00～16:00	スタッフとボランティアが扮する鬼軍団に捕らわれた、福の神を助け出すという参加劇仕立て。最後には、子どもたちとともに豆まきをして無病息災を祈った。劇中、「節分の由来」を分かりやすく伝える場面も設けている。2日間で1,000人を超す参加者があった。
〈ひなまつり〉 みんなでひなまつり	2.28 3.1 11:00～16:00 11:00～16:00	昔遊びや宮中遊び(お手玉、坊主めくり、貝合わせ、投扇興)のワークショップ。初めて出会った子どもたちが輪を作り、ゲームを楽しんでいる姿が印象的だった。またボランティア扮するお内裏様、お雛様が登場し、雛祭りにちなんだクイズ大会も実施した。
〈春分の日〉 第21回 バンバー大会	3.21 小学生の部 午前 中・高生の部 午後	秋の大会同様、バンバーをとおした仲間作りが目的。参加者のほとんどが顔見知りとなった今大会、互いに良き仲間、良きライバルとして意識しているようで、友好的な雰囲気の中にも緊張感のただよう好大会となった。小学生の部11人、中・高生の部10人が参加。

〈パソコンルーム〉

名 称	期 間	備 考
パソコンクラフト① ペーパープレーン	5.30～6.18	設計ソフトを使って、飛行機の部品を選び、プリントしたものを実際に組み立てた。できあがったものは翼の角度や重心などを調節し、飛ばして遊んだ。「わりばし飛行機」「ハガキ飛行機」「スズメ飛行機」のデータを用意し、小さい子どもも親子で取り組んでいた。
魔法のグラフィックス	6.19～7.18	「魔法のグラフィックス」のプログラムとその作品を、コンピュータで子どもが描いた作品として、「万人のための美術展」(造形事業部共催)で紹介した。それに併せ、パソコンルームでも体験できるように実施した。
ロゴであそぼう	9.5～10.2	ロゴ言語を使い、グラフィックスを作るプログラミングの初歩に取り組んだ。
コンピュータで ミュージック	10.3～28	コンピュータ内蔵の音源をマウスを使った簡単な操作で演奏させるプログラム。いくつかのメロディーを組み合わせ、中国風、沖縄風などの曲を作ってしまう「かんたん作曲マシーン」、ワープロのようにドレミを入力するだけで、さまざまな楽器での合奏ができる「どれみふあコンピューター」を幅広い年齢層の子どもたちが楽しんでいた。
カードをつくろう	12.2～25	パソコンに登録してあるクリスマスにちなんだ絵柄を選んで、色を塗り、印刷したもの厚手の用紙に張ってクリスマスカードを作るプログラム。子どもたちだけの参加にならずに、親子で作る姿もあり、完成したオリジナルカードを互いに見せ合い楽しんでいた。
ロゴであそぼう	1.20～2.24	ロゴ言語を使い、グラフィックスを作るプログラミングの初歩に取り組んだ。
パソコンクラフト③ ひみつの宝ばこ	2.25～3.19	パソコンで宝ばこの展開図に色を塗り、印刷をして箱に組み立てた。「たからばこ」「こものいれ」「ちゃきんばこ」「ペンダント」の中から好きな箱を選び、思い思いに制作。

②特別期間プログラム

名 称	期 間	備 考
〈児童福祉週間〉 キャッスルファイト外伝 モンスター グランプリ NO.1	4.26・27・29, 5.3～5 11:00～16:00	TVの人気番組をモチーフにした大型ごっこ遊び。屋上ふしきが丘に設けられたゲームエリアで“アルバイト”ゲームを行うと、結果に応じてオリジナルのモンスターカードが手に入る。カードに描かれているジャンケンマークを使い、一定時間の間にによりたくさんのかードを手に入れた人がチャンピオンというグランプリ大会を行った。
〈 ル 〉 ゴールデンウイーク 人形劇フェア	5.3～5 (公演 ①13:00 ②15:00) 11:00～16:00	人形を作る、人形を使って遊ぶ、人形劇を見るという3つのプログラムで構成した。発泡スチロールや紙コップを使って口がパクパク動く人形を制作。作った人形を使って、「合唱団」に変身したり、お姫様に会いに行く「冒険ごっこ」などで遊んだ。企画・運営は、バベット・マーケット、大学の人形劇ネットワーク「じゃんぐるじむ」、(こどもの城)。 5月3日 バネルシアター「かきの木マン第1話」「カレーライス」「たべたのだあれ」ほか 4日 マックロ一人形劇場 5日 マックロ一人形劇場、バネルシアター「おはようクレヨン」ほか
〈夏休み〉 ワンダースプラッシュ	8.13～15 8.16・17 12:30～16:00 11:00～16:00	屋上ふしきが丘で、水をテーマにしたさまざまな〈あそび〉を展開。流れる水の中で行うコリントゲーム、空気の力で進むボートを競争させるゲーム、いくつかある蛇口の中から水が出る蛇口を当てるゲーム、水鉄砲を使ったチーム対抗の陣取りゲームなどを行った。全体をとおして、特に高学年の子どもたちが意気揚々と参加している姿が見られた。
〈開館記念〉 人形劇フェア	11.1～3 ①13:00 ②15:00	外部の人形劇団に公演を依頼して実施。親子一緒に見ている家族が多く、家庭的な味わいのある場となった。3日間の参加者数は約800人。 11月1日 エツコ・ワールド「歩く人形劇場 あかすきんちゃん」「ハロー！カンクロー」 2日 人形芝居くりちゃん「三枚のおふだ」 3日 人形劇団くぐつ「人形芝居 したきりすずめ」

名 称	期 間	備 考
〈冬休み〉 クリスマス 人形劇フェア	12.21・23 ①13:00 ②15:00	近郊の大学の児童文化研究会・人形劇サークルで構成されている「じゃんぐるじむ」が企画・運営。人形劇の上演をとおして、来館児・者に対して児童文化の伝承に努めた。また、児童文化を伝えていく側としての学生の育成にも努めた。 12月21日 日本女子大学 人形劇「さんびきのこぶた」 白百合女子大学 人形劇「ぼくのはなさいたけれど…」 大妻女子大学 パネルシアター「サンタクロースは5人兄弟」 東京家政大学＆青山学院大学人形劇研究会 人形劇「トランプの国のいたずらジョーカー」ほか 早稲田大学 人形劇「SNOW QUEEN」 23日 日本女子大学 パネルシアター「ちいさいおうち」ほか 創価大学 パネルシアター「クリスマスパネルシアター」 創価大学 人形劇「空とぶ大どろぼう」 立正大学 着ぐるみ劇「本当の聖夜の物語」 創価大学 大型絵本「フェリックスの手紙」 明治学院大学 人形劇「笠地蔵と大入道」
〈 リ 〉 昔遊び大集合 新春あそびすごろく (年忘れあそびすごろく)	1.3~7 (12.26~12.28)	前年度から実施しているプログラム。参加者自身がすごろくのコマとなり、館内テレビに映し出されたサイコロの目に従って全館をめぐるゲーム。今回はアトリウムギャラリーがスタートとゴール。館内の各ポイントでは、コマやけん玉などの昔遊びを体験したり、ゴール地点では階段をすごろくのマスに見立てて遊びながらゴールをめざした。
〈春休み〉 人形劇フェア	3.27~29 ①13:00 ②15:00	外部の人形劇団に公演を依頼して地下1階フリーホールで実施。人形の動きに子どもたちの表情も次々変わり、人形劇の世界へ入り込んでいた。子どもたちだけでなく、大人も思わず見入ってしまい、一緒に楽しむ姿が見られた。 3月27日 人形劇童心座 人形劇「むかしばなし さるじぞう」 28日 エツコワールドころころ劇場 人形劇「さんかく・はるなつあきふゆ」「いやだいやだのきかんぼひよこ」 29日 ひょうしげ 大型紙芝居「ないたあかおに」「ひもかとおもったら…」ほか

〈パソコンルーム〉

名 称	期 間	備 考
〈児童福祉週間〉 ことばであそぼう①	4.22~5.29	しりとり、暗号解読、アナグラム、4W遊びなど、言葉遊びをコンピュータ相手に実施した。しりとりでは、どんどん言葉を覚えていくコンピュータ相手に子どもはもちろん、親も必死に参加していた。また、親子で相談して、言葉遊びを楽しんでいる姿も多かった。
〈夏休み〉 パソコン・ネイチャー・ ウォッキング	7.19~8.3 8.5~8.31	「はっぱのぬりえ」は、はっぱの型にパソコンで好きな色を塗って印刷し、壁面の大きな木にはっぱを飾っていくプログラム。「木のプログラム」は、はだかの木にいろいろな形のはっぱをマウスでスタンプして自分の木をパソコンで描くプログラム。 「プランテーション」は、パソコンの画面に描かれたはげ山や平原に、木や花をスタンプして森(木)などある風景を作るプログラム。「はっぱのぬりえ」「木のプログラム」「プランテーション」という流れをとおして、1本の木から大きな森ができる自然の様子を思い思いに楽しんだ。また、「ネイチャーキズ」では野鳥と草花の図鑑 CD-ROMでデータベース検索を行い、名前探しに興じたり、鳴き声を聞いて楽しんだ。
〈開館記念〉 パソコンクラフト② ペーパープレーン	10.29~11.30	数種類ずつ用意したペーパープレーンの主翼、尾翼、垂直尾翼をパソコンの画面上で自由に組み合わせ、XYプロッターで型紙を出し、「わりばし飛行機」「ハガキ飛行機」「スズメ飛行機」を制作。
〈冬休み〉 パソコン紙すもう	12.26~1.18	パソコンにデータ登録してある頭、胴体、手足の部品を好きなように組み合わせ、紙相撲の力士を作る。最後に色を塗り、印刷をし、画用紙にはって仕上げる。部品には力士以外に、動物やロボット、怪獣などがある。どの部品を使うと強い力士ができるか、と話がはずむ光景もあった。用意した土俵で、家族や友だち同士で紙相撲大会、大いに盛り上がった。
〈春休み〉 ことばであそぼう②	3.20~4.21	言葉遊びをテーマにパソコンを利用したプログラム活動。しりとり、アナグラム、暗号解読、4W遊びを実施。

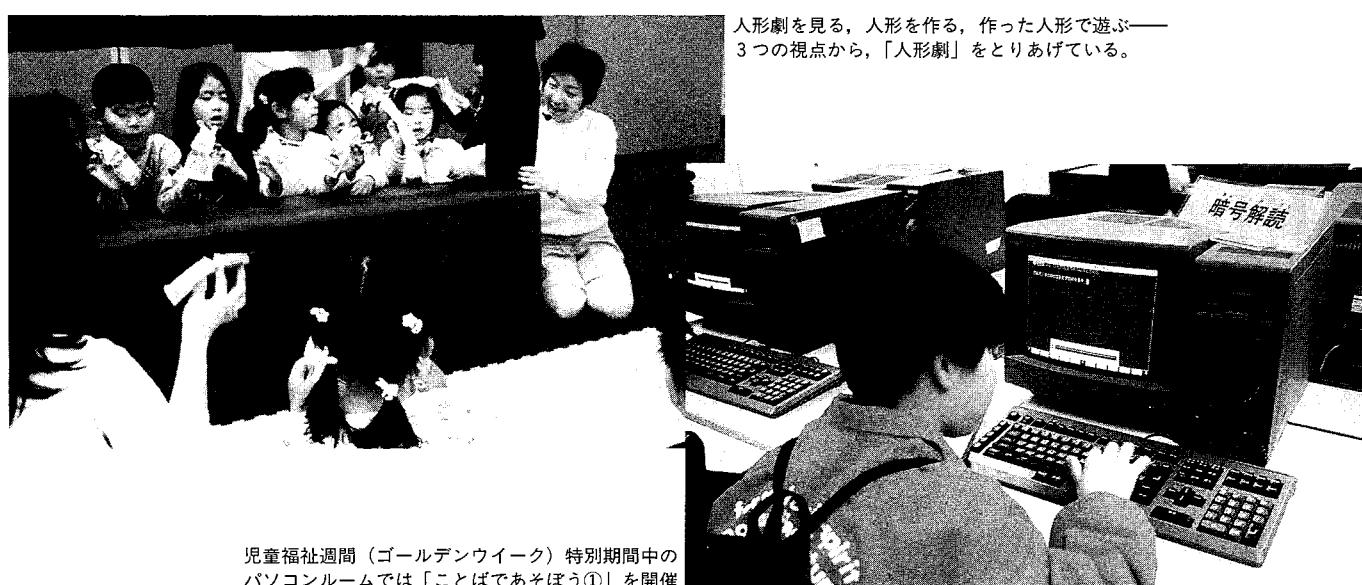
③講座・クラブ

〈講座〉

名 称	対象・定員	受講数	曜 日・日 時	備 考
小学生 パソコン教室 I	(人) 小4～6 (20)	(人) 20 20 13	I A コース 4.13～5.25 日曜日 10:30～12:30 I B コース 8.21～23, 25～27 連続 10:30～12:30 I C コース 1.11～2.22 日曜日 10:30～12:30	パソコンの入門コース。ロゴ言語を使用し、グループ活動によるコンピュータグラフィックスの共同制作をとおして、ロゴ言語のプログラミングとパソコンを媒体とした小集団活動を楽しむことがテーマ。5人のグループを作り、各々が絵の部品を作成し、最後にその部品を合体するプログラムを作り、グラフィックスを完成させる。 受講料=各7,000円(6回)
小学生 パソコン教室 II	小4～6 (20)	32	II A コース 9.21～10.26 日曜日 10:30～12:30	小学生パソコン教室 I の修了者のためのコース。ゲーム作りがテーマ。ロゴ言語を使用し、ゲーム作りのプログラミングをとおし、変数や再帰処理といった概念も学ぶ。 受講料=6,000円(5回)
小学生 パソコン教室 III	小4～6 (20)	13	3.26～28, 30, 31 連続 10:30～12:30	小学生パソコン教室 II の修了者のためのコース。ロゴ言語のリスト処理機能を使って、おみくじ、遊園地の名前作成プログラム、5W遊び、しりとりなど言葉遊びのプログラミングを楽しんだ。 受講料=6,000円(5回)

〈クラブ〉

名 称	対象・定員	受講数	曜 日・日 時	備 考
キッズクラブ	(人) 小1～4 (30)	(人) 30	隔週土曜日 15:00～17:00	①家庭や学校では体験できない活動を行う ②地域や学校とは違う新しい人間関係作りをめざす ③(ボランティアリーターなど)大人の援助を得ながら子どもたち自分がプログラムを考え作り上げことで、自発性や発言力を養う。以上3点を目的とした、小学校1～4年生までの〈あそび〉のクラブ。 受講料=1・2期9,000円(各6回), 3期8,000円(5回)。
ユースクラブ	小5～中3 (40)	34	隔週日曜日 13:30～15:30	①グループ活動をとおし人間関係作りをはぐくむ ②協力してプログラムを相談することで、創造的な発想と実行力を養う ③家庭や学校では体験できない幅広い活動を行う — を大きなねらいとした十代前半の子どものための〈あそび〉のクラブ。 受講料=1・2期9,000円(各6回), 3期8,000円(5回)。
パソコンクラブ	小4～高3 (40)	38	水・木曜日 14:00～17:30 土曜日 13:00～17:30 日曜日 10:00～17:30	パソコン教室の修了者、またパソコンに興味のある子どものための、交流を中心としたクラブ。交流のためのミーティング、パソコンやソフトの使い方の講習会を実施。 受講料=5,000円(年間)



④その他(野外活動など)

名 称	期 間	備 考
ちびっこ冒険団'97	7.24~27	小学校1~3年生のための3泊4日の舎営キャンプ。野外での体験の少ない低学年を対象としているため、ごっこ遊びの要素を盛り込み、豊かな自然や初対面の仲間たちと親しみやすい状況を作っている。今年は、「昨年、不思議な隕石が裏山に落下したらしい。みんなで探しにいこう」という呼びかけをし、隕石探しの冒険ハイキングや、隕石まつりと称した野外炊事を楽しむなど、さまざまなプログラムを体験した。参加者78人、ボランティア20人、スタッフ4人。福島県国立那須甲子少年自然の家。
ゆきんこ冒険団'97	12.25~28	小学校1~3年生のための3泊4日の舎営キャンプ。夏と同様、那須甲子少年自然の家を舞台に、毎年さまざまな雪遊びを行っているが、今年は暖冬のために雪がほとんど見られず、スキーや雪合戦などの雪遊びはできなかった。天候には恵まれていたため、山頂パノラマハイキングや秘密基地作りなど、夏ながらの野外プログラムを楽しむことができた。参加者77人、ボランティア24人、スタッフ4人。
フェローシップ キャンプ'97	8.2~6	実施2回目となる小学校4~6年生のための4泊5日のキャンプ。「自然」「仲間」を強調し、班ごと(小グループ)での自主的な活動を重視したプログラムを実施した。宿舎泊、給食を基本としながらも、自然の中に隠れ家を作り、オーバーナイトキャンプでテント泊をしたり、携帯コンロでの食事作り、野外炊事でのパーティー、沢登りをするなどダイナミックに自然の中でのプログラムを楽しんだ。参加者30人、ボランティアリーダー14人、スタッフ3人。福島県国立那須甲子少年自然の家。
「動く子どもの城」 みんなで遊ぼう! バペットランド	11.29・30	上津絵村(大分県)中央公民館で「みんなで遊ぼう! バペットランド」を実施した。身近にある素材を利用して人形を作り、即興のごっこ遊びを楽しむプログラム。グループ活動から生まれた新規プログラムである。29日は、地域の4つの保育所の保母10人を対象に講習会。30日は、12:30と15:00の2回、幼児や小学生を対象にプログラムを実施した。それぞれの参加者は50人、15人。低学年も高学年も、ともに遊びを共有しようとする姿勢や、遊びに対する積極性が非常に高いことが印象的であった。



「ちびっこ冒険団'97」



「ゆきんこ冒険団'97」



「フェローシップキャンプ'97」

造形事業部



平成9年度の活動

昭和60年('85)の開館以来、造形スタジオでは、子どもたちが造形体験を豊かにしながら、感性を健やかに伸ばしていく方法として、次の3つの「ワークショップ」を軸にして行っている。

①新しい視点で素材を探究して、子どもたちに素材への広い関心を抱かせる方法(素材との出会い展)。

②そのままでは素材になりにくい音や光などを制作の媒体としてとらえ、子どもたちの造形観を新しくする方法(造形発見展)。

③制作活動の基本となる「素材と道具と技法」の3つの関係を理解できるように視覚化した方法(オープンスタジオ)。

これらの3つのワークショップを順次くりかえしながら、運営をしている。

このワークショップの構成要素である「展示・体験・制作」という従来の基本コンセプトに加え、プログラムに応じて改めて環境設定を行い、その環境に子どもたちが積極的にかかわっていくようにプログラムを開催した。そして一昨年の「第10回造形スタジオ展」では、「Hands-on to Minds-on——手から心へ」を活動の指針として打ち出した。

「手から心へ」という考え方は、子どもの造形活動にとつていっそう重要であることを確認した。これは、直接ものにさわり、制作にかかわる子どもの「手」が感じる質感、表面性、硬軟、温感などを体験するさまざまな行為から、それを受け止める子どもの感性が育てる「心」へと、行為が心へ結び付いていくそのような階梯を「手から心へ」と

考えた結果であった。造形事業部の今後の重要な考え方の1つになってくるであろう。

このワークショップという考え方を基にして、造形スタジオは、子どもたちの制作意欲などを刺激し、豊かな感性やクリエイティブな発想がはぐくまれていくことをめざして、単に作ることだけでなく、さまざまな造形活動の中で子どもたちの全身的な成長をうながす環境作りを行ってきている。

本年度の活動として、「宇宙でラ・ラ・ラ」に代表される一般活動はもちろんのこと、特筆しておくべきものは、ギャラリーで実施した、「万人のための美術展」および「音のかけら展」の2つの事業である。

従来どおり、下記のように主要な活動を実施した(詳細は各項参照)。

①ワークショップ活動

本年度の一般来館児・者活動は、通常は硬くて子どもの造形には不適当と思われる金属を造形素材として選んだ。「やってみよう!つくってみよう! 金属とあそぼう」をステップに、夏休み特別期間の「素材との出会い展 金属と造形」を開催した。9月から10月にかけてギャラリーで行われた彫刻家金沢健一氏の体験と展示の作品展「音のかけら展」と並行して、引き続き金属をテーマとした「金属と音」を実施した。

「音のかけら展」会期中に、ギャラリーでコンサート、造形スタジオでイベントを実施した。また、金沢氏の指導で、「子どもの城友の会」の会員親子20組を対象に、厚さ9mmと

6mm、90cm四方の鉄の板の“溶断”を行い、でき上がったさまざまな形の鉄片＝「音のかけら」で、音楽家の渡辺亮氏と音のイベントを楽しむプログラムを実施した。

(ア) やってみよう！つくってみよう！金属と遊ぼう
素材との出会い展 金属と造形

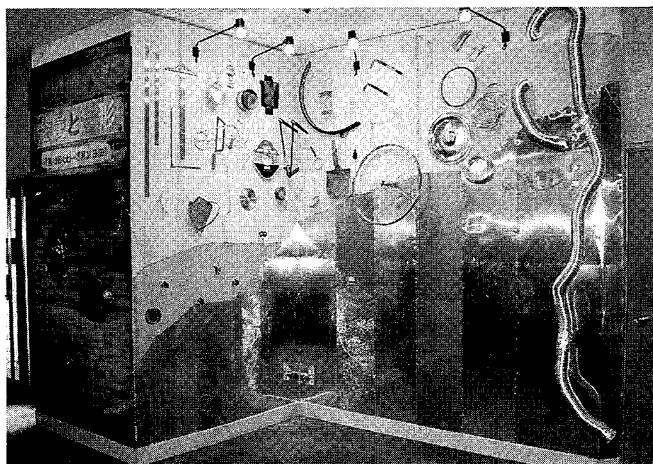
「素材との出会い展～金属と造形」は、第1回目として、子どもたちが金属と親しみ、素材の特性を体験できることを目的としたものである。「金属でつくる！ 金属であそぶ！ 金属でまなぶ！」をキーワードにして、実際に金属を「切る、たたく、磨く、やす（やすりをかける）、曲げる、つぶす、なます」を体験するワークショップであった。今回も展示・体験・制作の造形スタジオ独自のワークショップ形式を踏襲した。

金属が魅力的な素材であることは、川砂から砂鉄を探っていた古来から人間が感じていたものである。それが現代社会では加工したものにとって替わっていても、日常中の金属に目を向けるだけで、その魔力が蘇ってくるものである。

展示には、金属のいろいろな側面を見、触ることができるように工夫した。日常生活の中では、ジュースの缶、チョコレートやクッキーの缶箱、スプーンやフォークなどの台所用品、ハサミやのこぎりなどの道具——さまざまな形態と用途を持つ金属のものがある。いくつかの種類の金属が、部分や全体を形作っていることを発見することができる。

いろいろな種類の金属を壁面にほどこし、また床面には溶けた鉄、銅、鉛などを展示し、子どもたちが手で触れるようにした。ほかの素材との違いを言葉ではなく、触感で発見させるためである。展示物は、見る者の興味や関心によってさまざまな面を見せ、投げかけてくれる。説明的な展示ではなく、直感的に金属に接することができるような展示にした。

造形スタジオ入口の展示（「金属と造形」）



金属との出会いは年齢の違ひだけでなく、個人の意識や経験によって多種多様である。特に幼い子どもにとって、何かを金属で作る体験を持つことは容易ではない。そこで、年齢の如何をとわず金属とかかわることができる仕掛けを作った。造形スタジオ内の壁にマグネットボードを取り付け、ペンキで数色に塗り分けた缶のふたをくっつけたり、はずしたりできるようにした。つけたり外したりしてボード上に新しい形を生んではえていった。マグネットで遊ぶ幼い子どもたちにとって、ガチャガチャという金属の缶のふたが触れ合う音は、それを用いてマグネットボード上に形を作っていくのと同様に、素材の特性を耳と手に記憶させるという造形的かつ認識的な行為であると考えられる。乳幼児ばかりでなく、小学生も耳と手をとおした単純なおもしろさを楽しんでいた。

マグネットボードの横に「親子体験コーナー」を設置した。一見、建設中の小屋ふうのスペースで、造形スタジオの初めての試みとして、親子で2～3時間かけて1つのものを作っていくプログラムを実施した。

子どもはもちろん大人も、火や大きなかなづちを使うために通常の制作以上に注意が必要であり、親子は真剣さを伴う緊張感を楽しみ、手応えのある体験をした。3時間があつというまでのできごとであった。

実際にバーナーで銅を暖め（＝なます）、いもづちでたたいてみると、熱する前より軟らかく、形が作りやすいことを体験できる。「金属は硬い」というイメージが一般的にあるが、熱をとおすと軟らかくなる。金属との出会いはそのように、従来知っている金属の側面から、さらに今まで知らなかつた世界へと入っていく入り口である。金属がもともと持っている魅力と加工するときの体験の重厚さが、今回、素材との出会いのひとつの大きなポイントであった。ここでは、金属の持つ魅力と忍耐を必要とする作業のバランスが、日ごろの親子の関係を制作物に反映させるもので

マグネットボードで遊ぶ子ども（「金属と造形」）



あった。

新しい試みから生まれた親子の交流の風景を目の当たりにしながら，“体験”的意味を改めて考えるきっかけとなつた。父親の力の強さを改めて感じる女の子や、お母さんとたたいたり切ったりする場面を代わりばんこに分かち合うなど、それぞれの親子の関係の様子がうかがえた。

「親子体験コーナー」での活動をとおして、個別の親子の関係が具体的に指導者の側に伝わり、この試みはひとまず成功といえるだろう。

このコーナーでは、6歳未満の子どもたちは参加できないが、活動している様子は十分見ることができる。4歳の弟は、母親と姉が活動しているところを2時間半ずっとみていた。長時間の持久力は大変なものである。親子4人のうち、母と娘1組が参加し、父と息子1組はほかの場所で遊び、ときおり「親子体験コーナー」に様子を見にくるといった、今までにないかかわりが見られた。今後、テーマを変えても親子がじっくり取り組めるものを考えていく参考になった。

計画当初は、1つの完成物ができなくても、体験の過程が大事であることを強調していたプログラムであった。しかし、結果的には「ひとつのものを作り上げる」方向にいつてしまった。次回、このようなプログラムを設定する場合、深い体験を促す内容と手順を十分に考える必要性を感じた。

制作にかんしては、材料が身近なものでありながら、道具には金属加工に用いる特有のものを使用し、金属の持つ抵抗感に対し手応えのある体験をもたらすよう配慮した。幼児がタガネと木づちをもって金属面に刻印したり、針金を曲げながら、その性質を体験している様子をみてみると、金属という硬質な素材の場合、素材と道具の関係を十分に考慮した活動内容であることが、体験を深めるように思われた。

一般来館児・者の親子プログラムの制作材料は、ジュエリーコース（「金属と造形」）



スの缶（アルミ、スチール=鉄）をプログラムに合わせて切りそろえたものを使用した。それは廃材であり、だれもがすぐに手に入れることができるものであるが、準備の仕方如何によっては良い造形材料になることを、親ばかりではなく見学にきた教育現場の指導者も1つの発見として受け止めていた。高学年のプログラムでは、鉄、銅、しんちゅう、アルミの針金や金属板を中心とした材料によるプログラムを実施した。子どもたちは、アルミの板を曲げたり、スチール缶の小さな板にタガネを打ったり、木づちやいもづち、ベンチやくいきり、砂袋などの道具を使い、“金属は硬い、金属は冷たい、金属はすべすべ”などの意味がどういうことであるかを体得的に実感することができた。

展示・体験・制作のワークショップが比較的実り豊かであったのに対し、「一日造形教室」のプログラムは、内容を十分に検討することができず課題を残した。毎年参加している中学生の男子は「個人が工夫できるプログラムは今回1つだけだね」と厳しいが、スタッフにとっては大変参考になる意見を聞くことができた。子どもがスタッフに率直に感想を話してくれるという両者間の良好な関係は、喜ばしいとともに、今後も配慮し続ける必要のある重要なことであると思われた。

「素材との出会い展～金属と造形」は、金属と出合う第一歩のワークショップとして、多くの子どもたちに個々の発見を促した。

(イ) やってみよう！つくってみよう！金属と音

4月から9月初旬まで実施した「金属とあそぼう」「金属と造形」では、「金属は硬い、延びる、冷たい、光る、溶ける……」など、金属という素材を多角的にとらえたスタジオワークショップ活動を展開した。それを引き継ぐ形で、ギャラリーで同時開催の「音のかけら展」に関連させて、10月までプログラムを延長して「金属と音」を開催した。

フランメンカン（「金属と造形」）



「金属と音」では金属でできている容器、鉄の管、フライパン、道具などが持っている金属固有の音を体験しながら、子どもたちが音にかんする感性を広げ、金属と音の関係をより深く体験できる場を提供するために設定したワークショップである。

造形スタジオ奥の特設ステージには、スタッフ・指導員が制作した音具（メロディーを奏でるいわゆる西洋音楽の楽器ではなく、「音の出る遊び道具」というような意味合いで“音具”と呼んでいる）を置き、随時子どもたちが演奏できるよう設定した。すぐに制作に取りかかれなかったり、自分の作った音具とほかの音具の音を聞き比べてみたり、数人集まってミニコンサートが始まつたりと、通常ではない、スタジオ全体に動きのある活動となった。

また、スタジオ特設ステージではプロのパーカッショニスト渡辺亮氏と永田砂知子氏の「音のイベント」を開催した。ギャラリー、スタジオの2つの会場を連携した展示・パフォーマンス・ミニコンサート・ワークショップと来館児・者に楽しい音体験を提供できたと思われる。

(ウ) やってみよう!つくってみよう!ひかりとあそぼう 名探偵ひかりくん 光の謎をとく

本年度の2月から春休み特別期間にかけて、光をテーマとして取り上げ、光とほかの造形素材とのかかわり合いや光の種類や状態を探るワークショップ「造形発見展」のステップである「ひかりとあそぼう～名探偵ひかりくん 光の謎をとく」を実施した。ステップでは、光を見つめ直すことを目標として、プログラムの内容は多様性を増して、子どもたちが光と遊びながら、造形体験を深めることを目的として実施した。

自然光や人工光が私たちの身の回りを取り巻いていて、それらを用途によって使い分けている。光は現代生活には必要不可欠なものである。あまりにも私たちの身近に存在するので、特別に意識されることも少ない。ワークショップ「ひかりとあそぼう」では、子どもたちが光の「展示・体験」のコーナーで体験し、そこから「制作」のコーナーへと誘われ、楽しみながら豊かな造形体験ができるようにスタジオの環境を整えた。

展示・体験コーナーをスタジオ外側と内側に設けた。来館した子どもたちが制作の場に抵抗なく参加できるように、そしてより光を感じてもらえるように意図したコーナーである。平常期間は主に実施プログラムを象徴的に拡大して制作したものを展示し、当日参加できるプログラムを認識しやすいように配置した。

春休み特別期間には、子どもたちを「光」の制作の場に

スムーズに誘導するために、“名探偵ひかりくん”というキャラクターを登場させ、彼が子どもたちを誘導するような雰囲気作りをした。この“名探偵ひかりくん”は、導入部でこそ単なるキャラクターだが、展示・体験・制作と場が移るにしたがって、最終的に子どもたち個人個人がその“名探偵ひかりくん”になり、光の不思議さやおもしろさを体験する、というものである。

受付でもらうワークシートにそってスタジオ内外を探検し、ブラックライトの部屋や、影当てクイズ、鏡を使って逆文字を読むものなど、数種類の光のステージをまず全身で感じる。そして、制作の場においてさまざまな光とほかの造形素材を組み合わせたプログラムに参加した。

ボールペンの線で凹凸をつけた鏡面の銀紙に、太陽光や白熱球などの直進光をあてて任意の形のスクリーンに映しだす「はんしゃまる」。色とりどりの直進光と拡散光を筒の中に散らす「つつのすけ」、内側が鏡面の銀紙の筒の中にいろいろな色をつけた外光を乱反射させる「ミラクルワーク」。ブラックライトがあたると自分で考えた星座が浮かび上がる「ピカらくり」。光の透過性のあるセロハンや紙で作った4コマのフィルムをスクリーンに映しだす「ダラシネマ」。直進光が水にあたって乱反射を起こす「ウォータースコープ」。反射板の原理を利用したもので、直進光と鏡面銀紙、透明ガラス球を用いた「フラッシュバンド」などを実施した。

同じ光、同じ材料を使いながらも、できあがった作品は制作者である子どもの固有性に左右され、目に飛び込んでくる光や影が作りだす形態には、1つとして同じものが存在しなかつた。それぞれの子どもも独自の光であって、自分たちで作り出した光である。こうした体験を通じて、子どもたちは造形体験を豊かにし、感性を培っていくのである。

Ⅱ こども歳時記

【子どもの日】

スタジオ内に展示ケースを置いて子どもたちの作品を展示し、ほかの子どもたちの刺激になるよう設定した。プログラムを2つにしぶり、高学年コーナーを広くとることにより、多くの子どもたちがゆったりと制作できるようにした。

【クリスマス】

スタジオ入口からスタジオの奥まで、見て、触って、遊べる飾りを取り入れクリスマスの楽しさを演出した。

壁には雪の結晶をはり、柱には銀でツリーをペイントした。また、アクリルボールの立体ツリーや、親子コーナープログラムの作り方の書いてある大きなプレゼントを持つ

ているビッグサンタクロースも設置した。特設ステージには、トナカイにプレゼント満載のソリをひかせ、天使に似せたウシを宙に浮かせた。ステージ中央にはサンタの椅子を置き、子どもたちが自由に座れるようにした。

スタジオ入口のハーフミラーを使ったれんが模様の煙突、ボタンを押すと中のライトがつき、アヒルサンタとプレゼントの山が見える仕組みに、子どもたちは驚きと感動を表していた。

【お正月】

入口に巨大羽子板をつるし、寅のトンネル、大きな鏡餅、ビッグえびすをスタジオ内に配置、特設ステージの動物たちも着物に着替え、和風でお正月らしい飾り付けて演出した。プログラムも干支の寅をモチーフにしたものや、羽子板を作ったり、素材に「竹」を使用したりしてお正月を体感できるものを実施した。

【節分】

さまざまな表情の鬼の面や、鬼のトンネルをスタジオ内に設置し、子どもたちが鬼をテーマにしたプログラムを制作する上で、イメージを膨らませる役割を果たした。「お正月」に引き続き、高学年のプログラムでは、日本の行事らしく「竹」を素材として取り入れた。

【ひなまつり】

日本の伝統行事を演出するためにスタジオ入口の装飾に「竹」を使用し、スタジオ内特設ステージの動物に着物を着せ、紙のひな段飾りを作った。高学年コーナーで制作した作品は、ミニひな段に飾ることができるようとした。

(オ) 第12回造形スタジオ展/ 第4回親子体験ワークショップ「宇宙でラ・ラ・ラ」

「第12回造形スタジオ展」では「造形実験室」(平成8年9月～9年3月)と夏休み特別期間の「素材との出会い展～金属と造形～」を含む「金属とあそぼう」(平成9年4月～10月)のプログラム、および平成9年度の「こどもクリエイティブクラブ」の作品、「こども歳時記」のプログラムを展示了。

造形スタジオの約1／3のスペースを展示会場にした。ディスプレイの基本は、同時に実施したワークショップ「宇宙でラ・ラ・ラ」の“宇宙”的イメージを踏襲したものである。「宇宙でラ・ラ・ラ」は、21世紀を前に地球の環境を守り、豊かにするために、イマジネーションを働かせ、やさしい心で宇宙に目を向けることを目的としたものである。

「造形実験室」と「金属とあそぼう」の親子の一般プログラムは、2面の壁にプログラムの流れが分かるように時間軸



造形スタジオ入口（「ひかりとあそぼう」）

にそって展示した。ほかの1壁面には5つの「こどもクリエイティブクラブ」の内容と写真を各々のパネルにまとめて展示した。中央の空間部分には、「こども歳時記」のプログラムをアクリル製の透明の球体の中に入れ、高さを変えて惑星のようにワイヤーで浮かせた。床面には、地球をイメージする直径360cmの青い円のカッティングシートを張り、その上に“ひなまつり”と“こいのぼり”的プログラムを設置した。子どもたちが手回しすると上下に動き、幼児も参加体験できるものであった。

入り口右端には「金属と造形」に関連した「音のかけら展」の親子ワークショップで制作した作品の一部を展示し、横に設置したビデオで放映した実際のワークショップ風景を見て、触発された子どもたちが、マレットでその作品をたたきながら鉄の音を楽しんだ。

②ギャラリーの活動

(ア) 第10回遊びと造形発想展「造形縁日'97」

昭和62年（'87）から始まった「遊びと造形発想展」は、今回で最終回を迎えた。第1回から第3回までは、筑波大学名誉教授高山正喜久氏が30年間にわたる教職生活の中で、学生たちに与えた造形の課題を散逸させずに第1次資料として保管していたものを中心に展示。それらの作品には、課題に取り組んだ子どもたちの発想の推移や着想の多様性、また子どもの反応だけではなく、高山氏の課題の意図が子どもたちにどのように伝わるかその道筋が見て取れるものとなっていて、造形教育を考える上で貴重な資料となっている。

造形事業部は、これらの作品資料を見て、子どもの豊かな発想を刺激するために高山氏と協力し、「遊びと造形発想展」を共同企画し、高山氏の所有の資料に基づいた展覧会を開催した。また期間中には、展覧会の意図に重ね合わせ

る意味でセミナーを行った。

第4回展からは、高山氏の教育活動に賛同する「遊びと造形発想の会」のメンバーが、それぞれの教育の現場で行っているプログラムやカリキュラムの中から、テーマに基づき、子どもや学生の作品を中心に展示を行ってきた。教育の現場にいる人々の実践の報告が「遊びと造形発想」というタイトルのもとで一堂に会して展示されるという環境は、教育の現場ではあまり多くない現状から考えれば、画期的な内容であった。

今回は、第10回を迎える記念展として、回顧と集大成を兼ねてこれまで会場に来た人びとの好評を得た作品や、制作指導者かぜひ紹介したいと思う作品を集め、お祭りの縁日のような楽しい内容とし、遊び心のある造形のさまざまを展示了。たくさんの紙コップを使い、大きな球状に組み合わせた「紙コップのルームライト」、身の回りにあるもので作った「何でも楽器」、漢字の文字の一部を絵に変えて、ユーモアのある楽しい遊びにする「遊び文字」など、にぎやかな会場を設定した。

そのほか会場には、来場した子どもたちがこのテーマをもっと身近に体験できるよう、「魚釣りあそび」や「変身スタジオ」「ダンボールの遊具」などの体験コーナーを設けた。

造形事業部の出品作は、平成9年（'97）3月に実施した「こども歳時記」から、簡単なカムの仕組みでユーモラスに動く紙製の「おどりびな」であった。

また、会期中に、高山正喜久氏による「遊びと造形発想セミナー'97」を開催。現場の教育者やデザイナー、児童と造形に興味のある人など34人が参加した。

今後の運営については、「遊びと造形発想の会」と造形事業部と話し合い、「遊びと造形発想展」は10年間で初期の目的を達成したこともあり、今後は毎年ではなく、数年おきに実施することにした。またセミナーは、次年度も継続的に年間数回は実施する予定である。

（イ）音のかけら展

鉄の彫刻家金沢健一氏の音具作品「音のかけら」の展示とコンサート、パフォーマンス、ワークショップなど、多角的にとらえた展覧会。金沢氏は、昭和62年（'87）の「造形発見展～音と造形」開催時にギャラリーで同時開催した「音のオブジェたち展」の出品作家の1人。「音のかけら事務局」との共催で実施した。

作品「音のかけら」は、大きな円形や長方形の鉄板などをいろいろな形に溶断し、その鉄片を各片の間に少しづつ隙間をあけて、もう一度もとの形態にもどした作品である。

それぞれの鉄片の下には、音を出すために床から浮かせるように半球のゴムボールが4・5個置かれている。子どもたちが材質の異なるマレットなどで鉄片をたたくと、大小さまざまなサイズにより、違う音を響かせる。それによって、子どもたちが鉄の材質・音・形などにかんする知識を体験を通じて獲得できるように工夫されている。つまり、作品を見たり、聞いたりして、受け身で鑑賞するのではなく、逆に“作品に触れる”ことで、自らの好奇心と創造性の可能性や新たな価値を発見していく展覧会になることを目的とした。

階段上に点在した「音のかけら」を腰をかがめマレットでたたきながら1つ1つの形と音を確かめながら上っていく親子連れ。三角錐の台の上でゆらゆらと揺れている真ちゅうの三角、四角、五角・・・と増えていく面積の多角形をゆっくりとたたき、音の違いと反射する光に魅了されたかのように楽しむ小学生。たたいた鉄片がコンピュータをとおしてほかの大きな鉄片を振動させて音を出す「音の震域」の不思議さに何度もなくたたく幼児——などの姿が見られた。

ギャラリーで「音のかけら」を体験した後、造形スタジオを訪れて制作したり、また、逆にスタジオで制作したものを持ってギャラリーで「音のかけら」と一緒に演奏を楽しんだり、「音」を介して立体的にギャラリーと造形スタジオが結ばれた。

「音のかけら」は「音」を楽しむ装置として、訪れた人たちがそれぞれの場面で、年齢を問わず、視覚・聴覚・触覚をとおして「素材」「形」「音」の原初的な出会いを体験し、「音」を楽しんだ。

子どもだけでなく、大人も対象にしたコンサート、イベントのほか、「子どもの城友の会」会員親子20組を対象に「音のかけらをつくろう」というワークショップも同時に開催した。

「音のかけらをつくろう」では、ピロティーで20組の親子が90cm四方の鉄板4枚に自由に線を引き、それを金沢氏が酸素とアセチレンの混合ガスを燃やして“溶断”して「音のかけら」を制作した。円環にならべかえた鉄片を用い、パーカッショニスト渡辺亮氏と参加者によるパフォーマンスで幕を閉じた。

（ウ）万人のための美術展

「万人のための美術展～ひとりひとりが見えてきた～もうひとつの美術教育」は、全国造形教育連盟東京都心身障害児造形美術研究会と共に、展覧会、ワークショップおよび講演会を実施した。



「音のかけら展」のワークショップ

公立養護学校の美術教師の第1号として40年にわたり障害を持った子どもたちの表現活動を先駆的に研究、実施してきた小串里子氏の業績を紹介し、21世紀に向かい「心を癒す美術」について、あらゆる人が考えるきっかけを持つことを意図したものであった。小串氏は、多様な個性を持つ障害児に、あるがままの自分を表出できるように、常に既成の概念にこだわらず、枠をはずしながら向き合ってきた。それは、障害児だけの問題ではない。どんな人もそれぞれに自分なりの表現を持ち、個性が互いに呼応し、個々の表現を認め合うことは、みんなが喜びを持って生きることにつながるものであることを示した展覧会であった。

障害児のための美術の実践プログラムを、当時の子どもたちの作品を基に、「自分なりの表現」の重要性についてキーワードを示しながらパネル化して展示した。パネルと対になった引き出しボックスも準備した。引き出しには実際の道具や材料を入れた。見る人はキーワードに触発されて引き出しをあけ、表現が生み出される環境をイメージすることができた。なかには興味深く見ながらメモをとる人も見受けられた。このような展示方法によって、メッセージを幾分か具体的に伝えることができたようだ。

パネル・引き出しボックスとともに、現在の養護学校の子どもたちの作品および精神科系病院の患者の作品も展示し、表現の多様性を示した。併せて、会場に制作体験の場を設け、技法によるのではなく、題材に触発されて表現が展開する試みとして、紐と枝を素材とした「巻く、編む、組む」のプログラムを実施した。裂き布が滑らず枝に巻きつけられるために、3歳になりたての子どもも枝に巻く行為のおもしろさを感じ、1人で活動が進められた。

カラフルな裂き布と枝のさまざまな組み合わせが生まれ、色と材質の楽しい調和を会場にもたらした。参加した子どもたちは単純な方法でありながら個性を示す表現活動ができた。



「万人のための美術展」

さらに、会場中央では、音の出るおもちゃが制作できるワークショップを随時設け、光、影、音で遊ぶことができる参加型の要素を多く持つ展覧会となった。

また、美術を“表現としての行為”と捉えている小串氏の意図を反映したワークショップが、養護学校の教師、ダンサー、アーチストらによって研修室で行われた。ダンスは心で表現するものだと実感した小学校3年生の女の子や、養護学校で悩んでいる先生方の参加もあり、年に一度このようなワークショップを企画してほしいという声も聞かれた。

このように多様な内容を伴う企画として実現できたのは、小串氏への尊敬と信頼から、展覧会にかんする協力を積極的に申し出てくれたボランティアによる功績が大きい。造形スタジオを訪れる子どもたちの中にも、障害を持った子どもの参加が見られ、また子どもが抑圧されやすい社会機構を持つ現在、このような展覧会は〔子どもの城〕のような社会的な役割を期待される施設において重要なと思われる。

③講座・クラブなどの活動

(ア) こどもクリエイティブクラブ

「こどもクリエイティブクラブ」5コースを実施した。本年度から定員を前年度の約2倍の20人に広げて、少しでも多くの子どもたちが参加できるように配慮した。少人数の受講生によるメンバー制のクラブである。

本年度は、前年度とは異なり、素材や表現性などを追求して、各コースが独自の内容で運営した。実施の曜日や時間帯は、火曜日から土曜日まで基本的に同じである。

【こどもクリエイティブクラブ A

ゆかいな造形「木の世界」(火曜日)

1期では、子どもたちが“制作をとおして自然の産物で



こどもクリエイティブクラブA ゆかいな造形「木の世界」

ある木を五感で感じる”をテーマに、木の種類や特質を知り、基本的な工具の扱い方を覚えられるようなプログラムを実施した。てはじめに、1本の角材を万力にはさみ自由な角度で切断したものを、好きな形に組み立て、木工ボンドで接着するプログラムを実施した。

2期に入つてからは、使用する道具の種類を増やし、同じ木を扱うにもさまざまな方法があることを体験し、知ることのできるプログラムを実施した。彫刻刀を使ったり、針金や釘などのほかの素材と組み合わせることによって、木の持つ表情が変化することも体験してもらった。

3期では、1期、2期を通じて習得した技法を駆使して【こどもの城】敷地内の屋外に、子ども20人程度が入れる小屋を建てた。自分たちの経験してきたことで、小屋1つが建てられることに驚きと、よろこびを感じたようである。

【こどもクリエイティブクラブB

ゆかいな造形「プリントワーク」(水曜日)

「プリント」というと、どうしても「浮世絵」などがわれわれ日本人になじみが深いためか、技法が先にうかび、木版、銅版、孔版などとジャンルで見てしまいがちである。この「プリントワーク」では、素材や技法にこだわらずに、紙だけでなく身の回りにある木、金属、プラスチックなどさまざまなものに形・色・テクスチャーなどを写していく版画の領域を超えて、「うつす」ことを楽しむクラブである。

1期では、自分の手形をいろいろな絵の具で紙や透明プラスチックに刷ったり、40cm×60cmの大きなベニヤ板に釘やポンチなどで傷をつけて版にしたり、マスキングテープをパネルや紙に張ってローラーで色を塗り、孔版のようにいろいろなもので版を作り、さまざまな刷りを体験した。

2期では、段ボール紙を漉(す)きなおし「はがき」にして、ゴムシートのスタンプで透かしの「グリーティング



こどもクリエイティブクラブB ゆかいな造形「プリントワーク」

カード」を制作した。絵の具をビニールの絞り出し袋に入れ銅板に描画したり、紙などの平面に刷るだけでなく、再生紙でできた植木鉢に同じ技法で絵を描いたりした。ほかには石膏の型取りからキャンドルスタンドなどを制作した。

3期ではカラーインク・ボタン・羽などいろいろな素材を使い、オーバーヘッドプロジェクターやコピー機などを用いた「光」と「影」を写すプログラムを実施した。

【こどもクリエイティブクラブC

ゆかいな造形「ライトアート」(木曜日)

ライトアートでは、平成10年1月から始まる「ひかりとあそぼう」のプログラム模索のため、「光」をテーマとした活動を行つた。

1期では、紙の筒の中にいろいろな色の光が入ってくると、まるでステージを思わせる「光のステージ」、数本の竹ひごを組み合わせて球状にし、それに和紙を張り、中に電球を仕込んだ「ライトボール」、紙粘土で好きな形を作り、その中に光ファイバーを仕込んでジオラマ風にした「ファイバーワールド」、いろいろな金属やビニールチューブ、光ファイバー、電球などを組み合わせて作った光る虫を丸太にとまらせた「まるたつち」を制作。

2期では、銀紙とガラスビーズを使い、反射板の原理を利用した「反射ビーズ」。木の葉をか性ソーダ水溶液で煮て、葉脈だけにしたものを型に合わせて半球状にし、それに蓄光塗料を塗って、ブラックライトで光らせる「ひかるはっぱ」、アクリルボールに何か所か穴を開け、それを星にし、内側には特殊なペンでイラストを描いてブラックライトをあてるとき、イラストの部分が発光を始める「プラネタリウムをつくろう」、厚手の銀紙の中に木や発泡スチロール、蛍光塗料などを用いて作った飾りと紙で作った雪を入れて、ストローで吹くと、雪の舞う情景ができる「雪のクリスマス」を制作。

3期では、鳥の巣箱のような木箱を作り、それにガラス

製のステンドグラスをはめ込み、電球などを仕込んだ「ステンドカンテラ」。油粘土の原形から石膏で型をとり、そこにポリエスチル樹脂を流し込んで、中にビー玉や金属などを蓄光塗料で着色したものを封入して固まらせ、型からはぎて磨き、ブラックライトで光らせる「みかけダイヤ」。ホウ砂、せんたくのり、水、蓄光パウダーを使い、ブラックライトをあてると、光を発する「光るスライム」を制作した。

1年の3期間を通じて、子どもたちはさまざまな素材や道具、技法を体験しながら、自主的に自分たちの思いを表現していく、作る楽しみ、完成した時の喜びを堪能していた。また、1期から2期、2期から3期へとプログラムが移行していくうちに、子どもたちの制作における計画性が強くなっていたこと、難しい作業にも積極的に取り組むようになったことは見逃せない。

【こどもクリエイティブクラブ】

わくわくワーク「絵本の世界へ」(金曜日)

造形の多様な表現要素を体験しながら、世界にたった1冊しかない自分の絵本作りを目的にしたクラブである。

1年を3つの期別単位にしてプログラムをすすめた。1期は、絵本制作のための前段階として、いろいろな素材や技法あるいは手法を体験することを中心に計画を立てた。インク、絵の具、マジックペンと紙のような従来の描画材料に加えて、子どもたちはスポットで描いたり、コピー機を使った写真のコラージュ(はり絵)を作ったり、透明シートに描いて重なりのおもしろさを生かしたものやネジ、砂、小石など身の回りにある素材による触覚絵本などを創作した。多種多様な表現形式を子どもたちの想像力に呼応させる機会を設けたものである。

2期は“おはなし的”な要素を何枚かの場面に組み立て、絵本の制作を試みた。パズル絵やインスタントカメラで撮った写真から絵本を作ったり、透明傘(8コマ)や手袋(4コマ)を話を展開する土台にみたてるなど、アイデアを活性化させる方向を重視した。

3期は、1期と2期で体験したことを基本にして、子どもたちが独自に素材、手法、物語を計画して、絵本作りができるようにした。フェイスペインティングをはじめ、手足や腕などにも描き、身体でポーズをとりながら、動きの要素も自然に入ってくるといったダイナミックな様子もみら

れた。

1年をとおして、子どもたち1人ひとりにアイデアノートを持たせクラブを進めた。ノートが分厚く大きすぎたせいか、予測したほどノートの利用度はなかった。次回は小さいノートを考えている。スケジュールや内容を若干変更することもあったが、それは、子どもたちが1人ひとりの速度に合わせて、各自の興味や発想をゆっくりと育てるこことを大切にしたからである。

【こどもクリエイティブクラブ】

土の冒険「クレイワーク」(土曜日)

造形素材としての「土」を見直し、「陶芸」の枠にこだわらず、「土」の楽しさを子どもたちが遊びながら経験できるように企画したクラブである。過去の「クレイワーク」のプログラムを踏襲し、新たなプログラムを加えながら実施した。

1期では、粘土を体感できるように大量の粘土を使い、できるだけ道具を使わずに制作した。

2期では、少しずつ道具を加えていった。粘土のかたまりからではなく、板状の粘土や棒などで制作したり、徐々に釉薬を使うようにしたプログラムを実施した。

3期では、皿やストーブなど大物作りに挑戦した。1年間の集大成で、ダイナミックさを失わないように、体験したいいろいろな技法ややり方で制作を楽しんだ。最終日には、できたストーブで薪をたき、いもなどを土に包んで焼いて食べた。いもが適度な状態で焼き上がったのには、全員がびっくりしていた。

④グループ活動

平常期間の午前中は、受け入れの総合案内課と協力して従来のプログラムどおり造形スタジオの運営を行った。

「かげをうつそう」「木をつくろう」「粘土のジャングル旅行」などを実施した。回数、内容ともに「かげをうつそう」の要望が多かった。ここ数年、活動の進行役を1人ではなく、スタッフがだれでもできるようにシステムを変えた結果かもしれないが、同じようなレベルを維持しながらも、それぞれの担当で持ち味がでてきているように思える。ほかのプログラムも内容を検討し、充実したプログラムにしていきたい。

平成9年度活動一覧表

①平常期間プログラム

名 称	期 間	備 考
やってみよう！ つくってみよう！ 「金属とあそぼう」	4.9~4.20 5.7~7.18 9.5~7	夏休み特別期間プログラム、素材との出会い展「金属と造形」に向けて、金属とその特性——硬い・冷たい・延びる・鎔ひる・光る・溶けるなど——に積極的にかかわるようにさまざまなプログラムを実施した。
やってみよう！ つくってみよう！ 「金属と音」	9.9~10.31	夏休みプログラムから引き続き、金属を素材にしたワークショップ。ギャラリーで開催した「音のかけら展」とリンクした活動。金属が持っている固有の音、金属とほかの素材と組み合わせたり形を変えることで生まれる音——「金属と音」の関係をテーマにしたプログラム活動を実施した。
「金属と音」 コンサート	10.19, 26	パーカッショニスト渡辺亮氏(10.19)と永田砂知子氏(10.24)による金属で作られた道具、部品、楽器などをを使った子どものための参加型コンサートを実施した。
こども歳時記「節分」	1.16~2.3	「節分」の鬼にちなんだワークショップを実施した。プログラムは「ふくおにめん」(親子)、「オニバラ」(小1~), 「はじけおに」(小3~)。
やってみよう！ つくってみよう！ 「ひかりとあそぼう」	2.4~15 3.4~15	夏休み特別期間プログラム(平成10年度)に向けて「光」のワークショップを実施した。プログラムは、2.4~15が「はんしゃまる」(親子), 「つつのすけ」(小2~), 3.4~3.15が「ミラクルワープ」(親子), 「ピカラクリ」(小1~)。
こども歳時記 「ひなまつり」	2.17~3.3	「桃の節句」のひな人形にちなんだワークショップを実施した。プログラムは、「なかよしひな」(親子), 「ひなころりん」(小2~), 「ぐるるびな」(小3~)。

②特別期間プログラム

名 称	期 間	備 考
〈児童福祉週間〉 こども歳時記 「こどもの日」	4.22~5.5	「こどもの日」のこいのぼりにちなんで、「ひらひらごい」とクランク機構を使って動く「からくりこいのぼり」のプログラムを実施した。
〈夏休み〉 素材との出会い展 「金属と造形」	7.19~8.31	素材との出会い展の「紙」「木」「土」に続く4つ目の素材「金属」をテーマにしたワークショップ活動。「金属でつくる！ 金属であそぶ！ 金属でまなぶ！」をキーワードにして、実際に金属を「きる、たたく、みがく、やする、まげる、つぶす、なます」を体験するワークショップを実施した。
〈開館記念〉 第4回 親子体験ワーク ショップ 「宇宙でラ・ラ・ラ」	11.1~12.7	「親子ワークショップ」の第4回。21世紀に向けて地球の環境を守り、豊かにするために親子でイマジネーションをはたらかせ、やさしい心で宇宙に目を向けることを目的としたワークショップ。プログラムは、11.1~24が「うちゅうきゅう」「ワクワクわくせい」(親子), 「くるりロケット」(小1~)で、11.26~12.7が「クルクルうちゅうりょこう」(親子), 「スペースステーション」(小2~)。
〈開館記念〉 第12回造形スタジオ展	11.1~24	平成8年11月から9年10月までに造形スタジオに来館した子どもたちが制作したさまざまな作品と「こどもクリエイティブクラブ」の子どもたちの作品を展示。一般プログラムでは、内容をより分かりやすく実物見本と写真、キャッシュで説明したポートフォリオ(折りかばん)形式の展示を行い、反響があった。
〈冬休み〉 こども歳時記 「クリスマス」	12.9~25	クリスマスにちなんだワークショップを実施した。プログラムは、「グッズぐつ」(親子), 「キラくるカード」(小1~), 「ブチキャンドル」(小3~)。
〈冬休み〉 こども歳時記「お正月」	12.26~1.15	お正月にちなんだワークショップを実施した。プログラムは、「ししどら」(親子), 「はごいた'98」(小1~), 「おめでタイガー」(小3~)。
〈春休み〉 やってみよう！ つくってみよう！ 「ひかりとあそぼう」 名探偵ひかりくん 光の謎 をとく	3.17~4.5	夏休み特別期間プログラム「造形発見展—ひかりとあそぼう」(平成10年)に向けての第1ステップとして、光の謎をとく“名探偵ひかりくん”をキャラクターにスタジオ全体を使って“光”をテーマとしたワークショップを展開した。

③講座・クラブ

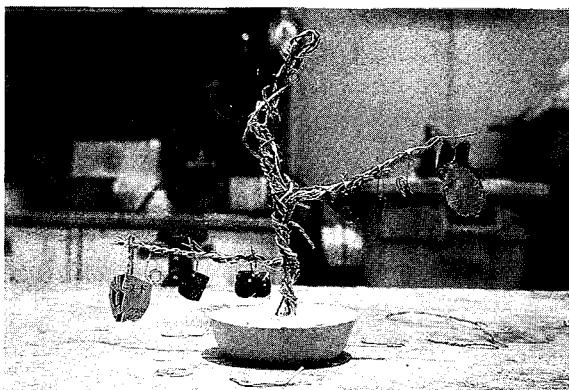
〈講座〉

名 称	対象・定員	受講数	曜 日・日 時	備 考
こども クリエイティブクラブ A ゆかいな造形「木の世界」	(人) 小1～高3 (20)	(人) ① 20 ② 17 ③ 12	火曜日 16:00～17:30	制作をとおして自然の産物である木を五感で感じることをテーマに、木の種類や特質を知り、基本的な工具など道具の扱い方を体験的に学びながら、プログラムを実施した。
リ ブ ゆかいな造形「プリントワーク」	リ	① 10 ② 11 ③ 7	水曜日 リ	版画の領域を超えて、紙だけではなく身の回りにあるさまざまなものに、色・かたち・テクスチャーなどを写していく、なんでもプリントクラブ。
リ ブ ゆかいな造形「ライトアート」	リ	① 10 ② 12 ③ 11	木曜日 リ	自然光の身近な光、電球・ブラックライトなどの特殊光などの光の不思議さ・楽しさなどを体験しながら、光の特質を学び、制作に結びつけたクラブ。
リ ブ わくわくワーク 「絵本の世界へ」	リ	① 16 ② 18 ③ 17	金曜日 リ	絵本を描くときに使われる方法——描画材料・絵の具・インク・紙などを用いた基本的な技法から、ユニークな方法まで幅広く体験しながら絵本の世界を体験するクラブ。
リ ブ 土の冒険「クレイワーク」	リ	① 20 ② 20 ③ 19	土曜日 リ	“土は楽しい”をテーマに、陶芸の枠組みにとらわれないプログラム活動を実施。ほかでは体験できないさてきなクラブ。

火曜日=各期9回、水～土曜日=1期：10回、2期：12回、3期：8回、講師はすべて（子どもの城）専門職員
(受講料：火曜コース67,500円、水、木、金、土曜コース75,000円。「クレイワーク」は各期ごとに焼成費8,000円が必要)

〈短期集中講習会〉

名 称	対象・定員	受講数	曜 日・日 時	備 考
夏休み一日造形教室 A 「METALIC STICK」	(人) 小3～高3 (各日15)	(人) 5日間 計 20	7.29～8.2 13:00～17:30	コンロで銀とスズを溶かし、石膏で作った凹の型に流し込み、棒の頭の飾りを作る。飾りを棒に金属テープなどで固定し装飾すると自分だけの魔法の棒が完成。
リ ブ 「金キラ銀」	リ	5日間 計 44	8.5～9 13:00～17:30	箔(はく)置きという集中力のいる作業を貟などを使って楽しく体験。金箔や銀箔などを貟や流木にはり合わせ、自分だけの宝箱を完成させた。
リ ブ 「針金 BONSAI」	リ	5日間 計 52	8.12～16 13:00～17:30	色とりどりの針金・アルミ線・銅線などを数本巻いて木の枝を作る。さらに枝と枝を束ねて巻くと木ができる。金属板で葉を作り、セメントの台に固定して完成。
リ ブ 「ミニストーブ」	リ	5日間 計 72	8.19～23 13:00～17:30	ブリキ缶を金ばさみで切り、煙突用のパイプや足などを取り付ける。小型ではあるが薪(まき)もたける本格的なストーブ。火を使う人間の原点が見えてくる。
リ ブ 「KERO ランタン」	リ	5日間 計 25	8.26～30 13:00～17:30	1枚のブリキ板を金ばさみで切り、リベットで留める。ろうそくを固定する台を付けないとランタンの完成。金属を紙のような感覚で切りながら、造形体験を深めていく。



夏休み一日造形教室「針金 BONSAI」

名 称	対象・定員	受講数	曜 日～日 時	備 考
夏休み「金属と造形」親子体験コーナー 体験 1	(組) 6～18歳の子どもと親 (各日10)	(組) 6日間 計 46	7.23, 29, 8.10, 16, 22, 28 12:30～14:30 15:00～17:00	銅をなます・たたく・やする(やすりをかける)・磨く体験。銅を焼きなますと結晶組織がばらばらになり、やわらかくなる。金床の上でたたいて延ばす。これを繰り返しやすりをかけて磨くとスプーンになる。
〃 体験 2	〃	46	7.24, 30, 8.5, 17, 23, 29 〃	鉄を切る・やする・磨く体験。鉄パイプを金のこで切り、やすりで磨く。順番にやすりの目を細かくしていくと鏡のようになる。穴をあけ金属の小片をつるすとベルになる。
〃 体験 3	〃	66	7.25, 31, 8.6, 12, 24, 30 〃	アルミをまなす・たたく・切る・磨く・やする・つなげる体験。アルミ板を焼きなまし、砂袋の上でたたくと板は少しずつ延びる。形を整え取っ手をつけると皿や鍋になる。
〃 体験 4	〃	41	7.26, 8.1, 7, 13, 29, 31 〃	銅・真ちゅうを曲げる・切る・磨く・つなげる体験。銅線と真ちゅう線を丸棒などに巻き、くいさりで切る。たくさんのが輪をたたくと平らになり形が決まる。輪をつなぐとくさりになる。
〃 体験 5	〃	53	7.27, 8.2, 8, 14, 20, 26 〃	鉄をやする・つぶす・磨く体験。黒皮のついた鉄板をサンドペーパーで磨く。順番にやすりの目を細かくしていくと鏡のようになる。穴をあけボルトをつけると鏡立てになる。
〃 体験 6	〃	43	8.3, 9, 15, 21, 27 〃	銅をなます・たたく・磨く・やする体験。銅の板を焼きなまし、金床の上でたたく。たたいて延ばすを繰り返し、やっとこや棒やすりで形を整える。穴をあけ輪をつけるとキーホルダーになる。

④その他の活動

名 称	期 間	備 考
日本保育協会 造形ワークショップ	9.18, 25, 1.22	日本保育協会主催の「地域子育て支援センター担当者の実技研修会」。親子で一緒に造形活動でできるプログラム「くっつけむし」「マベット」「カズー」を実施。造形スタジオという環境の中で講習ができるることは、参加者が制作する上で重要なファクターになった。造形スタジオ。
〈動く子どもの城〉 ブルーノ・ムナーリ 巡回展	10.14～31	〈動く子どもの城〉巡回展示プログラム「ブルーノ・ムナーリ展」の4回目の巡回展。展示および児童厚生員の講習会を実施した。プログラムは「木をつくろう」「ステロタイプ」「針金の木」「さまざまなかたち」など。香川県立さぬき子どもの国。
やまがたブレイリーダー 養成研修 「造形ワークショップ」	11.1	山形県での3回目のブレイリーダー養成研修会である。今回は、紙・木・金属などさまざまな素材が体験でき、しかも手に入りやすい材料を使ったプログラムを紹介した。山形県朝日少年自然の家。
佐賀県児童厚生員研修会	2.6	佐賀県児童館連絡協議会主催の児童厚生員等研修会。幼児を対象にした造形活動というテーマで、造形スタジオでの活動から「マベット」「カズー」「くっつけむし」「光のチューブ」を実施した。佐賀県青年の家。
群馬県学童クラブ ケアワーカー研修会	2.24, 3.5	昨年に続いて群馬県学童クラブケアワーカー研修会の2回目。太田市と前橋市にて、「音と光体験」のプログラムを実施した。参加者はそれぞれ100人前後の指導者たち。太田商工会議所会館、群馬勤労福祉センター。
宮崎県児童厚生員研修会	3.13	宮崎県児童館連絡協議会主催の児童厚生員等研修会。身近なものでできる造形活動というテーマで、約80人の児童厚生員等に研修を行った。プログラムは「シェクシエク」「光のチューブ」など。宮崎市中央公民会館。
まる・ち・ぶる・あ一つなるほど！ 体験市場	3.15～4.5	「身体の開放」をキーワードに愛知県児童総合センターの環境を生かし、センターのスタッフとともに提案企画を具体化していった。子どもたちは、アーチストによる展示・ワークショップや「体験カード」を使った多種多様な遊びを体験した。愛知県児童総合センター。
第10回遊びと造形発想展 ～造形縁日'97～	5.24～6.8	造形作家、大学講師などで構成される「遊びと造形発想の会」と共催。造形の発想の視点をテーマに、展覧会をとおして、造形のおもしろさを発見し、体験するものである。今回は10年間の集大成。ギャラリー。
遊びと造形発想セミナー'97	5.31	遊び心をキーワードとして造形の発想をとらえなおすことを目的に、身近な材料と道具を使ってできる楽しい造形の方法と作品を紹介するセミナー。第7回目の今回は、高山正喜久氏の講義と実技講習を実施した。研修室。

名 称	期 間	主 催
万人のための美術展	6.20~7.10	公立養護学校の美術教師第1号として40年にわたり障害を持った子どもたちの表現活動を先駆的に研究、実施してきた小串里子氏の業績を紹介し、21世紀に向かい「心を癒す美術」について万人が考えるきっかけを持つことを意図した展覧会。ギャラリー。
ワークショップ「松本秋則さんと音あそび」	6.28・29	造形作家・松本秋則氏による音と光のワークショップ。段ボール、竹、袋、金属などいろいろなものと体全体を使い、音や光と遊び、五感を開く。研修室。
〃 「Tシャツアート」	6.28・29, 7.6	自分の好きな絵を筆、ペン、ボールペン、マジックなどいろいろな描画材料を使って描き、シリクスクリーン技法で自分だけのTシャツを制作。長谷川博氏の指導。研修室。
〃 「光・影・動き」	6.28	オーバーヘッドプロジェクターを使い、いろいろな模様や色を壁に映し、音楽が流れる中で壁に思い思いに感じた絵を描く。水野聰氏の指導。研修室。
〃 「あんなり、こねなり、すったり」	6.28・29	網に毛糸を編み込んだり、粘土をこねたり、スチレン版画をしたりと素材体験から自分の表現を探すワークショップ。石丸良成氏の指導。研修室。
〃 「中嶋夏さんのダンスワークショップ」	6.29, 7.6	ダンサー中嶋夏氏による心の開放を目的とし、自分の気持ちを体で表現するワークショップ。研修室。
講演会	7.5	美術の表現が万人のものであることを、40年間にわたって障害児の美術教育を実践してきた小串里子氏が講演。21世紀の美術教育について、障害児とアーチストの表現という視点から守屋行彬氏との対談を開催した。100人を超す参加者があった。研修室。
音のかけら展	10.8~26	金属を素材として扱う造形作家・金沢健一氏によって制作された見たり、聞いたりするだけでなく、自らが参加する音の彫刻作品「音のかけら」の展覧会。造形スタジオでの「金属と音」と連携した展覧会。ギャラリー。
ワークショップ	10.19	金沢氏の指導で親子20組が「音のかけら」作りに参加し、できた「音のかけら」を使い渡辺亮氏と演奏するワークショップを開催した。ギャラリー、ピロティ。
コンサート	10.9, 24	金沢健一、岩崎真、南聰、吉村弘、Percussion Trio The Birdsによる「音のかけら」を使ったコンサートを開催した。ギャラリー。
パフォーマンス	10.25	金沢健一氏と永田砂知子氏による「音のかけら」を使った子どものためのパフォーマンスを開催した。ギャラリー。

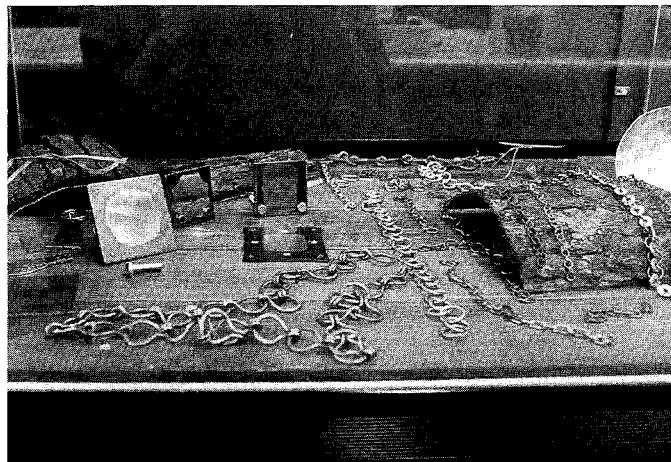
造形スタジオ



平成9年度プログラム一覧表

①親子プログラム

プログラム名	備考
ひっくりメタル・アルミ	アルミ缶から 2×6 cmの帯を切り出し、2つ折りにする。くさび形になった一方を指ではじくと、跳ねるおもちゃができる。かえるやうさぎなどの跳ねる動物や、飛行機やロケットなど飛ばすと楽しいものを作ることができる。
ひらひらごい	Wクラフト紙(表裏の色の異なるラシャ紙)の帯の両端近くに切り込みを入れ、かみ合わせて魚の形にする。大小2つ作る。飾りをつけ、竹ひごに麻糸でぶらさげる。竹ひごを振ると、クルクル回りながら動く。
ビヨーえもん	アルミ缶を細長く切った帯をU字型にし、輪ゴムを通してから紙に固定する。輪ゴムをはじくと、U字型の部分が振動してビヨーンと動くおもちゃができる。装飾を施すと生き物や乗り物などさまざまなものになる。
ぐねぐねぼーん	カラベという薄手の色紙にアルミ線を接着テープではる。それを背骨に見立て、紙で手足や頭を作つてつけ、生き物をつくる。アルミ線は自在に曲がるので立体的な要素を感じさせるものになる。
マグネットトイ	2×3 cm角のスチール缶の切片を用意する。そこに、紙で作った装飾物を接着テープで固定する。磁石の壁に、つけたり外したりできるおもちゃになる。
トンテン缶	スチール缶の切片(2×3 cm角)に、いろいろな形のタガネを木づちでたたいて模様をつけていく。Wクラフト紙に、できたメタルを厚手の両面テープではるとかわいいカードができあがる。
とばしやメタル	アルミ缶を1cm幅の帯に切ったものをV字に曲げ、蛙やジェット機など紙で飾りをつけて接着テープではる。開いている部分をつまみはじくと跳ぶ。跳ねるおもちゃになる。
チューブっかん	紙をチューブ型(筒状)にし、開口部にスチール缶の切片(2×3 cm)の一辺を5mmほど曲げテープで固定し、全体を生き物に見立てたりして、装飾する。竹ひごに缶のブルトップをつけて、金属部分をたたく棒にする。
くるくるシャラリン	竹ひごにぴったりとアルミ線をらせん状に巻きつけ、とめる。ソフトペンのまわりにアルミ線を6周くらい巻いてばね状のものを作り、竹ひごに通す。竹ひごの両サイドは紙で装飾。竹を振るとアルミ線がすれあってシャラリンと動く。
フリータムタム	真ちゅうの針金を竹ひごにテープでとめ、もう一方の端にワッシャーを巻きつける。紙を好きな形に切って装飾し、針金をつけた竹ひごにはりつける。竹ひごを振ると、“でんでん太鼓”的に、ワッシャーが紙に当たる。
うちゅうきゅう	ふくらませた風船に、新聞紙を水で濡らしながらはりつけ、その上に水のりを刷毛で塗りながら白い紙をはる。さらに、その上にカラベ(薄い色紙)で好きな色や模様を作つていく。乾くと風船を抜いても球体のままである。
ワクワクわくせい	3分の1の長さの傘袋に丸めた新聞紙を入れ、輪ゴムで止める。周りに光る紙の帯を巻いたりして装飾、惑星のような物体に仕上げる。
クルクルうちゅうりょこう	1~2cmのストローにくるくるまわしたい物を紙で作つてテープではる。それを、針金をペンに巻いて螺旋状の線に通す。その針金を竹ひごの両サイドに弧をえがくようにくっつけるとできあがり。



夏休み「金属と造形」親子体験コーナーの作品見本

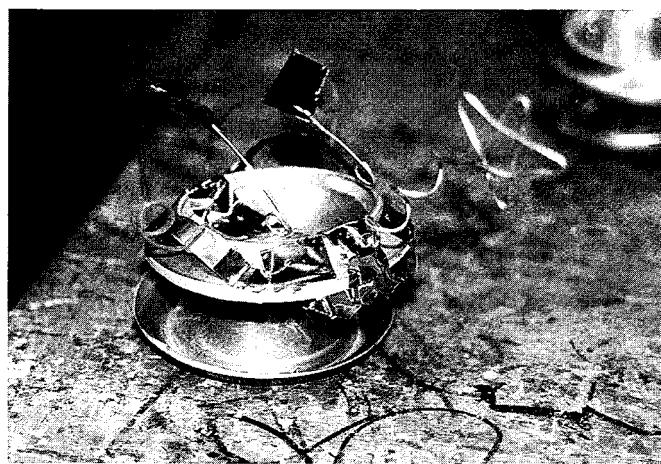


「ワクワクわくせい」

プログラム名	備考
グッズぐつ	ラシャ紙をなんどももんで、布のようにやわらかくし、封筒を作る要領で牛乳のテトラパックの形にする。足のはいる部分を切る。動物、そのほかの好きな飾りをつける。
ししどら	Wクラフト紙をもみ、袋を作る。2つに折り、手でぱくぱく動かせように切り目を入れる。それを土台にしてとらの顔を紙ではりながら作る。獅子舞のようにマントになる紙をはり、飾りをつける。
おにふくめん	透明のビニールシートにポンチで眼の位置の穴をあける。紙バンドをホッチキスでつけ、頭にかぶれるように輪ゴムをつける。お面のようにかぶってから、鏡の前で油性ペンで自分の顔を基に鬼の絵をかく。
はんしゃまる	光る紙の裏にボールペンあるいは硬い鉛筆で絵を描く。中をくり抜いた別の紙にトレーシングペーパーをはりつけ、スクリーンを作る。光にかざすと、光る紙に描いた絵が、光に反射してスクリーンに浮き上がって映る。
なかよしひな	紙をやわらかくもみ、2つ折りにした折り目に向かって表と裏から折り合わせ、2つの筒を作る。折り目の半分まで切り込み、指を入れる部分を残して、縁を糊付けする。雄ひな雌ひなの装飾を施してできあがり。
ミラクルワープ	光る厚手の紙を、光る面を内側にして筒型にする。ポンチで穴をあけ、色セロハンをはった紙を円筒の一方に接着テープで固定してから光にかざしてのぞくと不思議な光の世界が見える。
ダラシネマ	2つ折りにした長方形の紙の中央に直径5cmの穴を切り抜く。片面にトレーシングペーパーをはり、長方形の紙を円筒に糊付けしておく。カラーセロハンで物語の情景を切り絵にし、紙の間をとおして光にかざす。

②子どもだけのプログラム(括弧内は、対象年齢と平均の所要時間)

プログラム名	備考
キコキコメタル・鉄	スチール缶を切った板に、ポスカで濃いめの色を塗り、乾いたら釘など先の尖ったもので引っかきながら絵を描く(小1～、1時間)。
からくりこいのぼり	針金でカム機構を作り、竹ひご2本をそれぞれに連結し、紙で作った箱に収める。竹ひごのもう一方に紙で作ったこいのぼりをつけ、針金の把手をまわすと、こいのぼりが踊る(小3～、1時間30分)。
カンカントイ	設計図を書いて、アルミ缶を切り開いて板状にしたものに写し、切り抜いて立体のおもちゃを作る(小1～、1時間)。
メタサイク	太いアルミ線や細い銅線などを使い、それらを曲げて、うずまきや多角形にしてアクセサリーを作る(小3～、1時間30分)。
メタ口.X.	「メタサイク」の材料にガラスピースや漂流物のガラスの破片を加え、アクセサリーを作る(小1～、1時間30分)。
クリッパー	針金の一方の端をまげてクリップを作る。反対の端は、折り曲げたり、金属の板を使ったりして動物の形を作る(小1～、1時間30分)。



「フランメンかん」

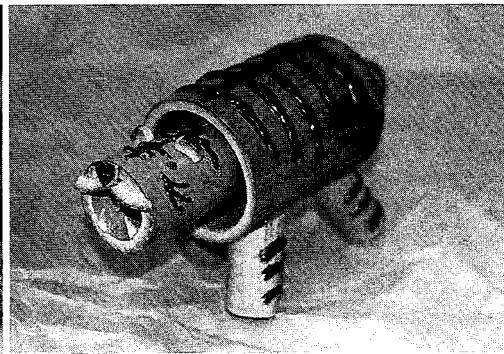


「メタサイク」

プログラム名	簡
モビロベえ	くさりとアルミ線を使ってモビールを作る(小1～, 1時間30分)。
まけメタル	針金を曲げながら好きな形の輪郭を作り、その中をカラービニールでコーティングされた細い針金で装飾していく。次に角材の台に立ててできあがり(小3～, 1時間30分)。
たたきメタル	たがねを使ってアルミ板を好きな形に打ち出してペンダントやキーホルダーなどを作る(小3～, 1時間30分)。
ピヨロンきん	アルミ板を異なった幅で数本、適当な長さに切る。15×10cmの紙にそれらを並べ、カラー銀テープで固定。針金を紙とアルミ帯の間にはさみ、両端を紙にとめる。紙を円筒になるとできあがり(小1～, 1時間30分)。
ふりシャラ	1cm角に切った空き缶のチップに穴をあけ、竹ひごに数枚とおす。太めの針金を曲げながらマラカスの把手の部分を作る。把手にチップを通した竹ひごを固定。振ると音がする(小2～, 1時間30分)。
フラメンかん	アルミ缶のふた2個を底が互いにぶつかりように合わせ、空き缶から切り出した金属の帯をコの字型にしたものでカスタネットふうに固定する。硬い針金2本を昆虫の触覚のようなものを作り、一端がふたすれすれになるように、ふたに固定する。指先で軽く弾くと、ふた同士があたる音、針金がふたにあたる音ができる(小3～, 1時間30分)。
ギロッテラー	太いアルミ線に細めの針金を螺旋状に巻く。一方の端に紙で作った円錐形のものを接着テープで固定する。竹ひごよりやや太めのラミン棒でこするとギロのようない音ができる(小1～, 1時間)。
くるりロケット	紙を2つ折りにし、外枠と内側に切り分ける。開いた外枠の紙の折り目に1mmのストローを2つ接着し、竹ひごを通す。切り抜いた内側の紙をひとまわり小さくし、竹ひごに接着する。ロケットにみたてたり、宇宙船ふうに装飾すると、くるくる回るおもちゃができる(小1～, 1時間)。
スペースステーション	太めの針金で三角すいの骨組みを作り自立させる。三角すいの空間に細い針金で宇宙のような装飾を施す。ストローなども用い、針金に通して動くUFOなどにする(小1～, 1時間30分)。
キラくるカード	はがき大の透明袋に、紙で作ったツリーとトレーシングペーパーを入れる。表と裏で雰囲気の違うツリーになる。それにドア型や窓型の切り込みをいれた紙枠をつけ、装飾してクリスマスカードにする(小1～, 1時間)。
はごいた'98	羽子板の形にしたダンボールにベニヤの把手をガムテープでとめ、いろいろな紙で装飾する。ダンボールに穴をあけ、輪ゴムをつなぎ合わせてとおし、先に紙の丸めたものをつけて羽根にする(小1～, 1時間)。
おめでタイガー	張り子の虎の原理を基に、大小の竹を使って虎を作る。4本足は大きな竹に接着し、頭の部分は身体用の竹に穴をあけ、麻糸でつなぐと、頭の動く虎ができあがる(小3～, 1時間30分)。
オニバラ	新聞紙をまるめ、色紙などを使って鬼を作る。ハンカチ大の薄手の紙(カラベ)を軽くもみ、4すみに1本ずつ麻糸をテープでつける。麻糸の端は4本まとめて束ね、作った鬼をつけるとできあがり(小1～, 1時間)。
つつのすけ	ポンチでいろいろな形の穴をあけた紙にセロハンをはり、筒を作る。接着テープのしんに黒い紙をはり、ポンチで穴をあけセロハンをはる。もう1つのテープのしんにはトレーシングペーパーをはり、2つのしんをはりあわせて筒につける(小2～, 1時間30分)。
ひなこりん	風船をふくらませ、白い紙を水で濡らしてはりつける。カラベで飾り付けをして、できあがり(小2～, 1時間)。
ピカラクリ	裏が黒い紙に接着テープのしんの大きさをトレースし、不思議ペン(ブラックライトで光るペン)で好きなものの絵を描く。描いた線のところどころにピンで穴をあける。その紙をテープのしんにはって余分を取り除く(小1～, 1時間)。
ウォータースコープ	接着テープのしんに、小さく切った色ゼラチンシートと水を入れた透明なビニール袋をはる。もう1つのしんにトレーシングペーパーをはる。紙の筒を2つ作って、それぞれのしんを接着する。水袋をつけた紙筒を外側にして2つを重ね、内側の筒を前後に動かして、トレーシングペーパーに映る水の揺らぎを見える(小2～, 1時間)。
フラッシュバンド	ダンボールの枠に光る紙をはる。光る紙に油性マジックで絵を描き、その上に直径1～2mmのガラス球(透明なビーズ)を一面に並べる。薄い透明アクリルシートで覆う。平ゴムをつけて腕バンドのできあがり(小4～, 1時間)。



「ブチキャンドル」(こども歳時記「クリスマス」)



「おめでタイガー」(こども歳時記「お正月」)

音楽事業部



平成9年度の活動

本年度の事業はおおむね前年度をベースとし、個々のプログラムの問題点を解決することにより、全体のレベルアップを図った。特筆すべきことは〈動く子どもの城〉の活動や講師派遣などの件数の増加に象徴されるように、〔子どもの城〕で開発されたプログラムが外に飛び出して確実に全国に波及しているということだ。児童厚生員などを通じて全国の子どもたちに広がるといった実感を持てることは、今までの活動を客観的に見直し、責任を持ったプログラムを開発し続けていく大きな原動力となっている。〔子どもの城〕での活動をしながら全国各地へ赴くことは、件数が増すことで負担も多くなるが、そのバランスをとりながら良い形で継続させていくべきであると思われる。

①平常期間の活動

平常期間は、音楽スタジオAとBで講座・クラブを運営しているために、一般来館児・者活動で利用できるスペースは、日曜日・祝日などに音楽スタジオBで行うコンサートやイベントなどを別にすれば、基本的に音楽ロビーに限定されており、昨年とほぼ同様の活動を行った。

職員の固有のレパートリーや得意な楽器などに負うところが多いため、そのスタッフの特長を生かした日替わりのプログラムが主となっている。特に幼児の多い平日は、手遊び、リズム遊びなど親子で楽しむプログラムを中心で、週末の土・日曜日には小学生も多く来館するため、鑑賞型や楽器作り、楽器体験型のプログラムを配置した。リピーターとして多くの人に来館してもらうためには、プログラムの枠は同じでも、内容を絶えずマイナーチェンジして展

開していくなくてはいけない。本年度はそういった意味での多くの試行錯誤が繰り返された。

ア わいわいスタジオ

世界各地の民族音楽を定期的に取り上げて、来館する親子に鑑賞型の音楽体験を提供している。開館以来のプログラムであり、来館児・者の認知度も少しづつ高まっているようである。

運営面での留意点は「安定=マンネリ」にならないよう、常に新規の出演者による演奏を取り入れ、定番のプログラムとのバランスに気を付けてプログラムを組み立てることである。本年度の主な内容は次のとおりである。

定番のものとして、南米アンデス、中国、ブラジル、インドネシアなどの民族音楽や童謡、三味線（講座生による）、草笛などがある。新規のプログラムとしてアルゼンチンタンゴ、ブラジルのパーカッション、アフリカの太鼓とダンス、大工道具を使っての演奏などである。取り上げる音楽のジャンルを広げることや、体験的に音楽が楽しめる要素を取り入れることで、多くの来館児・者により興味を持つもらえるように努めた。

今後の課題として、多くの人への情報提供のため、早めのプログラム決定、および広報活動にも力を注ぎたい。

②特別期間の活動

ア 児童福祉週間（ゴールデンウイーク）

本年度で5年目となる「おんがくがスキ！」の公演（青



「おんがくがスキ！」の公演（青山円形劇場）

山円形劇場）を行った。前年度はスタート時のシンプルな3人編成で構成したが、本年度は音楽面での充実を図るために、ゲストのギタリストを加えた4人編成で行った。エレキギターの持つ多彩な音色とロックのビート感が加わり、表現の幅がより広がった。内容的にはコミカルでスピードイーな展開の中で、“楽器”ではない身の回りにある日常品を使い、音楽という存在をより身近なものとして感じられるように、そして今まで以上に音楽が楽しいものであることを強くアピールした。

(イ) 夏休み

全期間を2部に分けて新企画で構成した。1つは「おんがくの森」、もう1つは「おいですよパラダイス・アジア」。双方の企画は全く違った個性を持つため、実施日程などのバランスに留意し実行した。

8月後半にはさらに「作ってあそぼう 手作り楽器」を加えて実施。本年度は「レインスティック」という中南米の竹製民族楽器の制作に取り組んだ。

また、特別期間のレギュラープログラムとして定着した「ゆったり親子のおんがく園」も全期間実施した。

「おんがくの森」は通常期間のプログラムをベースとし、夏休み特別期間用として、会場の装飾やスタッフの衣装などにテーマ性を持たせた内容。音楽ロビー全体を「音があふれる場所」すなわち「おんがくの森」という設定にし、空間構成や環境作りなど、音楽以外の側面にも積極的に取り組んだ。子どもたちに“ごっこ遊び”と“音楽”を同時に体験してもらい、リラックスして音楽を楽しんでもらえるように努めた。

“森の衣装”貸し出しコーナーや、森のイメージ音のCDをBGMに使うなど、あたかも“森”にの中に滞在しているかのような状況・雰囲気を演出した。空間やスタッフのユニフォームも緑色で統一した。催しは「森のなかまのご



「おんがくの森」

いっしょライブ」「世界一周コンサート」など、ゆったりと音楽を楽しめるプログラムを行った。

「おいですよパラダイス・アジア」はインドネシアのガムランを中心にアジアの音楽を取り上げた。ガムラン体験プログラム「ひびけ！ガムラン」は、従来のプログラムより15分時間を延長し、より深く音楽体験ができるようにした。

ほかにインドネシアの竹の楽器アンクルンの合奏体験ができる「風のささやきアンクルン」、アジア各地のいろいろなジャンルの音楽を聞く「まなつのタイフーン・コンサート」、日本の盆踊り「夏だ！まつりだ！ダンスでBOMBばん！」、手作り楽器の「お宝屋台」などを実施した。

全期間をとおし、幼児から中・高校生までがそれぞれの興味の持ち方によって、さまざまな楽器体験ができる企画となった。演奏をするスタッフの技術的なレベルはそのプログラムの質を決めていく上で大きな要因となる。多くをアルバイトなどを頼りに運営している現実から考えて、事前の研修活動をより充実させ、またよりよい人材を計画的に確保していくことにもっと目をむける必要があると思われる。

(ウ) 開館記念

全館テーマの「ファミリーウィーク 見つめよう！世界を、地球を、夢を」を基本に考えて実行した。

音楽ロビーでは「世界の音楽こんにちは」「世界のあそび」「うたってハッピー」などの催しを実施。全て従来行っているプログラムに世界の音楽を取り入れた内容で、全館テーマに合わせて、“世界”を意識してプログラム作りに取り組んだ。新しい視点が加わったことで、従来のプログラムを一部改編しただけだが、新鮮なプログラムとなった。

また、音楽スタジオBでは「わいわいスタジオ」を行い、オタワ市（カナダ）の児童合唱団が来日し、さわやかな歌声を披露した。みんながよく知っている合唱曲のほかに、



日本・カナダ子ども交流コンサート「こんにちはカナダ」

遊び歌や日本の童謡の演奏、さらに〔こどもの城〕三味線講座、和太鼓グループの講座生とのジョイントもあり、とても温かい国際交流のコンサートになった。

スタッフだけで行うプログラムだけに止まらず、外国の子どもたちと日本の子どもたちが交流する機会も作れたことは大変大きな収穫だった。出会ったばかりの子どもたちが、合唱や合奏をとおして一瞬のうちに打ち解けて、交流の第一歩が始まった。音楽の持つ力を最大限にいかした“交流”であり、今後もこのような機会を積極的に作っていきたいと考える。

(工) 冬休み

季節行事の色が濃いこの期間は、例年通り、12月中はクリスマス関連の催し、1月は日本の伝統楽器をメインとしたプログラムを行った。本年度は、全体を統一した印象で実施するために「おんがく福袋」というタイトルにして、年末年始一貫して行った。

クリスマスは、「わいわいスタジオ どうようコンサート～うたおうクリスマス」を中心に、歌のプログラム「うたってハッピー」、世界の楽器を紹介する「いろいろ楽器コンサート」、そして「ストリートオルガンタイム」を配し、イベントの時間帯を増やした。来館児・者の少ない時期ではあるが、集客を狙った新プログラムの開発も今後の課題となると思われる。

正月は、和太鼓体験の「太鼓道場」をメインとし、年始めの伝統行事の趣を強く打ち出した。これは毎年楽しみに来館するリピーターが多く、人気のある恒例行事となっているが、一度に体験できる人数が少ないことが常に課題で、さらに規模を大きくした形での実施を試みる必要があると思われる。

また「いろいろ楽器コンサート」でも日本の楽器を多く取り上げ、箏や和太鼓の合奏を行った。この鑑賞型コンサ



「おはなしおんがくパンパカパーン！」

ートは、夕方に行われる場合が多かったが、日の短い冬という時期を考慮して、午後の早い時間に行うなどの工夫をした。たくさんの来館児・者に、日本や世界の音楽のさまざまな類似点や違い、そしてその音楽の背景などを紹介することができた。

(オ) 春休み

本年度は新企画でのぞんだ。従来のプログラムを改善したものと新企画を組み合わせて全体を構成した。中心となるプログラムは「おはなしおんがくパンパカパーン！」で、3つの物語を日替わりで行った。音楽と話を結びつけ、互いに相乗的な効果を最大限に發揮するように考えたプログラム。大型の絵本を見せながら、パーカッション、シンセサイザー、語りの3要素が場面場面で絡み合いながら物語を進めたものを2本、楽器自体が登場人物になって話を進めるもの1本を上演した。それぞれの音楽的な効果（使用方法）を工夫し、音楽と物語の双方の領域で、新たな表現方法を発見する場ともなった。今後とも挑戦していきたいプログラムである。幼児から小学校低学年まで、幅広く楽しんでいた。

また従来行っていた歌のコンサートに、低年齢児を意識した傾向が強かつたため、高学年向けの要素を取り入れた。「ごいっしょライブ」をアレンジした「いけいけキッズライブ」である。新たにシンセサイザー、シンセドラム、エレキギターなどを自由に使える子ども専用ステージを設けて、スタッフのバンドと合奏を楽しんだ。今まで以上に全体の一体感が得られ、1人ひとりが楽器に集中したり、周りと関連を持ちながら合奏しあったりする姿が多く見られた。

ほかには「いろいろ楽器コンサート」「ゆったり親子のおんがく園」を実施し、さまざまな年齢の子どもたちが自由にのびのびと遊ぶ中で、さまざまな音楽体験ができる環境を設定した。

③講座・クラブ

音楽事業部が開設している講座・クラブは、13種25コースと多岐にわたっている。本来、職員が担当することが望ましいが、それぞれが高い専門性を持つため、「三味線」「和太鼓」「ガムラン」など、外部講師に依存するものもある。

講座・クラブは開館当時とほぼ同様の組み立てで行われてきているが、ここ数年、ほとんどのコースが定員を超えて受講者を集めている。

都会の少子化の中で、幼児クラスの受講者数の減少も懸念されているが、応募者数の減少は多少みられたが、受講生の大幅な定員割れには至らなかった。講座の内容の人気の高さを表していると思われる。しかし、さらに少子化などが応募者数の動向に影響することを考慮し、講座のあり方を検討するとともに、館内外でのPR活動がより肝要になってくるであろう。

(ア) ほくらのサウンド

年度末、春休み直前の3日間に音楽事業部の講座・クラブが1年間の成果を発表する合同コンサートで、館内の青山円形劇場で開催。講座・クラブ生の発表の場であるとともに一般の来館児・者などに、広く「こどもの城」の活動を知ってもらうことも目的としている。しかし実際には、受講者数の多い日には、父母や親類でほぼ満員の状態である。ここ数年、講座・クラブ受講生の家族を対象とした催しという傾向が強く、改善を必要としている。

コンサートの内容的には、シンセサイザー、和太鼓、サンバなどの異なったジャンルの講座生が合同で演奏するなど、大変充実したものになっており、日ごろの活動では不可能なほかの講座・クラブとの合同演奏や受講生による司会進行など、子どもたちが生き生きと音楽を楽しむ姿が見

られた。ここ数年来恒例になってきている、「集まれ！みんなのリズム（サンバ）」の講座の演奏には、女性ボランティアと青年ボランティアが共演した。

(イ) こどもの城児童合唱団

「こどもの城児童合唱団」は、毎年夏休み期間中、1週間程度の合宿を行い、宿泊先のグループと合同公演を行うなどの交流を行っている。本年度は、中国の上海市で開催された「上海国際少年児童文化芸術祭」に招待され（参加児童の滞在費の一部を上海市が負担）、7月31日～8月9日の10日間、団員と保護者合わせ188人が参加した。

芸術祭には、東南アジア各国をはじめ、アメリカ、カナダなど10か国・22団体、800人が集い、参加各国の民族音楽やダンスなどが披露された。

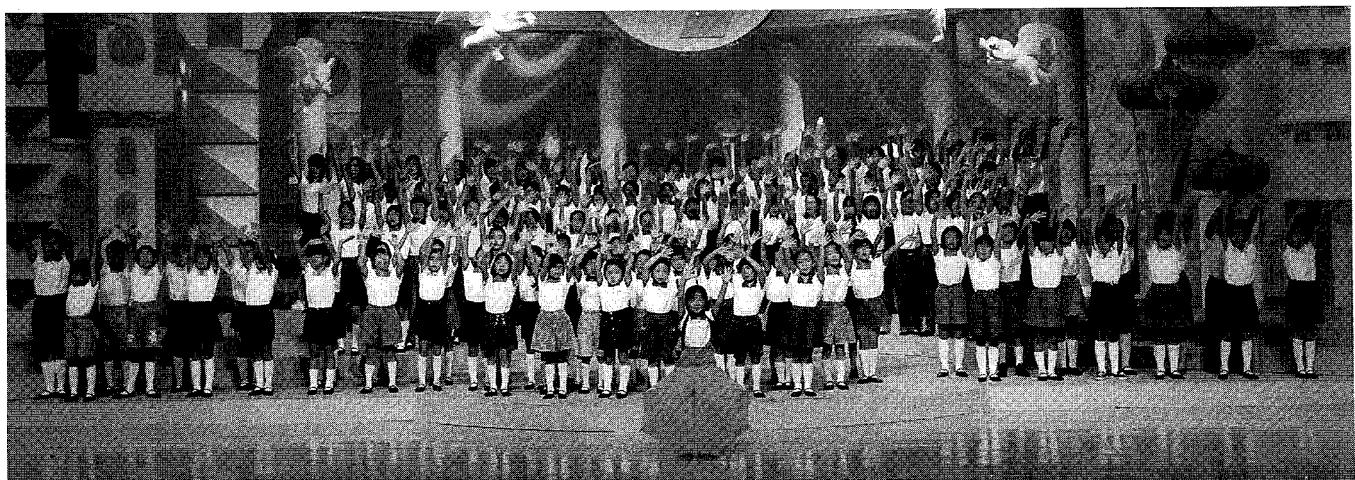
また、期間中、上海市の各区にある少年宮（児童館）で、参加各国の児童や少年宮に通う中国の子どもたちと、音楽や遊びを通じて、貴重な国際交流を体験することができた。

なお、芸術祭参加にあたっては、(財)東芝国際交流財団と(社)日本児童演劇協会から、参加費用の一部として助成を受けた。

④グループ活動

「こどもの城」全体のグループ活動利用件数の約半数を担当している音楽事業部。最も利用が多い1月から3月までの間はほとんど毎日の午前中、グループ活動を行うこととなる。

本年度は〈動くこどもの城〉の活動で館外へ出かけることが増えたこともあり、職員やプログラムで使用する楽器の日程調整など、配慮しなければならないことも多かった。限られた人的・物的資源の中で、より効果的な運営が求められる。



上海国際少年児童文化芸術祭で元気な歌声を披露した「こどもの城児童合唱団」。

平成9年度活動一覧表

①平常期間プログラム

名 称	期 間	備 考
みんなでライブ！	毎週火曜日 14:30	子どもたちのよく知っている手遊び、季節に合わせたパネルシアター、童謡、体を動かす遊びのプログラム。音楽を楽しむ中で親子のふれあいを感じるものを取り入れている。親子がペアになって楽しむダンスも好評で引き続き行っている。音楽ロビー。
水曜コンサート	毎週水曜日 15:30	歌遊び、手遊びを中心とした参加型プログラムと、アフリカ、インドネシア、ブラジル、中国の音楽を聞かせる観賞型プログラムを実施。観賞型プログラムでも、使用した楽器に触れたり、スタッフと演奏する参加部分を設けている。音楽ロビー。
みんなであそぼう 木よう広場	毎週木曜日 14:30	親子を対象としたプログラム。音楽を聞き、体を使って遊び、体を動かして自由に表現することをねらいとしている。聞くことに重点をおき、使用楽器もピアノなどに限定せずに民族楽器など幅広く取り入れている。音楽ロビー。
木ようワンダーランド	毎週木曜日 16:00	音楽スタッフ扮する「楽器屋さん」が世界各地の楽器を紹介。鑑賞と体験をねらいとしたプログラム。青年ボランティアによる導入の手遊びやサンバの演奏なども行っている。音楽ロビー。
楽器であそぼう	毎週金曜日 15:00	昨年から引き続いている「タンベロン」を用いて、サンバの音楽を子どもたちと楽しむことに重点をおいている。女性ボランティア中心の活動で、それぞれのよさが表れるように、彼女たちからのアイデアを積極的に取り入れて活動している。音楽ロビー。
きいてさわって 世界の楽器	毎週土曜日 13:00, 15:00 ※「おはなし人形広場」のない場合 13:00, 14:00, 15:00	演奏を聞く・楽器に触れて演奏してみるという体験をとおしてさまざまな音楽を楽しむ鑑賞・体験合体型のコンサート。日本・中国・インドネシアをはじめ世界の楽器を、毎回テーマ(弦楽器の仲間など)に沿って紹介。子どもから大人まで、興味を持ってじっくりと楽しむ姿が毎週見られ、幅広い年齢層に好評であった。音楽ロビー。
うたってハッピー	毎週日曜日・祝日 13:00, 14:00, 15:00, 16:00	バンド形式による弾き語り。レパートリーは、童謡のほか、アニメのヒットソングやドラマの主題歌など。リクエストも多く、子どもたちが積極的にロビーの楽器を楽しめる。ポーカリスト別に、個性豊かな内容を展開することができた。音楽ロビー。
サンバコンサート	「わいわいスタジオ」が音楽事業部担当でない日曜日・祝日 (隔週~月1・2回) 14:30	コンサートのオープニング、楽器紹介、ダンスの3部構成になっている。本年度はマンネリ化を防ぐために、ベーシックな内容を展開しながらも、演奏技術の向上を図った。音楽ロビー。
音楽広場		担当職員1人ひとりの個性とレパートリーを生かした手遊び、歌遊び、リズム遊びを中心とした豊富な内容に、パネルシアターやダンスなども加えたバラエティー豊かなプログラム。本年度は特に親子で楽しめる内容を充実させるよう心がけた。音楽ロビー。
いろいろ楽器コンサート	毎週日曜日 16:30	世界各地の楽器を演奏し、紹介する鑑賞型のプログラム。世界のさまざまな楽器を演奏し、リズムを感じさせ、楽器の特長を紹介。日本の子どもたちにとってなじみの薄い楽器や音楽だけではなく、文化まで感じとれるよう努力した。音楽ロビー。
わいわいスタジオ	日曜日・祝日 (平均的に隔週) 13:30, 15:30	来館している親子全般を対象にしているコンサート。幼児でも楽しめるように構成している。アフリカ、インドネシア、ブラジル、中国などの民族音楽、ジャズやロック、草笛、手作り楽器などさまざまなジャンルの音楽を取り上げるように努めている。音楽スタジオB。

②特別期間プログラム

名 称	期 間	備 考
〈児童福祉週間〉 わいわいスタジオ ゴルデンウィークスペシャル 「音楽の世界旅行5」	4.29, 5.3~5 13:00, 15:30	期間中トータルすると世界各地の音楽が楽しめるように日替わりでプログラムされている。今まで5回目となるため、内容が重複しないよう、ブラジルのカボエイラ、アルゼンチンタンゴなど、新しい分野の音楽を取り入れた。演奏のほかに、「ピアノ生演奏」「音楽博士コーナー」「こどもニュース」のミニコーナーを設け、全体を構成。平常期間の「わいわいスタジオ」をより充実させた特別番組。音楽スタジオB。
〈 リ 〉 きいてさわって世界の楽器スペシャル 「チャレンジ！インドネシアのガムラン」	4.26 13:00, 15:00	インドネシア・バリ島のガムランの鑑賞・体験型コンサート。平常期間の土曜日に行っているものを特別期間向けにアレンジして、たくさんの子どもたちに対応できるようにした。職員のほか、ガムラン演奏家をゲストに迎え、インドネシアや楽器にかんするクイズや話を交えながら楽しく進行。スタッフとともに子どもたちは元気にぎやかに舞台で演奏し、見ている親たちも一緒に楽しめる盛大なコンサートとなった。音楽ロビー。

名 称	期 間	備 考
〈児童福祉週間〉 うたってハッピー	4.27, 29, 5.3~5 12:30, 13:30, 15:30, 16:30	歌とシンセサイザー、ベース、ドラムという楽器編成のバンドで、さまざまな歌を演奏した。歌のお姉さんが子どもとコミュニケーションを取りながら進行し、子どもたちは歌ったり、踊ったり、さまざまな楽器でぎやかに音楽を楽しんだ。音楽ロビー。
〈 リ 〉 いろいろ楽器 コンサート	4.27, 29, 5.3~5 16:00	世界の民族楽器を紹介するコンサート。アフリカの太鼓、ブラジルのサンバ、インドネシアのアンクルン、カリブ海のスチールドラムなど、毎回4・5種の楽器を演奏。子どもたちの知っている童謡なども演奏に取り入れた。音楽ロビー。
〈 リ 〉 ストリートオルガン タイム	4.29, 5.3~5 14:00, 16:30	ハウステンボスの松本氏制作のストリートオルガンを楽しんだ。だれでもハンドルを回すと音楽を楽しめる特性を生かし、スタッフの演奏に続いて、その場に居合わせた人に実際に演奏体験をしてもらった。本年度は2人が同時にハンドルを回すと音ができるようにオルガンを改良した。このため親子や友だちどうしての参加が目立った。音楽ロビー。
〈 リ 〉 ゆったり親子の おんがく園	4.27, 29, 5.3~5	0~3歳の幼児と親がゆっくりと音のできるおもちゃ(音具)で遊ぶことのできる部屋。親子のふれあいを楽しむスペースとして位置付けている。大勢の親子に利用された。音楽スタジオA。
〈 リ 〉 おんがくがスキ!	5.5 11:00, 13:30, 15:30	「こどもフェスティバル」の1プログラムとして、青山円形劇場で公演。(こどもの城) オリジナルプログラムのコンサート。今年は新たにギターを加えて、また一味違った構成となった。ギターの華やかな演奏とがらくた楽器との絡み合いが目玉となった。
〈夏休み〉 おんがくの森	7.19~8.3, 8.26~31	音楽ロビー全体を「緑深い森」という設定にし、空間を構成・演出した。楽器やスタッフも森の一部となり、音楽とともに居心地の良い空間を提供。森の音のBGM音や子どもたちへの衣装貸し出しなども行った。催しは歌のコンサート「森のなかまのごいっしょライブ」、世界の楽器を紹介するコンサート「世界一周コンサート」、ストリートオルガンの「オルガン博士のコンサート」、「がらくた楽器実演コーナー」を実施。
〈 リ 〉 おいでよ バラダイス・アジア	8.5~8.24	音楽ロビー全体を南国ムードに統一。メインにはインドネシアのガムランの演奏と体験をする「ひびけ! ガムラン」。時間枠を多くとり、十分に体験できるようにした。さらに、インドネシアの竹の楽器アンクルンを体験する「風のささやき アンクルン」、箏や三味線などによる「まなつのタイフーンコンサート」、手作りの楽器やがらくた楽器をたたき売りふうに紹介する「お宝屋台」を実施。
〈 リ 〉 夏だ! まつりだ! ダンスで BOMB ぼん!	8.5~8.17 14:30	アジアの中の日本を意識して「おいでよ バラダイス・アジア」の一環として実施。歌と踊り、オリジナルの音頭を生演奏し、子どもだけではなく、大人も加わって楽しめる盆踊り大会となった。音楽スタジオB。
〈 リ 〉 作って遊ぼう 手作り楽器	8.19~8.24 13:30, 15:30	中南米の竹製民族楽器「レインスティック」の制作と演奏。竹筒に楊枝程度の太さの杭を数十本打ち込み、竹筒の中に小豆を入れる。筒の天地をひっくり返すと、小豆が杭にぶつかり、雨のような音を奏でる。本格的な手作り楽器は今回が初めての試み。小学校3年生以上が対象。予約制、定員30人で行った。参加費1,000円。音楽スタジオB。
〈 リ 〉 ゆったり親子の おんがく園	8.5~8.31	平成6年度から行っている小さな子どもたちと保護者のためのスペース。当初から通ってきている親子がそろそろ対象年齢を超えてはじめている。音楽スタジオA。
〈開館記念〉 世界の音楽こんにちは	11.1~3 13:00, 16:00	全館テーマ「見つめよう! 世界を、地球を、夢を」に合わせ世界の音楽を紹介。3日間でトリニダード・トバコ、日本、ブラジル、アフリカ、インドネシア、中国の6か国を取り上げた。年齢に関係なくだれでも興味を持って楽しめるコンサートとなった。音楽ロビー。
〈 リ 〉 世界のあそび	11.1~3 14:00	世界の歌遊びや手遊び、ダンスなどで遊ぶプログラム。日ごろ行っている「音楽広場」の中に、アメリカ、フランス、中国、日本などの国を意識した曲を多く加え、一味違った特徴を出した。親子でリズムに合わせて体を動かし、元気いっぱいに遊び回った。音楽ロビー。
〈 リ 〉 うたってハッピー	11.1~3 15:00	世界各国の歌、童謡などを意識して多く取り上げた。スタッフが歌、ドラム、ベースで演奏し、子どもたちは歌に合わせて、太鼓、タンバリン、木琴などで合奏したり、歌ったりした。特に幼児に人気のある定番プログラム。音楽ロビー。
〈 リ 〉 日本・カナダ子ども交流 コンサート 「こんにちはカナダ」	11.9 13:30, 15:30	オタワ中央児童合唱団(カナダ)と(こどもの城)三味線講座・和太鼓グループの子どもたちによる、交流コンサート。合唱と三味線のジョイント演奏も1曲行った。カナダの女の子たちの美しい歌声、日本の和太鼓の勇ましい音、三味線の粋な響き——それぞれの子どもたちに強い印象を与えていたようだ。カナダ紹介の話やスライドも交え、もりだくさんの内容のコンサートとなった。コンサート終了後の交流パーティーも含め、出演者たちにとって国際交流の得難い経験を得たようだ。音楽スタジオB。

名 称	期 間	備 考
〈冬休み〉 「おんがく福袋」 うたってハッピー スリートオルガンタイム 太鼓道場	12.26～1.7 13:00, 15:00 12:00, 16:00 14:00(1.3～7)	期間をとおしてさまざまな音楽があふれ、何が飛び出してくるのかわからない「福袋」のイメージを持った場所作りを行った。年末と年始の内容を分け、年末はクリスマスを楽しめるよう歌のコンサート「うたってハッピー」を中心に、さまざまなクリスマスソングを演奏に取り入れた。年始は、お正月にちなみ和太鼓の合奏体験「太鼓道場」を実施。今回は参加者により深く楽しい体験をしてもらうために、そろいのはっぴを貸し出した。お正月にふさわしい明るい雰囲気をかもしだすことができた。音楽ロビー。
〈 リ 〉 わいわいスタジオ～どう ようコンサート「うたお うクリスマス」	12.21, 23 13:30, 15:30	歌のお姉さんのミガちゃん、ピアニストのタッちゃん、人形のジェームスがクリスマスパーティーを開くために集まった。その1日の物語をクリスマスの歌を交えて繰り広げる、親子で楽しめるクリスマスコンサート。音楽スタジオB。
〈 リ 〉 ゆったり親子の おんがく園	12.26～1.7	新年を迎え、小さな子ども連れの家族が目立った。子ども1人に付き添う大人の数が多く、大混雑した。休憩場所としてではなく、音楽遊びの場としてアピールできるようにしていかたい。音楽スタジオA。
〈春休み〉 おはなし おんがく パンパカバーン！	3.30～4.5 14:00	ギャラリーで行われた「ニッサンゆかいな絵本と童話展」と関連させた企画。絵本の持つおもしろさと音楽の持つおもしろさを組み合わせ、互いの魅力が引き出されることを意図した企画。楽器が主人公の人形劇「タンちゃんとでんでん」、大型絵本の「ぬくぬく ぬくすけ」の2本のオリジナルストーリーと、ニッサン絵本のグランプリ作品「ゆめにうかぶしま」の全3本を日替わりで上演。音楽ロビー。
〈 リ 〉 いけいけキッズライブ	3.26～4.5	スタッフによる生演奏の弾き語りプログラム。スタッフのステージに対面して子ども用の「いけいけキッズステージ」を設け、エレキギターやシンセドラム、シンセサイザーを演奏できるように用意し、高学年の子どもたちも楽しめるようにした。音楽ロビー。
〈 リ 〉 いろいろ楽器コンサート	3.26～29 3.30～4.5 14:30 15:30	世界の音楽をスタッフが演奏、紹介する観賞型のプログラム。アフリカの太鼓、カリブ海のスクールドラム、インドネシアのアンクルンなどを取り上げた。あらかじめ楽器をステージ上に用意し、スムーズなプログラム進行を心かけた。音楽ロビー。
〈 リ 〉 手作り楽器のワークショ ップ「おもしろ笛をつくろ う」	3.26～29 13:30, 15:30	フィルムケースを使って2種類の笛を作る(各回1種)。小学校1年生から安全に使いこなせる道具を選び、所定の30分の間に全員が音を出せることを目標とした。身の回りにある材料を工夫することで、音が出る“笛”ができることに、みな一様に驚きを感じたようだ。音楽スタジオB。
〈 リ 〉 ゆったり親子の おんがく園	3.26～4.5	大きな子どもが増える特別期間に親子で安心して過ごせる場所として、多くの来館児・者に利用されている。開始当時から使っている音具が消耗し、新しいものを徐々に入れ替えていかなければならない時期にきている。音楽スタジオA。
〈春休み〉 ぼくらのサウンド'98	3.20 18:00 3.20 19:30 3.21 15:00 3.22 13:00 3.22 16:30	本年度は、合唱団が上海で公演したり、ノルウェーの演奏家との交流、また青山バレエフェスティバルへの参加と国際的な交流の機会が多くあつたため、世界各国の歌を取り組んだ。アフリカの太鼓、和太鼓、インドネシアのアンクルンなど民族楽器も演奏。出演は、おかさんといっしょリトミック、合唱講座、児童合唱団、混声合唱。青山円形劇場。 夏の上海での公演をそのまま再現した。中国語の曲目解説や中国公演で披露した和太鼓やソーラン節なども演奏。出演は、合唱講座、児童合唱団、混声合唱。青山円形劇場。 恒例となっていた合同演奏ができなかつたが、4つのグループが1つのコンサートの流れをうまく構成し、にぎやかな雰囲気を演出できた。出演は、エレクトリック・アンサンブル、シンセワーク初級、和太鼓グループ、集まれ！みんなのリズム。青山円形劇場。 幼児と小学校低学年クラスは「手」「目」「口」など身体をテーマに構成。オルフル楽器の合奏と声やボディーパーカッションを披露。高校生までのクラスは迫力あふれる打楽器アンサンブルを披露した。出演は、リズム・ムービングA・B・C、リズム・ムービング&パーカッション、パーカッション・アンサンブル。青山円形劇場。 “日本の音”三昧線によるわらべ歌と長唄古典曲から、ガムランによるインドネシアの音楽へ自然につながるプログラム。子どもたちによるインドネシアの踊りが印象的だった。三昧線の3クラスとガムラン2クラスの合同コンサート。青山円形劇場。

④講座・クラブ

〈講座〉

名 称	内 容・定 員	受 講 数	曜 日・日 時	備 考
リズムムービング A	(人) 3歳児(12)	(人) ① 9 ② 9 ③ 10	火曜日 13:30~14:30	自分の名前を使ってリズム遊びをすることから始まって、身の回りのさまざまなことからリズムを感じさせ、子どもたちの眠っている感覚を振り動かし、創造性を引き出し、はぐくむことをめざした活動を行っている。主にコンガ、ポンゴなどの打楽器、リズムやメロディー、ハーモニーを即興で演奏できるオルフル楽器を使用しているが、幼児のクラスはそのほかに、全身でリズムを表現したり、造形活動を行っている。 受講料=1期17,000円、2期18,000円、3期13,000円(全32回)。
リズムムービング B	4歳児(15)	① 16 ② 14 ③ 13	火曜日 14:30~15:30	
リズムムービング C	5歳児(15)	① 13 ② 10 ③ 9	火曜日 15:30~16:30	
リズムムービング &バーカッション	小1~3(15)	① 17 ② 14 ③ 14	火曜日 16:30~17:30	リズムによる自己表現も行う。さらに読譜力など、音楽的基礎力の理解、打楽器演奏法の導入、オルフル楽器を使った即興演奏をするなど一步踏み込んだ指導を行う。 受講料=1期17,000円、2期18,000円、3期13,000円(全32回)。
おかあさんもいつしょ リトミック初級	(組) 3~5歳児と母親(20)	(組) ① 21 ② 15 ③ 15	水曜日 13:30~14:30	子どもの発達段階に即したリズム遊び、歌遊び、簡単な造形活動をとおして親子のコミュニケーションを図り、音楽を楽しむ心と豊かな感受性を養うことをめざしている。 受講料=1期17,000円、2期18,000円、3期13,000円(全32回)。
リズム II	4歳児と母親(20)	① 20 ② 17 ③ 15	火曜日 14:30~15:30	初級で培ってきた感性や音に対する感受性を引き続き伸ばすよう心かけ、それぞれの成長の実際に合わせながら、個性豊かな発達を促すような活動へとさらに高めている。 受講料=1期17,000円、2期18,000円、3期13,000円(全32回)。
リズム III	5歳児と母親(20)	① 15 ② 14 ③ 14	火曜日 15:30~16:30	就学を控えるころになると子どもの感受性も親離れが始まり、子どもたち同士の接触の機会が多くなる。生き生きと目を輝かせて音楽を楽しみ、遊んでいる子どもたちが印象的。受講料=1期17,000円、2期18,000円、3期13,000円(全32回)。
おんがく星 みつけた	2歳児と母親(30)	① 30 ② 30 ③ 30	木曜日 10:30~11:30	就園前の幼児と母親が対象で、リズム遊びや手遊びを中心に、造形活動や身体表現などを取り入れた活動を行っている。母親とスキンシップをしながら楽しく音楽と遊べることをめざす。受講料=1・2期15,000円、3期14,000円(全29回)。
シンセワーク初級	(人) 小5~高3(8)	(人) ① 10 ② 10 ③ 10	金曜日 17:00~18:00	シンセサイザーの基礎やコンピュータとの接続、レコーディングなどを体験する基本講座。2期後半から3期にかけてはバンド実習も行う。 受講料=1期11,000円、2期12,000円、3期9,000円(全32回)。
和太鼓グループ	小3~高3(12)	① 13 ② 9 ③ 10	土曜日 14:00~15:30	日本の伝統音楽の1つ、湯島(東京・文京区)に伝わる「助六太鼓」のコース。太太鼓、中太鼓、締め太鼓の3種の太鼓を使って演奏する組み太鼓。楽譜は一切使わずに、口唱歌で指導。 受講料=1期17,000円、2期18,000円、3期13,000円(全32回)。
集まれ!みんなのリズム	小3~中3(10)	① 14 ② 13 ③ 13	火曜日 15:30~17:00	ブラジルの独特的な打楽器を使い、サンバのリズムを楽しくアンサンブルするコース。合奏だけにとどまらず多彩なリズムを生かし、体操、ゲームなどの体を使う活動も。 受講料=1・2期15,000円、3期14,000円(全29回)。



中南米の竹製民族樂器「レインスティック」の制作・演奏をした
「作って遊ぼう手作り樂器」

名 称	対象・定員	受講数	曜 日・日 時	備 考
合唱講座	(人) 小1～4 (30)	(人) ① 32 ② 29 ③ 31	土曜日 13:30～15:30	遊ぶことをとおして無理なく声を出し、身体表現なども取り入れて、上手に歌うことだけではなく、体全体で音楽を表現するユニークな合唱活動プログラム。 受講料＝1期17,000円、2期18,000円、3期19,000円(全32回)。
混声合唱	高校生以上 (15)	① 33 ② 31 ③ 29	〃 19:00～21:00	子どもたちに豊かな音楽や表現のすばらしさを伝えることをめざしている。コンサートや合宿などのときは、常に「子どもの城児童合唱団」と活動をともにしている。 受講料＝1期17,000円、2期18,000円、3期19,000円(全32回)。
エレクトリック アンサンブル	小5～高3 (8)	① 13 ② 12 ③ 13	日曜日 10:00～12:00	アンサンブルの中での各楽器の役割が分かりやすいバンド形式のプログラム。無限の音色が操れるシンセサイザーを活用することで、さまざまなジャンルの音楽にチャレンジ。 受講料＝1期17,000円、2期18,000円、3期19,000円(全29回)。
三味線講座 初級	小1～高3 (12)	① 6 ② 7 ③ 6	〃 10:00～11:15	何人かの新メンバーが加わり、継続してきた受講生にさらに活気が加わった。毎年出演している田島講師主催の「三味線のつどい」では越後獅子を演奏。開館記念特別期間に行われた日本・カナダ子ども交流コンサート「こんにちはカナダ」でオタワ中央児童合唱団の子どもたちと共に演奏し、慣れない英語で恥ずかしそうに国際交流を試みていた。
〃 中級	小1～高3 (12)	① 11 ② 10 ③ 10	〃 11:15～12:30	受講料＝1期17,000円、2期18,000円、3期19,000円(全32回)。
〃 上級	小1～高3 (12)	① 6 ② 5 ③ 5	〃 12:30～13:45	
ガムラン講座	小1～高3 (15)	① 13 ② 13 ③ 13	〃 14:00～16:00	インドネシアの青銅の打楽器アンサンブル「ガムラン」の初心者のクラス。さまざまな音楽的な要素が潜在しているガムラン音楽はアンサンブルでその特異さが分かる民族音楽。 受講料＝1期17,000円、2期18,000円、3期19,000円(全32回)。
大人のための ガムラン講座	18歳以上 (15)	① 14	〃 18:00～20:00	インドネシアの代表的な民族音楽である「ガムラン」の幅広い世界を見聞し、既成の音楽観にとらわれずに、音楽の多様な可能性を体験する入門的なコース。 受講料＝17,000円(1期のみ)。

〈クラブ〉

名 称	対象・定員	受講数	曜 日・日 時	備 考
パーカッション アンサンブル	(人) 小4～高3 (15)	(人) ① 23 ② 23 ③ 22	火曜日 17:30～19:30	さまざまな打楽器を使い演奏したり、体を楽器にしてリズム打ちを行ったり、子どもたちのはじけるようなリズム感を表現。初心者も、ていねいな指導で、すぐに楽しんでいる。 受講料＝1期17,000円、2期18,000円、3期19,000円(全32回)。
子どもの城 児童合唱団 I	小2～3 (30)	① 50 ② 49 ③ 47	土曜日 15:30～17:30	音楽をとおし、協調性・創造性・幅広い知的好奇心を養い、豊かな音楽性を育てることを目的としている。合唱活動だけでなく野外活動、シンセサイザーやリズム楽器による合奏なども体験するユニークな総合プログラムを展開。 受講料＝1期17,000円、2期18,000円、3期19,000円(全32回)。
〃 II	小4～中3 (60)	① 80 ② 76 ③ 77	〃 17:00～19:00	
ガムラングループ	小2～高3 (15)	① 16 ② 14 ③ 14	日曜日 16:00～18:00	ガムラン講座の継続者のコース。年齢の差を超えて、子どもたちは打楽器の合奏を楽しむことができる。初級卒業者と経験者が一緒にアソブをして練習している。 受講料＝1期17,000円、2期18,000円、3期19,000円(全32回)。

三味線とガムランの受講生の合同コンサート（ぼくらのサウンド'98）



④その他(動く子どもの城など)

名 称	期 間	備 考
〈動く子どもの城〉 「がらくた楽器などの コンサート」	7.5・6	フィルムケースを使った手作り楽器の講習会と、インドネシアの民族楽器「アンクルン」のコンサートを「桑名市子ども文化祭」(愛知県)の1プログラムとして行った。アンクルンは竹で作られたハンドベルのような楽器で、演奏には大人数を必要とするため、コンサートでは演奏に加え子どもたちを舞台に集めて体験も行った。さらに、地域の児童厚生員を対象にした講習会では、さまざまな笛の制作、アンクルンの合奏体験を行った。
合唱団夏期合宿(上海)	7.31～8.9	合唱団の初めての海外公演を兼ねた合宿。中国上海市で実施された'97上海国際少年児童文化芸術際に参加。アメリカ・カナダ・ロシア・韓国・ベルギー・オーストラリア・ハンガリー・タイなどの22団体と中国の少年宮の子どもたちと交流した。
〈講師派遣〉 「うた・ゲーム・ダンス」	9.3・4	宮城県の児童厚生員を対象に体育・音楽合同で講習会。県内2か所で、午前「ゲーム・運動遊び」、午後「音楽表現活動」を実施。受講者は各日40人ぐらい。音楽は手遊び、歌遊び、リトミック的な表現活動など、幼児や親子を対象にした内容。運動遊びの際にもリズムに主体をおいた生演奏を入れ、音楽・体育の融合した活動も行った。宮城県中央児童館・宮城県児童館連絡協議会児童館職員研修会(古川市、大河原町)。
〈講師派遣〉 子育てサークルの 援助方法	9.11, 18, 1.22	保育所の主任保母などを対象とした、日本保育協会主催「地域子育て支援センター担当者育成研修会」(会場=子どもの城)で、親子のリズム遊びをテーマにした乳・幼児篇と保育者と子どもたちの遊びをテーマにした幼児篇の指導を行った。現場ですぐ使えるような内容を心かけた。昨年に引き続き2回目の開催。約150人が参加。
〈動く子どもの城〉 「手作り楽器のワークシ ョップ」	9.18	児童館職員を対象にした京都府児童館職員研修会で、フィルムケースを使って4種類の笛を作るプログラムと、身近な道具を使って音楽を楽しむプログラム「がらくた楽器」を実演。スプーンのカスタネットやタンバリンの独特な演奏方法を紹介した。
〈動く子どもの城〉 「おんがくがスキ！」	10.25・26	茨城県土浦市に新設された県立生涯学習センターで講習会と公演を実施。会場のキャバシティーの割りには入場者が少なく閑散としていたが、その分アットホームな雰囲気となった。
〈動く子どもの城〉 「手作り楽器のワークシ ョップ」	11.7	身近な廃材を用いた楽器作りを紹介。1つはフィルムケースで作る4種の笛の制作と演奏。もう1つはボリバケツを材料にした手作りの太鼓を使い、どのように遊べるかといったリズム合奏の「太鼓道場」の実技指導を行った。山口市教育委員会主催。
第9回 三味線のつどい	11.24	三味線講座講師の田島佳子氏と音楽事業部が共催する演奏会。三味線講座生も3クラスそろって出演。長唄古典曲「越後獅子」を演奏。お囃子の専門家との共演で、より日本の音を身近に感じられた。青山円形劇場。
〈動く子どもの城〉 「おんがくがスキ！」	11.30・12.1	「ガドガド」というグループ編成での初公演。レギュラーの「おんがくすき」と基本的なコンセプトは同じだが、より手作り楽器の演奏面を充実させた内容。フィナーレに全員参加のダンスを取り入れるなどの新しい構成も試みた。徳島県青少年センター(徳島市)。
〈講師派遣〉 指導者のための乳幼児の 手遊びリズム遊び	1.28	徳島県社会福祉協議会乳児保育研修会・保育所中堅保母研修会で、県内の保母を対象とした手遊びリズム遊びの実技指導。参加者は約200人。午前は、音楽の要素や表現活動の内容、指導者の役割などについての実技を交えた講義、午後は、実際のプログラムの組み立てに沿って実技を行った。200人という大人数のため、広いホールを使用したが、人数が多すぎた感がある。地域的に、情報量が日ごろ少ないところで受講者の熱意が現れていた。徳島県立福祉センター。
〈講師派遣〉 「手作り楽器と 幼児音楽あそび」	1.29	千葉県内の児童厚生員を対象に実施。フィルムケースを使い4種の笛の制作と演奏方法の指導、そして幼児から楽しめる手遊びとそのアレンジ方法を実際に遊びながらの講習。千葉県民連主催、参加者60人。
〈講師派遣〉 「親子であそぼう」	2.20	今年で3回目の要請になった。0～1歳児とその母親、約35組とスタッフが参加。歌の演奏や、手遊び、音遊び、身近なもので作った楽器を見せるコンサート色を濃くしながら、それらの家庭での取り入れ方も紹介した。杉並区保健所(東京都)。
〈動く子どもの城〉 「がらくた楽器などの コンサート」	2.27・28	フィルムケースを使った手作り楽器の講習会と、インドネシアの民族楽器である手作り楽器「アンクルン」のコンサートを上山市(山形県)体育文化センターで実施。講習会は地域の児童厚生員を対象にさまざまな笛の制作、アンクルンの合奏体験を行った。主催は、上山市福祉事務所。

AV 事業部



平成9年度の活動

AV事業部では、できるだけ多くの子どもたちに、さまざまな映像体験を通じ豊かな感性を養ってもらいたいと考えている。このため、当初から「来館する多くの子どもたちを対象に、多種の映像関連プログラムを提供する」という活動に主眼を置いてきた。

ここ数年は、外部の団体やサークルなどから依頼を受けて講師を派遣するというケースが確実に増加している。開館以来行ってきた活動がようやく外部に浸透してきた結果ではなかろうか。

本年度は「利用年齢層を拡大しつつ、活動内容を科学の分野にまで広げて行きたい」という近年の目標に近づくため、いくつかの新たな試みを行った。ボランティアとの協力事業(「走れ! キャッスルトレイン~こども鉄道模型運転会」)や企業との提携事業(「映像ワンダーランド~ドラマと特撮」)などである。両事業とも職員とボランティア、あるいは企業のスタッフとが対等な立場でディスカッションを重ね、企画を立案していった。

人的・物的資源に限りがある中、より質が高く興味深いプログラムを数多く提供するためにも、この新たな芽を良い方向に育てて行ければと考える。

①みる(一般来館児・者への活動)

(ア) AVライブラリー

【自由利用】

本年度、目立って利用の多かった作品は『名探偵コナン』『ドラえもん』『美少女戦士セーラームーン』で、これらの

作品の受け付けをしない日がなかったと言つてもいいくらいであった。これは、テレビで放映中だったり、映画化されたりしたことで子どもたちはなじみがあり、安心して見られた結果であろう。

AVライブラリーでは、かねてから内容的には優れていながらも、なじみのないことからあまり利用されていない分野のソフトの視聴促進として、別刷のカタログを作ったり、ビデオソフトのパッケージを展示したりしてきた。しかし、人が手にとってみているだけで、実際の利用に結び付く頻度はまだまだ低い。さらなる視聴促進活動として、ライブラリー内で、遊びなどの体験を盛り込んだ「特集」を計画し、「つり特集1、2」と「グルメ特集」の計3回を実施した。

【つり特集】

最近、ますますアウトドアの人気が高まり、つりに出かける人も多くなっている。そんなブームを意識して実施したこの特集では、予想以上の人気が集まつた。パソコンの前で何十分も頭を抱えクイズを解いている姿や、土・日曜日ともなると、父親と子どもが糸の先端に磁石の付いた特製のつりざおで魚(このプログラムのために手作りした)をつり上げる姿も多くみられるなど、年齢、性別を問わず大盛況だった。

ビデオの視聴促進には大きくながらなかつたが、試行錯誤しながら続行して行きたい。

【グルメ特集】

予想より子どもの参加が少なく、逆に平日の空いてる時間帯に人がクイズを楽しんでいる姿が見られ、意外な反

響があった。また、ライブラリー内も、作り物の食べ物や食器の装飾をしてレストランの雰囲気を作りあげたことも特集の効果を盛り上げたようだ。

今後も、「見る」だけの AV ライブラリーから、「参加」もできる施設へと変貌させることを念頭に置き、特集を続けて行きたいと考えている。

(イ) こどもの城映画劇場

優れた子ども向けの映画作品を選んで上映する「こどもの城映画劇場」は、平常期間の毎月第2日曜日に実施している。平成元年度から開催日を決めたことで、来館児・者に定着し、最近ではリピーターの姿も見られるようになった。上映プログラムの問い合わせも増えてきているので、作品選定の時期を早め、数か月前から「お城スコープ」(AV事業部の催し案内のフリーペーパー。毎月1回発行)での告知を心がけている。

作品は、こどもの城フィルム・ライブラリー「武藤行雄記念文庫」(現在108本のカナダの国立映画制作庁=NFBの作品を中心に所蔵)から毎月テーマを決めて選んでいる。多彩な技法を駆使した優れた内容の子ども向けアニメーションを中心とした文庫である。

本年度は、フランシーヌ・デスピアン、コ・ホードマンなどベテラン作家の特集、子どもの権利条約啓発のために作られた『ライツ・フロム・ザ・ハート』シリーズなどを上映した。カナダ作品以外では、[こどもの城]の「みる・しる・つくるアニメーション・キット」のオリジナル・アニメーション『キップリング Jr.』『キッズキャッスル』、イギリスやスウェーデンの作品などを特集した「世界のアニメーション」を実施した。

上映時には、最初に司会者が作品のみどころなどを解説し、上映後に感想や意見などをアンケート用紙に記入してもらっている。子どもたちがどのように作品を見てくれた

ゾートロープを使った、アン・プロムバウトさんのワークショップ



のかなどが分かり、作品選定や上映順の決定、解説の仕方や内容などを考える上で大きな手がかりになっている。

夏休み特別期間には「第5回キンダー・フィルムフェスト・ジャパン」を実施した。世界の子ども向け映画やアニメーションの上映、ワークショップ、セミナーなどで構成する「こどもの城映画劇場」の拡大版ともいえる催しで、[こどもの城]を本会場として実施するのは今回で2回目。

ベルリン国際映画祭の「キンダー・フィルムフェスト・ベルリン」との協力関係を結んでいる開催実行委員会と[こどもの城]と共同で運営し、上映作品やゲストを決定している。今回は、昨年上映して好評だったイギリスの短編アニメーション『アニーとティディベア』をメインプログラムに加え、声優の生吹き替え(ボイス・オーバー)で上映し、好評を博した。このほかの短編作品は、『大きくなったらトラになるんだい』『アニメーターの夢』(以上イギリス)、『キッズキャッスル』『MOVICAL』(以上日本)を、長編劇映画はベルリンのグランプリ受賞作『マイ・フレンド・ジョー』(ドイツ・アイルランド・イギリス合作)、『おじいちゃんを探して』(スウェーデン)、『絵の中のぼくの村』(日本)を上映した。

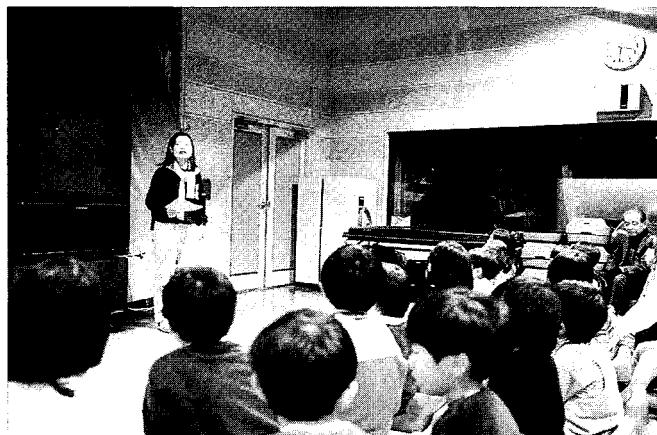
前記の作品は子どもたちが子どもの視点で作品を選ぶ「ベスト・ビジョン・アワード」にノミネートされ、公募で選ばれた10人の子どもたちが審査。長編は『おじいちゃんを探して』、短編は『アニーとティディベア』が選ばれた。

上映以外にも、『大きくなったらトラになるんだい』の作者アン・プロムバウトさんによる、動画(アニメーションの連続した絵)を描き、ゾートロープという視覚玩具を使って絵を動かして見るワークショップ、糸電話やアナログ・レコードなどを用いて音の秘密を探る体験型パフォーマンス、日本映像学会の協力によるデジタル・アニメーションのセミナーを実施した。

(ウ) ビデオによる上映会

「パンダイビデオ試写会」は、日曜日・祝日の AV ライブラリーの混雑対策として、地下1階フリーホールに臨時会場を設けて行っている。『ウルトラマン』シリーズをメインに、名作ものとのカップリング上映をした。上映日数74日(前年度84日)、上映回数524回(前年度586回)であるにもかかわらず、総利用者数は11,964人(前年度11,349人)と増加している。会場の関係で冬休み特別期間は、前年度と同様上映を行わなかった。

毎週金曜日に実施している「おもしろビデオ館」では、AV ライブラリー収蔵作品から、優れた作品ではあるが、日



「おもしろビデオ館」

常、子どもたちの目にあまり触れることのない短編ビデオ作品を事前に解説を加えて上映している。

本年度は、恒例の「世界絵本箱シリーズ」、岩波ナガオカビデオや日本の昔話を特集したプログラムを取り上げた。また、前年度まで毎週木曜日に行っていた「ビデオ玉手箱」(ビデオ遊びなどのプログラム)の利用者が減少のため、比較的好評なビデオ上映に変更。毎月の最終木曜日に「おもしろビデオ館木曜スペシャル」と題して、金曜日の「おもしろビデオ館」で好評だった作品のアンコール上映を行った。

②しる・つくる(一般来館児・者への活動)

(ア) 不思議な映像実験室

AV事業部の映像ワークショップは「不思議な映像実験室」と総称している。“視覚玩具”にかんするプログラムと、“ビデオで遊ぶ”プログラムの2種類に大きく分けることができる。

映画発明以前の“視覚玩具”といわれる映像おもちゃを題材にしたものを中心には、数種のプログラムを行っている。映画発明以前に、動く画などを見るために考え出された視覚玩具には、映画を技術的に成立させるためのさまざまな要素がつまっている。しかも映画そのものでは複雑にみえる“仕掛け”も非常に単純な形でみることができる。これが視覚玩具を題材にしている1つの理由である。ワークショップでは視覚玩具を“つくる”ことが作業の中心ではあるが、目的としているのは“工作”ではなく、完成した視覚玩具によって生ずる“映像的効果”を体験することである。工作的上手下手はとくに問わない。

ピンホールカメラをテーマにしたワークショップや、円板の表と裏に絵を描き、表裏が交互に見えるように回転させると、表裏の絵が合成されて見える「ソーマトロープ」、2つの映像を交互に幻灯機で映写して2枚の繰り返しアニ



「デジタルビデオ撮影ワークショップ」

メーションを作る「マジックランタン」、風景写真に針などで穴をあけて夜景のイルミネーションを再現する「ライトパノラマ」などを実施している。

ビデオを使ったワークショップ「ビデオで遊ぼう」は機材の老朽化により、前年度までの数年間実施が困難な状況であったが、小型ビデオカメラの購入により本年度から再開。数年ぶりの実施ということで名称を「デジタルビデオ撮影ワークショップ」や「ビデオスタジオ」に変えた。内容的な変更があったわけではないが、小学校高学年の子どもを対象としているので、そういった年齢の子どもの興味を引くネーミングをという試みである。

不思議な映像実験室は平常期間の第4日曜日を中心に実施。また、春休み特別期間、夏休み特別期間に写真ワークショップを開催。前年度実施した「写真館」同様、ピンホールカメラの工作とインスタントフィルムを使用したピンホールカメラの撮影を行った。撮影のワークショップでは前年度は参加費無料で実施したが、本年度は材料費を徴収。夏休み特別期間はAV事業部のワークショップを紹介したテキストと合わせて500円、春休み特別期間はフィルム代実費の200円を徴収した。

土曜日夕方に行っている「くるくるアニメをつくろう」も前年度に引き続き実施した。

③講座・クラブ

(ア) 業務用ビデオ講座

AV事業部では数年前まで、一般成人から施設の指導者、ボランティアやスタッフなどを対象として、家庭用ビデオ機器の上手な活用方法や簡単な編集をテーマにしたビデオの講習会を実施していた。その参加者が上達してくると、内容をステップアップして業務用機器の操作や編集を習得する講習会を希望する声が聞かれるようになった。

ビデオ機器が設備されている施設の担当者には、専門的

な知識と技能が必要だが、その操作方法を手軽に体得できる機会は意外と少ない。そこで、前年度から新たに業務用機器ユーザーの初心者を対象とした講習会を実施することとなった。

本年度は、さまざまな用途に応じた撮影や録音などの機器の具体的な使用方法を習得するコースと、編集やシステム構築を学ぶコースを設け、目的に応じて選択できるようカリキュラムを組んだ。講師はAV事業部職員だけでなく、日常的に業務用機器を使用しているビデオ作家やカメラマンに依頼して、実践的な撮影や編集のデモンストレーションを行った。

本年度の講座では、新しいデジタル規格のビデオ機器に話題が集中した。最近建てられた施設には、デジタル規格のシステムが組まれている所も多い。運用にあたっては、従来のアナログのシステムを把握しつつ、並行してこれらの新しいシステムに対応していかなければならない場合が多い。そのための実践的な運用方法は各自が摸索しながら進めているような状況であり、この講習会への参加目的が他の施設の状況を知るためという地方からの参加者もみられた。

年々進歩するハードウェアに参加者の興味は集まるが、ハードウェア中心の講義内容では、機器の調達は容易ではない。そこで来年度ではソフトウェアに重点を置いた内容を増やしていく方向にしたいと考えている。

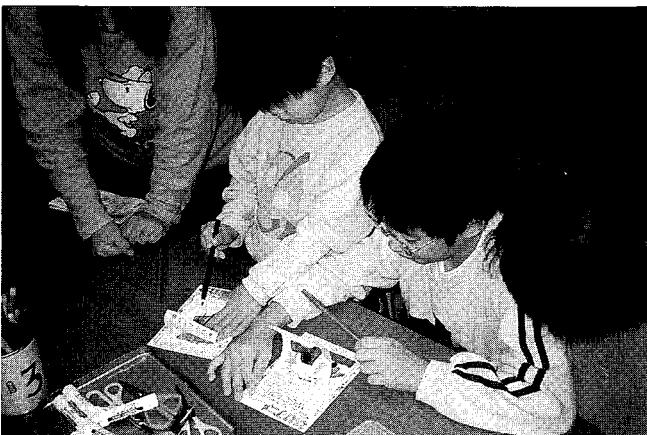
④ その他の活動

(ア) 動く子どもの城

【ふれあいランド岩手】

児童厚生員講習会とアニメワークショップを並行して行うというスケジュールであったため、スタッフの関係上、アニメワークショップは簡単な視覚玩具の工作のみとし、「ソーマトロープ」と「くるくるアニメ」を実施した。

「ふれあいランド岩手」で「くるくるアニメ」のワークショップ



児童厚生員講習会は前年度に完成した、同講習会用の16mm資料映像『不思議な映像実験室』の上映を行ったのち、いくつかの視覚玩具による映像遊びを体験するというプログラムにした。資料映像を利用することで、「子どもの城で行うワークショップに参加した子どもたちの反応」や「どのような形式で受け付け・開催しているのか」などワークショップの実際を、言葉では伝わりにくい部分まで紹介できたと考える。

【いきいきプラザ島根】

「しまね子育て・子育ちフェスティバル in いきいきプラザ」と題する、島根県のエンゼルプラン推進事業イベントの1プログラムとして実施。世界のアニメーション作品の上映と視覚玩具のワークショップ（くるくるアニメ、ソーマトロープ、ピンホールカメラ）を組み合わせた通常のプログラムを展開した。

児童厚生員講習会では、『不思議な映像実験室』を上映しながらそれに収められている視覚玩具を実際に制作した。開催当日は雪のため来場者の減少が懸念されたが、幸い交通機関に影響はなく、イベント全体では約5,000人の入場者で賑い、その約1割が「子どもの城」のプログラムに參加した。

【愛知県児童総合センター】

当初は「動く子どもの城、あるいは講師派遣の枠で」という依頼であった。そのため、展示・ワークショップとも〈動く子どもの城〉のプログラムにリストされていないものも含めて準備。結果として、〈動く子どもの城〉AVプログラムとしては例外的な内容となった。

〈動く子どもの城〉の実施期間後も継続してイベントが実施されるという、初めての形態である。約3週間の間、平日は展示、土・日曜日・祝日にワークショップと映画の上映を行った。初日のプログラムを〈動く子どもの城〉として実施した。ワークショップは、期間中やその後も愛知県児童総合センターで継続して行える、特殊な映像機器を使用しないプログラムを選んだ。

上映についても、実施期間中数回行われるもの1回ということで、通常の〈動く子どもの城〉に比べて少々偏った形で作品を組み合わせた。通常は表現や内容的なバランスを考慮してプログラムを組んでいるが、今回は愛知県児童総合センターで所蔵するフィルムリストから、低学年の子どもから楽しめるものを選んでプログラムを組んだ。

(イ) 講師派遣

〈動く子どもの城〉では対応できない小規模なワークショップや指導者向けの講習会など、AV事業部で開発した



AV事業部の活動事例集
「うつる うごく
“映像遊び”探検隊」

プログラムを外部の施設で展開する機会が増えてきている。〔子どもの城〕のプログラムを知ってもらうだけでなく、各地の児童館やほかの児童厚生・文化施設の人との意見交換ができる貴重な機会でもあり、要望に対して積極的に対応するようにしている。

視覚玩具作りは、工作そのものの楽しさよりも、映像を見たり、動かしたりする楽しさを発見してもらうことに重点を置いたプログラムをめざしてきた。工作物は映像そのものに子どもたちが触れたり、映像を作り出したりするための装置として機能することが最も大切。このことを指導者向けの講習会では必ず伝えなければならない。子どもたちに十分な映像体験をしてもらうために、指導する大人たちに工作の要となるポイントをきっちりと把握してもらうことを心がけている。

平成8年度から執筆を開始していたAV事業部の活動事例集「うつるうごく “映像遊び”探検隊」(中央法規出版刊)が、本年度無事に発行の運びとなり、厚生省の協力で全国の児童館に配布されたほか、〔子どもの城〕売店や一般書店で販売が開始された。このような参考資料の制作もプログラム普及には欠かせない仕事である。

私たちは、子どもたちがより一層映像に興味を持ってほしいという思いからワークショップを続けている。講習会や事例集での内容をベースにして、各指導者が独自の応用と自由な展開で映像のワークショップをひろめていってほしいと思う。

(ウ) ボランティアとの協力事業

今までにボランティアの協力で行ってきた事業は、ここ4・5年の間に行なった天体望遠鏡作りなどの「夏休み工作コーナー」や、昨年実施した「子どもの城鉄道まつり」がある。ボランティアとのかかわりは、他部と比較した場合には薄いように思われるが、これはAV事業部の活動が主に、映像を扱う専門的なものであったためと考えられる。

そこで、本年度は利用者からの要望もあり「走れ！キヤッスルトレイン～こども鉄道模型運転会～」を2回実施。今後、年間3・4回の定期的な催しとして実施することとした。鉄道にかんする知識の点や運営面で、ボランティアに協力を依頼した。その結果、大切にしていた個人持ちの模型を提供するなどの積極的な参加が得られた。

どのように鉄道イベントを進めて行くかを双方で話し合い、当面はNゲージの鉄道模型の運転体験を中心にながら、「オリジナル切符作りのコーナー」「鉄道運転士トレーニングコーナー」「鉄道関連ビデオの映写コーナー」などを併わせて実施することになった。

初回の12月は2日間の短期イベントだったが、2回目の2月からは期間を延長して、8日間のプログラムへと規模を拡大した。

最初は機械的な物を扱うことに戸惑いがあつたボランティアもいたが、時間がたつにつれて余裕が出てきて自分たちも楽しむようになり、「出発進行」とか「今どこどこ駅を通過しました」など、本物の運転士のような掛け声で子どもたちを楽しませていた。

その後、数回の話し合いで双方がともに感じたことは、互いの意志疎通をさらに深める必要があるということである。AV事業部とボランティアとのかかわり方が比較的薄かったこともあり、就業時間外やイベント実施期間以外でもボランティアと交流を図ることが必要であると感じた。

ボランティアが今までにってきた活動は、単発的なイベントあるいは日を決めて定期的・継続的に行なう活動を中心で、この鉄道イベントのように両要素が混在する活動が少なかったことから、活動の体制を作りづらかったという要素もあるように思われた。

AV事業部は今後、映像分野だけでなく、他の科学的な要素にまで活動を広げて行きたいと考えている。このためにも、内部に多彩な人材（いろいろな趣味や仕事）を抱えているボランティアとの協力事業は非常に重要である。今後も、より連携を深めていけるよう努力をしたい。

(イ) 外部との連携事業

【企業提携による映画制作の実施】

近年の日本で作られる子ども向け映像作品はアニメーションに偏り、“主人公が「子ども」で、「日常が舞台の」実写映画”は少ない。日本では映像に対する子どもの“偏食”はかなり激しいと考えられる。〔子どもの城〕を会場に夏休み特別期間に開催している「キンダー・フィルムフェスト・ジャパン」などで紹介される、海外の優れた短編実写映画を見るたびに、日本でも制作は不可能ではないという思い



『THE WING～ウイング』(撮影風景)

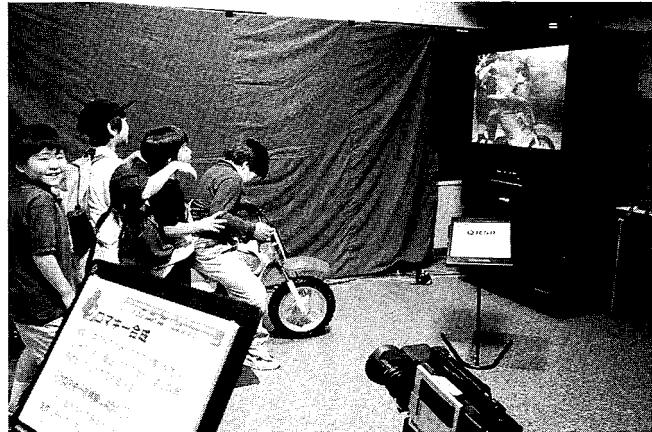
が募っていた。「子ども向けの短編映画制作を！」と意気込んでみるものの、多くの資金と専門的なスタッフを必要とする映画制作は、実際にはほとんど困難であると、あきらめていた。

ところが本年度、企業との提携という形でそのチャンスが訪れた。子どもや親子を対象としたオートバイやモータースポーツの啓発事業計画を進めていた本田技研工業株式会社（以下HONDA）から映画制作提携の希望が寄せられたのである。そこで、HONDA側の意向を聞いて、協議を重ね、さまざまな角度から映画制作に対する方針を検討していくことになった。

企業と公共団体による制作提携は産業文化映画の分野では以前から行なわれている制作形態であるが、企業の技術や商品の宣伝を羅列する長編CM的なPR映画と一線を画し、“映画として鑑賞に耐える”作品を作り出すことが、最も大切なポイントになる。今回の提携では直接の制作費はHONDA側が負担すること、作品の内容に関する部分はHONDA側の希望をもちろん含めるが、演出面にかんする掌握と演出スタッフ（脚本・演出）は「子どもの城」側で選ぶという条件が整ったため、スムーズに協議が進み、実際に制作が開始されることとなった。

制作したのは、孤独な少年と子どもバイク教室指導者の女性ライダーの心の交流を最新の特殊撮影技術を用いて描いたドラマ『THE WING～ウイング』と、その制作舞台裏や画面合成の技術を紹介する『とくさつのヒミツ大公開！』の2作品。映画やテレビの第一線で活躍するベテランスタッフにより、短い制作期間にもかかわらず、「子どもの城」とHONDA双方の要望を上手に組み合わせた、爽快感あふれるしっかりとした映画作品を完成することができた。

これらの作品は、春休み特別期間の「子どもの城映画劇場 映像ワンドーランド～ドラマと特撮」で公開した。会場には、映画に登場した子ども用オートバイを設置し、ビ



テレビ画面には疾走する自分の姿が映し出される（クロマキー合成）

デオのクロマキー合成装置で走行する風景との合成画面を楽しめる展示を設けた。

HONDAとの提携事業は、全館を使った催し「発見!! バイクワールド」（平成10年度のゴールデンウィーク特別期間から夏休み特別期間にかけて開催）に発展し、春休み特別期間の上映は、そのプレ企画として位置付けられることになった。

企業との提携事業に際して、[子どもの城]としてどう取り組んでいくのか、その方向性を見極めることが大切であり、また提携によって新しい事業の開拓につながっていくことも重要であると感じた。

劇場公演および 館内外活動などの映像記録

青山円形劇場の収録は昨年並み。収録対象は恒例になつたものばかりである。出演者などに販売する記録ビデオ販売は、安定した収入源になっている。

年度末に青山円形劇場で行った体育事業部主催の「体操発表会」の収録は、実に11年ぶり。備え付けのリモコンカメラだけではなく、ビデオカメラとスタッフを劇場内部に送り込み収録した。

青山劇場の収録は自主公演の「青山バレエフェスティバル」のみであった。青山劇場は青山円形劇場に比べ、その規模から収録の費用が高額になりやすいために、外部公演

【平成9年度収録状況】(かっこ内は、平成8年度)

青山劇場	自主公演 外部公演	1 (3) 0 (2)
青山円形劇場	自主公演 外部公演	29 (29) 2* (1)
館内外活動		6 (7)
収録回数		36 (42)
合計		74 (84)

*うち1件は(子どもの城)と共に

者からの収録依頼は少なくなる傾向にある。また、その広さから一見ビデオカメラの存在がわかりにくく、劇場にビデオ収録機能があることすら利用者（公演者）に伝わりにくい事情もある。魅力ある“商品”——たとえば特定のビデオ方式・収録時間・必要な収録スタッフをパッケージして安価にした“パック商品”を積極的に提示するなど、思い切った方策が必要なのかもしれない。

機材的にも、マスターコントロール室で使われているビデオ方式（1インチ方式）は、かろうじて互換性を保っているものの、市場からは駆逐されつつある。貴重な映像記録を末長く保つためにも、また、収録依頼者の期待に沿うためにも、少なくとも現在主流のビデオ方式（ベータカム、D2など）に対応することが急務である。

⑤まとめ

本年度は、限られた人的・物的資源の中でより魅力のある良質のプログラムを行いたいという願いから、部分的で

はあるがポランティアとの協力事業や企業との提携事業を実施し、成果をあげた。

特に、後者については年間の基本テーマや計画を策定した段階で提携企業を開拓し、十分な事前協議の上に年間単位などの中期的なかかわりを持つことができれば、大規模な新事業展開も夢ではないだろう。

しかし、外部との提携に際しては、〔子どもの城〕側のメリット追求と同時に、先方の意向も反映させていく必要があり、当然のことながらこの部分が新たな調整事項となってくる。本年のような部分的な提携であっても、企画立案から実施に至るまでには数か月間という時間を要した。

今後、ある程度の規模の提携事業を進めるためには、提携事業を行う場合の基本的なスタンスや実施可能形態を明確にしておき、効率的にことを進める必要があるだろう。また、事業部単位だけでなく全館的に取り組んでいくのであれば、プロジェクトチームを組織するなどの体制作りもこれから課題となるであろう。

平成9年度活動一覧表

①平常期間プログラム

名 称	期 間	備 考
AVライブラリー 自由利用	開館時間中	趣味、教養、娯楽、スポーツ、アニメなど、さまざまなジャンルにわたるビデオソフトが、16,000タイトル網羅されたビデオの図書館。利用者は、AVライブラリー内に設置された35のブース(小部屋)で好みのビデオソフトを視聴できる。
AVライブラリー 「つり特集1」	6.3~29	「つり」と「魚」にかんするビデオソフトの視聴促進を目的に行った特集。パソコンなどを使ったクイズ(魚の名前、漢字の読み方など)に参加して一定の得点を得た参加者には、オリジナルの「おさかな図鑑」を進呈した。
走れ！キャッスルトレイン～こども鉄道模型運転会～(第1回)	12.13・14	鉄道模型(Nゲージ)の運転を体験できるプログラム。オリジナル切符を作ったり、鉄道関連のビデオを視聴したりするコーナーも併せて設置した(フリーホール)。
AVライブラリー 「グルメ特集」	12.16~25, 1.9~16	料理にかんするビデオソフトの視聴促進を目的とする特集。特に、料理好きの子どもや世界の料理に興味を持つ大人をターゲットとした。期間中には、クイズコーナーを設けるなど料理全般への興味を高める工夫も凝らした。
走れ！キャッスルトレイン～こども鉄道模型運転会～(第2回)	2.21~3.1	内容は第1回と同様。期間を延長し実施(フリーホール)。
AVライブラリー 「つり特集2」	3.3~25	「つり特集1」の内容に加え、AVライブラリー内に「バーチャルつり堀コーナー」を設置し、前回の「つりクイズコーナー」と併せ、1つの催しとして実施。
不思議な映像実験室「写真館～しゃいんかん～」	3.20~22	空き缶を使ったピンホールカメラで写真を撮るワークショップと、ピンホールカメラを作るワークショップ。写真の仕組みや歴史のパネルも展示(音楽ロビー)。
おもしろビデオ館	毎週金曜日 15:30~16:00	AVライブラリーにある、上映可能ビデオソフトからテーマを決めて作品を選び、上映。絵本を基にしたヤマハの「世界絵本箱」シリーズ、岩波の「せかいのおはなし」などを紹介(音楽スタジオB)。
おもしろビデオ館 スペシャル	毎月の最終木曜日 15:30~16:00	おもしろビデオ館で上映し、人気のあった作品をアンコール上映(音楽スタジオB)。
くるくるアニメ をつくろう	毎週土曜日 16:00~17:30	2枚の絵を描いて簡単なアニメおもちゃを作るワークショップ(音楽ロビー)。
子どもの城映画劇場	日曜日・祝日(月1回)	「武藤行雄記念文庫」収蔵のカナダNFBCのアニメーション映画ほかを音楽スタジオBで上映。①11:30 ②13:30 ③14:30 ④15:30の4回上映(音楽スタジオB)。
不思議な映像実験室	日曜日・祝日(月1~2回) 11:00~17:30	映像が動いて見える仕組みや写る仕組みを応用した、映像遊びのプログラム。2つの絵が合成されて見える「ゾーマトローブ」、1枚の風景写真から昼と夜の景色を作りだす「ライトパノラマ」、風景が筒の中に写る「ピンホールカメラ」などを実施(音楽スタジオB)。
バンダイビデオ試写会	日曜日・祝日(スペースの使用が可能な日に実施)	AVライブラリーの待ち利用者を対象に、玩具メーカーのバンダイと提携して行っている人気ビデオ作品の試写会。開催時間は12:45~17:15(フリーホール)。
テレビ中継録画	日曜日・祝日 特別期間	音楽スタジオBで実施される、各部プログラムの館内へのテレビ中継および録画(音楽スタジオB、映像調整室)。



「走れ！キャッスルトレイン～子どもの城鉄道模型運転会～」

②特別期間プログラム

名 称	期 間	備 者
〈夏休み〉 第5回キンダー・フィルム・フェスト・ジャパン	7.23~8.3	世界の子ども向け映画、アニメの上映。ワークショップ、セミナーなどを実施(音楽スタジオB)。
〈 リ 〉 不思議な映像実験室 「写真館」	8.25~31	ピンホールカメラを作るワークショップ、空き缶カメラで写真を撮るワークショップを実施(音楽スタジオB)。
〈開館記念〉 子どもの城映画劇場 カナダのアニメーション	11.2~3	「ライツ・フロム・ザ・ハート・パート2」の上映(音楽スタジオB)。
〈冬休み〉 AVライブラリー 「グルメ特集」	12.26~1.7	料理にかかるビデオソフトの視聴促進を目的とする特集。料理好きな子どもや世界の料理に興味を持つ大人をターゲットとした。期間中には、クイズコーナーを設けるなど料理全般への興味を高める工夫も凝らした。
〈 リ 〉 「新春あそびすごろく」中継	12.26~28, 1.3~7	参加者が「すごろく」のコマになって進むゲームの最終場面をテレビ中継・録画(アトリウム・ギャラリー)。
〈春休み〉 AVライブラリー 「つり特集2」	3.26~4.5	「つり特集1」の内容に加え、AVライブラリー内に「バーチャルつり堀コーナー」を設置。前回の「つりクイズコーナー」と併せて1つの催しとして実施。
〈 リ 〉 子どもの城映画劇場 「映像ワンダーワールド ～ドラマと特撮～」	3.30~4.5	最近の特撮技術を取り入れたドラマ『THE WING～ウィング』と、その舞台裏を見せるメイキング『とくさつのヒミツ大公開！』を上映(音楽スタジオB)。
バンダイビデオ試写会	スペースの使用が可能な日に実施	AVライブラリーの待ち利用者を対象に、玩具メーカーのバンダイと提携して行っている人気ビデオ作品の試写会。開催時間は12:45~17:15(フリーホール)。

③講座・クラブ

〈講座〉

名 称	説明・定員	受講料	曜日・日程・時間	備 者
業務用ビデオ講座 ○撮影コース ○ビデオ エンジニア コース	(人) 成人 30 成人 30	(人) 30 30	8月23・24日 8月30・31日 各日共 10:00~15:00	業務用ビデオ運用に必須の基礎知識を身につける講義と実習。(会議室、会議室、マスター・コントロール室)



「業務用ビデオ講座」

④その他（動く子どもの城など）

名 称	期 間	備 考
「メビウスの卵展」	8.4	科学遊びの展览会で、視覚玩具のワークショップを実施。□美術館(品川区)。
愛媛県職員研修会	9.1・2	県の児童館職員を対象とした視覚玩具作りの実習。愛媛県老人福祉センター。
〈動く子どもの城〉アニメワークショップ	10.11	視覚玩具のワークショップ、視覚玩具の展示、指導者講習会を実施。ふれあいランド岩手。
千葉ニュータウン MYブーム映画祭	11.1	映画祭のイベントプログラムとしてアニメ・キットのワークショップを開催。主催は、千葉県企業庁。
なんでも熱 ワークショップ	11.22, 2.28	視覚玩具作りの実習とカナダアニメの上映を実施。小金井市回帰線保育所。
〈動く子どもの城〉 アニメワークショップ	1.24・25	しまねエンゼルプラン推進事業「しまね子育て・子育ちフェスティバル」の1プログラムとして、カナダアニメの上映、視覚玩具のワークショップを実施。島根県松江市。
〈 ル 〉 アニメワークショップ	2.11～3.1	カナダアニメの上映、視覚玩具のワークショップ、視覚玩具の展示、指導者講習会を実施。愛知県児童総合センター。
体験アニメ教室	3.26～28	小学校4年生～中学生を対象にしたアニメ作品作りのワークショップ。バルテノン多摩(多摩市)。
劇場公演および館内外活動の記録		劇場公演や他事業部で行われた館内外のプログラムをビデオ撮影しオリジナル作品としてAVライブラリーに登録。また、一部の作品については関係者に限りビデオを有料頒布した(マスター controール室)。

保育研究開発部



平成9年度の活動

50年ぶりに行われた児童福祉法の一部改正（6月3日成立）は、児童福祉にかかわるすべての人々に1つの節目を与える出来事になった。

保育所にかんする改正点は「保育所への入所の仕組み」「保育所による情報提供および保育相談」「保育費用の徴収にかんする事項」などが主なものである。

詳細は省くが3点とも近年の児童や家庭を取り巻く環境が大きく変化していることを踏まえたものとなっている。

これらの改正点は、〔子どもの城〕の保育研究開発部がこれまで行ってきた「子ども家庭支援プログラム」と合い通じるものがある。例えば、家庭の中で子育てしている親の育児支援などについては、一般の保育所ではこれまで対象としてこなかったが、改正では地域に開かれた保育所として、これらの事柄も視野に入れた機能を果たすことが求められている。

保育研究開発部では開館当初から桦にとらわれない保育として、家庭で子育てにあたっている親の育児支援を行ってきた。これからは保育所もまた、必要ならばこれらの親の育児支援にあたることになったのである。

今回の児童福祉法の一部改正に伴い、〔子どもの城〕保育研究開発部には全国から見学、視察者が例年にも増して多く訪れた。

新たなプログラム作りに熱心に取り組み始めている県や市町村がある一方で、制度改正によりなにをしたらいいかという保育現場からの戸惑いや危機感も感じられ、ナショナルセンターとしての〔子どもの城〕の果たすべき役割を強く感じさせられる年となった。

これらのことも含め、かねてからまとめていた保育研究開発部の保育実践プログラムを「一緒に遊ぼう 楽しく子育て 一人ひとりが輝くために」（中央法規出版）として発刊することができた。加えて、前年度発刊した「保育クラブの手引」の増刷も行なった。

①保育事業（親子教室）

親子遊びを中心とした育児の楽しさを両親で体験するプログラムであるが、本年度の親子教室への応募理由の主なものは次のとおりである。

友だちとの遊び体験、親同士の育児への思いの交換が魅力、いろいろな家族との出会いと専門スタッフの指導で新しい遊びの体験をしたい、子どもに集団体験の機会を与えたい、情報交換と子育ての視野を広げるなどであった。

（ア）プログラムの工夫と援助

前年度に0歳児の親からの問い合わせが多くあり、早い時期から親子で社会的な場に参加したいという親の姿勢を感じられたことから、本年度は試みに1歳児の中に0歳児を交ぜたプログラムを行ってみた。予想どおり0歳児の親からの応募は多かった。

1歳児の親子を中心に進めてきたプログラムであるため、0歳児の親子が参加することで、ある程度のプログラムの変更や改良は考慮していたが、実際に進めていく中で、年齢による違いが予想以上であるのにとまどった。

例えばやっと歩ける0歳児と自分で靴を履こうとする1歳児。「集まり」どころではない0歳児となんなく寄って



父親と楽しく遊んでいます（「親子教室」から）

くる1歳児とではプログラムの工夫にも限界があった。0歳児の親に対しては、特に遊びの場面などで無理をしないようにと声をかけたり、子どものペースを大切にすることを伝えるようにした。

通常ならば親子教室終了後は、アフターフォローの意味から希望者は保育クラブに入会することが可能になる。しかし、入会年齢が2歳以上になっているので、0歳児で参加した親子はすぐに保育クラブに入会することができないことになり、しばらくの間待つことになった。

0歳児親子の需要は多いものの、受け入れ側の態勢が整わないなどの判断から次年度につなげることはできなかつたが、低年齢児の親子のためのプログラムは今後ますます望まれると予測される。

(イ) 親子教室の今後の課題

親子教室の参加者の中には、一見何でもない親子に見えて、何度か接していくうちにフォローを必要としている親であると分かることがある。親の問題なのか、親子相互の問題なのかの見極めが難しく、保育スタッフだけではなく、ほかの専門領域との連携が常時必要になってきている。

また、子どもに対する不満度の高い親も目につく。保育スタッフから見て子ども側には問題がないのに、親が問題と考えていることがあり、子ども理解のための説明を改めて保育スタッフが行う場面が多くなっている。

親子関係にかかわるさまざまな問題は、家庭の養育機能が低下していることと関連していると思われる。[こどもの城]の「親子教室」は、昨今増加している地域の子育てサークルとは一味違うという親からの声もあり、これらに応えるためにも子どものプログラムに親が参加するだけでなく、親のためのプログラムをこれまで以上に充実させていくことが課題である。

併せて、それぞれの親子に対しては、個別対応を大事に

して親子との信頼関係を深めることが大切になる。限られた保育スタッフとボランティアでどのように具体化していくのか今後考えていかなければならない。さらに、保育環境では温もりのある玩具や、身近な材料を使って手作りの玩具を加えていくことなどの工夫を考えていきたい。

②保育事業(保育クラブ・幼児グループ)

地域で進める子育て支援プログラムが活発化してきていくこともあり、本年度は、保育クラブの会員になりながら同時にさまざまな育児サークルに参加している親子が目に付いた。また、低年齢児を持つ親たちが、積極的に子どもに集団の場を求めていることが保育クラブの応募の理由からもうかがえた。

これらのこと踏まえながら本年度の「保育クラブ」の保育は、集団の遊び体験と他児とのかかわりに視点をおいた「Aプログラム」と、親のニーズを汲んだ長時間利用の「Bプログラム」を行った。このほか、会員の家族同士の交流をねらいにした家族プログラム（親子遠足、青空プレイ大会など）、保育相談、保育クラブ通信などの情報プログラムを親に対して実施した。「保育クラブ」会員は、更新、新規合わせて459人（2～5歳児）であった。

(ア) 2歳児の保育

前年度と同様に男児の方が多く、曜日によっては、男女の割合が4対1になるほどであった。男児が多いということはそれだけ活動が活発になる。反面、各曜日とも母子分離でとまどう男児が目立ったのも、本年度の特徴に挙げられる。2歳児の母子分離不安のケースには次のようなものがあった。

母子ともに母子分離不安が強く、母親が自分の用事のために分離を希望するが、子どもが離れられないケース。逆に母親の方が子どもと離れるのが心配で分離できないケースなどがある。しかも、1期（週1回、3か月）のみではなく、2期から泣き始めたケースや3期にまで続くケースも見られた。

また、定期的に遊びにくる子どもの入れ替えが少なく、1期から3期まで継続して同じ曜日に参加する子どもが多かった。そのため子ども同士の繋がりが早い時期から生まれ、友だちを意識して遊びやかかわりをする姿が見られた。

定期的に遊びにくる子どもたちの結束が強まることで、フリー予約で遊びにくる子どもたちが集団の中に入りにくくなないように保育スタッフは配慮した。

【事例 気になる子どもの親へのかかわりについて】

Y（2歳5か月）。4月始めは母子分離もスムーズであつ

た。Yのことを母親はあまり心配していないよう、観察室からYの遊びの様子などもみなかつた。Yには兄が1人いて、両親の関心は兄の方に向いていたようだ。保育者は手のかからないYを良い子と思う反面、独りで食べるのが苦手であること、オムツがなかなかとれないことが気になつてゐた。

5月に入るとYは母親と離れるのを嫌がり、泣くようになった。同時に吃音障害がみられるようになった。「保育クラブ」と並行して体操教室にも通いはじめたことがYの負担になったのではないかと考え、両親にも伝えた。両親は驚き、保育スタッフにどう対応したらよいかと相談してきた。両親がYと向き合う1つの機会として観察室への入室をすすめた。

観察室では保育スタッフがYの遊びや生活の様子を伝え、話しやすい雰囲気になるように努めた。6月に入り、分離不安が一段落したところで、保育者が気になっている点(食事、排泄)を小出しに伝え、両親の関心がYから離れないようにした。

その後父親もYの送り迎えをするようになり、遊び相手になっているようだつた。保育室でも安定した遊びになつてきた。

【事例 2歳児の遊びの展開例「おがくず粘土遊び」】

都市部の保育施設では、「自然」のように身近にありながらも、それを五感で感じる機会が少なくなつてきているものがある。自然の風合いを感じながら、造形活動ができるかと考え、おがくず粘土遊びを探り入れた。

「おがくず」が木を削つてできたものであるということを、2歳児の子どもはなかなか理解できなかつたようであるが、「いいにおいだね」「さらさらしているね」など子どもたちなりに感じとつていた。

小麦粉粘土の経験はあるが、おがくず粘土を作るために小麦粉とおがくずを混ぜて水を入れる段階になると、手にボランティアもいっしょにクリスマス（2歳児保育）



くつつくのを嫌がる子も出てきた。しかし、粘土になつてしまふと、最初はいやがつていた子も恐る恐る触り、ひんやりした感触にしたいに慣れていった。

保育者がボール状にしたおがくず粘土をペタペタと手でのばし、顔を作り、目、鼻、口を付けていった。同じ材料を使ったにもかかわらず、子どもたちの粘土ののばし方、パーツの置き方でとても個性のあるユニークな作品ができ上がつた。

このほか、2歳児の保育では生活面で厚着、はかせるオムツの利用などが目に付いた。生活リズムの乱れ、野菜嫌いなどの子どもも多かつた。

また、保育曜日の変更の申し出などがあり、親に対し保育クラブのシステムを十分に説明することの重要性を痛感させられた。このほか、じっくり話をしたい親には朝の受け入れ時や退室時の時間を使って対応するように努めた。逆に保育スタッフが気になる親に対しては、母親参加プログラムのときなどに、配慮をしながら対応した。

携帯電話を持っている親が多くなり、子どもの発熱などのときにはすぐに連絡がとれるようになった。

今後の課題として、通年で遊びに来る子どもの枠（次年度予定）も予定されることから、1人ひとりの成長を踏まえた年度単位での保育計画が求められてくる。お祭りごっこや3歳児と一緒に活動なども工夫して採り入れたい。2歳児は、親とのコミュニケーションが密に必要な時期もあり、これからも大切に考えていかなければならない。

(イ) 3～5歳児の保育

週4日2年間の単位で行う4・5歳児の「幼児グループ」と、週1・2回4か月を1単位とする3歳児の「保育クラブ」の保育プログラムを統合した保育（Aプログラム）である。3～5歳児の異年齢の保育活動を複数のスタッフが散歩の途中でありの行列に立ち止まります（3～5歳児の保育）



3色おじやがのプログラム

「保育活動展」の展示作品に添えたキャプションを基に、子どもたちが作品を完成させるまでの過程を紹介する。

《3色おじやが》（キャプション）

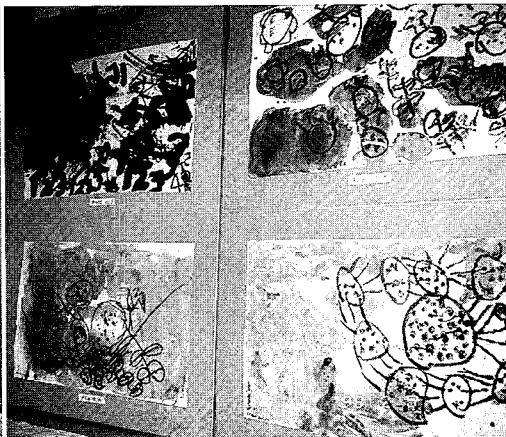
家では、なかなか許してもらえないダイナミックな色水遊び。ここならOK。汚れるじゅうたんもソファーもない。さしあたって、いろいろな丸をかいてみましょう。何かに使えるかも。そして、モデルをベランダで発見。そのモデルとは「じや・が・い・も」。子どもたちといっしょに掘りあげました。体を清め、おつきの葉や根とともにステージに並んでもらいました。そして、この前の色丸の紙を出して、モデル（ジャガイモのこと）をしげしげと眺めて、デッサンの力を磨きました。

子どもたちは言いました。

「輪になって踊るじやかいいも！」「線路の脇にころがるじやかいいも！」「子芋を連れている親じやが！」……なんてたのしい芋畑。



「保育活動展」の会場



子どもたちが描いた「3色おじやが」の絵

交ぜ合わせ方ですべての色ができる3つの基本的な色、赤、青、黄色を子どもたちに知らせることがねらい。1回目。それぞれの容器に3色の色水をたっぷりと作っておいた。子どもたちは思い思いに、色水で遊びに夢中になる。その後に1つだけ自分の好きな色を交ぜてみることにする。

「あれー違う色になったよー」

「きれいだねー」と子どもたちから驚きと不思議そうな声があがる。保育室の床に敷きつめた紙のうえに子どもたちは好きなように塗りたくってみる。紙からはみ出しても平気平気と声をかけながら。

「失敗しちゃった」という子どもには「これを何かに生かせるかもよ」と途中でやめないで続けるように一緒に考える。「なにかかいてみましょうか」でとりあえず、まる（らしきもの）を描いてみる。

日を改めて2回目。前回の“塗りたくり”の絵の上には、とりあえずの“まる”的形がある。丸い形のものをいろいろ探すことにした。

ベランダで丸いものを発見。それはプランターのじやかいいも。絵の具遊びはしばし休憩でみんなでじやかいいもを堀ることになった。両手を土まみれにしてのじやかいいも堀り。自分で堀ったじやかいいもをていねいに洗う。

洗ったじやかいいもをみんな並べて、よく見つめて描いてみた。その結果、子どもたちのユニークな言葉がポンポン飛び出してきたのであった。

チームを作り進めている。本年度の子どもの姿と活動の中で、とりわけ子どもたちにも保育スタッフにも印象深いものになったプログラムは次のような活動であった。

【子どもの姿】

【子どもの城】の保育プログラムを利用する子どもたちは、ほとんどが都市の中で生活をしている。物質的なものや文化的な環境には恵まれているが、自然環境には恵まれているとはいがたい。【子どもの城】の5階に位置する保育室も、意図的に自然環境を整えないかぎり、子どもたちは無機質なコンクリートの中で遊ぶことになる。子どもにとって、土や草や水などの“自然環境”は、自分の体にさまざまな感覚を呼び起こしてくれるものもある。

昨年に引き続きベランダで草花や野菜類の栽培を行い、子どもたちが草花や野菜（ジャガイモ、トマト、ナスなど）

《3色おじやが》の解説

に親しみふれあい、植物が育つ神秘さに気づいて欲しいと考えた。

一方、利用する3～5歳児は、すでになんらかの習い事や規制の枠の中で集団の行動をとらされていることが多いのが目についた。自分の好きなように遊ぶ、多少の失敗など気にせず次のステップに挑戦してみるなど、のびのびと自分を表現する子どもが少なくなったとも感じさせられた。

【事例 子どもの遊びと造形】

本年度は上記の子どもの姿からできるだけ時間や枠にとらわれないでゆったりと子ども自身が遊びに向き合えるようにプログラムを進めた。

造形活動もその中の1つ。例えば、1枚の絵を日をおいて2回3回と繰り返して描いてみたり、工夫を凝らしてみるなどである。年間を通して作品の数は少なくなったものの、



おがくず粘土の作品

子どもたちの造形活動中の満足感には大きなものがあった。

作品は保育活動展としてギャラリーに展示をしたが、保護者や一般来館者が鑑賞に訪れ、好評を得た。

3～5歳児の遊びは「3色おじやが」(図み参照)のほかにも、例年のように保育の生活を基盤にしながら、音楽、運動などの遊びをテーマ活動として行い、子どもたちがバランスよく育つ援助をさまざまなかたちで展開した。

また、観察室を定期的に親に開放したが、曜日により入室希望者があふれた。本年度は全体的にきめ細かな親へのかかわりができなかった面があり次年度の課題となった。

(ウ) 保育クラブ会員対象の親子イベント

本年度も「保育クラブ」と「幼児グループ」の家族を対象とした親子イベントを行った。全国から訪れる見学、観察者が強く関心をよせるのもこのイベントである。

各地の行政機関をはじめ、保育所、児童館は、今、地域住民をいかに取り込み活性化させていくかが課題となっている。「保育クラブ」のさまざまな親子イベントは1つのサンプルプログラムとして話題提供をした。

親子イベントの中でも特に注目を集めたのが、親と保育者の共同企画であった。子育て環境の変容は、家族のつながりや親子のかかわりなどにも影響をおよぼしてきているが、「保育クラブ」の親子イベントは“家族の楽しさ”や家族同士のつながりがはたす子育てについて、その重要性を積極的に伝えていくことを目標にしている。

本年度の親と保育者の共同企画のタイトルは「ファミリーフェア～家族が手をつなごう」であった。初めて【子どもの城】のギャラリーを使用したが、一般来館児・者も自由に参加できるとあって大いに盛り上がりを見せた。

内容は人気キャラクターを使ったすごろくゲームを中心に親子のミニお茶会なども行った。

企画は例年のように親と保育者が話し合い計画的に進め



親子、家族で遊ぶ「青空プレイ大会」

たが、毎年のことながら親の持っている力のすばらしさに驚かされた。

親と保育者の共同企画「ファミリーフェア～家族が手をつなごう」は日曜日の1日だけだったが、本年度は、その1週間前から保育活動展と同じギャラリーで開催。親子、親、一般来館児・者に保育の活動を紹介した。

③研修事業

(ア) 保育セミナー

第11回保育セミナー「子ども家庭福祉を考える」のサブタイトルは「家庭と子ども・地域と家庭」。本年度も2日間にわたり実施した。児童福祉法改正後もない保育セミナーとなつたため、広く参加者の関心を集めた。

1日目はリレー講演とパネルディスカッション。リレー講演では、「子ども観・子育て環境」の変化と「大人と子どもの違い」について小児科医の巷野悟郎こと城小児保健部顧問が発言、それを受け弁護士の中島通子氏が「男女雇用機会均等法の見直し」や「女子労働保護法の廃止」が行われるまで女性の就労環境についての経緯を説明。養育については、両親の共同責任ということにもっと市民権を持たせる必要があると話した。

西郷康之宝仙学園短期大学教授は「調査結果から～私の保育サービスのメリット・デメリット」を紹介、「保育サービスの質の確保のためのガイドライン」を作成していく必要があると語った。

リレー講演は初めての試みであったが、参加者からは子どもをキーワードにそれぞれの立場から専門的な話を聞くことができて有意義であったという声が多く寄せられた。

午後のパネルディスカッションでは「児童福祉から子ども家庭福祉へ」のテーマで提言・司会の高橋重宏駒沢大学教授のもとに活発な論議が交わされた。

2日目は5つの分科会に分かれた。第3分科会の助言者は、グラフィックデザイナーの駒形克己氏。今回のセミナーでは初めてのワークショップとなつたが、清新な風を保育に吹き込んでくれるような気がすると参加者からの声が聞かれた。

(イ) 育児相談研修会

相談事業従事者を受講の対象としているこの研修会は、それぞれが担当した（している）事例について具体的に検討しながら、相談の進め方を学ぶところに特色がある。本年度も例年通り、年3回行った。テーマは家庭育児の支援についてであるが、具体的には「育児相談事業のすすめ方」とした。

(ウ) 育児相談概論研修会

育児相談の入門編と位置付けられる研修会。初心者向けに行っている。児童福祉施設が行う相談事業に対する期待と関心が高まっているおり、育児相談についての情報や研修を求める声が多い。継続の育児相談研修会は事例研究で

あるため、単発の研修会が望まれていた。

3回目の今回は、西村重稀厚生省保育指導専門官が「児童福祉施設の行う相談とは？」を講演。その後「聴く」についてのロールプレイを北川清一明治学院大学教授の指導で学んだ。

(エ) ニュースレターの発行

全国各地の育児支援にかんする情報を集めて紹介することを目的に平成4年から発行している。児童福祉法の一部改正に伴い、今後ますます児童福祉の場には育児の相談相手としての役割が期待され、そのための情報なども広く求められている。

本年度も14、15、16号を発行したが、実践に基づくレポートや児童福祉の方向性を示す記事などは参考になると好評をえている。

平成10年度からは保育所以外の児童福祉施設でも育児支援を行っていることから、名称を変更して「子育て支援のニュースレター」とする。

平成9年度活動一覧表

①平常期間プログラム

名 称	期 間	備 考
親子遠足	5.11, 11.26	保育クラブ、幼児グループの2～5歳児親子プログラムとして春と秋に実施。春は砧公園(世田谷区)の自然の中で親子同士、家族同士を保育スタッフが仲介をして交流を深めることをねらいに、ゲームなどを工夫して行った。79組234人が参加。 秋は親子で畑の作物に親しみ、野菜の生育に関心を持つことや「食」を楽しむプログラムを実施(キウイ狩りとイモ煮会)。18組55人が参加。 いずれも現地集合としたが大人も子どももリフレッシュできるプログラムとして喜ばれた。
動物とのふれあい	6.1	子どもが成長していく過程で自然や動物に出会い、感情豊に育つことがねらい。都市部で生活していると、動物とふれあう環境が少ないとから設定したプログラム。今回は保育クラブ会員に加え、一般的の参加者も受け付けた。午前、午後の3回で、親子合わせて537人の参加。参加者のアンケートをみても、このような催しが望まれていることが分かった。協力は、社日本動物病院福祉協会。今後の課題は動物の拘束時間と会場の確保と設定。体育事業部の協力を得て、体育館を会場として実施した。
青空プレイ大会	10.5	保育クラブと幼児グループの2～5歳児の親子プログラムとして実施。代々木公園(渋谷区)の自然の中で、多数の親子、祖父母、兄弟姉妹が参加した。ゲーム形式のプログラムで大人も子どもも楽しんだ。親子で149人の参加。
保育活動展	2.1～8	今回は親と保育者の共同企画「ファミリーフェア」と併せて、ギャラリーで実施。1年間の保育クラブ・幼児グループの保育活動を、子どもたちの作品や写真を中心に展示・紹介した。ギャラリーで開催したため一般来館児・者も多数観覧した。会場では、保育担当スタッフが交代で説明にあたり、展示する側と見る側のコミュニケーションを心がけた。
親と保育者の共同企画 ファミリーフェア ～家族をつなごう～	2.8	“家族をつなぐ”をテーマに、親と保育者が企画したプログラム(ギャラリーを使用したゲームコーナーや切り紙コーナー、保育室でのお点前など)を実施した。企画段階から親に参加してもらった。昨年に続いて参加する親も多く、スムーズに運営できた。ゲームは、子どもに人気のキャラクターを取り入れたこともあり好評。伝統文化の“お点前”は、今後も親子で体験したいという声が多数あった。“家族をつなぐ”のテーマはアピールが不足していたと反省。また、前日の親との準備に今後の工夫が残された。
保育室の一般開放	土曜日 14:00～17:00 日曜日・祝日 10:00～17:00	保育室IIに遊具や玩具を用意、一般来館の親子(1・2歳児)が自由に遊べる場を提供した。両親とともに利用する姿のほか、祖父母との利用、中にはベビーシッターによる利用もみられた。保育室IIをめざして来館する年少児の親子が増えている。大きい子どもたちと交じり合うほかのスペースと違い、親子が安心して過ごせる場所となっている。



切り絵コーナーは大にぎわい(「ファミリーフェア」)



ワンちゃんとあくしゅしてみよう「動物とのふれあい」

②特別期間プログラム

名 称	期 間	備 考
〈春休み〉 作って遊ぼう親子工房 “ミラクルたまごをつくろう”	5.3～5	古くからあるおもちゃ“まゆだま落とし”を、身の回りにある素材で作って、遊ぶことがねらい。色を塗ったアルミホイルを指に巻き、筒状にし、その中にビー玉を入れて軽く両端をしめる。空き缶などに入れて軽く振ると、まゆだまのように細長い卵の形になる。それを傾斜のついた雨どいのような溝を転がして遊んだ。0～85歳まで、幅広い年齢層の人が楽しんだ。親子同士、家族同士和気あいあいの光景が繰り広げられた。
〈夏休み〉 作って遊ぼう親子工房 ～いち、に・サマー～夏の音をつくろう	8.13～16	親子を対象に涼しさを味わう音のできるおもちゃ作り。空き缶か空き箱のどちらか1つを選んで作る。アルミホイルを巻き、好きな絵を描いた空き缶に、水を入れて穴をふさいだもの。ひっくり返すと、コトコト、ボコボコという音がする。空き箱にセラミックスの砂を入れ、絵を描いたセロハンのふたをしたものは、サラサラする音が心地よい。4日間で553人が入室して楽しんだ。祖父母、両親、兄弟一緒に保育室でくつろぎながらおもちゃを作る姿が見られた。親子工房の常連が出てきている。
保育室の一般開放	特別期間中の土曜日 14:00～17:00 〃 日曜日・祝日 10:00～17:00	保育室IIに遊具や玩具を用意して一般来館の親子が自由に遊べる場を提供した。父母そろっての利用や祖父母の姿、また中にはベビーシッターによる利用もみられた。ここをめざして来館する年少児の親子が増えている。大きい子どもたちと交じり合うほかのスペースを違って、親子が安心して、のんびりとゆっくり過ごせる空間となっている。

③講座・クラブ

〈講座〉

名 称	対象・定員	受講数	曜 日	時	備 考
親子教室 1期 2期 3期	(組) 1歳児親子 (各期14)	(組) ① 14 ② リ ③ リ	月曜日	10:15～12:30	親子遊びを中心に、育児の楽しさを両親で体験するプログラム。保育スタッフの援助で、ほかの親子との交流も図れるように働きかけた。医学・心理発達にかんする講義、保健婦からのアドバイスもあり、よりよい子育てをめざした。両親参加が本年度の特徴。申し込みは定員をオーバー。全12回の講座。受講料は40,000円。
幼児グループ	(人) 4歳児 (10) 5歳児 (10)	(人) 12 7	火曜日～金曜日		(子どもの城)を保育の場として週4日、2年間にわたり継続的に行う保育活動。異年齢保育として保育クラブの3歳児が、曜日ごとに異なる顔ぶれでこの活動に参加している。1人ひとりの個性を發揮させるため、遊びの選択を幅広く考えている。複数の担当者が、それぞれにテーマを持ち保育にあたるチーム保育を行った。また、多様な人間関係を体験する場として、本年度はさまざまな分野のボランティア、人を積極的に受け入れた。子どもたちの創造性、協調性を養う意味から野外での活動も多く採り入れ、保育を進めた。4歳児は定員をオーバー。保育料は33,000円、給食費は4,800円(いずれも月額)。

〈クラブ〉

名 称	対象・定員	受講数	曜 日	時	備 考
保育クラブ	(人) 2～5歳児 (登録児童 数459)	(人) 14 9 (1日当 たり)	月曜日～土曜日(2歳) 火曜日～金曜日 (3～5歳)		集団への参加、母親の社会参加などを主な目的とした子育て支援のクラブ。日時が選べる保育プログラム、イベント・通信・育児相談などの家族プログラムの2つを柱に活動。送迎、イベント参加など、両親の参加が目立った。子どもによりよい環境を与えること、集団遊びの中での社会性、協調性を身につけさせたいとする理由が多く、ほかの幼児施設と併せて利用する親の姿勢がみられた。 入会金10,000円、年会費3,000円。保育料として、2歳児1,200円(1時間)、3歳児以上850円(1時間)。昼食代600円、おやつ代200円。

〈講習会等〉

名 称	対象・定員	受講数	曜 日・日 時	備 考
第11回こどもの城 保育セミナー 子ども家庭福祉を 考える～家庭と子 ども・地域と家庭～	(人) 保育関係者 親など (150)	(人) 156	8.9 10 10:00～17:00 10:00～15:00	<p>全国の保育所、児童館、行政の児童福祉担当者などを対象に開催。子どもにかんするさまざまな立場の人たちと、それぞれに考え、疑問を出し合い、また、情報交換を図ることがねらい。</p> <p>【リレー講演】「家族とこども・地域と家庭」 巷野悟郎(こどもの城小児保健部)=小児科医の立場から 中島通子(弁護士)=女性の就労関係環境について 西郷康之(宝仙学園短期大学)=「私の保育サービスの研究から見えてきたこと」を紹介</p> <p>【パネルディスカッション】「児童福祉から子ども家庭福祉へ」 ○パネラー 山田 美和子(元全国社会福祉協議会高年福祉部) 金崎 扶美子(宇都宮大学) 山本 真美 (日本総合愛育研究所)</p> <p>○提言・司会 高橋 重宏 (駒沢大学)</p> <p>【分科会】 ①「乳児保育を考える」 助言者 巷野 悟郎(こどもの城小児保健部) ②「生きる力を育てる保育」 助言者 関口 はつえ(郡山女子大学短期大学) ③「遊びと創造性」 助言者 駒形 克己(グラフィックデザイナー) ④「子ども家庭支援を考える」 助言者 山崎 美貴子(明治学院大学) ⑤「人間性を深めるために(ワークショップ)」 助言者 小杉 道雄(小杉社会教育研究所主宰)</p>
育児相談研修会	育児相談担 当者(40)	46	6.28, 12.13, 2.21 14:00～20:00	テーマは「家庭育児の支援について—育児相談事業のすすめ方」。スーパーバイザーは、山崎美貴子(明治学院大学)と山田美和子(元全社協・高年福祉部)。
育児相談概論 研修会	育児相談担 当者(130)	150	6.14 14:00～17:00	テーマは「児童福祉施設が行う育児相談の基本と実践」。講師は、西村重稀(厚生省保育指導専門官)、北川清一(明治学院大学)の「育児相談活動入門—出会いそして聞くこと」のワークショップも行った。
ニュースレターの 発行	児童福祉関 係者 (発行部数 1,000部)	無料 600部 有料 400部	第14号(7.15) 第15号(1.15) 第16号(3.15)	<p>全国各地で育児センター機能が活発化し、具体的な資料を求める声が多く、保育所や関係機関からの問い合わせが目立った。児童福祉法一部改正に伴い、一層広範囲の情報が必要とされているようだ。</p> <p>内容は、行政、経済界、利用者にかんする情報および子育てをめぐる世界の情報、育児相談研修会の概要など。主な配布先は、市長会、見学者、関係所管課。年間講読料2,000円(郵送費、印刷代一部負担金)。</p> <p>次年度から、育児相談が「保育所」だけではなく、より広範に必要とされることになったため、「子育て支援のためのニュースレター」と名称変更をする。</p>



ベランダの栽培

④その他(講師派遣など)

名 称	期 間	備 考
幼児のつどい	毎月1回(8月を除く)	親子のふれあいを目的とした集い、幼児と親子が対象。主催は東京都港区高輪児童館。
子育てセミナー	5.31	乳幼児を持つ親を対象に「みんなで楽しく体を動かそう」。特に父親と子どもの接し方、遊び方を講義と実技。主催は神奈川県藤沢市御所見公民館。
こどもの城における保育の実際	6.10	(こどもの城)における保育研究開発部の事業説明、こども家庭支援プログラムの実践例を学生に講義、紹介。主催は玉川大学児童教育学部。
地域子育て支援センター担当研修会	9.11, 18, 1.22	(こどもの城)の子育て支援プログラムを紹介。同じ内容を3回。主催は(社福)日本保育協会。
母と子のすくすく講座	9.20	子育てをしている親を対象に、子どもと遊ぶ楽しさを実技と講義を交えて講演。主催は新潟県長岡市東部保育園。
地域別子育て講座「楽しく親子遊び」	10.14	1・2歳児を持つ親を対象に、子育ての楽しさを実技と講義で紹介。主催は板橋区児童女性部女性青少年課。
地域子育て講座「仲間とリフレッシュ」	10.21	子育て中の母親同士が、育児の悩みや不安を語り合い、ともに考え、また親同士の交流を深めるために歌、ゲームなどで遊んだ。主催は板橋区児童女性部女性青少年課。
子育てについてのシンポジウム	11.6	子どもの発達と親の意識などについて講演。対象は子育て中の母親。主催は東京都中野区立桃園第三小学校「ささえと言葉の教室」。
身体を使った楽しい親子遊び	11.9	2・3歳児とその親を対象に、主に父親とのふれあい遊びを紹介。主催は埼玉県富士見市保健衛生部。
子育てフォーラム「子どもを豊かに育てるとは?」	11.14	3歳以上の子どもを持つ親を対象に、この年齢の特徴と対応の仕方を(こどもの城)の保育の実践例を基に、ワークショップと講義。主催は千葉市教育委員会社会教育課。
女性と福祉	11.28	日本の福祉と女性の今日的問題について講義。対象は日本社会事業大学学生。主催は日本社会事業大学社会福祉学研究科。
地域子育て支援の一環として「子どもの感性を育てる」	11.29	保育関係者を対象にした指導者向け研修会。(こどもの城)の実践例を基に、子どもの感性を育てるための実技と講義。主催は(社福)日本保育協議会埼玉支部。
子育て支援講座「子どもの城の実践から」	12.12	保育関係者を対象にした指導者向け研修会。(こどもの城)の保育の実践例を実技と講義。主催は東京都江東区保母研修会。
親子で学ぼう・親子で遊ぼう～楽しいおもちゃづくり～	2.4	乳幼児の親を対象に子どもとのふれあい、遊ぶことの大切さをディスカッション形式で行う。ワークショップで親子で楽しめるおもちゃを作った。主催は神奈川県川崎市高津区保健所。

小児保健部



平成9年度の活動

本年度は変革の年であった。開館以来、子どもの心身の健康の問題に取り組み、子育てを支援する目的で、①クリニックでの診療・相談活動 ②グループで行う講座や子育て支援の活動 ③講習会・研修会などの啓発活動、そして④日常活動の成果をまとめて広めるための研究活動の4本の柱を軸としてさまざまな活動を積み重ねてきた。しかし、近年の経済的な状況の変化や、障害児療育が地域福祉へと移行してきていることなどから、事業の見直しを行い、月1回行っていた、小児精神科、小児神経科、耳鼻科（聴覚言語外来）の専門相談を本年度限りで廃止し、地域医療で対応してもらうことになった。

それに伴い、今まで行っていた脳波検査や聴力検査も取り止めた。また、講座・研修会などの事業活動も、「子育て支援」を目的とした現在の体制で、より効率的な運営を行っていくために、類似のものを整理した。

11月には、これまで6階にあった事務室を、クリニックの診療・相談を行っている5階を改装して移転し、小児保健クリニックとしての独立した入り口と受付の窓口（これまで保育研究開発部と入り口・受付が一緒だった）を新設した。これにより、同じフロアに事務室、受付、診療室などが一体化されて配置されたので、機動性のある構造となった。利用者にとっては、プライバシーが以前よりしっかりと保護され、安心して診療・相談を受けることができるようになった。

今後も、新たな体制で、診療・相談、講座・研修会など、これまで実績を重ねてきた活動に、さらに必要な新しい視点を加えつつ、取り組んでいきたいと考えている。

このほかに、本年度から、全国各地の児童館・公民館などで行われる、乳幼児（1～3歳）とその親を対象とした「動くこどもの城」の活動に、体育事業部とともに出向いて指導を行っている。この活動は、親たちに子育てにかんする話をしたり、児童厚生員や保母（保育士）などの指導員の研修を行うことが目的。本年度は3回実施したが、「子育て支援」を全国的に実践していくために、[こどもの城]の役割としてもこれから重要な活動になると思われる。

①診療・相談活動

小児保健クリニックは、予約制で、小児科医をはじめ、保健婦、看護婦、管理栄養士、臨床心理士などが連携して、心と体の両面について、いろいろな角度から診療・相談に応じている。

本年度は、月1回行っていた、医師による各種の専門相談を廃止することになったが、ダウン症の療育相談だけは、相談料（1回8,000円）を患者負担として継続することになった。

表1は、月別診療・健診・相談の内訳である。前年度と比較すると、年間の診療件数は1,161件から764件に、新規の来所件数は327件から275件に減少した。専門相談の廃止は、再診の件数だけでなく、新規の来所件数にも影響を与えている。これは、特に発達の問題で受診したい人は、専門医による相談も受けられるという従来の条件が、当クリニック受診の1つの魅力になっていたという理由があげられるだろう。

健診は109件から129件に増え、1回5,000円の相談料に

【小児保健クリニック月別診療・相談件数（初診・再診内訳）】(表1)

診療	74	68	69	64	65	70	56	59	59	69	50	61	764
健診	4	11	29	7	6	8	6	9	12	16	7	14	129
育児健康相談	1	1	0	3	1	0	3	0	1	1	0	2	13
心理相談	143	134	129	139	120	104	102	123	125	93	111	124	1,447
ダウントン症療育相談	6	8	8	8	11	8	7	4	8	8	9	8	93
合計	228	222	235	221	203	190	174	195	205	187	177	208	2,446
内訳	初診(新規)	20	27	27	30	21	25	21	20	21	22	18	275
	再診	208	195	208	191	182	165	153	175	184	165	159	186
													2,171

【小児保健クリニック新規来所者の居住地域内訳】(表2)

人 (%)	66 (24.0)	31 (11.3)	14 (5.0)	13 (4.7)	9 (3.3)	65 (23.7)	14 (5.1)	212 (77.2)	29 (10.5)	19 (6.9)	10 (3.6)	5 (1.8)	63 (22.8)	275 (100)
-------	-----------	-----------	----------	----------	---------	-----------	----------	------------	-----------	----------	----------	---------	-----------	-----------

【小児保健クリニック初回来所時の年齢内訳】(表3)

人 (%)	50	38	26	22	15	24	14	11	16	21	8	9	20	1	275
-------	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	---	---	----	---	-----

なって2年目の心理相談は、延べ件数が前年度1,470件、本年度1,447件と横ばいである。ダウントン症相談は相談料を患者負担で行うことになった影響もあって、前年度の150件から93件と3分の2になっているが、日曜日に遊びがてらじっくりと相談に来ることができるということで、継続している人も多い。

表2は、新規来所者の居住地別内訳だが、東京都内が7%増加し、特に地元の渋谷区が33人から66人へと倍増している。これは、地元の関連機関との連携が昨今広がりつつあり、当小児保健部の活動が知られてきていること、地域の母親たちに乳幼児健診の情報が広がってきていていることによると思われる。

また、表3の初回来所時年齢内訳は、0・1歳の乳児が増加し、2~4歳が減少している。6・7歳も減少し、9歳と12~17歳の思春期の子どもが増加している。これは、表4の新規来所者の診療・相談内容別内訳とも関連しているが、乳幼児健診が増加し、幼児の発達・身体的問題での受診が減っているためではないかと考えられる。健康診査はじっくりとていねいに行っていることが知られてきているようである。思春期の子どもの増加は、心理的な問題などでのほかの医療・保健機関から紹介される者が増えたことも一因であろう。

本年度は、以上のように、受診件数は減少しているが、これまで積み上げてきた地道な活動が評価されてきている面もある。

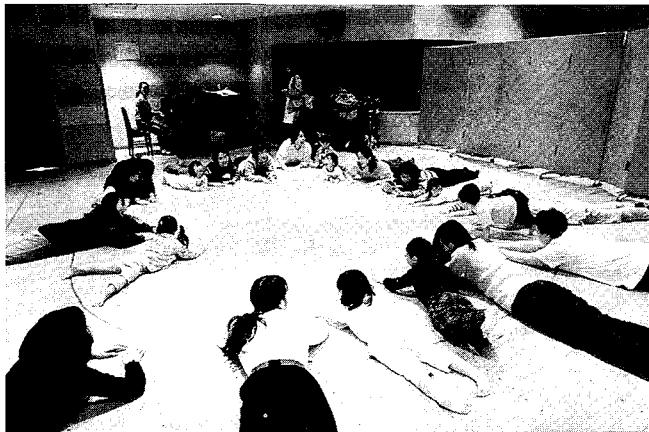
最近の傾向をみると、身体的な問題も、子どもの生活の偏りや親子関係などの心理的問題がかかわっている場合が多い。医療と心理面のケアとの連携の下に、子どもや家族

【新規来所者の診療・相談内容別内訳】(表4)

発達についての問題	言語発達遅滞(疑いも含む)	30(10.7)
	精神・運動発達遅滞(疑いも含む)	14(5.0)
	ダウントン症、その他先天異常	12(4.3)
	自閉症・自閉的傾向	9(3.2)
	学習障害・多動など	5(1.8)
小計		70(25.0)
心理的な問題	心身症・神経症・情緒障害など (脱毛・チック・恐怖症など)	56(20.0)
	その他 心理面の相談(不登校・集団不適応など)	16(5.7)
	小計	72(25.7)
身体的な問題	肥満	29(10.4)
	その他 身体面の問題(夜尿など)	23(8.2)
	アレルギー疾患・湿疹など	4(1.4)
	小計	56(20.0)
合計		198(70.7)
乳幼児健康診査		82(29.3)
総計		280(100)

を全体的にとらえながら、じっくりと相談にのることができる体制が、今まで以上に求められてきている。

特に、子育ての不安を解消するのに、既成のプログラム化された教育方法や知的な情報を頼ろうとする傾向が強い。それに集中して、気がついたときには、情緒の発達に未熟さやゆがみが生じていたり、心身の症状が現れる例も出てきている。乳幼児期から、遊びや健全な生活習慣の中での自然な親子のふれあいを取り戻す必要があるように思われる。そのためには、[こどもの城]のような〈あそび〉の場をベースにした所で、個々の問題を抱えた親子にじっくりと相談にのり、心身の活力を回復してもらうことの意味は



「母と子のリトミック〈ダウン症クラス〉」



「赤ちゃんサロン」

大きい。

「子育て支援」の活動には、このような相談的機能が今後は重要な役割を持つであろう。これからも、当クリニックの、[子どもの城]という〈あそび〉の場の中にあり、来所しやすく、予約制でじっくり相談できるというよさを生かして診療・相談活動を充実させていきたい。

②講座などの子育て支援活動

体育事業部と共同で行っている「マタニティ・スイミング」「健康スポーツ教室〈太りすぎクラス〉」、音楽事業部と行っている「母と子のリトミック〈ダウン症クラス〉」など、[子どもの城]のほかの部門と連携しながら行っている定例の講座は、今までと同様実施された。さらに、「赤ちゃんサロン」などの経験で蓄積してきている“子育て支援”的プログラムは、〈動く子どもの城〉や各地の公民館・児童館・保健所などに職員が出向いて行う講義・講習をとおして、さらに外部へと広がってきている。

「健康スポーツ教室〈太りすぎクラス〉」では、医学・栄養の個別指導のほかに、体育事業部で水泳や体育の実技指導を行っている。小さい時からの食生活の乱れが、太り過ぎだけでなく、さまざまな面で子どもの成長に影響をおぼしている例もある。運動が不器用で、学校では友だちづきあいも得意ではないが、この教室だけが楽しみという子どももいる。体育・水泳のグループ指導の工夫や心理面での対応が必要とされるが、それだけこの教室が心身の健康にもたらす意味が大きくなっている。本年度は、教室参加者の親を対象に「太りすぎの子どもの心理」にかんする講義と話し合いを持った。

ダウン症の幼児とその親を対象とする「母と子のリトミック〈ダウン症クラス〉」は、3歳から5歳の子どもたちが音楽や遊びの中で、自分を表現し、人とのふれあいの中での成長する場となっている。親たちにとってもリラックスして楽しめるひとときである。何年も通っている間に思わぬ

成長をとげていく例も多く、その変化を記録し、ダウン症児にとってのリトミックの成果をまとめる作業にもとりかかっている。

プールで行っている「マタニティ・スイミング」は、水泳による妊娠中の健康面での効果だけでなく、これから母親になる人たちの友だち作りなどの子育て支援の意味も大きい。参加者（妊婦）には、実際に乳児にふれる体験を持つために、「赤ちゃんサロン」への参加をすすめ、産後の子育ての支援に自然につながるように配慮することとした。また、本年度は、開館以来の成果をまとめて発表した。

月2回行っている、「赤ちゃんサロン」は、妊婦および生後3か月から2歳までの子どもとその親を対象にした、いわば“井戸端会議の場”である。お母さん同士が語り合い、日ごろの育児の疑問や不安を解消したり、正確な育児情報を得る場としても定着し、各地の保健所や児童館でも「赤ちゃんサロン」的プログラムが実施されつつある。全国の自治体の児童育成関係者の見学も多い。この「赤ちゃんサロン」に参加した親子が、他部門の幼児対象の講座に引き続き参加する場合もあり、[子どもの城]全体がこのような親子の成長を支えているといつても過言ではない。

「赤ちゃんサロン」の年1回のイベントである「赤ちゃん大集合」(開館記念特別期間のプログラムの1つ)は、本年度も、保育・音楽・体育の各部門の協力を得て、皆で楽しく過ごすとともに、歓談の時間もたっぷりとったので育児情報の交換の場ともなった。参加者は242組にのぼり、盛況であった。

乳児を持つ母親たちは、週日は家にいることが多く、このような気分転換の機会を求める気持ちが強いことが分かった。[子どもの城]全体として、乳児とその親への対応に、もっとさまざまな視点から取り組み、“子育て支援”をさらに進めていくことが大切だろう。

これらの“子育て支援”的プログラムには、「楽しくリラックスできる雰囲気」の中で、「心身両面を生き生きとさせ

る活動」や「人とのふれあいの中での気分転換・心の癒し」といった点が共通し、欠かせない要素である。2年間行つてきた「育児サークル・コアラッ子」(乳児を持つ母親のグループ・カウンセリング)は本年度から休止することとしたが、これからも弾力的にこうしたプログラムを考えていきたい。

③研修会などの啓発活動

本年度は、専門家向けの研修会・講習会を整理し、年2回の「小児肥満のための指導者講習会」と毎年秋に開催している恒例の「小児保健セミナー」の2つにしほった。

小児保健セミナーでは、「おかあさんを泣かせていませんか?」という題名で、育児相談の原点である、人と人とのコミュニケーションのあり方を、実技を含めて体験してもらった。全国から保健婦・保母など定員を超える希望者があり、実際に参加者同士の交流もあって、あらためて原点にある人と人とのやりとりの大切さを学んだ。

④研究活動

研究活動としては、「小児のやけどについての検討」「なぜことばが遅れるのだろうか」「幼児食のあり方についての検討－2. 幼児食の実際－」を第44回日本小児保健学会で、また、「マタニティ・スイミングの受講者の特徴－過去10年間の経緯をもとに－」を第38回日本母性衛生学会で、心理相談の「母親自身の生活の整理が子の登校に繋がった事例」を日本心理臨床学会第16回大会で発表した。

さらに【子どもの城】の事業の一部として行った「大震災に被災した幼児に対する心のケア活動－特に絵画による表現について－」の論文が日本児童青年精神医学会の専門

誌に掲載された。

なお、平成8年度から正式に「子どもの城小児保健部研究生」の登録制度を定めた。小児保健部の活動をとおして得られた資料を題材に卒業論文を書く学生、および心理相談の研修生を受け入れている。

⑤その他の活動

毎年1回行われている「マタニティ・コンサート」は、妊娠によって生活に制約を受けがちな妊婦に、楽しくリラックスできるひとときを過ごしてもらい、お産を迎えるとの主旨で行われている。本年度も、前年度に引き続き劇場事業部と共同で「さねよしいさ子」の公演の1回を妊婦向けにアレンジし、呼吸法なども交えてなごやかな雰囲気で行われた。

「子ども1日ドック」は、5人の参加で実施された。体育事業部との連携で行われている健康チェックのための活動である。また、「子どもの城児童合唱団」の上海国際少年児童文化芸術祭参加の公演旅行に小児保健部の看護婦が同行するなど、ほかの事業部との連携も深まりつつある。

特に診療・相談に継続して来所している子どもが、自発的にほかの部門の講座やキャンプに参加して社会性を広げ、自分に自信を持ち成長していく例が何例も出てきている。【子どもの城】ならではの部門間の連携による“子育て支援”がここでも自然な形で行われているといえる。

館内の救急対応は隠れた活動であるが、傷の手当てなどの応急処置・病院への連絡など、開館時間中は絶えず医師・看護婦のいずれかが対応できる体制をとり、館内の安全対策に役立っている。本年度、小児保健部の保健室で手当を受けた人は、計166人で、前年と同じであった。

平成9年度活動一覧表

①平常期間プログラム

名 称	期 間	備 考
診療・相談 小児科診療 小児総合健康相談 育児・健康相談 乳幼児健診 心理相談 栄養相談 小児肥満相談 発達相談 ※専門相談 ダントン症療育相談	月曜日を除く毎日 9:30~17:00	診療・相談はすべて予約制である。小児保健部の小児科医師・看護婦・保健婦・臨床心理士・管理栄養士が診療・相談を行う。 小児科医師の診療には、原則として健康保険が適用される。健康保険が適用されない相談もある(育児健康相談は相談料1回5,000円、心理・発達相談は担当者1人の場合1回50分5,000円、医師を通さない場合の初回相談料7,000円)。専門相談は、本年度からダントン症療育相談のみ(相談料8,000円)となった。
赤ちゃんサロン	日曜日・金曜日(各月1回)	専門医が担当。
第12回 マタニティ・コンサート	第2・4火曜日 13:30~15:00 5.10	妊娠によって生活に制約を受けがちな妊婦に、楽しくリラックスできるひとときを過ごしてもらいたい、出産を迎えようという主旨のコンサート。日赤医療センターの市川英子助産婦の呼吸法の指導、野末源一医師(山王病院産婦人科)と巷野悟郎こどもの城小児保健部顧問のメディカル・トークを交えて、シンガー・ソングライターのさねよししさ子さんのコンサートを楽しんだ。187人参加。青山円形劇場。

②特別期間プログラム

名 称	期 間	備 考
〈夏休み〉 こども一日ドック	7.24・25 12:00~17:30	対象は小学生と中学生。体育事業部との共同事業。医師による診察、検査(呼吸機能、尿、血圧測定)、身体計測、生活習慣調査、食生活調査、心理検査、体力測定の結果に基いた診断・指導。受診者は5人。
〈開館記念〉 赤ちゃん大集合～赤ちゃんサロンスペシャル	10.30 11:00~15:00	平常期間に行っている赤ちゃんサロンに、各種のイベントを盛り込んだ。小児科医トーク、親子遊び(保育研究開発部)、親子体操(体育事業部)、音楽遊び(音楽事業部)。参加者は484人。
〈 リ 〉 第12回小児保健セミナー 「おかあさんを泣かせて いませんか～子育て支援 の原点～」	10.18 10:00~17:00	話の聞き方、話し方、接し方など、人ととのコミュニケーションのあり方を実技を含めて体験してもらい、子育て相談に携わる専門家の基本的な姿勢について、あらためて学ぶ機会とした。講師は「コミュニケーションの実技」植松紀子こどもの城小児保健部臨床心理士、「コミュニケーションの基礎」白鳥元雄聖徳大学教授・元NHKアナウンサー、「育児相談の実際」巷野悟郎小児保健部顧問。参加者120人。



体育室で「コミュニケーションの実技」講習
(第12回小児保健セミナー)



第12回「マタニティ・コンサート」のメディカル・トーク

③講座・クラブなど

〈講座〉

名 称	対象・定員	受講数	開 始 日 時	備 考
健康スポーツ教室 〈太りすぎクラス〉 第14期	(組) 小学校1 ～6年生の 太りすぎ児 童とその親 (25)	(組) ①22 ②22 ③23	土曜日 14:00～17:00 ノ ノ	体育事業部との協力事業。太りすぎの改善のために医学指導・栄養指導、体育指導を行なう。外部講師として、東京女子医科大学第2病院村田光範院長・横浜新緑病院山崎公恵医師、和洋女子大学坂本元子教授・小林幸子教授・石井莊子助教授・藤澤由美子講師。
マタニティ・スイ ミング	(人) 妊娠16週以 降の妊婦 (35)	(人) 4月21 5月22 6月20 7月20 8月26 9月30 10月30 11月30 12月22 1月22 2月24 3月23	火曜日・木曜日月7回 10:00～12:00	体育事業部との協力事業。水泳という活動をとおして、妊娠中を心身ともに健康に過ごすことをねらっている。水泳の前後の検診担当の講師として、日本赤十字社医療セ ンター産科医師、助産婦に参加してもらっている。
母と子のリトミッ ク〈ダウン症クラ ス〉第14期	(組) 3～5歳の ダウン症児 とその親 (15)	(組) ① 9 ② 8 ③10	木曜日 14:30～15:30 ノ ノ	音楽事業部との協力事業。リトミック活動を利用し、子どもたちが親やスタッフと一緒に活動する中で、自分の気持ちを表現できることをねらっている。講師は音楽事業部吉村温子。

〈講習会等〉

名 称	対象・定員	受講数	開 始 日 時	備 考
小児肥満のための 指導者講習会 (第22回)	(人) 養護教諭、 栄養士、保 健婦、保母 など (50)	(人) 41	9.12 10:00～17:00 (1日コース)	全国から肥満児の指導について学習したい養護教諭・栄養士らが集まった。内容は「肥満の判定と指導」村田光範東京女子医科大学第2病院院長、「肥満改善のための食事・栄養指導」坂本元子和洋女子大学教授、「肥満児の運動指導・実技紹介」羽崎泰男子どもの城体育事業部長。
小児肥満のための 指導者講習会 (第23回)	養護教諭、 栄養士、保 健婦、保母 など (50)	51	3.13・14 10:00～17:00 (2日コース)	2日コースには心理面の講義を加えている。全国から特に栄養士が多く参加した。内 容は「肥満の判定と指導」村田光範東京女子医科大学第2病院院長、「肥満改善のため の食事・栄養指導」坂本元子和洋女子大学教授、「肥満児の運動指導・実技紹介」羽崎 泰男子どもの城体育事業部長、「肥満児の理解と心理的対応」吉田弘道東京都精神医学 総合研究所研究員。

企画研修部



平成9年度の活動

平成9年4月に企画部と研修教養部が統合され、1つの部となった。同時に、これまで企画部の業務の一部であった総合案内課の業務が業務部に移管されたため、全体として大幅に業務が入れ替わった。

これまで企画部で行っていた、事業部全般にかかわる事業の総合的な企画および調整、〈動く子どもの城〉(キャラバン隊派遣事業)の総合的な企画および調整、チャリティー事業の実施、「子どもの城友の会」の運営、利用状況統計にかんする業務などが企画研修部に継承された。

事業の総合的な企画・調整には、講座・クラブの運営やグループ活動の運営のほか、入館料の設定や来館児・者誘致のための企画立案も含まれている。このほかに、来館児・者の多いゴールデンウイーク(児童福祉週間)と夏休みに青山円形劇場を使った催しの企画・実施、外部団体と協力して行う自主企画事業の立案と実行(ギャラリーやフリーホールを使った企画展示、ワークショップ、講習会など)などがある。また、「子どもの城おもちゃ図書館マックロー」の担当も企画研修部となっている。

これまで研修教養部の事業として行われていた、ボランティアの養成とコーディネート(学校の季節休み期間に、ボランティア養成の側面を持っている、子どもを対象とした野外活動の企画と実施なども含む)、児童福祉・文化にかんする研修(社会福祉講座や全国の児童厚生員等を対象とした実技指導講習会など)、実習生・研修生の受け入れなどのほか、本年度からは他の児童厚生施設への支援も一括して企画研修部で行うことになった。

新しい企画研修部の業務は、①各事業部の業務の総合的

な企画・調整 ②〈動く子どもの城〉(キャラバン隊派遣事業)の総合的な企画および調整 ③児童福祉・文化にかんする研修 ④実習生・研修生の受け入れ ⑤ボランティアの養成および活動支援 ⑥チャリティー事業 ⑦子どもの城友の会の運営 ⑧利用状況の統計にかんすること——となつた。

①事業全般にかかわる企画調整

(ア) 事業全体のとりまとめ

新年度の予算と事業計画作成の段階で各事業部の資料を取りまとめ、理事会に提出する事業部門全体の事業計画・事業報告資料の作成、夏休み・冬休みなどの特別期間の事業を取りまとめて統一起案を作成するという業務を行ってきた。

【子どもの城】の事業は各事業部が独立してアイデアを出し、それぞれの専門性を生かして事業を進めることで、活動内容の質の高さと独自性を維持してきた。反面、外から見たときに、1つのイメージとして捉えにくくいことも事実である。

例えば、学校の季節休みの特別期間の催しをみても、もりだくさんのプログラム内容でキャッチコピーがついているが、「テーマ性」が希薄で、全体として【子どもの城】はこんなところだというイメージを来館児・者に伝えにくいのが現状である。

新年度を迎える年度末ごろから、1回ごとに特別期間のテーマを設定するのではなく、何回かにわたって継続・発展

するようなテーマの設定を考えるようにした。しかし、各部門のプログラムが決まった後にテーマを決めていることもあり、実際のプログラムに十分反映されなかつた。

各事業部門の独自性を保ちながら、全体として統一的なテーマを設定し、[子どもの城]としての“主張”を打ち出し、来館児・者に強い印象を持ってもらえるような事業を展開するために、例えば事業計画の段階から全体の“流れ”を作り出せるように、総合的な企画・調整を行い、実施段階においても各事業部間の調整を行っていく必要がある。

したがって、入館児・者の動向調査や分析、子ども活動エリアだけでなく研修室などを含めた施設利用の調整や利用方法の検討など、事業部門から独立して[子どもの城]全体の企画・調整を視野に入れた活動を行うことが今後の課題である。

(イ) グループ活動

平成6年度以降毎年100件以上の団体を受け入れ、本年度は団体数で過去最高の117件を受け入れた。参加者数は2,759人であった。

ろう学校の参加や異なった障害を持った児童のグループが同一プログラムを体験する例が実現するなど、プログラム実施の対応幅が広がつた。近年行ってきた広報活動の成果であるとともに、指導者の[子どもの城]への期待と活動趣旨への理解が高まっている表れである。

しかし、「グループ活動」が参加団体との打ち合わせを前提としたプログラムであるということもあり、初めての団体には具体的なプログラム内容が理解しづらかったようだ。そこで「グループ活動」の具体的な内容を伝えるプロモーションビデオ(5部門)の撮影・編集を行つた。言葉や印刷物による説明に加え、映像で具体的に説明ができるように

した。事前に利用希望団体にビデオを送り、見てもらうことで、来館前に明確なイメージを持つてもらうことができるようになった。

一般来館児・者数が、子どもの数と比例するように減少しているのに比べ、「グループ活動」参加団体の増加とこれに付帯した午後の割引きによる自由利用の増加は注目に値する。さらに、「グループ活動」参加がきっかけで[子どもの城]を知り、のちに家族や友人と利用するパターンを考え合わせればそれ以上の効果があると考えられる。

プログラム内容にかんしては、特別期間のプログラムの「グループ活動」へのリメイクや、各事業部の専門性を生かした既存のプログラムに他部門のスタッフやスペース、器具を合わせた新プログラムの考案が課題になっている。

(ウ) 動く子どもの城

詳細は135~138ページ参照。

(エ) チャリティー事業

本年度のチャリティー事業は前年度までの劇場での演劇公演を中心とした招待から、子ども向けのより多様な催しへの招待へと趣向を変えた。養護施設などの児童らを対象に延べ73回、230人を[子どもの城]のさまざまな催しに招いた。

幅広い年齢、多様な環境にある多くの子どもたちに喜んでもらえるよう、これからも幅広い催しに招待を続けてていきたい。

(オ) 子どもの城友の会

「子どもの城友の会」では本年度から、会員対象の「子どもの城友の会通信」(月刊)を創刊し、発行した。[子どもの

【チャリティー事業一覧】

日付	回数	場所	題目	人数(人)	対象者
5月3日	2	青山円形劇場	こどもフェスティバル「あとむの時間はアンテルセン」	42	
4日	2	〃	〃	35	
5日	2	〃	「愉快なコンサート」 「おんがくがスキ！」	42	養護施設の児童、母子寮の親子、障害児(者)グループ、社会福祉協議会のボランティアほか
6月6日	1	会議室ほか	「万人のための美術展～つくろうあそぼうカーニバル」ワークショップ	13	
7月20日～	1	音楽スタジオ	キンダー・フィルムフェスト・ジャパン	25	
8月3日	1	〃	〃		
8月13日	2	青山円形劇場	第3回人形劇カーニバル	24	
14日	2	〃	〃		
15日	2	〃	〃		
11月9日	1	音楽スタジオ	日本・カナダ子ども交流コンサート「こんなちはカナダ」	8	
12月6日	2	青山円形劇場	ミセスサンタズ・アニマル・クリスマス	26	
7日	2	〃	〃	15	
計	73			230	

【子どもの城友の会会員向け催し一覧】

プログラム	実施日	備考
ファミリーハイキング	5・25	自然に親しみながら、親子で共同作業ができる、ほかの家族とも交流が図れるプログラムとして潮干狩りを実施。往復のバス内では、ボランティアリーダーがゲーム指導し、参加家族の交流を図った。木更津海岸（千葉県）。
音のかけら	10・19	ギャラリーで開催した「音のかけら展」に関連した親子プログラムへの招待。音の彫刻家・金沢健一氏の指導で、参加者が描いた形に鉄を溶断し、音を出して楽しむワークショップに参加。ピロティ。
ファミリーハイキング	10・25	毎年行われている、初心者でも楽しめる野外活動。昨年まではテントを使った宿泊キャンプだったが、本年度は小さな子ども連れでも気軽に参加できる日帰りプログラムとした。全員で農作物を採り入れし、昼食の準備に励んだ。所沢市（埼玉県）城北ファーム。
扇作りの ワークショップ	1・3～7、15	「扇（たこ）作りのワークショップ」のうち、「エイ扇」の材料費割引と、「角扇」「ひこうき扇」の親子プログラムへの優先予約と材料費割引（1月3日を除く）を実施。
劇場公演に招待・優待		「青山バレエフェスティバル」（青山劇場）、「こどもフェスティバル」「人形劇カーニバル」「ミセスサンタズ・アニマル・クリスマス」「ぼくらのサウンド」「体操発表会」（青山円形劇場）などの公演に抽選で招待。そのほか、自主公演の料金割引などの優待をした。

【子どもの城友の会会員の居住地区別内訳】

	東京都			埼玉県	神奈川県			千葉県	茨城県	その他	不明	合計						
	特別区		市町村		川崎市	横浜市	その他											
	渋谷区	港区																
家族数 (世帯)	159	121	1.027	134	1.441	154	96	125	64	285	118	19	95	9	2,121			
人 数 (人)	583	461	3,737	486	5,267	566	398	442	227	1,007	441	85	354	26	7,746			

「その他」の都道府県内訳（家族数）

青森県（2）	秋田県（2）	岩手県（1）	山形県（2）	宮城県（5）	福島県（1）	新潟県（3）	栃木県（11）
群馬県（6）	山梨県（3）	長野県（8）	静岡県（13）	愛知県（5）	三重県（1）	福井県（1）	京都府（1）
大阪府（12）	兵庫県（6）	岡山県（2）	広島県（5）	香川県（2）	福岡県（3）		

【子どもの城友の会会員の就学区分別内訳】

区分	未就学児	小学生	中学生	高校生	大人	計
家族数(世帯)	1,127	1,096	214	88	2,119	2,121
人 数(人)	1,385	1,390	237	97	4,637	7,746

(1) 就学区分は平成9年度の区分による。

(2) 家族数は、小学生と中学生がいる家庭などは、両方に計上。

(3) 全世帯のうち158世帯が大人だけの家族

の城】の活動理念をより深く理解してもらうこと、子育て支援、催し物や劇場公演への優待などを目的とした、友の会会員を対象とした会報である。この「友の会通信」(年13回・号外含む)をはじめ、「子どもの城ニュース」(年9回)、講座募集案内など、年間14回のダイレクトメールを会員に送付した。

会員を対象に行われた催しは別表のとおりである。これは【子どもの城】が今後一般利用者にむけて行うさまざまなプログラム作りのための貴重な基礎資料にもなっている。

春と秋のファミリーハイキングのほか、「こどもフェスティバル」「人形劇カーニバル」などへの招待は好評で、会員サービスとして定着してきた。子どもの年齢がさまざまであること、遠方に住む会員もいることなどのため、すべての会員のニーズにくまなく応えることは難しいが、今後はより多くの家族が参加しやすい形態を工夫するなど、会員家族間の交流がより活発に行われるような催しの工夫をはかりたい。

「友の会通信」は、より読みやすく情報が伝わりやすい紙面作りに努めています。【子どもの城】のモニター機能も持つ会員が、子育ての上で何を知りたいか、【子どもの城】に何を求めているかなど、意見を反映していくような運営を心がけたい。

②外部団体と協力して行った事業など

(ア) コマガタワールド 遊び・絵本・知育

グラフィック・デザイナー駒形克己氏は、自らの子どもの誕生をきっかけに、子どもとのコミュニケーションを深めるために、子どもの成長にあわせた絵本を制作している。代表作「リトル・アイ」シリーズは、鮮やかな色彩、シンプルな形をベースにした絵本。カードをめくったときの意外性は、子どもたちの想像力を触発し、自然とコミュニケーションを豊かにする優れた媒体である。そして、駒形氏の作品は日本だけでなく、展覧会とワークショップを行ったフランスなど海外でも高い評価を得ている。

駒形氏と【子どもの城】は、この展覧会を念頭において、前年度から子どもや、親子を対象とした絵本作りのワークショップを開催してきた。この【子どもの城】での経験もふまえて、駒形氏のこれまでの絵本作りの方法論を【こど



「コマガタワールド 遊び・絵本・知育」展のワークショップ

もの城》という遊びの実践の場で展開したものである。

子どもたちに絵本の世界を楽しんでもらうために、絵本の図版を拡大し、遊びながら想像力や感性を触発することができるように工夫をした。また、大型の絵本作品のほかにも、並べ替えて形の変化を楽しめるクッショングやブロック遊具などを展示した。

さらに、展示によって触発された子どもたちの創作への欲求を効果的に引き出すために、展示会場の最後に、「リトル・アイ」をモチーフとしたカード作りのワークショップも実施し、毎日多くの親子が参加した。

(イ) 第3回人形劇フェスティバル

夏休み特別期間の来館児・者が最も多い、お盆の時期に行ってきた「人形劇カーニバル」も本年度で3回目を迎え、[子どもの城]の行事として定着してきた。今年のテーマは、子どもたちにじみの深い「日本の昔ばなし」。その人形がどのように操作されているのかにも興味を持ってもらうために、「人形劇のからくり」というサブテーマを設けた。

子どもたちも自分の知っている話ということもあり、人形劇が始まるとすぐにその世界に引き込まれていたようだ。また、大人の観客も、その人形操作や話の展開のパリエーションを楽しむことができた。

なかでも、八王子車人形西川古柳座の公演は、車人形という古くから伝承されてきた人形操作を生の舞台で味わうことができ、その操作には大人から子どもまで圧倒され、見入っていた。また、落語とのジョイントであり、言葉の豊かさも味わうことができ、人形劇カーニバル全体が幅広い内容となつた。

この企画は、児童館や保育所、幼稚園などで児童の健全育成にかかわる指導者に、人形劇という児童文化の楽しさや奥深さを紹介していくことも趣旨の1つであり、今回も



「カナダの絵本と子ども文化展」会場入口

招待を実施した。

(ウ) カナダの絵本と子ども文化展

[子どもの城]では折にふれて世界のさまざまな地域で生活する子どもたちの紹介につとめてきた。平成5年にはアフリカ、平成7年にはブラジル、平成8年には香港をテーマに取り上げた展示を行ってきた。

本年度は、カナダ・サイモンフレイザー大学とカナダの絵本と子ども文化展実行委員会との共催で、カナダ国内で刊行されている絵本約300冊の紹介を中心に、異なったさまざまな文化が共存する、カナダの子ども文化を紹介する展示を行った。カナダの絵本は、日本ではまだあまり紹介されていないが、カナダ・サイモンフレイサー大学の協力で集められた現代カナダの絵本に抄訳をつけ、子どもたちにも手に取れる形で展示了。

また、こうした絵本作品の背景にもなっている動物、森林といった豊かな自然、ヨーロッパ系住民とは異なる伝統文化を持った先住民の人たちの文化も併せて紹介した。会場では、先住民の人たちが魔除けとして使っていた羽飾りのついた「ドリームキャッチャー」作りや「読み語り」のワークショップも行った。

関連事業として、オタワ中央児童合唱団のメンバー12人との交流プログラムも行われた。これまで、日本に住んでいる外国の子どもたちとの交流は行われていたが、海外の子どもを受け入れ、交流プログラムをコーディネートするのは初めての機会であった。

講座・クラブ受講生の家族の協力を得て、1泊であったが、同年代の子どものいる家庭でホームステイも実現した。カナダの子どもたちは、餅つきや日本の伝統的遊びを体験する交流プログラム、和太鼓グループと三味線グループとの交流コンサート、大使館訪問など4日間の短い滞在ではあったが、積極的にプログラムに参加した。

準備期間の短かさ、予算の制約や外部団体との調整など難しいことも多く、受け入れの態勢としては不十分な点もあったが、[こどもの城]にとってもよい経験であった。

(工) 昔あそび大集合～新春もちつき、獅子舞

開館以来毎年続いてきた「新春もちつき」。日常使われることの少なくなった道具、木製の杵と臼を使い、親子で、もちつきを体験できるプログラムとして高い人気を集め、屋上遊園で実施してきた。本年度から、青山通りを通行する人や青山劇場来場者など、より多くの人たちに正月の雰囲気を味わってもらおうと、会場をピロティに移し、1月4日に行った。

会場では獅子舞も披露されて、雰囲気を盛り上げた。昨年を大きく上回る参加者が集まり、より多くの人たちに参加してもらうというねらいは達成され、道行く人たちへ[こどもの城]をアピールする機会となった。

5・6日には、江戸太神楽、鏡味小仙社による獅子舞、傘、こまなどを使った伝統曲芸（大神楽）の披露もあり、[こどもの城]の入口付近はお正月らしい雰囲気に包まれた。

③ボランティアの活動と養成など

(ア) ボランティアの活動

[こどもの城]の事業に協力するボランティアを養成するためにボランティア講習会を実施しているが、本年度の講習会修了者は95人。実際に[こどもの城]で活動を希望し登録をしている人は、前年からの継続者も含め年度末現在397人となった。昨年同様、社会人の参加率が高く、学生のボランティア活動が不活発な傾向はそのままである。

(財)内外学生センターが平成10年3月に発表した報告（全国98大学、10,000サンプル）によると、「ボランティアとア

L. I. T. の「コスモール2097」



ルバイトどちらを優先するか」の問い合わせに対して、80%は「アルバイト」と答えている。この報告からも分かるように、全国的な傾向として、学生のボランティア離れは進んでいくようだ。21世紀に向けて人と人が支え合う社会を作るためにも、学生のボランティア活動は重要な体験学習の場として考えられる。[こどもの城]が青少年の福祉教育活性化の拠点としての機能を發揮するためにも、今後の重要な課題だと考えられる。

【平常期間プログラムの中での活動】

ボランティアによる平常期間プログラムは、各部から依頼される活動（保育、スイミング、ユースクラブ、キッズクラブなど）と、ボランティアが各部に働きかけて生み出された活動（人形劇、紙芝居、影絵、パネルシアターなど）の2つに大別できる。

本年度は、昔遊びを中心とした新たなグループが生まれるなど、グループの活動が活性化するきざしが見えてきた。しかし、学生ボランティアの減少が続いている中で、継続的に活動しているボランティアが多く、必然的に各グループのメンバーの年齢が高くなっている。

特に保育研究開発部のように、学生ボランティアを希望するケース（幼児からみた場合、親と異なる若い世代——兄姉の世代を希望する）もあり、子どもを対象にしたボランティア活動では、経験だけでなく、子どもと年齢が近いという“若さ”も重要な要素となる。子どもと、より“共感”するためにも、若さは大切だと考える。

ボランティアの継続性を高めるとともに、各人の経験に応じた活動領域をともに考えていくことが今後の課題だ。特に継続的にかかわるボランティアは、子どもとの対応だけでなく、[こどもの城]の事業運営にも適切な意見を持つようになってきている。[こどもの城]も今後、さまざまなボランティアの力を各領域で生かしながら、市民参加型の施設運営をめざす必要がある。

内容を一新して「ワンダースプラッシュ」



【特別期間プログラムの中での活動】

学校の季節休み期間で来館児・者が集中する時期に、より多くの子どもたちが一度に参加して遊ぶことのできるプログラムを計画。春休み、ゴールデンウイーク（児童福祉週間）、夏休み、開館記念、冬休みの5つの特別期間に実施した。

本年度は、従来から続けていた内容を一新する機会が多くなった。ゴールデンウイーク特別期間の「キャッスルクエスト」を「モンスタークラブ」に、夏休み特別期間の「ウォーターアドベンチャー」を「ワンダースプラッシュ」に一新した。また、開館記念特別期間に実施していた「あそびのおもちゃ箱」を秋と春の2回実施することにした。

年間をとおして、新規プログラムの開発に積極的に取り組んだ。プレイ事業部を中心とした〔子どもの城〕側のスタッフの積極的な働きかけがあったが、それに応えたボランティアの自発的な姿勢が、なによりも大きかった。

各プログラムは、その都度5・6人のチームを編成し、グループで企画・準備を行っている。チームが、自主性を持って活発に活動していくためには、メンバー同士の豊かな相互関係が必要になってくる。しかし、年を追うごとにこうしたチーム作りが難しくなっている。スタッフはグループの活動活性化のために、グループワーカーとして働きかけることが重要な役割となってきている。

【L. I. T. の活動】

平成8年度から活動を続けているメンバーが、夏の締めくくりの活動として行う「コスマール2097」の準備活動を5～8月に行った。さらに、8年度の活動を振り返り、本年度の活動方針を次のように定めた。

L. I. T. は高校生の社会参加活動であるが、自己の確立が未完成なこの時期に、子どもを対象にしたボランティア活動の表面的な事柄（ゲームをすること、イベントを企画することなど）ばかりを体験するのは適切な活動とはいえない。ボランティア活動を行う上での心構え（ボランティアスピリット）を伝えて行くことが大切と考える。

L. I. T. で大切にしたいボランティアスピリットは節度を持って行動できること、他人と豊かなコミュニケーションがとれること、自立して行動できること、他人に共感できること、良いリーダーシップを持っていることである。

上記のような視点を持って本年度のL. I. T. の活動に取り組んだが、プログラムを考える時に次の点を配慮した。

L. I. T. の活動は高校生にとって魅力ある活動でなければならない。そのために、個人の能力や欲求に合わせ

た活動を行う、集団としての帰属性を高める活動を行う、多様性に富んだ活動を行う、良質のストレスのかかる活動を行う——に留意する。そして、メンバーが自発的に活動にかかわっていくように配慮する。

ここ1、2年の間に、国や自治体における政策課題の重要項目の1つに挙げられている「ボランティア活動の体験学習の充実」をふまえ、より個人の能力を生かした体験的ボランティア活動を今後ともめざす。

(1) ボランティアの養成

ボランティア活動を希望する人は、〔子どもの城〕が主催する講習会を受講したのちに、登録してもらうシステムをとっている。本年度も「青年ボランティア講習会」（年2回）と「女性ボランティア講習会」（年1回）を実施した。

講習会では、〔子どもの城〕の活動や健全育成に携わるボランティア活動の基本的な考え方（子ども論、指導者論、ボランティア論など）を学んでもらった。ボランティア同士の仲間作りや共通基盤を持って活動に参加し、〔子どもの城〕に新しい風を吹き込む運動体となることを願って講習会を実施した。

ボランティアを希望する社会人が多くなっている傾向は昨年同様で、年齢、社会的立場、ボランティア活動に対する考え方などが違う、さまざまな人間が講習会に参加した。それだけに講習の方法に配慮が必要になる。〔子どもの城〕ボランティアとして最低限必要な知識と技能を身につけ、共通の基盤を養うことだけでなく、人間関係を深めるトレーニングをとおして、子どものリーダーとしてのあり方を考えるのも重要な目的の1つとしている。

トレーニングの場面では、スタッフが1人ひとりの人間性を理解し、お互いの人間関係を深めながらアプローチしなければならない。ボランティア観、子どもと接する大人としての人間観などさまざまな考えを持つ受講生に対し、こうしたアプローチを行う重要性と難しさを痛感した。

【青年ボランティア講習会】

2回の講習会（36期・37期）を実施し、学生・社会人が計80人参加した。各期ともに、8回の講義と2泊3日の宿泊研修を行った。

さまざまな職種の社会人が参加、年齢的にも20～30代と幅広く、積極的な受講態度がみられた。

【女性ボランティア講習会】

広報部の協力を得て、新聞や情報誌などへの募集掲載を行ったため、広く多くの人からの募集があり、活気のある講習会となった。40～60代の主婦が中心で、読み語りへの興味を持つ人が多かった。受講生は15人。

【ボランティアグレードアップ講習会】

登録しているボランティアを対象に、活動の資質向上を図るために実施した。

本年度は、夏に「野外活動講習会」をキャンプ前の再確認として行った(3回の講座と2泊3日の宿泊実習)。宿泊実習では野外活動の経験レベルに別けて講習した。

冬には「ジュニア・スプリング・キャンプ」に向けて、現地でのトレーニングキャンプを行った。単に実地踏査をするだけでなく、キャンプで行うプログラム(雪上でのテント設営・クロスカントリースキーなど)を実際にボランティアが体験することによって、技術の向上とプログラムの留意点を再確認する機会となった。

(4) 野外活動

「ジュニア・アウトドア・スクール」「ジュニア・スプリング・キャンプ」を実施した。両キャンプともに、ボランティアが多数参加し、スタッフの運営補助にとどまらず、1・2か月前から準備計画にも参画した。

これらの野外活動は、[子どもの城]開館前の準備段階から行われ、15年にわたる歴史を持っている。当初の社会性を身につけるトレーニング的な要素の強いプログラムから、個人個人の自己実現をめざしながら、自然を理解し、他人と自分への気付きを深めることへと変わってきている。この流れは[子どもの城]にとどまらず、全国的な野外教育の今後の方向性とも重なっている。[子どもの城]の野外活動を、児童健全育成活動の重要なプログラムの1つとして考えるならば、全国で展開されているさまざまな野外活動の実態を把握し、諸団体や学識経験者とのネットワークを結びながら、21世紀に向けて、よりよい野外活動プログラムの開発を模索する必要がある。

「ジュニア・アウトドア・スクール」は、1週間の長期キャンプのため、社会人の参加が難しくなってきていている。そこで本年度は社会人で経験者に限り、途中入村、途中退村を認める変則的な参加形態を設けた。

キャンプ活動へのボランティアの参加は、子どもたちの自発性を高め、大人と子ども(指導する者とされる者)の関係を起きた真の人間関係を促進させる効果がある。だからこそ、キャンプへのボランティア参加は欠かせない要素となっている。今後、社会人ボランティアが増えると予想されるので、柔軟な参加形態と、その欠点を埋めるキャンプの組織作りを考えていく必要がある。

その他、次のように他事業部のキャンプにも多くのボランティアが参加し、班付きカウンセラーや本部運営を意欲的に行なった。

チャレンジキャンプ(体育事業部)/ちびっこ冒険団、フレーシップキャンプ(プレイ事業部)/合唱団合宿(音楽事業部)/ファミリーハイキング(企画研修部)/ゆきんこ冒険団(プレイ事業部)/スキースクールI, II(体育事業部)

④ 研修、実習生・研修生の受け入れ

(ア) 子どもの城児童厚生員等実技指導講習会

例年同様、3回の講習会とも、定員を超える申し込みがあり、[子どもの城]に対する期待感の高さがうかがわれる。

実技を中心とした講習会だけに、全国の児童館などの指導者のニーズを的確に把握し、斬新さと魅力あるテーマをみつけて行かなければならない。しかし、もの珍しい実技を並べただけでは、ニーズに応えられないという現実もある。1つ1つのプログラムの目的、それを実施することの社会的な意味も同時に考え、伝えて行かなければならない。単なる“遊び”に終わらせるのではなく、文化的、社会的背景をも考慮した魅力あるプログラムを用意する必要がある。

講習会の参加者をとおして、全国の児童館が単なる子どもの“遊び場”にとどまらず、地域の児童健全育成活動の拠点としてさまざまな機能を要求されていることが伝わってくる。現代社会において、高齢化社会とならんで少子化社会が大きな問題になってくると同時に、児童館に対する期待も高まってきているといえる。これらの社会的ニーズを的確に把握し、講習会の内容に反映させていくように慎重に企画していく必要がある。

(1) 社会福祉講座

本年度も、開館以来実施している「手話講座」と「初級点訳講座」を実施した。受講者数は両講座併せて79人だ。準備段階からボランティアも参画(「ジュニア・アウトドア・スクール」)



た。

「初級点訳講座」は、広く視覚障害者の理解と、その福祉の世界を考えるきっかけとする内容である。15回のうち、5回は視覚障害者福祉に従事している人(あるいはその対象者)を招いて講話、ほかの10回は点字の基本的な打ち方の講座とした。しかし受講希望者は少なくわずか9人だった。点訳ボランティアの活動領域の不足と、市民ニーズを考慮して、「初級点訳講座」は本年度をもって閉講することとした。

(ウ) 実習生・研修生の受け入れ

大学・短期大学、各種専門学校から実習生受け入れの依頼があつたものについて、コーディネートを行った。今年は、保育研究開発部、プレイ事業部、音楽事業部、AV事業部、造形事業部の各部で受け入れた。特に、学芸員の資格取得のための実習があり、AV事業部と造形事業部で実習。実施校数は6校、15人だった。

職員研修のための研修生の受け入れは2件、3人がプレイ事業部と造形事業部で研修を行った。

本年度は初めて、お茶の水女子大学付属中学校からボランティア体験実習の要請があり、受け入れた。今後、学校教育の一環としてボランティア活動を希望するケースが増えると予想される。しかし、ボランティア活動が子どもたちの評価の対象となる可能性もあり、自発性、無償性、先駆性、継続性を原則とするボランティア活動の本質を歪めることになるのではないかという危惧もあるが、ボランティア活動のきっかけとして体験学習を行うことの意義は大きく、学校と緊密な連絡をとりながら、慎重に受け入れていきたいと考えている。

⑤まとめと今後の課題

ここ数年来、「こども活動エリア」の入館児・者の減少傾向が続いている中で、平日の来館児・者増化策の1つとして、近隣の利用者の掘り起こしに力を入れた。[子どもの城]に隣接している渋谷区・港区の教育委員会、校長会のご協力を得て、各小学校学校の創立記念日に無料入館できるよう招待券やちらしを配布した。

全体として、配布招待券の約1割の子どもたちが来館した。平日は小学生以上の子どもたちが楽しめるプログラムは少なく、学童期の子どもたちにも満足してもらうために

は、平日のプログラム構成を考えていくことが必要だと感じた。

また、来館児・者の動向、要望を調査するためのアンケート調査を8月と1月、2月に実施した。結果は今後の事業全体の指針の参考として活用し、リピーターへのメリットの付加などの地道な活動をとおして、利用者増への努力をしたい。

少なくなった来館児・者へのきめ細かなプログラムの提供も不可欠な要素だと考える。平日は幼児と親、休日には高学年というように、利用者の年齢層などを考慮して、より多くの来館児・者が満足感を持って帰れるように、プログラムの充実に努めなくてはならない。

[子どもの城]のような、子どものための福祉と文化の総合施設では、スタッフだけでなく、子ども同士の交流や人間関係作りを支援するためのボランティアの存在は欠かせない。就職、転勤などさまざまな理由で活動を休止するボランティアもいるので、定期的に養成講習会を行い人材確保に努めている。養成にあたっては、[子どもの城]という限られた場所での活動だけでなく、[子どもの城]での活動経験を生かし、将来、地域における子どものための活動の支援者になることも視野に入れている。

ボランティアは、活動をとおして成長していく。ボランティアが仲間やスタッフから学ぶこともあれば、スタッフがボランティアから学ぶこともある。それぞれの要望を調整し、それぞれの意見を取り入れてよりよい活動をめざすために、[子どもの城]とボランティアの間をコーディネートすることが重要な意味を持つてくる。これも、広い意味での養成といえる。

ボランティアの果たす役割は、今後も大きくなっていくと思われる。引き続き、充実した養成・コーディネートが行えるように努力していきたい。

また、児童福祉・文化にかんする研修会の開催や実習生・研修生の受け入れなどは、[子どもの城]のノウハウを提供するだけでなく、幅広い人の意見を聞く場にもなっている。各地の児童館などの現場スタッフとの交流は、健全育成のネットワークを広げる絶好の機会でもあるので、有効に活用していきたい。

企画研修部はそれぞれの事業部門が互いに協力し、よい環境で新しいプログラム開発ができるよにコーディネートしていきたい。

平成9年度活動一覧表

①外部団体と協力して行った事業など

名 称	期 間	備 考
《児童福祉週間》 こどもフェスティバル	5.3～5	毎年来館児・者の多いゴールデンウイークに、青山円形劇場で、親子で楽しめる公演を行っている。本年度は、音楽を中心とした3つの公演を日替わりで行った。来館児・者からも要望が多い「ロバの音楽座」と「おんがくすき」は昨年に引き続いての出演となったが、構成を少し変えてあり、飽きさせない内容だった。また、「劇団あとむ」の「あとむの時間はアンデルセン」は、やや重いアンデルセンの話を明るいタッチで演じ、最後まで観客をひきつけた。 5月4日 「あとむの時間はアンデルセン」劇団あとむ 5月3日 「愉快なコンサート」ロバの音楽座 5月5日 「おんがくがスキ！」おんがくすき なお、「劇団あとむ」「ロバの音楽座」の公演は、(社)全国児童館連合会の優良巡回劇事業の一環として実施した。
《 リ 》 マックロー グリーティング	5.5	(子どもの城)のマスコットであるマック・マックローの着ぐるみが登場。自分の誕生日(5月5日)と「子どもの日」を祝って、館内で子どもたちと握手をして回ったり、いろいろな遊びにいっしょにチャレンジした。
《夏休み》 コマガタワールド 遊び・絵本・知育	7. ~ 8.31	グラフィックデザイナーで、絵本作家でもある駒形克己氏の絵本の世界を立体的に構成した展示と、子どもたちの想像力を広げるカード絵本作りのワークショップ。駒形氏の絵本は、コミュニケーションの媒体であるという点に着目して作られており、その展示を通じ、親子のコミュニケーションのための時間と空間を提供することができた。日本芸術文化振興基金の助成を受けて実施。後援は、朝日新聞社、(社)日本世界児童図書評議会、絵本学会。
《 リ 》 第3回人形劇カーニバル	8.13~15	(子どもの城)を訪れる多くの親子連れにさまざまな人形劇を見る機会を提供するとともに、より多くの児童健全育成関係者にも児童文化としての人形劇の魅力を理解してもらうことを目的に実施。本年度のテーマは、「日本の昔ばなし」と「人形劇のからくり」。3会場でさまざまな公演を行った。後援は(社)全国児童館連合会、東京都公立児童厚生施設連絡協議会。
《開館記念》 ファミリーウィーク	10.30~11.9	平成6年から続いた「親子体験ワークショップ」を引き継いで、開館記念日の11月1日の前後を「ファミリーウィーク」と銘打ち、親子を対象としたプログラムを(子どもの城)全体で実施した。企画研修部も、「カナダの絵本と子ども文化展～多民族の国・カナダを創る子どもたち」と「きみが主役 ゲームでチャレンジ！ 世界の昔ばなし」を行った。
《 リ 》 カナダの絵本と子ども文化展～多民族の国・カナダを創る子どもたち	11.1~9	日本ではあまり紹介されていない、カナダの絵本約300冊を中心とした展覧会。子どもたちにカナダを体感してもらえるように、カナダの名所、動物、先住民の文化などのパネル展示やワークショップを実施した。カナダ・ブリティッシュコロンビア州立サイモン・フレーザー大学、カナダの子ども文化展関東実行委員会との共催。
《 リ 》 日本・カナダ子ども交流 コンサート「こんにちはカナダ」	11.9	「カナダの絵本と子ども文化展」の一環として、カナダ・オタワ中央児童合唱団12人が来日、(子どもの城)の子どもたちと交流した。講座・クラブ生との交流歓迎会、ホームステイ、そして和太鼓と三味線グループとのジョイントコンサート「日本・カナダ子ども交流コンサート こんにちはカナダ」(音楽スタジオB)などを各部の協力を得て実施した。
《 リ 》 マックロー グリーティング	11.2・3	(子どもの城)のマスコットであるマック・マックローの着ぐるみが登場。来館児・者の多い週末に、館内で子どもたちと握手をして回ったり、いろいろな遊びにいっしょにチャレンジした。
第4回 おりがみカーニバル	11.14~16	日本折紙協会の提唱する11月11日の「おりがみの日」にちなんで、折り紙作品の展示・ワークショップなどを実施した。伝統的なものからオリジナルまでの折り紙作品に接することで、造形的な楽しさも体験できるようにした。例年、ワークショップでは、参加した子どもたちが折った個々の作品を飾りつけて、大きな作品ができあがるように配慮している。今年は、クリスマスをテーマに、サンタクロースやトナカイ、ろうそくなどを折り、蛍光のてぐす糸でできた大型の「光るクリスマスツリー」に作品を飾りつけていった。なお、「光るクリスマスツリー」は、12月18日まで1階アトリウムに飾った。日本折紙協会との共催事業。

名 称	期 間	備 考
〈冬休み〉 凧作りワークショップ	1.3～7. 15	日本の凧の会の協力を得て行われている、恒例のワークショップ。和紙と竹ひごで作る「エイ凧」と、本格的な「角凧」、高学年向けに立体凧の「ひこうき凧」を作った。
〈 リ 〉 新春もちつき大会	1.4	近隣の東京都児童会館と例年日程が重なることもあり、本年度は1月4日に実施した。また、より多くの人に餅つきを体験してもらい、(こどもの城)をアピールするため、場所を屋上からピロティに移して行った。餅つきの合間には、縁起物の獅子舞なども実施した。
〈 リ 〉 こま名人きたる！	1.15	日本独楽博物館(名古屋市)の藤田由仁館長を迎えて、独楽回しをはじめ、竹がえし、けん玉、南京たますだれの遊び方と技の数々を紹介するプログラム。公演終了後に、藤田館長の指導で、子どもたちがこれらの遊びに挑戦した。
こどもの城 おもちゃ図書館 マックロー	年末、年始を除く毎週水曜日 (開館時間 11:00～16:00)	心身に障害のある子どもたちが気軽に利用できる遊び場として、昭和2年に開設された「こどもの城おもちゃ図書館マックロー」。本年度も10数人におよぶボランティアを中心に運営された。47回開催し、延べ利用者は526人、おもちゃの延べ貸し出し数は882個、活動に参加したボランティアは延べ399人にのぼった。全国に約500か所ある「おもちゃの図書館」のモデル的活動として、全国からの見学者も多い。
豊かな遊びを広げる おもちゃ展	12.2～6	(こどもの城)ギャラリーで、おもちゃ図書館のボランティアが制作した手作りおもちゃの展示と、企業の協力を得て市販されている玩具の展示を行った。
お楽しみ会とワイワイキッズコンサート	8.31	「こどもの城のおもちゃ図書館 マックロー」や、近隣のおもちゃ図書館を利用している子どもたちが集い、開催したお楽しみ会。お店屋さんごっこ形式のバザーや、小田急グループ吹奏楽団によるコンサートなど、夏休みの最終日に楽しいひとときを過ごした。

②ボランティア関係の活動

〈平常期間の活動〉

名 称	期 間	備 考
おはなし紙芝居のつどい (ブレイ)	火曜日 15:00～15:30	長く続いている女性ボランティアに、新しい期のボランティアも参加して紙芝居の持つ温かさを伝えることを目標にした定期的活動。
おはなし人形広場 (ブレイ)	水曜日 15:00～15:30	女性ボランティアの人形劇・影絵の両グループが第2・第3水曜日に公演。毎週練習を積み重ね、充実した活動を展開。新メンバーも多く入り、活性化した。
手作り人形 (企画研修)	木曜日 11:00～15:00	女性ボランティアのグループが、週に1度集まり、ブレイホール幼児コーナーに置く抱き人形やまごと用具などを製作。
おりがみあそび広場 (ブレイ)	木曜日 14:00～15:00	主として女性ボランティアが中心となって運営。週1回の活動とともに各季節ごとにブレイホールの壁面に展示する折り紙制作を行っている。
木曜ワンダーランド (音楽)	木曜日 16:00～16:30	手遊び中心のプログラムを実施していたが、低年齢の子どもの参加が多くなってきたため、音楽スタッフが運営する“サンバ”のリズム遊びの補助活動をしている。
楽器であそぼう (音楽)	金曜日 15:00～15:30	6人の女性ボランティアが定期的に活動。音楽のスタッフと一緒に“サンバ”を素材としたリズム遊びのプログラムを運営している。
手足の不自由な子どもの スイミング (体育)	土曜日 17:00～18:00	ハンディキャップを持つ子どもたちを対象とする唯一の活動。定期的に活動するボランティアが増えてきているので、マンツーマンで指導補助を行っている。
体育室の活動 (体育)	日曜日 14:00～17:00	体育室のプログラムの指導補助。スポーツゲームのチームリーダーが役割。
絵本のよみかたり (企画研修)	第2日曜日 14:00～14:20	保育室で親子対象に絵本を読む。青年・女性ボランティアがともに活動に参加。数年前実施していたものの再開。メンバーは新しい人がほとんど。
キッズクラブ (ブレイ)	毎月2回土曜日 15:00～17:00	小学校低学年30人の遊びのクラブ。ボランティアは、グループワーカーの視点からプログラムの立案・準備・実施にかかわっている。
ユースクラブ (ブレイ)	毎月2回日曜日 13:00～15:00	小学校高学年から中学生までの40人が対象。グループリーダーとしてのボランティアは、思春期の子どもたちにとって“モデル”的な存在となって活動している。
ファミリープレイタイム (ブレイ)	毎月1回 11:00～12:30	親子を対象に毎回さまざまなプログラムに挑戦。ボランティアリーダーはプログラムの運営をサポートした。
十べえの会 (企画研修)	金曜日(不定期) 13:00ごろ～	女性10期の有志による活動。ブレイホールでの自由遊びの一環として、来館する子どもたちとごっこ遊びを展開している。

名 称	期 間	備 考
パネルであそぼう (企画研修)	毎月2回日曜日 12:00~15:30	パネルシアターの公演を中心に、プレイホール(幼児コーナー)で子どもたちとさまざまなパネルを使って自由に遊んだり、話を楽しむ「あそびの広場」を展開した。
日曜クラブ (企画研修)	日曜日 13:00~17:00	屋上ふしきが丘で、昔遊びを中心に長なわ、路地裏あそび、こまを実施。その後16時からプレイホールでレクリエーションプログラム「さよならのつどい」を開催。
青年人形劇 (企画研修)	月1回土曜日 14:00~16:00	前年度は休止していたが、活動形態を練り直し再開。手袋人形を使った遊びのコーナーを設置し参加劇などに取り組んだ。
土曜あそびの会 (企画研修)	毎月第2・4土曜日 14:00~17:00	正月イベントの流れをくんで発足したグループ。屋上でこま回し、けん玉などの昔遊びを中心活動。

*()内は主催事業部

〈特別期間の活動〉

名 称	期 間	備 考
〈児童福祉週間〉 モンスタークリスマス (企画研修、プレイ)	4.26~27, 29, 5.3~5 11:00~16:00	子どもたちの間でブームになった「ポケットモンスター」をモチーフに行事を企画。アイデアの提供、モンスターカードの原案、作図など、さまざまなボランティアがその独自性を生かして取り組んだ。
〈 リ 〉 おはなし広場 (企画研修、プレイ)	5.3~5 ①13:00 ②15:00	青年ボランティアの人形劇グループとパネルシアターのグループが協力し、3日間連続で「マックローラ人形劇場」と「パネルシアター」の公演を行う。パネルシアターは『かきの木マン』などレベルの高いオリジナル作品に挑戦。日ごろの熱心な取り組み姿勢が成果を現す。毎回200人以上の親子が参加、大好評のプログラムとなった。
〈夏休み〉 ワンダースプラッシュ (企画研修、プレイ)	8.13~17 11:00~16:00 (13~17は12:30~16:00)	例年実施していた「ウォーターアドベンチャー」を全面的に模様替え。常に創造的な活動をめざすボランティア活動の原則をもう一度振り返り、ボランティアとスタッフが共同して企画、準備。小さな子どもも参加できる、ほのぼのとしたプログラムとなった。
〈開館記念〉 チャレンジゲーム大会 (企画研修)	11.1~3 11:00~16:00	恒例のゲーム大会。今年は『世界のむかし話に挑戦』と題し、『七匹のこやさ』『大きなかぶ』『うさぎとかめ』『アラジンと魔法のランプ』をモチーフにゲーム作りに取り組んだ。カブと綱引き、魔法のランプでの運勢占いなどユニークなプログラムが実施された。
〈 リ 〉 あそびのおもちゃ箱 (企画研修)	11.22~24 11:00~16:00	人形劇、影絵、紙芝居、パネルシアター、音楽のグループの合同公演。公演の合間に、手作り人形で遊ぶワークショップも開催。今回はワークショップに力を入れ、ペーパーサートを作って遊べるコーナーに池や町並みの書かれたシートを用意した。幼児がじっくりと遊べるコーナーになり、長時間滞留する姿が見られた。
〈冬休み〉 昔遊び大集合 ～新春あそびすごろく (企画研修、プレイ)	12.26~28, 1.3~7 11:00~16:00 (12.26~28はギャラリーのみ)	前年度中心になったボランティアと新人のボランティアの計9人のプロジェクトチームで準備がスタート。10月なかばから土曜日を中心に昔遊びのワークショップに取り組み、11月なかばから正月の企画に入った。こうした取り組みは、昔遊びを知らないボランティアが増えたという昨年の反省を生かした結果だ。地道な取り組みが功を奏し、多くのボランティアが積極的に取り組むプログラムとなった。
〈春休み〉 ひらけ! あそびのおもちゃ箱 (企画研修)	3.21~22 11:00~16:00	毎年1回行っていた『あそびのおもちゃ箱』の中心的存在のパネルシアターと人形劇グループの発案。11月に行った『あそびのおもちゃ箱』で人形を使ってじっくり遊ぶプログラムの重要性を改めて確認したのがきっかけ。パネルシアター、人形劇の公演とともに、紙コップ人形の参加劇を実施。次々と新しいプログラムに挑戦するボランティアの熱意ある姿が印象的。
〈春休み〉 モンスタークリエイション 98	4.2~5 11:00~16:00	平成10年度のゴールデンウイークに予定されている行事『モンスタークリエイション』の前哨戦として実施。モンスターカードを集めるとゲームや、新モンスターの原案を募集するなど、ゴールデンウイークに向けて、子どもたちの期待感を高める取り組みを行った。ボランティアのプロジェクトチームも、2つの行事を続けて受け持つ体制にして、より連続的にプログラムにかかるよう配慮した。

〈高校生プログラム L.I.T.(Leader in Training)の活動〉

名 称	日 程	備 考
春のイベント準備	4.6	前年度から準備をしていたイベント「集まれ 春の元気っ子」の最終準備。シミュレーションなどを行い最終調整を行う。
「あそぼうラララ 春だ よるルル～集まれ 春の 元気っ子」 (L.I.T.春イベント)	4.13 11:30～15:30	4グループに分かれプログラムを実施。ブレイホールで「ハンターゲーム」「博士クイズ」、ふしきが丘屋上で「ジャンケンゲーム」「鬼ごっこ」を行う。来館した子どもたちとともに、1日たっぷりと遊ぶ。初めての自主企画にさまざまな不安もあったようだが、1人ひとりが前向きに取り組み充実した1日となった。
夏の行事企画会議(1)	5.11	「街をつくろう」をテーマに夏行事企画会議。3つのグループに分かれディスカッション。
夏の行事企画会議(2)	6.15	イベントのタイトルを「コスマール 2097」とし、100年後の宇宙都市のショッピング街を作ることになる。
夏の行事企画会議(3)	7.13	各チームの出店内容が決定。「コスマポリス」「ハイバーチェンジ」「宇宙びん局」「コスマナルド」となる。各自の夏休み中の日程調整を行い準備計画をたてる。
夏の行事準備	7.15～8.22 (計30回、8.22～23は合宿)	1日平均5人のメンバーが準備作業を行う。また、準備作業の最後の1日は、メンバーの希望により泊り込みで作業を行う。ブレイホールで宿泊。
ジュニア・アウトドア・スクール	7.29～8.3	希望者7人が参加。本部スタッフとして、ジュニア・アウトドア・スクールを支える。積極的な活動が、リーダーにも子どもたちにもよい刺激となる。
「コスマール2097」 (夏休みの行事)	8.23～24	8年度のしめくくりの活動。1か月の準備期間を経て実施。フリーホールに、未来の宇宙都市を設置。子どもたちは受付でパスポートをもらい、宇宙船に見立てた部屋に入り宇宙都市へ出発。到着したところは宇宙都市の商店街という設定。さまざまな店が並び、遊ぶことができる。「宇宙びん局」は、クイズに答え特製切手シールをもらう。「コスマポリス」は逃げた犯人の暗号を見つけ出す。「ハイバーチェンジ」は指定された衣装にすばやく着替える。「コスマナルド」は、ボーリングやモグラたたきなど4つのゲームが楽しめる。そして最後に福引を行い、景品がもらえるという設定。家族連れが多数訪れ、メンバーは生き生きと活動していた。しかし、準備活動に参加するメンバーの固定化、継続的活動の中での自発性の欠如などが問題として残った。
平成9年度 L.I.T.開校式	9.15	新年度の活動希望者17人の初めての活動。面接、L.I.T.の心得の講話、グループワークトレーニングなどを行う。新メンバーには、明るく、やる気のある者が多く、L.I.T.活性化の予感がうかがえた。
オリエンテーリング	10.10	メンバー間の相互作用を促進させるため、4つのチームに分かれオリエンテーリングに挑戦。好天の中、自然あふれる三浦半島の丘陵地帯を1日をかけて歩き回った。横須賀市(神奈川県)津久井浜オリエンテーリングコース。
冬の行事企画会議(1)	11.9	メンバーの交流を目的に自主企画に取り組むよう提案。小グループに分かれ、ミーティングを行う。さまざまな意見が出されるが、コンセンサスがえられず話し合いは混乱。L.I.T.としてどのように行動すべきか、その視点が定まっていないのが原因と考えられる。
冬の行事企画会議(2)	11.16	前回の活動に引き続きミーティング。風船で作った大きなクリスマスツリーを館内に飾ることと、クリスマスツリー型のクッキーを焼いてみんなで食べようというプランになる。
冬の行事企画会議(3)	12.13, 14, 19, 21	具体的な準備作業に入る。クリスマスツリー制作の共同作業では、理論的には1人ひとりがしっかりと意見を出すが、実際の作業では、実体験の不足からか行動がともなわないことが多く見受けられた。また、メンバー同士の相互作用が活発化し、人間関係をうまく結べないメンバーがグループの存在が明らかになってきた。
冬の行事	12.23	午前中はツリー作りとクッキー作り、昼食後、館内にツリーを飾り、手作りクッキーでクリスマスパーティーを行う。風船で作ったツリーは館内で遊んでいた子どもたちに大人気となり、飾ると同時に人だかりができる。高校生たちの遊び心あふれた発想に改めて感心した。
冬合宿	1.10～11(1泊2日ロッジ泊)	この時期には珍しく、関東地方が大雪に見舞われる。新宿から小田急線に乗り、丹沢湖畔に到着したのが午後6時半。雪道を歩いてユーシンロッジ(神奈川県丹沢大山国定公園)をめざす。美しい月明かりに照らされた3時間の夜間歩行は、メンバーの胸に新しい体験として刻まれたようだ。午後9時、ロッジに到着。暖房設備が1つしかない宿で寒さに震えながら1晩を過ごす。翌日は積雪のため軽登山を断念、今までの活動を振り返るミーティング。L.I.T.として、仲間作りをどう考えるかなど深い話し合いになる。同時に現在のグループの問題が浮き彫りにされる。

名 称	日 程	備 考
春の活動企画会議 および準備	1.18, 2.8, 3.22, 4.12	4月の日曜日を使い、(子どもの城)で子どもたちとふれあう活動をやろうと提案。自主的にグループを編成させ4つのチームで話し合いを行う。実施日は4月19日。「ドンジャンケン」「グリコ」「紙ヒヨーキ」「どろけい」が内容として決まる。計画性を持って準備作業にあたるよう提案し、少ない回数で集中して活動に臨めるよう配慮する。

L.I.T.は前年度から、年度途中の9月に新規メンバーを募集し活動を展開している。ここでは、8年度グループの4月からと、9年度グループの9月から3月までの活動をまとめた。

〈ボランティア講習会〉

名 称	内 容・定 員	受講数	開 催 日 時	備 考
第36期 ボランティア 講習会	(人) 18歳以上 (50)	(人) 38	5.17～6.12 18:00～20:30 (6.6～8宿泊研修)	少人数ながら、元気なメンバーが集まり、活気あふれる講習会となる。定員に満たない人数での講習会の実施は久しぶり。ボランティアブームも多少落ちついで来た様子。宿泊研修は千葉県市川少年自然の家。
第37期 リ	18歳以上 (50)	42	1.31～2.26 18:00～20:30 (2.13～15宿泊研修)	社会人の割合が高くなり、社会経験や人間性などさまざまな人物が集まるようになった。今回は講習会のなかばに、任意参加のボランティア体験実習を行った。事前に代表者会を中心に、すでに活動しているボランティアの意見を聞き、スタッフと合同で実施。効果的な取り組みとなる。宿泊研修は千葉県市川少年自然の家。
第13期女性 リ	女性 (20)	15	10.9, 14, 16, 21 13:00～15:00	40代から60代の女性が集まる。前年度と比べ比較的年齢の高い人が多い。絵本の読み語りに興味を持っている人が多かった。
ボランティアグレードアップ講習会 ～野外活動講習会	野外活動に 参加するボ ランティア (30)	34	6.15～7.9 18:30～20:30 (6.20～22宿泊研修)	講義は「これぞ！キャンプリーダー」「野外活動と道具」「野外炊事徹底解説」の内容で実施。宿泊研修(千葉県・船橋県民の森キャンプ場)は台風の直撃を受けたが、1泊2日で実施。個人のサバイバルテクニックを高めるとともに、経験者と初心者に分かれたプログラムに取り組んだ。

〈野外活動〉

名 称	期 間	備 考
ジュニア・アウトドア・スクール	7.29～8.4	小学生36人、中学生24人、スタッフ39人、合計99人で実施。昨年と同様のキャンプ場だったが、豊かな自然は子どもたちに新しい発見を与えてくれた。中学生は、蔵王連峰の最高峰「熊野岳」を6時間かけて走破。深い霧の中、野営場の指導員小島さんの引率で難所を越える。噴気口を眺め、頂上では奇跡的にお釜を見ることができた。中学生ならではのダイナミックなプログラムとなった。宮城県国立南蔵王青少年野営場。
ジュニア・スプリングキャンプ	3.28～4.1	対象を1学年下げ、小学3年生から中学3年生までとして実施。小学生37人、中学生19人、スタッフ27人で実施。前年度の反省を生かし、ネイチャースキー、雪上テント泊、個人選択プログラム、班別活動の取り組み方を変えてみる。また試行錯誤の段階だが、少しづつ効果が現れてきたようだ。新潟県国立妙高少年自然の家。

③講習会など

〈児童厚生員等実技指導講習会〉

名 称	内 容・定 員	受講数	開 催 日 時	備 考
平成9年度 第1回児童厚生員 等実技指導講習会	児童館職員 ほか (50)	48	5.14・21	「子どもの心をつかむ紙しばい」をテーマに、声優で子どもの文化研究所の右手和子氏を講師に招き、通勤型の2回連続講習会。声の出し方、紙芝居の扱い方など基本的なものから、グループごとに作品を読んでみるという実践的なものまで、幅広く学んだ。
平成9年度 第2回児童厚生員 等実技指導講習会	児童館職員 ほか (50)	54	10.1～3	「楽しいいっぱいの運営術」をテーマに実施。「リーダーズシアター」「手品」「切り絵」「ダンス」などの実技と「子どもの心をつかむ企画術」の理論講習を行う。外部講師は、パフォーミングアーチスト佐藤恭子氏、劇団コロンゴ荒木文子氏、全国こども会連合会宇田川光雄氏。
平成9年度 第3回児童厚生員 等実技指導講習会	児童館職員 ほか (50)	56	1.21～23	「ふれあいあそびのコレクション」をテーマに、(子どもの城)プレイ事業部のスタッフが実施。日常活動のプログラム紹介を交えながら、人形遊び、グループゲーム、ごっこ遊び、作って遊ぶなどのプログラムを行った。

〈社会福祉講座〉

名 称	対象・定員	受講料	曜 日 時	備 考
手話講座(前期)	高校生以上	(人) 35	火曜日 18:30~20:00	4月から9月までの6か月間、全15回の講座。講師は(社福)トット文化館貞広邦彦館長。指導者への人気が高く、継続して手話を学ぶ受講者が多いのが特徴。
手話講座(後期)	高校生以上	35	火曜日 18:30~20:00	10月から12月までの5か月間、全15回の講座。講師は前期と同じく貞広邦彦館長。社会人がほとんど。
初級点訳講座	高校生以上	9	火曜日 18:30~20:00	4月から10月までの7か月間、全15回の講座。講師は昨年と同じく(社福)日本点字図書館の河井久美子氏。

④ギャラリー利用一覧

名 称	期間	内 容
アートスケープ'97	4.11~20	インターナショナル・スクールの生徒の美術作品展。主催は東京・横浜地区のインターナショナル・スクール8校。
スポーツとサイエンス ～身近な運動を科学する	4.27~5.5	科学的な研究成果を踏まえて作られているスポーツ用具(水着、スパイクなど)の展示とフリークライミングの人工ホールドを設置し、挑戦できるようにした。主催(こどもの城)。
つきほし創作館	5.13~18	運動靴メーカーの月星製靴が開催した子どもの作品の展覧会。
第10回遊びと造形発想展 —造形縁日 '97—	5.24~6.8	造形の発想をテーマに、造形のおもしろさを発見し、体験する展覧会。遊びと造形発想の会と(こどもの城)の共催。
万人のための美術展	6.20~7.10	障害を持った人たちをも含めただれもが参加できる造形活動への招待。主催は、(こどもの城)。
コマガタワールド	7.19~8.31	グラフィックデザイナー駒形克巳氏が制作した絵本、原画、遊具の展示と子どもたちが作るカード絵本のワークショップ。主催は(こどもの城)。
アトリエミュレット「EASOBI-TEN'97」	10.3~5	都内にある造形教室「アトリエミュレット」に通う子どもたちの造形作品の展示。
音のかけら	10.10~26	造形作家、金沢健一氏制作による金属片からなる作品をたたいて音を楽しむ造形作品展。作品を演奏するコンサートや、複数の応募者による共同制作のワークショップも行った。主催は、造形事業部。
カナダの絵本と子ども文化展	11.20~12.1	カナダの絵本約300冊と写真や民族玩具などの展示をとおして多様な民族、多様な文化を持ったカナダを紹介するプログラム。主催は(こどもの城)。
'97草月漱生会展 Mother	12.23・24	草月漱生会の会員による生け花の展示。
キルトスタジオ・布細工 「第3回メンバーズ発表会」	11.28~30	キルトスタジオ・布細工のメンバー制作によるキルト作品の展示。
豊かな遊びを広げるおもちゃ展	12.10~15	おもちゃ図書館活動と市販されている玩具の紹介。主催は、財日本おもちゃ図書館財団、(こどもの城)。
昔あそび大集合「新春遊びすごろく」	12.26~1.7	カルタ、福笑いなどの昔遊びに、(こどもの城)館内をすごろく形式でまわりながら挑戦。最後は路地裏ふうに装飾したギャラリーでゴール。主催は(こどもの城)。
保育活動展	2.2~8	保育クラブ、幼児グループ、親子教室などの年間プログラムの中で制作された作品の展示と活動の紹介。主催は(こどもの城)。
日本アルゼンチン修好100周年記念 長田小学校児童絵画展	2.14~22	日本アルゼンチン修好を100周年を記念した、日本の子どもたちによるアルゼンチンのイメージを描いた絵の展示。主催は在日アルゼンチン共和国大使館。
第45回全国小中学生優秀作品コンクール 入賞作品展	3.14~22	全国の小中学生による絵画、書写、作文の入賞作。主催は財児童憲章愛の会。
ゆかいな絵本と童話の世界展	3.28~4.5	童話と絵本のコンクール入賞作品の原画の展示。主催は(こどもの城)と日産自動車株広報部。

劇場事業本部



第11回青山劇場フェスティバル『スパイものがたり～へのへのもへじの謎』

平成9年度の活動

経済的背景に明るさをみいだせないままに終わった平成9年度。劇場の運営においても何か不透明な先行きを感じさせる1年であった。

劇場運営状況を簡単に記すと、以下のとおり。

〈青山劇場〉保守点検・工事・主幹点検・年末年始の休館日が計21日。使用可能日のうち340日使用（稼働率98.8%）。
〈青山円形劇場〉保守点検・主幹点検・年末年始の休館日が計13日、使用可能日のうち331日使用（稼働率94.0%）。

全国の公立文化施設の稼働率平均が50%前後という統計もある中、驚異的な稼働率ではあるが、その反面舞台機構や設備の摩耗が激しく、特に舞台機構のコンピュータ部分のメンテナンスや機器更新が頻繁に行われるようになった。また、劇場を使用する側では諸経費の値上がりにともない、1日2公演の日数が増えているため、ますますその速度を速めている。

一方、ソフト面では、青山劇場におけるミュージカル、青山円形劇場における演劇、ダンスを中心とした利用が定着し、ミュージカル劇場としての青山劇場、小劇場系演劇やダンス劇場としての青山円形劇場が確立されたといえる。また、劇場事業本部では青山劇場で4～5日、青山円形劇場で年間100日前後が自主事業にあてられているが、この比率はここ数年変わっていない。

本来、劇場は文化施設としての側面と文化機関としての側面を併せ持つものだが、文化発信のための事業予算が乏しいために、文化機関としての活動は十全といえない。事業を企画したらまず資金調達、そして事業実施にあたってはリスクを恐れて企画内容を縮小するなど、経済優先の原

理が働き、担当者の心労は大きい。

しかしながら、一方では企画担当者の努力が実り、青山劇場・青山円形劇場で発信したソフトの、地域の文化機関や文化施設と提携した公演が増えている。劇場ソフトの再利用や全国ネットワークでの利用などがそれである。多くの費用をかけて作った劇場ソフトは、1回限りで死蔵させ得ならない。

近年、都内および近辺に多くの劇場が誕生し、その生き残り（？）をかけて、差別化と事業の独自性などを打ち出して、多彩な企画を実施しているが、これからは劇場や文化振興財団などの機関が全国ネットを展開し、情報交換、ソフトの共同製作、共同仕入れなどさまざまな展開をしなければならないであろう。また、劇場や文化機関はそれが単独で自立するのではなく、常にそのよってたつ地域とともにあるもので、点としてではなく面としての企画を展開していくかなければならないであろう。

あと数年で20世紀も終わるが、文化的な環境整備は10年、20年の先を考えながら取り組まねばならない。なぜなら、この施設ができたころに目を輝かせてこけら落としの舞台に見入った小学生の子どもたちがもう社会人なのだから。

①本年度の主な演目

(ア) 青山劇場

【第12回青山バレエフェスティバル～バレエへの道～】

芸術文化振興基金および東京都国際平和文化交流基金の



〔第12回青山バレエフェスティバル～バレエの道～〕

助成のもと、アメリカ・ペンシルバニア・ユースバレエ、ウクライナ・キエフ国立バレエ、平多正於舞踊研究所、小野正子バレエスタジオ、岸辺バレエスタジオ、こどもの城合唱団など、バレエや音楽の道を歩む100人余の子どもたちと、内外の若手ダンサー20人余を交えて華やかに開催された。芸術監督=岸辺光代。

それぞれに厳しい道を歩みながら、日々研鑽を続けていたる若者たちにとって、〈青山バレエフェスティバル〉は多くの憧れのダンサーを誕生させた舞台としても位置付けられている。その同じ舞台で踊る喜びと、不安。そして、国を超えたさまざまなカンパニーやアーチストと交流し、互いにその技術と芸術性を学びあう、意義ある公演となった。アメリカの子どもたちの表現力の豊かさ、ウクライナの子どもたちの技術力の高さ、そして日本の人子どもたちの確かな集団演技力など、それぞれに高い評価を受けた。

12年前に“踊る場の提供”から始まった〈青山バレエフェスティバル〉は、一時、若手スターダンサーや海外からの夏休み帰国ダンサーの活躍の場になり、華やかさを増す一方で、本来の“育成の場”という理念からは離がちだったが、第10回の記念公演が終わって軌道修正をはかり、今回はそれが結実したフェスティバルになった。最近では、全国各地にたくさんのフェスティバルができ、ダンサーたちの踊る場も12年前に比べると飛躍的に増えてはいる。しかしながら、相変わらずのチケットノルマや参加料などの前近代的な環境はあまり変わっていないようである。単なる寄せ集めのフェスティバルではなく、厳しいバレエの道を歩む若者たちが、芸術的にはもちろん、経済的にも自立していくよう、手助けしていくのがわれわれ芸術文化施設を持つ者の使命であろう。

2000年も間近、第1回や第2回の青山バレエフェスティバルでオープニングの行進に出演していた子どもたちが、



〔さねよしいさ子 円形音楽会'97〕

世界の桧舞台や日本の国立劇場のスターになっていることを見るにつけ、〔こどもの城〕が果たしてきた役割を誇りに思うとともに、今すぐ次の10年、20年を見据えた文化事業に着手しなければならないと考える。

(イ) 青山円形劇場

【さねよしいさ子 円形音楽会'97】

昨年大好評を博したシンガー・ソングライター、さねよしいさ子のコンサート第2弾。暖かく力強い歌声と独特的詩世界を持つさねよしいさ子の魅力を、今年はステージ数を3プログラム5回に増やし、より多彩に繰り広げた。また、通常公演のほかに、(株)秀月人形チェーンの協賛のもとに「第12回こどもの城マタニティコンサート」を開催、妊婦と同伴者の招待公演とした（小児保健部と共同主催）。

〔Aプログラム〕各方面で活躍するミュージシャンと初めての顔合わせ／共演=れいいち（ドラム）、清水一登（キーボード）、桜井芳樹（ギター）、佐藤公彦（サックス）、関島岳郎（チューバ）。

〔Bプログラム〕不思議な声を持つゲストを迎えて／共演=知久寿焼（from たま）、hi-posi（もりばやしみほ+近藤研二）。

〔Cプログラム〕さまざまな古楽器を使って演奏するロバの音楽座とのジョイント。

【ことばの森へ出かけよう

～し・らくご・パントマイムのさんぽ道～】

（財）こども未来財團との共催で本年度から始まった企画で、小学生とその親という組み合わせの招待公演。子どもたちの表現が画一的で貧しくなってきたことが問題視される今、親子で楽しく“ことば”的豊かさに触れてもらおうという趣旨である。心のひそやかな声に耳を傾ける“詩”，鍛え抜かれた話芸で“ことば”が紡ぎ出すイメージのおもしろさ



【ことばの森へ出かけよう～し・らくご・パントマイムのさんぽ道～】

を体験させてくれる“落語”，口から語られることばだけでなく，身体の持つ豊かな表現力を思い出させる“パントマイム”。3つの要素を織り交ぜての，いわば「ことばのバラエティーショー」を構成した。

『おかあさんたちは，みんな一つの天国をもっています』(新美南吉「天国」より)という赤ちゃんにとっての母の背を詠んだ詩の朗読に，隣に座る母親の背中に手を当ててみる子どもの姿が見られたり，初めて聞く落語のおかしさに大笑いしたり，なごやかな雰囲気のなかに公演が進んだ。

司会・詩=木坂涼，落語=入船亭扇遊，パントマイム=本多愛也。

【第12回こどもの城・キリン・ファミリー劇場

「サマー★アンデルセン】

シュールで不条理な世界を描いて，新感覚の舞台を作り出す集団「マシュマロ・ウェーブ」が，ファミリー劇場に初挑戦。童話の王様アンデルセンの作品を題材に，家族で楽しめる新しい童話を創作した。

“おもしろければOK”をテーマに，悲しい話は明るくアレンジし，明るい話はさらに明るく楽しい工夫を施し，名作童話を解体した。南国の暑い日に氷を売り歩く陽気な少年を描いた「氷売りの少年」(マッチ売りの少女)や，賢い兄たちを出し抜いてお姫様のハートを射止める「のろまのハンス」など，ひねりを効かせたアンデルセン童話を上演した。

劇中，役者が楽器を持ち込み生演奏したり，観客も音楽に合わせて客席に置いた空き缶マラカスで参加したりと，場内が一体となって芝居が進行していった。客席の子どもたちが積極的に芝居に参加している光景が，たいへん好ましかった。

この芝居をとおして，大人にも子どもにも，心から笑うことの楽しさ，すばらしさを感じってもらえたのではな



第12回こどもの城・キリン・ファミリー劇場 「サマー★アンデルセン】

いかと思う。

原作=アンデルセン，構成・演出・出演=木村健三，出演=小橋豊，山下哲，片岡正二郎，沖田乱，二村ヒトシ，喜多敏之，杉山由，共催=キリン福祉財団

【第11回青山演劇フェスティバル ～別役実の世界1997～】

今回の〈青山演劇フェスティバル〉では，60年代初頭から常に時代の第一線を走り続け，97年に劇作100本を成し遂げた現代演劇の巨人《別役実》をテーマに取り上げた。氏の業績を讃えると同時に，別役戯曲の読み直し，若い世代への継承を図った。参加作品は下記の4本。

■青山円形劇場十演劇企画集団66(No.38) プロデュース ミュージカル「スパイものがたり～へのへのもへじの謎～」

60年代当初から別役作品を専門に上演してきた演劇企画集団66による，氏唯一のミュージカル作品の27年ぶりの本格上演となる。演出に古林逸朗，作曲・演奏に小室等，出演に常田富士男，二瓶鯨一と，初演時のオリジナル・メンバーを再結集。同じく初演メンバーでもある及川恒平ら「樂団六文銭」により，日本フォーク史上における名曲『雨が空からふれば』を初めとする劇中歌が生演奏され，演劇と音楽が緊密にコラボレートした“幻の名作”を現代によみがえらせた。

脚本=別役実，演出=古林逸朗。1970年初演／演劇企画集団66。平成9年度文化庁芸術祭参加。

■シリーウォークプロデュース「病氣」

「自分にとっては，読むだけでも吹き出すほど愉快な台本なのに，シリアスな芝居にされてしまうのが不満だった」と語る，演劇ユニット，ナイロン100°Cのケラリーノ・サンドロヴィイッチが，《ナンセンス・コメディ》としての別役戯曲に焦点を当てて演出した。なぜそうなってしまうのか分からぬうちに，翻弄され，“病氣”にされてしまう男を舞台初出演の小林克也が好演した。

脚本=別役実、演出=ケラリーノ・サンドロヴィッチ、出演=小林克也、松尾貴史ほか。1981年初演／文学座アトリエの会。

■青年団プロデュース No.6

「マッチ売りの少女たち～別役実初期作品群より～」

夜のお茶の時間を楽しむ初老の夫婦のもとに、1人の少女が訪れる。マッチを売っていると語る少女は「わたしはあなた方の娘です」と強引な主張を開始し、平穏な家庭を混乱に陥れる。次々に現れる少女たちと、夫婦を中心とした街の人々との奇妙なやりとりに市民社会に潜む脆弱さが浮かび上がってくる。

第13回岸田戯曲賞を受賞した、別役氏初期の名作『マッチ売りの少女』(1966年初演／早稲田小劇場)を大胆に翻案し、さらに『AとBと一人の少女』(1961年初演／早大劇団自由舞台)、『象』(1962年初演／新劇団自由舞台)といった初期作品群から台詞を多数引用、コラージュする形で、青年団の平田オリザが構成・演出した。

原作=別役実、構成・演出=平田オリザ。平成9年度文化庁芸術祭参加。

■宮沢章夫&ウクレレプロデュース「会議」

『我々の内に潜在する会議本能に関する実験を開始したいと考えます…』“会議場 この先 ⇒ 開会六時三十分時間厳守”。街にはられたステッカーの情報にひきつけられるようにして集まった数人の男女。消えたライターをめぐり、いつのまにか会議が始まる。

演出は、「円形劇場で、円卓会議をやりたかった」という遊園地再生事業団の宮沢章夫。別役戯曲の中で“彼”という抽象性の高い言葉が使われることに注目、男1、男2…とのみ表される匿名の登場人物たちの《関係》を浮かび上がらせることに重点を置いて芝居を作る姿勢を見せた。

脚本=別役実、演出=宮沢章夫、出演=きたろう、宮川賢(ビタミン大使ABC)、伊沢磨紀(劇団青い鳥)ほか。1982年初演／手の会プロデュース。

30余年にわたって、常に高い評価を伴いながら劇作家活動を繰り広げてきた別役氏が、現代演劇界に与えた刺激、影響は計り知れない。以上4本、ペテラン、若手それぞれが、不条理、非日常、謎、ユーモア、ナンセンス…と、各々の着目点から別役戯曲の読み直し、演じ直しを行なったが、その総てを受け入れるしなやかな強さを持つ別役戯曲の魅力を改めて感じさせた。同時に、その出会いの場をセッティングしたことに、明確なコンセプトと時代性を持とうとする〈青山演劇フェスティバル〉の意義が高く評価されるであろう。

【ア・ラ・カルト～役者と音楽家のいるレストラン～】

クリスマスを迎えた、とあるレストランの開店から閉店までをショートショートの芝居とヴァイオリニスト中西俊博を中心とした生演奏でつづるエンターテインメント・ショー。演劇と音楽が1つになって作り出す、楽しくおしゃれなライブとして、青山円形劇場の発進するソフトの中でも、特にオリジナリティーを評価され人気が高い。毎年新しいアイデアを盛り込みながらロングランを続け、9年目を迎えた。今年も全19ステージが即日完売、約6,500人を動員した。

近鉄アート館での大阪公演(主催=近鉄劇場)も7回目のイヤーエンド・スペシャルとして恒例となった。また、キリン・シーグラム(株)のご協力のもと、東京・大阪公演ともにロビーでワインサービスを行い、観劇の雰囲気を盛り上げている。

出演=高泉淳子、白井晃、陰山泰。演出=吉澤耕一、音楽監督=中西俊博。

【第10回こどもの城・キリン・ファミリーオペレッタ

「まんぶく村のハムスター キック?」

～ワニのジャックがやってきた！～】

心に残るオリジナリティーあふれる創作童話を、芝居やバレエ、生演奏でつづる、お正月恒例のファミリーオペレッタ。[こどもの城]のスタッフが総力を挙げて作り出すこの作品は、今年で10年目を迎え、大人も子どももともに楽しめるファミリー向け公演として、常に高い人気と安定した動員を保っている。

今回は、“夢”をテーマにした「まんぶく村のハムスター キック」シリーズの第2弾。人間とはぐれてしまったペットたちが住むまんぶく村を舞台に、人間の子どもとワニのジャック、村の住人たちが、さまざまな壁にぶつかりながらも互いに助け合い、夢に向かって進んでいく姿をとおして、夢を見ること、夢を見つづけ育っていくことのすばらしさや、助け合い、思いやることの大切さを描いた。

スピード感あふれるストーリー展開と親しみやすい音楽、参加型の楽しい演出によって、子どもたちの心をつかみ、物語の持つメッセージを伝えることに成功した。今後もマンネリ化することなく、楽しく感動にみちた優れた舞台作品を創作し、おおらかな心とみずみずしい感性をはぐくみ、子どもたちが心豊かに成長できるように努めたい。

脚本=山下哲、演出=高谷静治、出演=こどもの城児童合唱団、オペラクリエーション・イン・青山、小野正子バレエスタジオ、平多正於舞踊研究所、早川恵美子・博子バレエスタジオ、共催=キリン福祉財団。厚生省中央児童福祉審議会平成9年度推薦文化財選定。



第10回こどもの城・キリン・ファミリーおペレッタ
「まんぶく村のハムスター キック2～ワニのジャックがやってきた！」



五線譜のなかの動物たち
奇想天外音楽活劇「グリム号の大冒険」

【五線譜のなかの動物たち】

奇想天外音楽活劇「グリム号の大冒険」

「五線譜のなかの動物たち」シリーズは、平成2年（'90）以来、〔子どもの城〕青山円形劇場の代表的な自主企画として、幅広い人気を獲得し安定した実績を上げ続けている。クラシック音楽の中から動物や虫や鳥を描いた曲を集めた「芝居仕立ての音楽会」という独自の構成演出方法は、音楽業界でも広く認知されるようになってきた。

本年度は、これまで年3回のペースでシリーズ上演してきたものを、春休み公演だけに絞ることにより、収支のバランスを無理なく健全なものとすることができます。芸術面でも質の向上をはかることができた。公演回数は、追加公演2回を加え、シリーズ史上最多の17ステージ。観客動員数も最多記録を更新し好成績を収めることができた。

上演作品は、平成7年（'95）のシリーズ第15弾で初演した奇想天外音楽活劇「グリム号の大冒険」。ヴィヴァルディの「四季」やフルート協奏曲「ごしきひわ」「海の嵐」「夜」など、バロック音楽の名曲を柱にした舞台。キャストは初演時と同じだが、曲目構成を一部変更して台本も大幅に手直しし、さらに舞台美術、衣装、小道具なども一新した新演出版で上演し好評を博した。

出演=伊藤エイミーまだか（ピアノ）、桐山なぎさ（ヴァイオリン）、齊藤佐智江（フルート）、白井博之・兎玉順子（Wテイク）（クラウン）、酒井典子（役者）。構成・演出=吉田雅之。

なお、5月には、平成8年度の自主事業として上演した「バッハの音楽遊園地～ザ☆カーニバル」を持って、新潟県内9都市（小出、加茂、新発田、新潟、見附、長岡、新井、柏崎、両津の各市）を巡演した。

本年度の主な協賛等の実績は次のとおり。

【青山劇場】

◎第12回青山バレエフェスティバル=芸術文化振興基金（助成）／東京都国際平和文化交流基金（助成）

【青山円形劇場】

◎さねよしいさ子円形音楽会=（株）秀月人形チェーン（協賛）

◎ことばの森へ出かけよう=（財）こども未来財団（共催）

◎第12回こどもの城・キリン・ファミリー劇場

「サマー★アンデルセン」=（財）キリン福祉財団（共催）

◎第11回青山演劇フェスティバル=文化庁・日本芸術文化振興会舞台芸術振興事業（助成）

◎ア・ラ・カルト=キリン・シーグラム（株）（協賛）

◎第10回こどもの城・キリン・ファミリーおペレッタ

「まんぶく村のハムスター キック2」=（財）キリン福祉財団（共催）

◎五線譜のなかの動物たち「グリム号の大冒険」=芸術文化振興基金（助成）

その他、前年度に引き続き、富士銀行から青山劇場・青山円形劇場の自主事業全般に対してのご協賛をいただいた。

平成9年度公演演目一覧表

①青山劇場

公演名称	期日	回数	料金	結果数	入場者数	入場率	備考
	(日)	(回)	(円)	(人)	(人)	(%)	
〈自主公演〉							
第12回青山バレエフェスティバル ～バレエへの道～	8.19・20 (2)	3	A:7,000/B:6,000	3,576	2,015	56.3	
(小計)	1	(2)	3		3,576	2,015	56.3
〈貸し館〉							
「奇跡の人」 (ホリプロ)	4.1~13 (13)	18	S:8,000/A:6,000	21,457	19,179	89.3	3.28から続演
スーパー・レディライブ「ベギー葉山」 (ミュージッククリーク)	4.14 (1)	1	S:10,000/A:7,000	1,139	1,056	92.7	
〃 「坂本スミ子」 (ミュージッククリーク)	4.15 (1)	1	S:10,000/A:7,000	1,130	937	82.9	
五木ひろしリサイタル「21世紀の喝采が聞こえる」 (アイエス)	4.16~19 (4)	6	S:10,000/A:7,000	6,916	5,743	83.0	
スーパー・レディライブ「ジュディオング」 (ミュージッククリーク)	4.20 (1)	1	S:10,000/A:7,000	1,132	997	88.0	
明治生命ミュージカル「アニー」 (日本テレビ)	4.21~5.18(28)	34	S:7,700/A:5,700	37,842	32,104	84.8	
林英哲 CONCERT'97「海の炎」 (東京音協)	5.22~23 (2)	2	全:6,000/当日:6,500	2,352	2,304	97.9	
スーパー・レディライブ「鳳蘭」 (ミュージッククリーク)	5.24~25 (2)	2	S:9,000/A:7,000	2,312	2,236	96.7	
「黒蜥蜴」 (ドラマチックオフィス)	5.26~6.22(28)	31	S:9,500/A:8,000	36,084	29,337	81.3	
室田純子「コンサート'97」 (釋音楽事務所)	6.23 (1)	31	前:7,000/当:7,500	1,178	453	38.4	
「鬼太鼓座」 (オテッセー)	6.24~26 (3)	3	全:5,000/学:4,000	3,600	2,836	78.7	
「ダンスヴァンデアン」 (橋秋子記念財団)	6.27~29 (3)	2	S:9,000/A:7,000/B:5,000/C:3,000	2,156	1,367	63.4	
「コッペリア」 (スターダンサーズ・バレエ団)	7.3~6 (4)	3	S:8,000/A:6,000	3,342	2,883	86.2	
少年隊ミュージカル PLAYZONE'97 「RHYTHM II」 (ジャニーズ事務所)	7.7~8.3 (28)	30	S:11,000	32,940	32,365	98.2	
「ピーターパン」 (ホリプロ)	8.4~18 (15)	18	S:7,700/A:5,700/B:4,600	19,764	17,824	90.1	
1997小椋佳コンサート「挑みの足跡」 (トライアングル)	8.21~24 (4)	3	全:8,000	3,456	2,975	86.0	
'97小椋佳ファミリーミュージカル「ロボ笑ったね」 (トライアングル)	8.25~27 (3)	4	全:4,000	4,536	2,866	63.2	
「ラ・マンチャの男」 (東宝)	8.28~9.27(31)	38	S:12,000/A:7,000/B:4,000	42,312	39,495	93.3	
「ラ・カージュ・オ・フォール」 (東宝)	9.28~10.26(29)	38	S:12,000/A:7,000/B:4,000	42,042	30,858	73.3	
「THE NIGHT OF THE MODERN BALLET」 (ホリプロ)	10.30~11.3(5)	4	SS:15,000/S:12,000/A:7,000	4,784	4,610	96.3	
ミュージカル「李香蘭」 (劇団四季)	11.4~24 (21)	17	S:9,000/A:7,000/B:5,000/C:3,000 ウイークテーマチネ1,000引	16,864	16,191	96.0	
水谷寿美リサイタル 「C'est si bon」 (ミュージッククリーク)	11.26 (1)	1	1F:7,000/2F:5,000	1,156	896	77.5	

公演名称	期間	回数	料金	総席数	入場者数	入場率	備考	
	(日)	(回)	(円)	(人)	(人)	(%)		
「ピアニスト」 (スイセイミュージカル)	11.28~30 (3)	4	S:8,000/A:7,000/B:5,000/ C:3,000	4,600	2,532	55.0		
谷村新司コンサート「LA STARDUST 生成」 (キョードー東京)	12.1~25 (25)	17	GF:10,000/BS:7,000	19,652	18,750	95.4		
「ヴィクターヴィクトリア」 (キョードー東京)	12.26~1.25(28)	30	S:10,000/A:8,500	31,740	25,716	81.0		
The Show 「Yours」 (キョードー東京)	1.26~2.1 (7)	7	S:7,800/A:6,500	8,148	7,111	87.2		
「TAP DOGS」 (ティトコボレーション)	2.2~11 (10)	11	S:10,000/A:9,000	12,804	10,752	83.8		
「王様と私」 (東宝)	2.23~3.31(37)	49	S:12,000/A:7,000/B:4,000	58,408	39,682	67.9	4.19まで続演	
(小計)	28	(338)	376		423,846	354,055	83.5	
青山劇場 計	29	(340)	379		427,422	356,070	83.3	

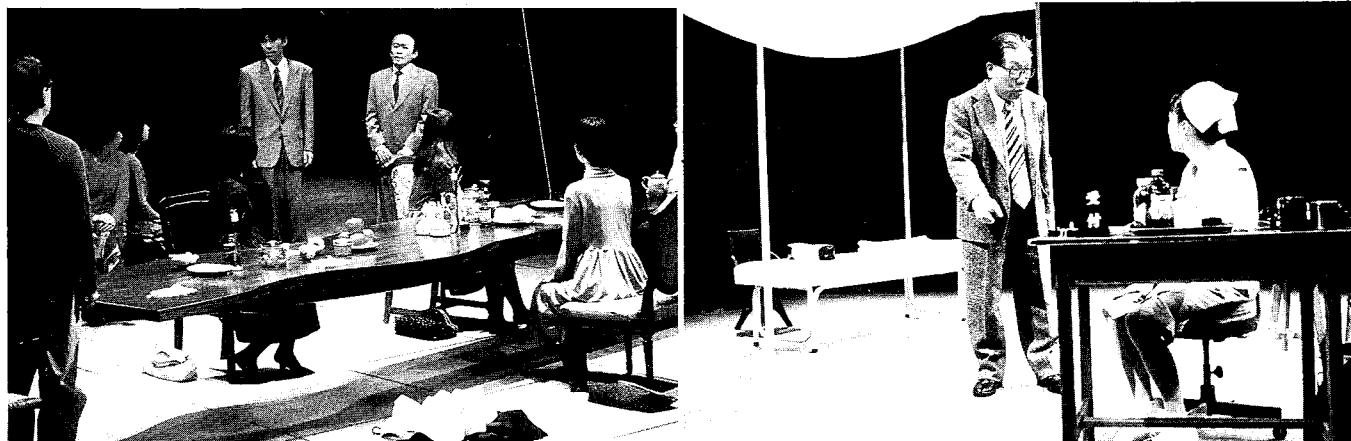
②青山円形劇場

公演名称	期間	回数	料金	総席数	入場者数	入場率	備考	
	(日)	(回)	(円)	(人)	(人)	(%)		
〈自主公演〉								
五線譜のなかの動物たち「ザ・カーニバル」	4.1~6 (6)	12	全席:2,800	4,008	3,056	76.2	3.29から続演	
さねよしいさ子 円形音楽会'97 ※第12回こどもの城マタニティ・コンサート1回含む	5.6~11 (6)	6	全席:2,800/マタニティ無料	2,084	1,751	84.0		
ことばの森へ出かけよう	8.7~9 (3)	4	無料	1,456	1,055	72.4		
第12回こどもの城・キリン・ファミリー劇場 「サマー★アンテルセン」	8.20~26 (7)	10	全席:2,500	3,000	2,190	73.0		
第11回青山演劇フェスティバル ~別役実の世界~ 演劇企画集団66「スパイものがたり」	10.6~14 (9)	10	前売:4,000/当日:4,200	2,960	2,618	88.4		
シリーウォーク「病氣」	10.15~26 (12)	14	前売:4,000/当日:4,300	4,760	4,295	90.2		
青年団「マッチ売りの少女たち」	10.27~11.2(7)	8	一般:3,500/学生:2,500/ 高校生:2,000	2,368	2,214	93.4		
宮沢章夫&ウクレレ「會議」	11.3~9 (7)	8	前売:4,200/当日:4,500	3,040	2,709	89.1		
ア・ラ・カルト-役者と音楽家のいるレストラン-	12.8~25 (18)	19	全席:5,500	6,954	6,405	92.1		
第10回こどもの城・キリン・ファミリーオペレッタ 「まんぶく村のハムスター キック2~ ワニのジャックがやってきた」	12.27~29 1.2~8 (10)	12	全席:2,800	4,248	3,832	90.1		
五線譜のなかの動物たち「グリム号の大冒険」	3.29~31 (9)	10	全席:2,800	3,398	2,600	76.5		
(小計)	11	(94)	113		38,276	32,725	85.5	4.5まで続演
〈貸し館〉								
SEIKE ファッションショウ	4.7 (1)	1	無料	368	315	85.5		
AMP カンバニー「テヴ・ジャ97」	4.10~13 (4)	4	前売:3,000/当日:3,300	1,124	690	56.0		

公演名称	開催日	回数	料金	購入数	入場者数	入場率	備考
ミラクルバーカションアンサンブルコンサート1997 「春」	(日) 4.14~17 (4)	(回) 3	(円) 前売:4,000/当日:4,500	(人) 746	(人) 637	(%) 85.3	
小川玲子第2回リサイタル	4.18~19 (2)	2	全:3,500	328	271	82.6	
吉田恵美シャンソンコンサート	4.20	(1)	1 前売:5,000/当日:5,500	264	242	91.6	
Tグランツプロデュース コンテスト	4.22	(1)	1	276	123	44.5	
田村直美 VTR撮影	4.23	(1)	1 収録				
ハワイアンチャリティーコンサート	4.25	(1)	2 全:6,000	592	559	94.4	
鶴瓶嘶'97春	4.26~30 (5)	5	全:3,150	1,860	1,732	93.1	
コースケ事務所 現代狂言会	5.12	(1)	1 S:8,000/A:5,000	265	230	86.7	
梯郁夫 PERCUSSIVE MOVEMENT	5.13	(1)	1 全:3,500	296	187	63.1	
シェークスピアシアター取り違い劇の連続上演	5.14~28 (15)	14	前売:4,000/当日:4,500	3,286	2,089	63.5	
長嶺ヤス子 HIROSHI with Vida	5.29	(1)	1 全:5,000	223	200	89.6	
草原の吟遊詩人ハカス民族のチャトバンとハイ	5.30	(1)	1 前売:3,000/当日:3,500	330	191	57.8	
ステージドア「スノウホワイトの幻想」	5.31~6.1 (2)	3	2,500	936	736	78.6	
武元賀寿子ダンスヴィーナス「GARDEN」	6.2~3 (2)	3	前売:3,600/当日:4,000	468	321	68.5	
ませ卵シアター「迷宮～偽りの Labyrinth」	6.4~8 (5)	5	前売:3,000/当日:3,300	880	539	61.2	
山の手事情社「LIVING」	6.9~16 (8)	8	前売:3,200/当日:3,700	1,830	1,594	87.1	
コネクティクス製品発表会	6.18	(1)	1 無料	163	138	84.6	
弘前劇場「家には高い木があった」	6.19~22 (4)	4	前売:2,800/当日:3,000/ 学割:2,000	1,006	523	52.9	
尚美学園「MEDIA JAM」	6.23	(1)	1 無料	300	87	29.0	
波路はるか「輪転」	6.24~25 (2)	3	前売:4,000/当日:4,300	792	295	37.2	
上海太郎舞踏公司「ジャックは箱の中」	6.26~29 (4)	5	前売:3,500/当日:4,000	1,260	759	60.2	
ワークス「心美しい人々の歌」	6.30~7.2 (3)	3	前売:3,000/当日:3,500	822	759	45.7	
宝達奈巳「TRIP.TRAD FOLK」	7.3	(1)	1 前売:3,300/当日:3,500	311	148	47.5	
劇団初舞台「輝く太陽の中で」	7.7.~13 (7)	8	前売:3,500/当日:3,800	2,256	1,604	71.0	
スタジオライフ「ヴェニスに死す」	7.14~22 (9)	12	前売:3,800/当日:4,000	3,392	2,253	66.4	
グーフィー＆メリーゴランド「ソワニエ」	7.23~27 (5)	6	前売:2,800/当日:3,000	1,312	1,081	82.3	
青空美人「素晴らしい、ネジ。」	7.31~8.3 (4)	4	前売:3,000/当日:3,500	1,000	626	62.6	
鴻池薰企画「アイヌラマチ」	8.10	(1)	1	323	136	42.1	
アキスタジオ「舞 DANCE」	8.16	(1)	1 大人:4,000/小人:2,000	248	178	71.7	
TSG ライブ	8.17	(1)	2	632	294	46.5	

公演名	期間	回数	料金	客席数	入場者数	入場率	備考
ベネトンキッズコレクション	(日) 8.18~19 (2)	2	大人:4,000/小人:2,000	(人) 288	(人) 260	(%) 90.3	
ムーニング「夜になると考えること」	8.27~28 (3)	2	前売:3,300/当日:3,500	476	381	80.0	
青山ダイナマイトバレエ「THE クリスタル POWER」	8.29~31 (3)	5	前売:5,500/当日:6,000	1,325	1,004	75.7	
Move On Hair	9.2 (1)	1	全席:5,000	247	247	100.0	
シャンソンバラエティ	9.3~4 (2)	2	全席:6,000/5,000	534	333	62.3	
TONY TEE 「THE DANCER」	9.5~7 (3)	4	前売:4,000/当日:4,500 前売:4,500/当日:5,000	830	593	71.4	
風「桜の園」	9.8~15 (8)	7	前売:3,800/当日:4,000/ 学割:3,300	1,701	1,127	66.2	
古館伊知郎「トーキングブルース10th BUZAMA」	9.16~23 (8)	7	全席:5,000	2,758	2,640	95.7	
真矢特別公演「舞」	9.24 (1)	1		337	290	86.0	
キヨードー東京「梁邦彦コンサート」	9.25 (1)	1		394	372	94.4	
「上田遼ダンスリサイタル2」	9.26~28 (3)	4	全席:5,000	910	776	85.2	
リリバットアーミー「白いメリーさん」	9.29~10.5 (7)	9	前売:3,500/当日:3,800	2,653	2,458	92.6	
吉岡しげ美コンサート「花は動し」	11.10 (1)	1	前売:4,200/当日:4,500	246	192	78.0	
アキコカンダンスリサイタル「バルバラを踊る」	11.14~16 (3)	3	全席:4,000	615	425	69.1	
ワークスクリエイティブ「懿貴妃」	11.17~23 (7)	8	前売:4,300/当日:4,800	2,064	1,163	56.3	
劇団第三反抗期「Yell」	11.26~30 (5)	5	前売:2,500/当日:2,800	1,530	787	50.1	
シャクティ ヴァサンタマラ舞蹈研究所 「破壊と創造のエロス」	12.1 (2)	2	前売:6,000/当日:6,500	392	220	55.4	
センチュリーカウントダウンシアター	12.4 (1)	1	前売:3,500/当日:4,000	235	195	82.9	
ノルウェイ音楽祭「NORSTAR」	1.11 (1)	1	前売:3,000/当日:3,500	241	141	58.5	
ヤマハエレクトーンコンサート「NUDE」	1.12 (1)	1	前売:3,500/当日:4,000	376	311	82.7	
梁邦彦スペシャルライブ	1.13 (1)	1	全席:5,250	394	362	91.8	
くろいぬパレード「CARRY THAT WEIGHT」	1.14~15 (2)	2	前売:1,700/当日:2,000	620	224	36.1	
THE KIO「さとり」	1.17~18 (2)	3	前売:3,000/当日:3,500	588	282	47.9	
ホリプロ「女はフルコース」	1.19~25 (7)	8	全席:5,000	1,968	1,691	85.9	
スタッフステーション「SWAP」	1.26~2.1 (7)	7	前売:3,500/当日:3,800	1,876	1,434	76.4	
トライアウト「ミランドリーナ」	2.2~8 (7)	8	前売:3,800/当日:4,300	2,082	959	46.0	
イマージュ・撮影	2.9~10 (2)		収録				
水本一孝オカリナコンサート	2.11 (1)	1	指定:3,800/自由:3,300	270	179	66.2	
TONY TEE 「The Dancer」	2.13~14 (2)	2	前売:6,000	774	672	86.8	
双数姉妹「オクタゴン」	2.15~22 (8)	7	前売:3,200/当日:3,500	1,845	1,521	82.4	
日本映画学校「アバッチ水滸伝」	2.24~3.2 (7)	6	全席:2,000	1,794	1,398	77.9	
長嶺ヤス子「Illusion y Soledad」	3.3~4 (2)	2	全席:10,000	506	476	94.0	

公演名称	期日	回数	料金	収入	入場者数	入場率	備考
劇団一跡二跳「平面になる」	(日) 3.9~15 (7)	6	前売:3,200/当日:3,500	(円) 1,676	(人) 1,339	(%) 79.8	
東京都歴史文化財団「源氏物語 変妖」	3.16~18 (3)	3	全席:3,500/ 18マチネ2,500	726	608	83.7	
岩下徹ソロダンス「放下11」	3.19 (1)	1	前売:3,000/当日:3,500	328	261	79.5	
(小計)	67	(222)	232		61,488	44,778	72.8
〈内部利用〉							
こどもフェスティバル	5.2~6 (5)	11	無料	2,880	2,352	81.6	企画研修部
第3回人形劇カーニバル	8.12~15 (4)	9	無料	2,565	2,120	82.6	〃
第9回田島佳子「三味線のつどい」	9.16 (1)	1	大人:3,000/子ども:1,500	330	175	53.0	音楽事業部
ミセス・サンタズ アニマルクリスマス	12.6~8 (3)	4	無料	1,312	1,072	81.7	国際交流部
たいそう発表会	3.8 (1)	2	無料	458	409	89.3	体育事業部
ぼくらのサウンド '98	3.26~28 (3)	5	無料	1,772	960	81.5	音楽事業部
(小計)	6	(17)	32		9,317	7,088	76.1
青山円形劇場 計	84	(333)	377		107,081	84,591	77.5
劇場総計	113	(673)	756		536,503	446,661	82.1



第11回青山演劇フェスティバル～別役実の世界～
『病気』(上右)

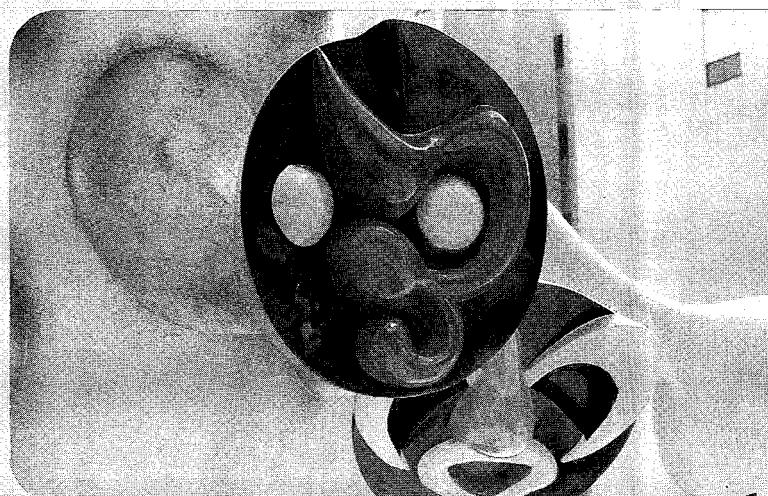
『マッチ売りの少女たち』(上左)

『会議』(下)

『ア・ラ・カルト～役者と音楽家のいるレストラン～』



広報部



平成9年度の活動

〔子どもの城〕と〔子どもの城〕の活動をより多くの人に理解してもらうために、『子どもの城ニュース』などの定期刊行物の編集・発行、特別期間などのちらし・ポスターの制作、新聞・雑誌・放送などの外部の各種媒体への情報提供など、さまざまな形で〔子どもの城〕と“外”を結ぶ活動を行った。

〈あそび〉をキーワードとした〔子どもの城〕の活動は、一見しただけでは普通の遊びと変わりがない。しかし、単なる「遊び」で終わらせるのではなく、〈あそび〉を“とおして”子どもの健全育成を図る——〈あそび〉の“向こう側”にあるものを大切にしたプログラムを〔子どもの城〕では実施している。このことを、多くの人に理解してもらうには、多大の労力を必要とする。十分ではないかもしれないが、さまざまな機会をとらえて、努力していくかなければならない課題と考えている。

また、夏休み特別期間、講座・クラブ募集（2月）を中心、新聞等を利用した広告も出稿した。

①印刷物などの編集と発行

ア 「子どもの城ニュース」の編集・発行

定期刊行物として『子どもの城ニュース』を年9回、編集・発行した。〔子どもの城〕利用者や周辺の学校、幼稚園、保育所などを主な対象に、〔子どもの城〕の活動を紹介している。さらに、全国の児童館・児童センターにも、都道府県児童館連絡協議会をとおして配付した。

編集にあたっては、〔子どもの城〕の行事のお知らせに

終わるのではなく、同じ児童の健全育成に携わる人の参考になる紙面作りを心がけている。

B3版、表面が4色（カラー印刷）、裏面が1色印刷。主な配付先は下記のとおり。

都道府県児童館連絡協議会など 4,380部
子どもの城友の会会員 約2,100部
都道府県民生部（全国57か所） 1,156部
保育所、幼稚園、小学校、中学校（渋谷区、港区） 438部
(219件×2部)

渋谷区町会長、渋谷区ボーイスカウト、
ガールスカウトほか 284部
(142件×2部)

その他（一般入館者、招待者、
観察・見学者など） 約16,700部

イ その他

（社）全国児童館連合会発行の『児童館』（季刊）の紙面で〔子どもの城〕の活動プログラムを紹介した。広報部が窓口となって、編集担当者とコラムの基本的な方向を検討し、執筆するスタッフとの連絡・調整にあたった。

〔子どもの城〕では、さまざまな分野の専門スタッフがその専門性を生かして企画した活動プログラムを実施している。地域の児童館とその置かれた状況が異なるので、そのまま利用することは難しいかもしれないが、プログラムの底に流れる考え方は、参考になるのではなかろうかと考え、表面的な流れだけでなく、プログラムの意味、応用・発展へのヒントなどを考慮した内容の原稿を提供した。

【平成9年度発行の「子どもの城ニュース」の主な内容】

発行日	内 容	発行部数
第75号 平成9年4月15日	スポーツとサイエンス 身近な運動を科学する	25,000部
第76号 ル 6月15日	“きんぞく”って、どんなもの?	25,000部
第77号 ル 7月15日	発見!遊びのジャングル 夏休みプログラム	25,000部
第78号 ル 8月15日	ファミリープレイタイム 家族で遊ぶ	25,000部
第79号 ル 10月15日	見つめよう!世界を、地球を、夢を。開館記念「ファミリーウィーク」	25,000部
第80号 ル 11月15日	大切なのは、人と人とのふれあい	25,000部
第81号 ル 12月15日	子どもの城の四季	25,000部
第82号 平成10年2月15日	私たち、(子どもの城)のボランティアです	25,000部
第83号 ル 3月15日	“鬼ごっこ”と“スポーツ”!?	25,000部

【「児童館」の『東京子どもの城発 児童館のプログラム』の主な内容】

号 数	内 容
夏号=平成9年5月25日	意図的グループ体験が暖かい人間関係に一役(プレイ)
秋号= ル 10月31日	運動あそびで体力づくり～成長に合わせた鬼ごっこ変化(体育)
冬号=平成10年1月30日	映像を体験するプログラムの実践(AV)
春号= ル 3月27日	手作り楽器ワークショップ(音楽)

(ウ) その他

そのほか、児童福祉週間(ゴールデンウイーク)、夏休み、冬休み、春休みなどの催し物案内(ちらし)・ポスターや講座・クラブの募集案内など、特別期間や募集時期に合わせて作成した。

②広告関係

必要最小限の広告を行うにとどめた。限られた予算の範囲で有効な広告活動を行うには、専門的な知識(戦略やマーケティングなど)の重要度が増すため、広告代理店などと相談しながら実施した。

(ア) 新聞広告

夏休み特別期間、講座・クラブの新年度募集の前などに、別表のように新聞広告を実施した。デザインは、ポスター・ちらしに合わせ、イメージの統一を図った。

(イ) 折り込み広告

平成10年度の講座・クラブの受講生募集にあたっては、受講者が【子どもの城】周辺地域の人であることを考慮し、渋谷区、港区、目黒区、世田谷区などを中心に、前年と同じ

【作成した印刷物などの一覧】

名 称	部 数	内 容	部 数
平成8年度事業年報(B5版208ページ)	1,000部	平成8年度の(子どもの城)の活動記録(B5版208ページ)	
平成9年度講座一覧	190,000部	平成9年度全講座・クラブの案内(B4版2色4ページ)	
子どもの城の案内(和文)	70,000部	(子どもの城)の館内案内を一部改定して増刷した。	
その他(各種ちらし・ポスター)	160,000部	GW、夏休み、冬休み、春休みなどのちらし(日本語・英語)	

様に読売新聞(約14万部)と毎日新聞(約3万部)に2月15日に折り込み広告を行った。

③取材関係

雑誌・情報誌(特に、子どもや若い家族を対象としたもの)などの取材は多く、【子どもの城】が子どものためのスポットの1つとして、広く認知されていることを示している。

しかし、月刊誌などの締め切りは発行の約3か月前と早く、問い合わせを受けた段階でプログラム内容がまとまっていることが多い。より多くの人に知ってもらうためには、周知するための期間が必要であることを考慮しなければならない。【子どもの城】全体の問題として考えなければならないと思う。

取材を受けた媒体には、定期的に催し物の情報などを送るようにしている。宣伝(広報)予算の限られている【子どもの城】のような施設にあって、取材=パブリシティーというのは大切な宣伝手段。各媒体と良好な関係を保つていけるように努力していきたい。

本年度の取材件数は、新聞31件、テレビ・ラジオ46件、雑誌79件、その他47件の合計203件で、前年比28件増だった。

【掲載した新聞広告の一覧】

掲載紙	形 式	日 時	内 容
朝日新聞	全5段など各種	平成9年7月7日～8月28日 都内高校野球特集、都心・西部版、南部版、北部版、東部版、武蔵野版	夏休み特別期間の催し物案内
東京新聞	半5段		
朝日小学生新聞	〃		
毎日小学生新聞	タブロイド3段		
毎日中学生新聞	〃		
日刊スポーツ新聞	70mm×50mm		
東京新聞	全5段	平成9年12月23日、30日	冬休み特別期間の催し物案内
朝日小学生新聞	〃	〃 12月20日	
朝日新聞	全5段など各種	平成10年1月29日～2月27日	
東京新聞	全5段	都心・西部版、南部版、北部版、東部版、武蔵野版	平成10年度第1期講座・クラブ受講生募集
(中日スポーツ)	〃		
朝日小学生新聞	〃		
毎日小学生新聞	93mm×127mm	平成10年3月17日	春休み特別期間の催し物案内
毎日中学生新聞	〃		

④その他**(ア) 渋谷スタンプラリー**

夏休みには恒例となった「渋谷スタンプラリー」に参加した。今年が14回目。「NHKスタジオパーク」「こどもの城」「電力館」「たばこと塩の博物館」「東京都児童会館」「五島プラネタリウム」の6館で実施。約1万人が参加した。

このスタンプラリーは、渋谷周辺にある各館が共同して施設の存在と活動をPRすることを目的としている。“点”ではなく“面”でPRするところが大きな特徴といえる。

(イ) 【こどもの城】活動事例集の作成

開館以来、児童の福祉・文化施設として、さまざまなくあそびのプログラムを企画・運営してきた。これらのプログラムは、【こどもの城】に直接来館する子どもたちに提供するだけでなく、健全育成のための1つの事例として、〈動くこどもの城〉や各種の講習会・研修会を通して健全育成に携わる人々に伝えたり、「こどもの城ニュース」などの機関紙をとおして広く紹介することに努めてきた。

開館10周年を契機に、長年にわたって積み重ねられてきた〈あそび〉プログラムを体系的に整理しようという機運が高まり、「活動事例集」を部門ごとに作成することとなった。本年度は、「一緒に遊ぼう 楽しく子育て 一人ひとりが輝くために」(保育研究開発部編著)、「うつる うごく

“映像遊び”探検隊 アニメおもちゃからビデオまで」(AV事業部編著)の2冊を中央法規出版株式会社から出版した。広報部は、各部門の執筆担当者と出版社との間で、編集・出版作業が円滑に進むようにコーディネートした。

2冊は、一般書店で販売されたほか、児童館活動活性化事業の一環として厚生省が買い上げ、全国の児童館・児童センターに配付された。また、保育所の見直しが進む中で、保育の活動事例集は保育関係者の関心を集め、増刷することになった。

(ウ) その他

インターネットをはじめ、さまざまな“メディア”が多くの人利用される——マルチメディアの時代を迎え、【こどもの城】も「こどもの城ニュース」などの印刷媒体を使った情報提供だけでなく、新しいメディア（インターネットなど）を使った情報提供を考えることが必要になってきた。

内部の事務処理を行うコンピュータシステムが更新されたのを機会に、インターネットのホームページを開設して、新しいメディアを使った情報提供を試行することにした。提供する情報の内容や形式、ホームページの保守管理などをどのようにしていくかが、今後の課題である。

ホームページのアドレスは、以下のとおり。

<http://www.kodomono-shiro.or.jp/>

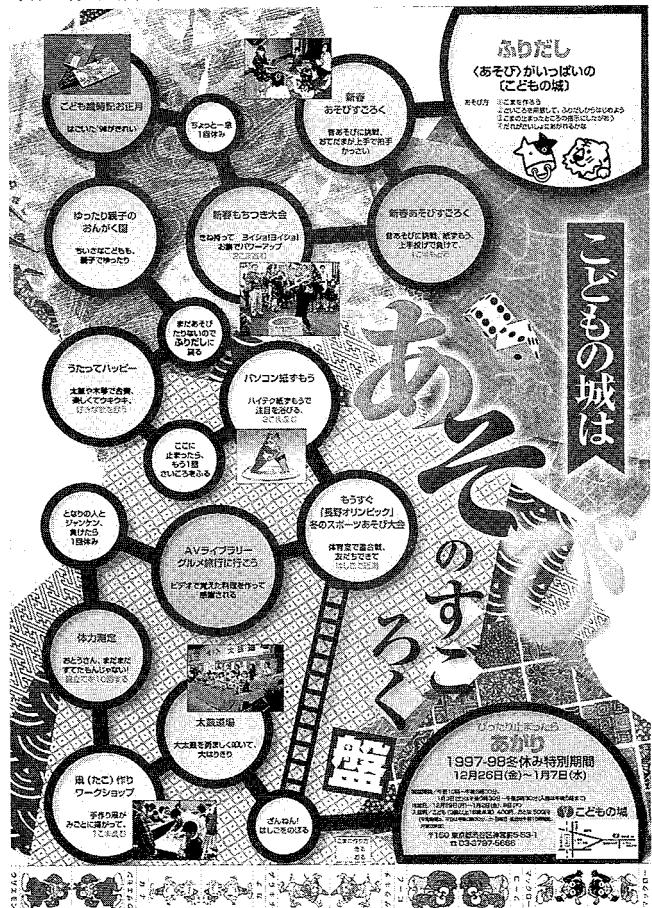


児童福祉週間（ゴールデンウイーク）特別期間（ちらし・ポスター）



夏休み特別期間（ちらし・ポスター）

冬休み特別期間（ちらし・ポスター）



春休み特別期間（ちらし・ポスター）



国際交流部



平成9年度の活動

〔子どもの城〕における国際交流部門の役割は、日本人と外国人（コミュニティ）を結ぶ架け橋になること。人と人とのふれあいと交流を大切にしながら、相互理解のための活動を行っている。

外国人来館児・者のための英語案内（ちらし、パンフレットなど）・館内表示などの作成、見学案内の対応、海外の児童施設（チルドレン・ミュージアムなど）との連絡など、〔子どもの城〕と“外国（人）”のコミュニケーションを図る活動だけでなく、在日外国人と日本の子どもたちとの交流を図るプログラム（「アートスケープ展」「バイリンガル・ファミリーシアター」など）や、小学生を対象とした講座「PAG（パフォーミング・アーツ・グループ）」などの交流プログラムを行っている。

①交流プログラム

（ア）アートスケープ展

「'97アートスケープ展」は、4月10日～20日にアトリウム・ギャラリーで開催された。今年の参加校は、清泉インターナショナルスクール、聖心インターナショナルスクール、セント・メリーズ、アメリカン・スクール・イン・ジャパン、武蔵野東学園、横浜インターナショナルスクール、クリスチヤン・アカデミー・イン・ジャパンの7校だった。

オープニングパーティーは、初日に行った（昨年までは、休館日の月曜日に行っていたが、今回は〔子どもの城〕のスタッフも出席しやすいように開館日に開催）。

オープニングスピーカーは、ブラジルの彫刻家、オルシ

ニ・ブランコさん。これまでの作品のスライド上映や芸術の大切さを話した。また、参加校の生徒が陶器の器を作り、〔子どもの城〕に贈呈した。パーティーには、参加校の先生、生徒、関係者など、およそ150～200人が出席した。

日曜日の4月20日には、陶器作りのワークショップを開催。聖心インターナショナルスクールの小学生3人（10時～12時30分）、武蔵野東学園の高校生3人（12時30分～3時）が指導にあたった。27人の来館児・者が、陶器作りのワークショップに参加し、交流を深めた。1つの作品を作るのにおよそ10～20分かかった。作品は、それぞれの学校に持ち帰って焼成。約2週間後に連絡をし、受け取りに来てもらうようにしている。日本のほか、インド、中国、シンガポール、韓国、アメリカ、イギリスの各国の子どもが参加した。

子どもがドレスアップ（よそいきの服）していたために、ワークショップに参加させたがらない親、外国人と何かをするためにためらいを感じている親、参加を呼びかけても子どもの気持ちも聞かずに（子どもが参加したいと言っても）断る親などが見られ、せっかくの交流の場が、生かせないケースも目に付いた。

アートスケープ展のロゴは、毎年参加校の生徒がデザインしている。今年は、Mia Tazawaさん（清泉インターナショナルスクール、12年生）のデザインが採用された。過去12回のロゴ、交流をしている生徒の様子、スポンサーについて、日本語と英語のバイリンガルでパネル展示した。さらに、創作中の生徒の様子、オープニングスピーチに招いたオルシニ氏の作品などをエンドレスのビデオで紹介した。



陶器作りのワークショップ（「アートスケープ展」）

すばらしい展示だったが、より多くの人が来場するようには、ポスターの掲示やちらしの配布などを考える必要がある。

今回の「アートスケープ展」では、新しい交流が生まれた。武蔵野東学園と聖心インターナショナルスクールの生徒が、互いの学校を訪れ、展示作品と一緒に作ったことがある。できあがった作品は「アートスケープ展」で展示した。また、制作風景を、写真とビデオで紹介した。2校の交流は〔子どもの城〕が作り出した新しい人の輪だと思う。このような人と人のつながりが頻繁に行われるようになり、もっともっと大きく広がっていくように願っている。

（イ）ミセス・サンタズ アニマルクリスマス

バイリンガル・ファミリーシアター「ミセス・サンタズ アニマルクリスマス」は、12月6日（1時30分と3時30分の2回）と7日（11時と1時30分の2回）、青山円形劇場で公演した。

今年のテーマは「動物愛護」。たくさんの動物が殺され、捨てられたり、いじめられたりしていることに気づくとともに、生きる権利を守ってほしいという願いを込めた内容。

捨てられた動物たちが、ほかの星に行くための費用を集めるためにファッショショーンショーを開いた。ところがリーダーのブタ君が横取りしてしまう。お金を持って前の飼い主の所へいくと、もうすでにかわいい子犬がいる。がっかりしたブタ君は、みんなの所へ戻り、うそをついたことを謝り、お金を返すと、みんなは許してくれた。最後にミセス・サンタが助けに来て、北極へその動物たちを連れていくことを約束する——というストーリー。

動物を飼うということは、その命に責任を持たなければならぬこと、そして動物と友だちになることによって家族が1人増えることなど、生きる権利を守ることは、命を



「ミセス・サンタズ アニマルクリスマス」

大切にすることでもあると訴えた。

第2部はファミリーディスコ・タイム&ゲーム。恒例になっている出演者全員によるサンクスサンタの歌と踊りでフィナーレを飾った。日曜日の公演には、〔子どもの城〕の保育クラブ・幼児グループの子どもたちが出演して「てぶくろと動物の話」を演じてくれた。

ファミリーディスコ・タイムでは、PAGのメンバーと観客が一緒に踊る様子が見えた。しかし、ステージの上で一緒に踊るように頼んでも、恥ずかしがって出てこない。引き込むのに苦労したが、最後にはみんながダンスを楽しんだ。家族で踊ることに慣れていない人が多いのか、みんなが前に出て踊るまでに時間がかかった。客席で自分の子どもも踊る親の姿も少なかった（このような“家族の時間”を提供する必要を感じた）。

ゲームタイムでは、両親と子どもはジングルベルの歌に合わせて新聞を使ったゲームで遊んだ。

動物役はPAGの子どもたちのほか、元PAGメンバーが演じた。また、舞台のファッショーンやダンスのすばらしさが印象的だった。



いアイデアも元 PAG と現 PAG メンバーが考えた。

土曜日、日曜日とも満員の入りだった。入場整理券（入館券を持っていれば、だれでも入場できるが、会場整理の都合上、整理券が必要）は、「子どもの城友の会」会員に抽選で贈ったほか、PAG の関係者にも渡された。また、「The Japan Times」「The Daily Yomiuri」「Tokyo Weekender」などの英字メディアをとおして、外国人へのお知らせを行った。

協賛は、スタージュエリー、マスターフーズ、G's コーポレーション、日本コロムビア。プレゼントグッズを提供してくれたのは、くもん、TOMY、マクドナルドの各社。

2か国語のアンケートも実施した。回答をみると、喜んでくれているものが多く、PAG に興味があるので資料を送ってほしいという人もかなりいた。アンケートとは別に、家族でクリスマスの良い思い出を作ることができたという感謝の手紙、カード、電話を多数受けた。ほかに、バイリンガルで行われる家族のプログラムについての問い合わせがあった。

多くの PAG の両親から、学校が休みになる第2土曜日に公演できないか、という意見が寄せられた。学校のある第1土曜日は、子どもへの負担が大きいからだ。【子どもの城】にとってもクリスマスの催しは、クリスマス近くに行う方が、いいのではないかと思う。

【公演までの道のり】

準備の段階から、PAG のメンバー1人ひとりに役割が与えられる。そのことが、やる気を生みだし、役割を成し遂げることで自信が持てるようになる。子どもたちは、台本、音楽、ストーリー、踊りなど、いろいろな分野でステージ作りに参加した。ときには、親も子どもと一緒にになって参加してくれた。親と子が同じ目標に向かって一緒になって作業するよい機会となった。

今年の公演プログラムの表紙には、6歳の PAG メンバーが描いた絵を使用した。子どもにとっては、大きな励みになるので、いろいろな場面で子どもたちの能力が發揮できるように心がけている。才能を見つけ出すことが重要だと考えている。

次年度は、年度始めにテーマを決め、時間をかけて話や踊りを作っていくと考えている。また、子どもだけでなく、親（家族）のサポートも重視しているので、親との話し合いも早い時期に行いたいと考えている。今回のステージでは、メンバーのお母さんの1人が2か国語のセリフのある役を担当してくれた。声も大きく、すばらしい演技をしてくれた。次回はもっと多くの親たちがステージで子どもたちと一緒に演技してくれればと思う。

②講座

(ア) パフォーミング・アーツ・グループ (PAG)

PAG は、国籍を超えた交流と、劇や歌・踊りなどを楽しみながら、自己表現の方法を身につける活動を行う講座。日本語と英（米）語のバイリンガルで行っている。

本年度は、受講希望者が多く、定員（30人）より多い38人でスタートした。小学校低学年と高学年が多く、年齢別に2つのグループに分かれるような形となった。そのため、PAG に長くいる高学年の子どもたちはリーダーになりたがったり、同じ学年同士でグループになりたがったりするケースが目に付いた。年齢や興味の持ち方が違うので、1つのものに向かって一緒に取り組もうとすると、さまざまな困難が生まれてくる。しかし、その困難を乗り越えるという経験が子どもたちを成長させていく。子どもにとっても、指導するスタッフにとっても、よい経験ができた。

1期は、はさみや新聞紙を使ってグループでの表現活動を行った。2つのグループ（低学年、高学年）に分け、体を使った表現（動作）を作り出したり、組み合わせたりした。2つのグループは互いに刺激し合いグループ活動を楽しくした。また、3人の元 PAG メンバーが手伝いに来てくれ、クリスマス公演のテーマなどを話し合った。いつものようにメンバーから、衣装の案を出してもらった。

2期は、クリスマス公演（バイリンガル・ファミリーシスター「ミセス・サンタズ アニマルクリスマス」）に向けた活動が中心。9月から練習を始めたが、年齢の違いなどからグループごとにまとまって活動するのは子どもたちにとって難しいようだった。高学年の子どもは、同年齢の子ども同士でグループを作りたがったが、異年齢のグループにしたため、低学年の子どもに終始注意を向けていなければならなかった。2期前半は、このグループ作りに費やされた。本年度から参加した新メンバーのほとんどは、グループになじめないことが多かったので、12歳から20歳の元 PAG メンバーが毎週来てグループ作りを助けた。

グループ作りに時間がかかったが、みんなで考えた結果、動物を題材にクリスマス公演をすることに決めた。神戸の事件やペットを捨てたり、動物たちに危害を加えたりする風潮に対し、何か問題を投げかけることができないかと考えたからだ。全ての人（生き物）には生きる権利があること、ペットを飼うことの責任をテーマにした。全ての子どもたちが、せりふを話すことになった。子どもたちの意見を第一と考え、使用する楽曲も、いろいろな曲を子どもた

ちに聞かせ、選曲した。

数種類の動物のグループ（ライオン、鳥、かえる、猫、犬、象、魚、かに、ねずみ）に分け、それぞれの特徴を生かした衣装を作った。保護者にも集まつてもらい、今までの公演ビデオを見せ、衣装、そのほかのアイデアを出してもらったり、役割を決めて手伝ってもらった。お母さんの協力は大きく、この助けなしには、公演はできなかつたと思う。

「ママ PAG ミーティング」は、月に1回行うようにしてコミュニケーションを深めている。春休み特別期間中には、PAGで使用している倉庫の清掃にも協力してもらった。

PAGの活動は4時からだが、多くの子どもたちは時間どおりに来ることが難しいようだった。学校行事が多い上に、体調が悪かったり、いじめがあったりで学校を休む子どもも少なくない。決められた時間に、全員そろって練習するのか難しかった。しかし公演では、彼らの声が舞台に響き、せりふや歌、ダンスなども予想以上のできばえだった。ディスコタイムでは、会場の人たちと友だちになり、一緒に踊ったりした。よい経験になったと思う。

現在、PAGを終了した中・高校生をフォローする講座はないが、元PAGの子どもたちが協力してくれた。2期はとても忙しく過ぎたが、子どもたちにとっては、グループとして活動する中で、自分自身を見つけることができた実りある時間となった。

3期は、新しい試みとして、英語のみの活動を行うことにした。親も子どもも望んでいたことではあるが、不安でもあった。しかし、子どもたちは毎回の活動を楽しみにし、支障なく進めることができた。

また、もっと多くの外国の子どもも参加してほしいと考え、時間を少しずらすこととした。遠くに住んでいるため、時間どおりに通えない子どもがいることもあり、次年度から開始時間を午後4時30分に変更する予定である。

PAGは子どもたちの才能を大切にしながら、グループの活動から、いろいろな表現活動へと発展させ、子どもたちの積極性や創造力を伸ばしている。それが、いじめられている子どもの仲間作りや、家や学校でありのままの自分を受け入れてもらえるきっかけにつながったりする。自分を表現する方法を見つけることで、よりよい環境を作る手助けになってほしいと思ってる。

③その他

平成8年度から、アメリカに本部を置く、子どものための博物館・美術館などの連絡組織 AYM (Association of Youth-Museums)のメンバーになっているが、その機関紙(1998年春号)に、バイリンガル・ファミリーシアターなど、[子どもの城]の活動を紹介する記事を寄稿。海外へ向けて情報を発信した。

平成9年度活動一覧表

①平常期間プログラム

名 称	期 間	備 考
アートスケープ展 Artscape '97	4.10~20	本年度は、東京・横浜地区のインターナショナルスクールと武蔵野東学園の7校の生徒(日本の中・高校生にあたる学年)の美術作品約400点をアトリウム・ギャラリーに展示、美術を通じての国際交流を図った。参加各校の生徒がボランティアで参加し、レセプションや一般来館児・者のためのワークショップ(陶芸など)を行った。入場は無料。(こどもの城)では12回目、通算では18回目をむかえた春恒例の展覧会である。ギャラリー。
ミセス・サンタズ アニマルクリスマス Mrs. Santa's Animal Christmas	12.6 7 ①18:30 ②15:30 ①11:00 ②13:30	親子と家族を対象に、バイリンガル(英語と日本語)で行われれるクリスマス・ファミリーシャター第23弾。パフォーミング・アーツ・グループ(PAG)の子どもたちが演じる“動物”と、捨てられた動物(PAGのOB), ミセス・サンタが命の大切さを訴えるクリスマスショー。(こどもの城)の保育クラブと幼児グループの子どもたち20人が、7日の1回目の公演に特別出演した。青山円形劇場。

②講座・クラブ

名 称	授業 日	受講料	開催 周期・回数	備 考
パフォーミング・アーツ・グループ Performing Arts Group	(人) 小1~6 (35)	(人) ① 38 ② 33 ③ 33	水曜日 16:00~17:30 (公演リハーサル含め全34回)	日本人と少数だが外国籍の子どもたちが一緒にダンス、歌、演技などの“表現”を身につける講座。個人、そしてグループで、体全体を使って表現する力を養う。「ミセス・サンタ」のクリスマス公演に出演。台本、振り付け、衣装などのアイデアも子どもたちが考えた。講師は、テリー・スザーン(アメリカ)で、バイリンガル(日本語と英語)で指導。 受講料=1・2期18,000円、3期18,000円。

③その他

名 称	期 間	備 考
異文化理解と国際教育= Together, We can	5.29	茨城県の平成9年度国際理解教育研修(小学校)で、小学校の教師を対象に、外国人の子ども、家族と学校が、相互理解を深め、どのように協力していくべきかを講演した。主催は、茨城県教育委員会。会場は茨城県教育研修センター。参加50人。
社会と子育て	6.8, 10.9	保育研究開発部の「親子教室」で、社会と子育てについて講演。親子の時間、父母(夫婦)の時間、家族の時間など—それぞれの時間を大切にし、楽しく子育てしようと話した。各回20組参加。
親子とあそぼう	6.14	親子が一緒になって、ゲームや遊び、手遊び。家族のコミュニケーションを図るプログラム。(社福)誠和会やわらぎ保育園(栃木県)。120人参加。
お父さんは宝物	6.27	新しい父親像の発見と、男親の学校参加について講演。高知県PTA指導者研究集会(会場=サンパレスむろと)。300人参加。
テリーのお ya! 子プログラム	7.13	福岡県の家庭教育子育て支援推進事業として県立社会教育総合センターで親子300人が参加して開催された。講演「子どもの遊びを理解していますか」、子どもの遊び「子どもはみんな集まれ!」などを実施。
表現遊び	7.24	海外の子どもと日本の子ども(10~18歳)の国際交流キャンプ「アジア太平洋こどもフォーラム'97」で、言葉が通じなくても交流できる表現遊びなどを指導。ユースワーカー能力開発協会主催。100人参加。
パネルディスカッション「生きる」	8.20	第21回東京都公立幼稚園夏季研究協議会のパネルディスカッション「生きる」で、生きることや命の大切さについて発言。中野ZEROホール。450人参加。
コミュニケーションは宝物	8.23	栃木県総合文化センターで開かれた「第20回女性の集い」(東京電力労働組合主催)で、女性と男性が理解しあい、協力し、互いに尊敬しあうことの大切さを講演。350人参加。
YOU, ON STAGE	8.28	表現のしかたなどを考える講演。平成9年度金沢大学社会教育主事講習会、100人参加。

名 称	期 間	備 考
表現とはさみの遊び	8.30	表現遊びやはさみを使ったもの作りを指導。日本保育協会岩手県支部の平成9年度職員全体研修会、250人参加。
いちばん大切なこと	9.2	命、生きること、家族の愛、コミュニケーションなど、日常生活を見直し、大切なことはなにかを考える講演。平成9年度戸田市教職員全体研修会(埼玉県)、400人参加。
国際化と日本 SAME BUT DIFFERENT	9.25	帰国子女、2つの国籍を持つ子ども、国際結婚など、国際化が進むなかでさまざまな問題がクローズアップされている。同じ人間であるが、同時に違う個性を持った人間であるからすばらしいと講演。茨城県の平成9年度校長研修講座。60人参加。
いのちは宝もの	9.30	命の大切さについて講演。兵庫県川西明峰高等学校。1,200人参加。
子育てにおける国際理解	10.3	家族のコミュニケーション作りなどを講演。埼玉県の子育てネットワーカー養成講座。30人参加。
親子プログラム	10.	茨城県守谷町立郷州小学校の第2学年親子集会で、親子で遊ぶプログラムを紹介。150人参加。
夢フォーラム	10.19	(社)小松青年会議所(石川県)の40周年記念事業にパネリストとして出席。社会・家庭をよくするため、どのような活動をすればよいか発言。400人参加。
女だって、男だって	11.1	福井県の平成9年度青年男女共同参画セミナーで講演。600人参加。
創造性と表現力を高めよう	11.13・14	鳥取県保育協議会主催の平成9年度鳥取県保育所職員研修会で、はさみや折り紙を使った創造性を高める工作や表現遊びを紹介。13日は東部会場(鳥取勤労者総合福祉センター、参加250人)、14日は西部会場(米子市東山体育馆、参加250人)。
親子クリスマスコンサート	12.14	ミセス・サンタのクリスマス・プログラム。歌と遊びなど。(社福)喜育園立山東保育園(富山县)。0~6歳児150人が参加。
ミセス・サンタのクリスマスプログラム	12.22・23	高松冬まつり実行委員会主催の音楽祭などに出演。オリジナル曲“Thanks Santa”をプログラム全体のメインテーマとして、踊り、歌を指導した。10,000人参加。

業務部



平成9年度の活動

① 業種別状況

(ア) ホテル

営業収入は、本年度1億1,817万円で、前年度1億376万円に比べ1,441万円の増収となった。

客室の利用状況を見ると、客室利用率は合計で89.5%，客数利用率では73.4%となっており、前年度に比べ客室利用率で4%，客数利用率で3.3%増加した。客数利用率が客室利用率に比べて低いのは、ツインルームのシングルユースおよび和室の利用人員が客室定員より少ない場合が多くなったためである。

3室しかないシングルルームの利用率は、窓のない部屋であるにもかかわらず、94.6%と極めて高率であり、ツインルームのシングルユースも31.5%と利用率が高く、シングルルームの需要が高い。

平成9年4月から、消費税率が改定されたことにともない、宿泊料金を内税方式から外税方式に改め、消費税抜きの料金に改定した。

また、宿泊料金は、10年近く据え置いてきたため、平成9年10月から、平均7.6%の値上げ改定を行った。

ホテルガイドや関係団体の機関誌・紙などへの広告の掲載や関係団体の全国会議などでのパンフレットの配付など、前年度に引き続き積極的に宣伝に努めた。

平成9年9月から、BGMをテープのレンタルから有線放送の聴取に切り替えた。

平成9年4月から、和室の畳の傷みが激しいのでレンタ

ルの畳を導入した。

平成9年8月から、国際電話プリペイドカード(AT&Tワールドアクセスカード)の委託販売を行うこととともに、平成9年12月に客室からKDDの国際電話プリペイドカードを使用して、国際電話の通話ができるよう改修した。

平成10年3月に、デラックスツイン室のナイトテーブルをスタンド2灯付きのものに更新した。

平成9年11月から、宿泊者からサービスなどに対するアンケートをとることとし、アンケートに記載された意見などにより、シャワーキャップの導入、ドライヤーの貸し出しおよびこれらのお知らせの張り出し、テレビ番組表の各客室への配付、自動販売機設置場所の案内表示、自動販売機のソフトドリンクの種類の増設などの改善を図った。

【ホテルの利用状況】

客室種別	利用客室数	客室利用率	利用客数	客数利用率
シングル	1,013室	94.6%	1,013人	94.6%
ツイン	6,530室	91.5%	11,662人	81.7%
和室	761室	71.1%	3,561人	52.5%
合計	8,304室	89.5%	16,236人	73.4%

(注)利用率は、次により算出した。

$$(1) \text{客室利用率} = \frac{\text{利用客室総数}}{\text{営業日数(356日)} \times \text{販売可能客室数(26室)}} \times 100$$

$$(2) \text{客数利用率} = \frac{\text{利用客数}}{\text{営業日数(356日)} \times \text{販売可能客数(62人)}} \times 100$$

*総客室数は27室、総定員は64人だが、このうちツイン1室を予備室としているため、販売可能客室数は26室、収容可能客数は62人とした。

(イ) 研修室・ギャラリー

研修室の営業収入は、本年度1億2,467万円で、前年度1億154万円に比べ2,313万円の増収となった。

利用率は合計で59.6%となり、前年度より3.1%減少した。

利用の内容は、外部への有料貸しのほか、[こどもの城]の企画による催事などにも利用されている。とりわけ春・夏・冬休み、ゴールデンウイーク（児童福祉週間）などの特別期間中は、研修室、ギャラリーのいずれも内部利用の割合が極めて高く、[こどもの城]の限られたスペースでの充実したプログラム作りに寄与している。

平成10年2月に、8階研修室のスライディングウォールの収納庫の扉が壊れたため、この修理を含め8・9階の床、壁などの内装を大幅に改修した。

平成9年12月に、901号室の椅子を折り畳み式からバンケットチェアに更新した。

また、平成10年3月に、OHP 1台、ドラム式スライドプロジェクター3台、MDプレーヤー2台を購入し、有料貸出備品の充実を図った。

研修室の広告は、ホテルと共に関係団体の機関誌・紙に掲載したほか、産労総合研究所の「全国研修施設・会議会場一覧」などにも毎年掲載している。

【貸し室の利用状況】

客室種別	有料利用		内部利用		計		
	件数	利用率	件数	利用率	件数	利用率	
研修室	午 前	1,704	48.6	221	6.3	1,925	54.9
	午 後	2,230	63.4	270	7.7	2,500	71.1
	夜 間	1,287	44.4	198	6.9	1,486	51.3
	合 計	5,221	52.6	690	7.0	5,911	59.6
ギャラリー	72	20.0	193	53.7	265	73.8	

(注)利用率は、次により算出した。

$$(1) \text{ 研修室利用率} = \frac{\text{各室を午前・午後・夜間各1件とした場合の年間利用件数}}{\text{年間営業可能件数}} \times 100$$

※平成9年度における年間営業可能件数は、午前3,506件、午後3,516件、夜間2,896件の合計9,918件(日曜日・祝日の夜間休業のほか、じゅうたんクリーニング、工事などのため利用不能となった件数を除く)である。

$$(2) \text{ ギャラリー利用率} = \frac{\text{利用日数}}{365\text{日} - (\text{年末年始5日} + \text{基幹停電日1日})} = 359$$

(ウ) その他の業務

売店、自動販売機による販売、駐車場の提供、館内公衆電話の管理などについては、前年度に引き続き[こどもの城]事業活動に即応する形で利用者サービス事業の一環として実施してきている。これらの収入の状況は、本年度1億8,323万円となっている。[こどもの城]の利用を促進していくうえで、これらの利用者サービス事業はいずれも欠くことのできないものなので、引き続き多様な利用者需要に合わせたサービスの向上を図っていく必要がある。

平成9年4月に、5階屋上、1階ピロティ、地下1階フリーホールに自動販売機をそれぞれ1機づつ増設したほか、平成9年7月にも2階ファミリーラウンジに1機を増設した。

また、地下1階プール観覧室の牛乳の自動販売機を撤去するとともに、5階エレベーターホールの牛乳の自動販売機の取扱業者を入れ替えた。

平成9年6月に、たばこの自動販売機2機が故障し修理不能となったため、1機は廃止することとし、1機のみ更新した。

平成9年4月の消費税率改定により、屋外駐車場の駐車料金を1,240円から1,260円(大型バス、1時間)、820円から840円(マイクロバス、1時間)に値上げ改定した。

屋内駐車料金は、これまで相次いで値上げしてきた経緯があるので、今回は値上げ改定を見送り、周辺駐車場の料金改定の状況を見守ることとした。

夏休み特別期間には、屋上遊園のちびっこプールで、体育事業部の協力によりアイスクリームの販売を行った。

レストラン、コーヒーラウンジ、劇場スナックなどは、引き続きテナント業者(廣宴堂)によって営業されている。

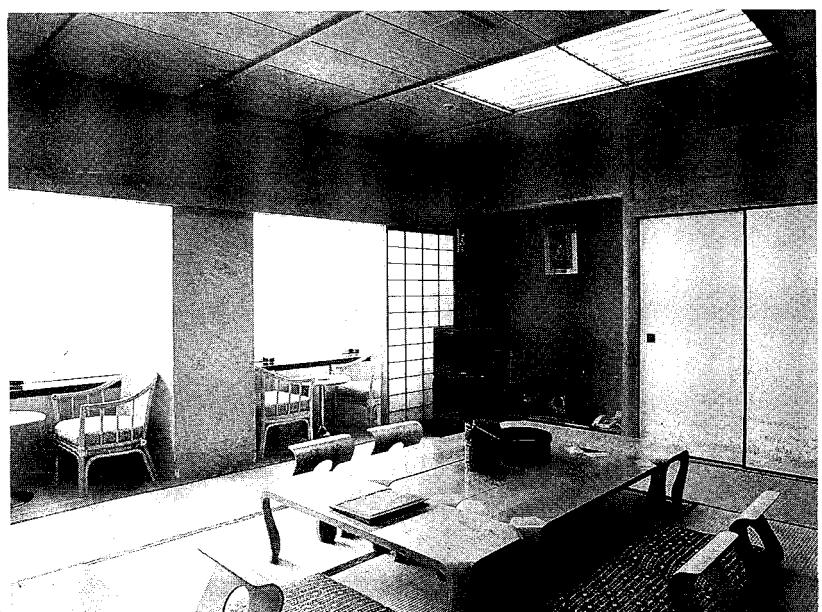
平成9年度の概要

①業務の一覧

業種	店名等	場所	利用客席数	営業日・営業時間	備考
ホ テ ル	こどもの城	6・7階	客数 客室定員 27 64	無休(12月29日～1月2日を除く)	洋室24室(シングル3, ツイン10, デラックスツイン11) 和室3(4人用1, 5人用1, 10人用1) 料金1泊6,400円(税別)～
貸し室	研修室	8・9階	研修室 ※一部通して使用できる。利用人員350人 ぐらいまで 10	無休(12月29日～1月2日を除く) 営業時間=9:00～21:00	研修および会議など 料金=1単位時間11,500円～(税別)
	ギャラリー	1階アトリウム		無休(12月29日～1月2日を除く) 営業時間=10:00～18:00	各種展示会および実演など 料金=1日30,000円(税別)
物品販売	売店	1階アトリウム	1か所	営業日時=こどもの活動エリアの開館 日時と同じ 毎週月曜日休業(月曜日が祝・休日のときは火曜日) 土, 日, 祝・休日, 春・夏・冬休みの 特別期間=10:00～17:30 その他の平日=12:30～17:30	玩具, 文具, 造形用品, 音楽用品, スポーツ用品, 講座指定水着, 催事関係用品, 印刷出版物, 衣料, 雑貨, フィルムなど
	自動販売機	館内各所	飲・食・乳販売 12か所 たばこ販売 7か所 フィルム 1か所 テレホンカード 2か所 パーキングカード 1か所	無休	ドリンク類, 牛乳類, スナック類, カップ麺類
公衆電話		館内各所	15か所24台	無休	
駐車場		屋内(地下2階～地下4階), 屋外(1階)	約116台 (業務車両分含む)	無休(12月29日～1月2日を除く) 営業時間=8:00～22:00	普通車両は地下駐車場, バスなど大型車両は屋外(1階)に駐車 料金=普通車両30分300円,マイクロ車両1時間840円, 大型車両1時間1,260円(税込み)
飲食関係	カフェテラス「アンファン」	1階	客席数 140	無休(12月29日～1月2日を除く) 営業時間=7:30～20:30	ファミリーレストラン, 弁当仕出し, パーティーなどホテル宿泊者の食事
	すし「ひさご」	1階	カフェテラス「アンファン」内	無休(12月29日～1月2日を除く) 営業時間=11:00～20:30	すし, 和食, 弁当・料理の仕出しなど
	コーヒーラウンジ「アミティーエ」	2階	客席数 60	毎週月曜日休業(月曜日が祝・休日のときは火曜日) 営業時間=11:00～20:00	喫茶, 軽食
	劇場内「スナック」	青山劇場内地下 ロビーおよび2階ロビー	立食	公演に合わせて営業 営業時間=開演前・幕間	喫茶, 軽食



子どもの城ホテル客室（洋室）



子どもの城ホテル客室（和室）



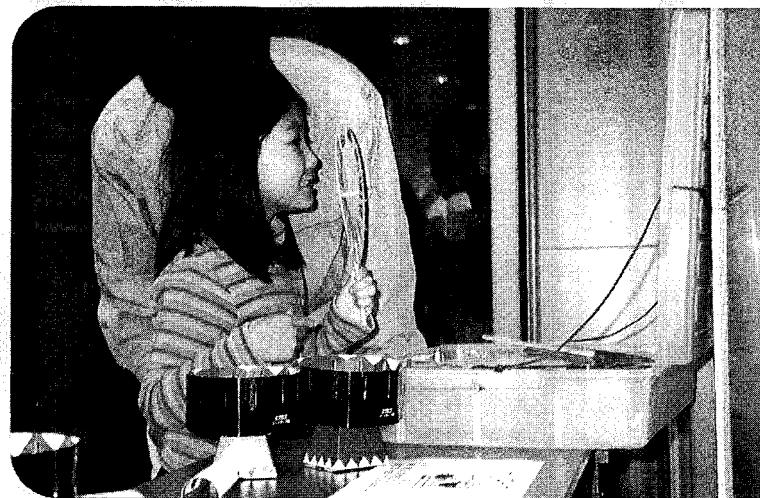
研修室

III

動く子どもの城

キャラバン隊派遣事業

動く子どもの城



平成9年度の活動

今年で4年目となった国庫補助事業〈動く子どもの城〉は、地域の児童健全育成事業への支援事業として定着し、年度早々から多くの問い合わせが寄せられた。事業の主旨についての理解が深まり、単なるイベントとしてだけでなく、地域にプログラムが定着するように、児童厚生員などを対象とした研修会も着実に行うことができた。

その結果、プログラムの単なる方法論だけでなく、その背景や理念も紹介することができてきた。また、それぞれの地域の児童厚生員の熱意や、紹介したプログラムが地域の特色を生かしながら定着していく様子を肌で感じることができ、〔子どもの城〕の職員にとっても恰好の勉強の機会となった。

昨年からプログラムに加わった「お母さんと赤ちゃんのすくすく体操」は、PRの問題もあり昨年は派遣できなかつたが、本年度は2年目ということで、かなりの問い合わせがあり、2地域に派遣を実施した。このプログラムは、体育のプログラムに、小児保健のスタッフが加わったもので、育児にかかる気軽な会話などを通じて参加者の育児不安を解消する育児支援の要素が加わっているものである。児童館が、地域の育児支援の拠点として期待されている昨今、今後もかなりの要望があると考えられ、内容的にも一層の充実を図っていきたい。

また、本年度からプログラムに加わった人形遊びのプログラム「みんなで遊ぼうパペットランド」は、〔子どもの城〕のグループ活動のプログラムとして行われてきたものである。数多くのプログラムがグループ活動として行われているので、その中から新しい〈動く子どもの城〉のプログラ

ムを開発するなど、今後も実践活動をとおして努力していきたい。

①今後の課題と展望

〈動く子どもの城〉への理解が増し、各地からの派遣要請が増えた一方で、4年間、一度も派遣が行われたことのない地域が多数ある。これは、事業案内を年度当初にしか行っていないこと、地域の児童館などとの直接的なコミュニケーションの方法を持っていないことが大きな要因と考えられる。

そこで、最新の情報を広く発信でき、直接的な情報交換ができるように、年度末からインターネットによる情報提供にも取り組んだ。しかし、まだまだ手さぐり状態であり、今後、その充実にも努めたい。

また、地域の多様なニーズに応えられるように、プログラムの充実を図ることは最も重要な課題である。一般来館児・者向けの活動、講座・クラブ活動、グループ活動など、あらゆる〔子どもの城〕の活動の中から、新規プログラムの開発に取り組んでいきたい。

全体の運営としては、増加傾向にある派遣要請に対し、予算などの制限もあり、派遣件数をこれ以上増やしていくことは困難である。そこでそれぞれの地域のネットワークなどを十分に生かし、効率的により多くの人たちに、プログラムを紹介できるように努めていきたい。また、プログラムによっては、開催団体による費用の一部負担なども、検討する必要がある。

平成9年度活動一覧表

①プログラム一覧

〈地域の児童館などで子どもや家族を対象に行うプログラム〉

名 称	内 容
身近な道具でスポーツあそび (体育)	新聞紙・棒・ひも・ボールなど身边にあるものを使い、人数や場所、広さに応じ、さまざまなスポーツに展開していく。
お母さんと赤ちゃんのすくすく体操 (体育)	音楽や楽しい遊具を使いながら、赤ちゃんもお母さんもリラックス。赤ちゃんのできる簡単な体操をとおして表情や動きの新しい発見がある。
パソコン遊びのワークショップ (プレイ)	パソコンを道具として遊ぶプログラム。カード作りのデザインをする「カードをつくろう」や、しりとりや暗号解読を楽しむ「ことばであそぼう」などいくつかのプログラムの中から選択して実施。
みんなで遊ぼうパペット・ランド (プレイ)	人形作りと人形遊びの2つで構成されたプログラム。紙コップや封筒など身近な素材で人形を作り、作った人形で話をしたり、いろいろな役割を演しながら、イメージの世界を楽しむ。
おんがくがスキ! (音楽)	観客が演じ手といっしょに楽しめるように、歌遊びや手遊びの要素が盛り込まれたコンサート。演する・見る・聞く・楽しむなどの行為が一体となり、音楽の楽しさを体験できるプログラム。
がらくたなどの楽器コンサート (音楽)	ふだんは、楽器に使われるなどとは想像できないものが、扱い方ひとつで楽器に変身。それぞれの物の固有の音を快く聞かせる異色のコンサート。
アニメ・ワークショップ (AV)	子どもたちが優れた映像作品に触れ、また遊びをとおして映像の仕組みを考えるためのプログラム。国内外のアニメーションの上演と、アニメの仕組みを簡単に体験できるワークショップで構成。
映像探検 写真ワークショップ (AV)	現在使われている写真機以前に使われていた、いろいろな装置を使って、写真の写る仕組みを知ることができるワークショップ。
ボランティア交流プログラム (企画研修)	(こどもの城)で活動しているボランティアリーダーによる影絵や人形劇などの公演と、地域のボランティアとの交流や情報交換を図るプログラム。

〈児童厚生員等を対象としたプログラム〉

名 称	内 容
造形ワークショップ (造形)	(こどもの城)の造形スタジオで実践してきたプログラムを視覚的に分かりやすく、パネルで展示し、その中からいくつかのプログラムを子どもたちやその家族を対象に実施。
手作り楽器のワークショップ (音楽)	ふだんではがらくたとして捨ててしまうようなものを生き返らせて、さまざまな楽器に変えます。金属の缶やフィルムケースで楽器を制作し、みんなでコンサートも。
不思議な映像実験室 (AV)	映像の基本的な原理について、遊びを通じて理解させるためのプログラムを体験するワークショップ。

〈地域の児童館などの巡回展示とワークショップを併せて行う事業〉

名 称	内 容
ブルーノ・ムナーリ展 (造形)	1985年の(こどもの城)開館を記念して行われた、イタリアのアーチスト、ブルーノ・ムナーリ氏制作のグラフィック・アート、ブレイシングス、絵本、オブジェなどの展示とワークショップ。
ピクトル・ダミコ展 こどもアートカーニバル (造形)	1995年の(こどもの城)開館10周年で行った、アメリカの美術教育者ピクトル・ダミコ氏の業績を紹介する展示。ダミコ氏の方法論の実際を、再現キットなどをを使ったワークショップを交えて紹介。
造形ワークショップ展 (造形)	(こどもの城)の造形スタジオで実践してきたプログラムを視覚的に分かりやすくパネルで展示し、その中からいくつかのプログラムを子どもたちやその家族を対象に実施。
昔遊び大集合 お父さんの少年時代 (企画研修)	昭和30—40年代のめんこ・ペーゴマ・凧・日光写真などの展示をきっかけとして、親子のコミュニケーションをはかり、子どもたちに昔遊びを体験してもらうプログラム。

「子どもの心身の健全育成を考える」巡回展示会)

名 称	内 容
家族・はがきアート展 (企画研修)	国際家族年を記念して全国から募集した、はがきに家族を自由に表現した作品約2,000点の展示。福田繁雄氏、やなせたかし氏ら招待作家15氏の作品も同時に展示。

②実施一覧

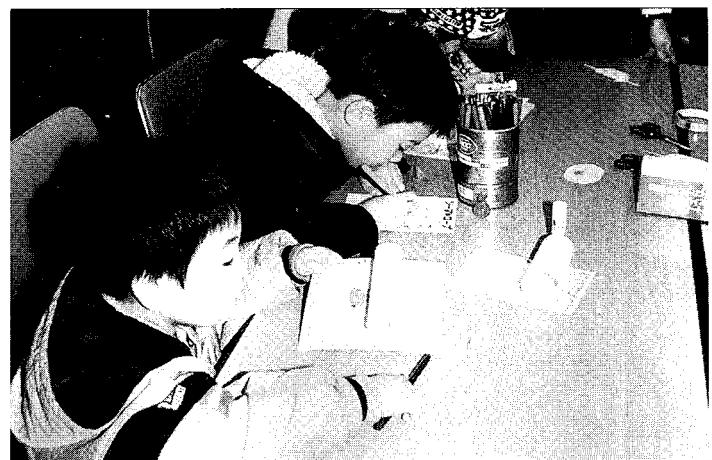
県名	開催団体	プログラム名	会期	実施場所
愛媛県※	新居浜市立上部児童センター	身近な道具でスポーツあそび	6. 8・9	新居浜市立上部児童館 波方町立波方児童館
三重県	桑名市教育委員会	がらくた楽器などのコンサート	7. 5・6	桑名市民会館
京都府△	京都市児童館厚生員会	手作り楽器のワークショップ	9. 18	京都市東山消防署
岩手県※	岩手県社会福祉協議会児童部会	アニメ・ワークショップ	10. 11	ふれあいランド岩手
茨城県※	茨城県教育庁生涯学習課	おんがくがスキ!	10. 25・26	茨城県県南生涯学習センター
香川県※	さぬき子どもの国	ブルーノ・ムナーリ展	10. 14~31	さぬき子どもの国
大分県※	大分県院内町	お母さんと赤ちゃんのすくすく体操	10. 2	院内町文化交流ホール
石川県※	石川県立中央児童会館	お母さんと赤ちゃんのすくすく体操	10. 15	石川県立中央児童会館
山口県※	山口県児童センター	手作り楽器のワークショップ	11. 7	山口県児童センター
三重県	三重県大安町教育委員会	昔遊び大集合 お父さんの少年時代	11. 2~16	大安町中央児童センター
岐阜県※	岐阜県	身近な道具でスポーツあそび	11. 9・10	岐阜県子どもの国
東京都※	保谷市下保谷児童会館	お母さんと赤ちゃんのすくすく体操	11. 28	保谷市立下保谷児童館
大分県※	大分県上津江村	みんなで遊ぼうバベット・ランド	11. 29・30	上津江村中央公民館
徳島県※	徳島県	おんがくがスキ!	11. 30・12. 1	徳島県青少年センター
島根県※	島根県	アニメ・ワークショップ	H10. 1. 24・25	いきいきプラザ島根
愛知県	愛知県児童総合センター	アニメ・ワークショップ	H10. 2. 11~3. 1	愛知県児童総合センター
山形県※	山形県上山市福祉事務所	がらくた楽器などのコンサート	H10. 2. 27・28	上山市体育文化センター

※児童厚生員研修会も併せて実施

△児童厚生員研修会のみの実施



「昔遊び大集合 お父さんの少年時代」(三重県大安町中央児童センター)



「アニメ・ワークショップ」(いきいきプラザ島根)



「楽しいスポーツに挑戦」(愛媛県新居浜市立上部児童館)



「がらくた楽器などのコンサート」(三重県桑名市民会館)

資料

IV

子どもの城入館児・者調査

入館児・者調査の概要

① 調査の目的と方法

(ア) 調査の目的

来館児・者層の傾向、利用の状況やプログラムへの評価などの変化を調べ、今後の事業方針への基礎資料となるものを得るために、平成9年8月27日(水曜日)、平成10年1月28日(水曜日)、2月1日(日曜日)の3回にわたって、アンケート調査を実施した。

来館者を対象としたアンケートを行うのは、昭和62年度、63年度に実施して以来、10年ぶり3回目である。調査全体については、企画研修部が担当し、実施に際しては業務部総合案内課の協力を得た。

(イ) 調査の方法

【調査実施日】

8月27日は、夏休み特別期間中のウイークデイ(水曜日)、1月28日は平常期間のウイークデイ(水曜日)、そして2月1日は平常期間の日曜日である。

特別期間と平常期間、平日と日曜日によって、来館児・者層がどのように異なるのかを知るため、3回にわたって実施した。

【調査対象と調査方法】

入館時に、大人(18歳以上)に1人1枚調査用紙(A4判)を配布し、任意に記入してもらった用紙を退館時に回収した。配布および回収の際に、調査用紙に時間を記入。利用時間を算出した。

項目によっては、未記入や、設問の意味を明らかに誤解したと思われる回答があったが、いずれも「空白」として処理した。

【調査項目】

- ①年齢(18~29歳/30~39歳/40~49歳/50~59歳/60歳以上)
- ②性別(男/女)
- ③住所(郵便番号を記入してください)
- ④今日は誰と来ましたか?(家族で/近所や親類の子どもと/幼稚園・学童クラブなどの引率/その他)
- ⑤子どもの城に来た回数は?(初めて/2回目/3~5回

目/6~9回目/10回以上)

⑥今日はどこで遊びましたか。遊んだ場所の番号をすべて記入してください(プール/体育室/健康開発室(体力測定)/プレイホール/コンピュータプレイ/造形スタジオ/音楽ロビー/音楽スタジオ/AVライブラリー/屋上遊園・ふしきが丘/プレイポート(ボールのプール)/パソコンルーム/ギャラリー)

⑦特に面白かったのはどこでしたか?(複数回答可)

⑧また、子どもの城に来たいと思いますか?(思う/どちらともいえない/思わない)

⑨入館料についてはどう思いますか?(安い/ちょうど良い/高い)

⑩子どもの城友の会についてご存じですか?(知らない/知っている/会員)

⑪子どもの城に対するご意見・ご感想などを記入してください。

② 調査結果

(ア) 調査数

アンケートの配布枚数、回収数は、下表のとおり。集計結果は、142・143ページに掲載したのとおりである。

(イ) 調査結果の概要

【子どもの城】を利用する保護者の年齢層をみると、その70%前後が「30~39歳」である。また、平常期間の平日では、「10回以上」来館したことがある人が半数を占め、繰り返し利用する人が多い。反対に、夏休み期間中や日曜日には、「初めて」「2回目」が約50%になる。

平常期間の平日には、開館時間が5時間にもかかわらず、3時間以上の利用者が70%もある。また、夏休み特別期間中や日曜日にも、4時間以上の利用者が50%近くあり、ゆったりと活動プログラムを体験する施設であることを示している。

大人と子どもの組み合わせをみると、大人1人に対し子ども2・3人という組み合わせが大半を占めている。しかし、日曜日になると、大人2人という組み合わせが多くなり、家族連での利用を裏付けている。

調査実施日	天候	開館時間	配布枚数	回収枚数(%)
平成9年8月27日(水曜日)	晴れ	10:00~17:30(7時間30分)	693	507(73.2%)
平成10年1月28日(水曜日)	晴れ	12:30~17:30(5時間)	237	160(67.5%)
平成10年2月1日(日曜日)	晴れ	10:00~17:30(7時間30分)	489	311(64.0%)

【大人と子どもの人数の組み合わせ】(8月27日／アンケート回収507人のうち、引率・その他・無回答を除く430人)

		子ども数										総計
		1人	2人	3人	4人	5人	6人	7人	8人	11人		
大人	1人	105	95	12	3						215	
	2人	21	47	42	20	12					142	
	3人	2	2	11	8	4	12	1			40	
	4人	1			4		5	1	8		19	
	5人				1		2	4			7	
	6人								6		6	
	7人		1								1	
総数		129	145	65	36	16	19	6	8	6	430	

【大人と子どもの人数の組み合わせ】(1月28日／アンケート回収160人のうち、引率・その他・無回答を除く154人)

		子ども数										総計
		1人	2人	3人	4人	5人	6人	7人	8人	11人		
大人	1人	59	24	1							84	
	2人	21	25	9	1						56	
	3人			8		1					9	
	4人			1	4						5	
	5人										0	
	6人										0	
	7人										0	
総数		80	49	19	5	1	0	0	0	0	154	

【大人と子どもの人数の組み合わせ】(2月1日／アンケート回収311人のうち、引率・その他・無回答を除く290人)

		子ども数										総計
		1人	2人	3人	4人	5人	6人	7人	8人	11人		
大人	1人	63	53	5	4						125	
	2人	53	69	20	4		1				147	
	3人	2	4		4		1				11	
	4人		2		2	1	2				7	
	5人										0	
	6人										0	
	7人										0	
総数		118	128	25	14	1	4	0	0	0	290	

【保護者の性別】

	8月27日		1月28日		2月1日	
	人数	比率(%)	人数	比率(%)	人数	比率(%)
女性	474	83.7	143	89.4	202	65.0
(推計)	487	85.3	150	64.9	248	54.0
男性	32	6.3	17	10.6	109	35.0
(推計)	84	14.7	81	35.1	211	46.0
総計	506	100.0	160	100.0	311	100.0
(推計)	571	100.0	231	100.0	459	100.0

*「家族で」「2人以上で」を加算し、推計すると下段の数値になる

【来館者の年齢構成】

	8月27日		1月28日		2月1日	
	人数	比率(%)	人数	比率(%)	人数	比率(%)
18～29歳	44	8.7	24	15.0	32	10.3
30～39歳	369	72.8	106	66.3	213	68.5
40～49歳	75	14.8	24	15.0	50	16.1
50～59歳	10	2.0	1	0.6	4	1.3
60歳以上	9	1.8	1	0.6	3	1.0
(空白)	0	0.0	4	2.5	9	2.9
総計	507	100.0	160	100.0	311	100.0

【来館者の構成】

	8月27日		1月28日		2月1日	
	人数	比率(%)	人数	比率(%)	人数	比率(%)
家族で	268	52.9	108	67.5	276	88.7
親類・近所	172	33.9	32	20.0	20	6.4
その他	58	11.4	10	6.3	10	3.2
引率	7	1.4	6	3.8	1	0.3
(空白)	2	0.4	4	2.5	4	1.3
総計	507	100.0	160	100.0	311	100.0

【利用時間】

	8月27日		1月28日		2月1日	
	人数	比率(%)	人数	比率(%)	人数	比率(%)
1時間未満	10	2.0	0	0	5	1.6
1~2時間	55	10.8	15	9.4	40	12.9
2~3時間	92	18.1	32	20.0	57	18.3
3~4時間	111	21.9	56	35.0	73	23.5
4~5時間	92	18.1	34	21.3	78	25.1
5~6時間	87	17.2	23	14.4	30	9.6
6~7時間	54	10.7	—	—	18	5.8
7時間以上	3	1.2	—	—	10	3.2
総計	507	100.0	160	100.0	311	100.0

【友の会の認知】

	8月27日		1月28日		2月1日	
	人数	比率(%)	人数	比率(%)	人数	比率(%)
会員	18	3.6	17	10.6	17	5.5
知っている	143	28.	78	48.8	94	30.2
知らない	346	68.2	78	48.8	94	30.2
(空白)	0	0.0	4	2.5	11	3.5
総計	507	100.0	160	100.0	311	100.0

【遊び場の評価】

	8月27日			1月28日			2月1日		
	利用率	絶対評価	総体評価	利用率	絶対評価	総体評価	利用率	絶対評価	総体評価
プレイホール	82.6	47.7	57.7	74.4	48.1	64.7	85.2	51.1	59.8
造形スタジオ	42.2	18.9	44.8	35.6	16.3	45.6	41.8	19.6	46.9
屋上遊園	49.5	13.6	27.5	28.8	11.3	39.1	52.1	13.2	25.3
プレイポート	29.8	11.8	39.6	23.8	10.6	44.7	29.8	12.2	38.0
AVライブラリー	21.9	8.7	39.7	14.4	7.5	52.2	26.4	10.6	40.2
プール	16.8	8.3	49.4	13.8	3.8	27.3	1.6	1.0	60.0
音楽スタジオ	26.2	8.3	31.7	26.9	6.3	23.3	26.2	6.1	31.7
ギャラリー	21.9	8.1	37.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
コンピュータプレイ	22.3	7.3	32.7	10.6	5.6	52.9	32.1	7.1	31.9
パソコンルーム	18.1	6.7	37.0	3.8	2.5	66.7	11.9	4.2	35.1
音楽ロビー	25.4	5.3	20.9	24.4	8.1	33.3	21.5	8.4	30.9
体育室	12.4	5.1	41.1	5.0	1.3	25.0	1.6	2.3	58.3
体力測定	2.6	0.0	0.0	0.6	0.0	0.0	1.6	0.3	20.0

※利用率=(利用したという回答数)÷(アンケート回収数)×100

絶対評価率=(楽しかったという回答数)÷(アンケート回収数)×100

相対評価率=(楽しかったという回答数)÷(利用したという回答数)×100

【来館回数】

	8月27日		1月28日		2月1日	
	人数	比率(%)	人数	比率(%)	人数	比率(%)
初めて	177	34.9	34	21.3	96	30.9
2回目	80	15.8	14	8.8	45	14.5
3~5回目	117	23.1	23	14.4	61	19.6
6~9回目	55	10.8	8	5.0	26	8.4
10回目以上	75	14.8	79	49.4	78	25.1
(空白)	3	0.6	2	1.3	5	1.6
総計	507	100.0	160	100.0	311	100.0

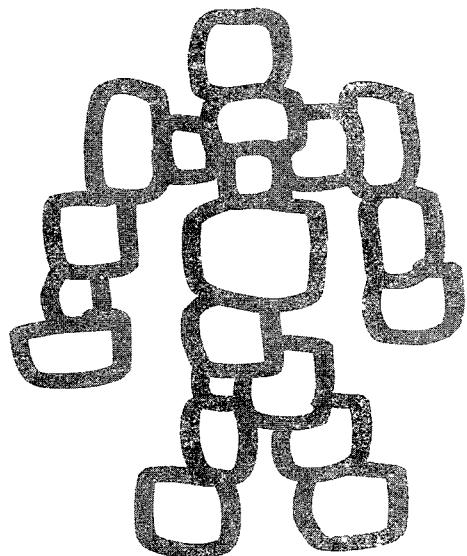
【入館料の評価】

	8月27日		1月28日		2月1日	
	人数	比率(%)	人数	比率(%)	人数	比率(%)
ちょうどよい	303	59.8	69	43.1	183	58.8
高い	157	31.0	75	46.9	83	26.7
やすい	46	9.1	12	7.5	30	9.6
(空白)	1	0.2	4	2.5	15	4.8
総計	507	100.0	160	100.0	311	100.0

【再来館の希望】

	8月27日		1月28日		2月1日	
	人数	比率(%)	人数	比率(%)	人数	比率(%)
また来たい	481	94.9	152	95.0	302	97.1
どちらともいえない	20	3.9	7	4.4	7	2.3
来たくない	4	0.8	1	0.6	1	0.3
(空白)	2	0.4	0	0.0	1	0.3
総計	507	100.0	160	100.0	311	100.0

(%)



こどもの城 事業年報 平成9年度

平成10年11月1日発行

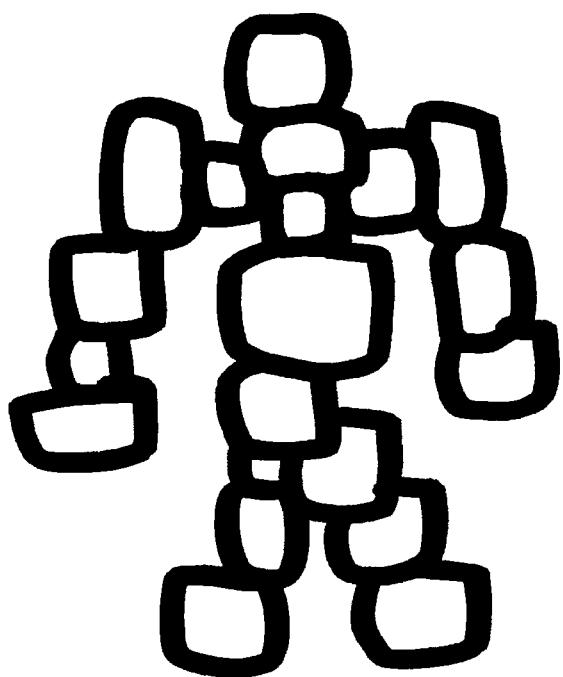
[編集 発行]

財団法人 児童育成協会

理事長 高峯 一世

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前5-53-1
電話 03-3797-5666

表紙イラスト 田中靖夫
デザイン COIL
印刷所 オーイ アート プリンティング



財団法人 児童育成協会

こどもの城

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前5-53-1
TEL 03-3797-5666(代表) FAX 03-3797-5676